

MEOTOYAMANOKAMI USHIURIZAWA TOBIGASAWA

女夫山ノ神・牛売沢・鳶ヶ沢遺跡

今泉南テクノヒルズ基盤整備事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2002.3

長野県塩尻市教育委員会

女夫山ノ神・牛売沢・鳶ヶ沢遺跡

今泉南テクノヒルズ基盤整備事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

石 器

(改訂版)

108~123・177~188

上 條 信 彦

(2) 石 器

今回の調査において、総数で3345点(93244.4g)の資料が確認された。うち、原石・石核・剥片を除く道具としての石器は890点(26.6%)を確認した。このうち、出土地点は住居址内出土が378点(42.4%)、土坑・集石内352点(39.5%)、遺構外160点(17.9%)である。石器群の特徴、出土土器からほとんどの資料が縄文時代前期末～中期初頭に属するものと考えられる。

石器の個数組成を第1表に、重量を含めた組成を第2表に示した。住居址内出土の資料は1589点(47.5%)、34945.6g(37.4%)である。住居址毎では、大形かつ床面が地表面から深かった10号住居址の数量が最も多く、台地の平坦面に築かれたため遺構の残存率が高かった2・17号住居址も比較的多い。また、土坑内出土の資料は1341点(40.0%)、41764.8g(44.7%)、遺構外出土の資料は377点(11.2%)、16534.0g(16.8%)であり、住居内と土坑内の出土量はほぼ同様であった。また、遺構外出土のうち205点(55.4%)は遺跡南部斜面部(E区)の出土であった。

石器の石質については第3表に示した。全体個数は黒曜石が3077点(92%)と圧倒的に多い。しかし、重量では、頁岩・安山岩・凝灰岩・砂岩の割合が高い。これらの石材は遺跡東部にある高ボッチ山塊でみられ、付近の小河川で簡単に採取できる。閃緑岩については、本遺跡から北東3kmの欠ノ湯付近から薄川上流にかけての山麓部に産出する岩石であり、人為的に運ばれた可能性が高い(小林・直井 1982)。

ただし、以上の分析は遺物包含層が耕作面から浅いため、住居址上部、あるいは一部が削られていること、石材については集石内や住居址・土坑内の礫など、必ずしもすべての資料を分析対象としていないことを明記しておく。

尚、松本深志高校発掘の石器については、本報告では分析対象として扱っていない。しかし2～8号住居址については過去の調査部分と重複していることから、住居ごとの組成表には、カッコの中にその個数を含め、考慮することにした。

石質については、鳥羽嘉彦氏の鑑定によるが、ヒスイについては厳密な分析を依頼していないため、蛇紋岩や滑石の可能性がある。また、小形刃器・磨石・敲石・叩石・砥石の実測図上では、実線で使用痕が確認された範囲を示している。

1. 原 石

住居内10点(349.2g)、土坑内1点(31.2g)、集石内1点(52.5g)、遺構外4点(100.9g)、計16点(533.8g)あった。全てが黒曜石であり、平均重量は33.3gである。8号住居址のピット内からは4点(229.9g)の原石が集中して出土している。

2. 石 核

住居内29点(408.6g)、土坑内22点(553.8g)、集石内1点(13.5g)、遺構外15点(504.4g)、計67点(1516.3g)あった。全て黒曜石で平均重量は22.6gである。

3. 剥片・砕片

住居内1172点(4052.2g)、土坑内980点(3915.0g)、集石内22点(104.0g)、遺構外198点(1288.7g)、計2372点(9359.9g)出土している。石質は黒曜石2350点、頁岩17点、チャート5点で黒曜石が圧倒的に多い。

第1表 女夫山ノ神遺跡石器組成表

器種	石鏃	打製石斧	大形刃器	小形刃器	石匙	石錐	磨石	敲石	叩石	石皿	磨製石斧	砥石	異形石器	石製品	原石	石核	剥片・断片	計
1住				1														1
2住	1(3)	10(4)	5	10	(2)	1	1(1)	(1)		1		1		1			54	85(11)
3住	(2)	(30)		(6)	(3)			(3)						(1)			3(119)	3(160)
4住		(11)		2(13)	(1)	(5)											10(76)	12(106)
5住	1(14)	1(10)		32(2)	1(1)	1(7)	(1)	(1)									70(137)	106(173)
6住		3		3		1	1									1	15	24
7住	(1)	(26)		6(4)		(3)	(3)	1(1)							1		26(181)	34(219)
8住	(2)	(12)		8(1)	(1)	(1)	(1)	(2)							4	1	6(166)	19(186)
9住	3		1	23	1												63	91
10住	11	9	3	60		2	1	1		1	1				2	14	439	544
11住	2	3		6											1	3	43	58
12住				1													4	5
13住		1		3		2	1			1							16	24
14住				2													8	10
15住	1			7										1			14	23
16住		1	2	1											1	2	16	23
17住	8	1		37		3	1				1					4	229	284
18住	1			14			2	3	1								20	41
19住				13		2										2	60	77
20住	2	1		12												1	19	35
21住				1												1	2	4
22住		1	2	5											1		11	20
23住				1													7	8
24住		1		10			1										21	33
25住			1	2		1											3	7
26住		2		3													13	18
住居計	30	34	14	263	2	13	8	5	1	3	2	1	0	2	10	29	1172	1589
土坑	24	44	22	196	8	15	9	13	2	1	2	1		1	1	22	980	1341
集石			3	3	1	1	4			1	1				1	1	22	38
C区				4													6	10
D区	1		1					1							1	1	5	10
E区	1	2	6	53	1	2	1	1				1	1			7	129	205
遺構外	4	9	15	29	2	11	4	7		2	1				3	7	58	152
計	60 (22)	89 (93)	61	548 (26)	14 (8)	42 (16)	26 (6)	27 (8)	3	7	6	3	1	3 (1)	16	67	2372 (679)	3345 (855)

注1:松本深志高校調査分については()内に記載した。

注2:松本深志高校調査分は器種分類基準が少々異なるため、例えば打製石斧の中に大形刃器あるいは剥片中に小形刃器が含まれているものと予想される。

第2表 石器器種別組成表

全 体

器種	項目	個数	数量比1(%)	数量比2(%)	重量(g)	重量比1(%)	重量比2(%)
石	鏃	60	(1.8)	(6.7)	71.8	(0.1)	(0.1)
	打製石斧	89	(2.7)	(10.0)	6415.6	(6.9)	(7.8)
	大形刃器	61	(1.8)	(6.9)	3667.3	(3.9)	(4.5)
	小形刃器	548	(16.4)	(61.6)	2453.0	(2.6)	(3.0)
	石	14	(0.4)	(1.6)	67.4	(0.1)	(0.1)
	石	42	(1.3)	(4.7)	127.6	(0.1)	(0.2)
	磨石	26	(0.8)	(2.9)	7796.7	(8.4)	(9.5)
	敲石	27	(0.8)	(3.0)	10192.9	(10.9)	(12.5)
	叩石	3	(0.1)	(0.3)	628.8	(0.7)	(0.8)
	石	7	(0.2)	(0.8)	49410.8	(53.0)	(60.4)
	磨製石斧	6	(0.2)	(0.7)	153.2	(0.2)	(0.2)
	砥石	3	(0.1)	(0.3)	822.1	(0.9)	(1.0)
	異形石器	1	(0.0)	(0.1)	3.7	(0.0)	(0.00)
	石製	3	(0.1)	(0.3)	23.5	(0.0)	(0.03)
	原石	16	(0.5)	—	533.8	(0.6)	—
	石	67	(2.0)	—	1516.3	(1.6)	—
	剥片・碎片	2372	(70.9)	—	9359.9	(10.0)	—
	計	3345	(100)	(100)	93244.4	(100)	(100)

住居址内

器種	項目	個数	数量比1(%)	数量比2(%)	重量(g)	重量比1(%)	重量比2(%)
石	鏃	30	(1.9)	(7.9)	34.5	(0.1)	(0.1)
	打製石斧	34	(2.1)	(9.0)	2245.1	(6.4)	(7.5)
	大形刃器	14	(0.9)	(3.7)	767.2	(2.2)	(2.5)
	小形刃器	263	(16.6)	(69.6)	1100.0	(3.1)	(3.7)
	石	2	(0.1)	(0.5)	16.1	(0.0)	(0.1)
	石	13	(0.8)	(3.4)	40.9	(0.1)	(0.1)
	磨石	8	(0.5)	(2.1)	1829.7	(5.2)	(6.1)
	敲石	5	(0.3)	(1.3)	1654.8	(4.7)	(5.5)
	叩石	1	(0.1)	(0.3)	390.9	(1.1)	(1.3)
	石	3	(0.2)	(0.8)	21774.4	(62.3)	(72.3)
	磨製石斧	2	(0.1)	(0.5)	60.7	(0.2)	(0.2)
	砥石	1	(0.1)	(0.3)	206.5	(0.6)	(0.7)
	石製	2	(0.1)	(0.5)	14.8	(0.0)	(0.05)
	原石	10	(0.6)	—	349.2	(1.0)	—
	石	29	(1.8)	—	408.6	(1.2)	—
	剥片・碎片	1172	(73.8)	—	4052.2	(11.6)	—
	計	1589	(100)	(100)	34945.6	(100)	(100)

土坑内

器種	項目	個数	数量比1(%)	数量比2(%)	重量(g)	重量比1(%)	重量比2(%)
石	鏃	24	(1.8)	(7.1)	29.6	(0.1)	(0.1)
	打製石斧	44	(3.3)	(12.7)	3100.6	(7.4)	(8.3)
	大形刃器	22	(1.6)	(6.4)	1304.2	(3.1)	(3.5)
	小形刃器	196	(14.6)	(56.6)	833.7	(2.0)	(2.2)
	石	8	(0.6)	(2.3)	28.6	(0.1)	(0.1)
	石	15	(1.1)	(4.3)	53.7	(0.1)	(0.1)
	磨石	9	(0.7)	(2.6)	2600.0	(6.2)	(7.0)
	敲石	13	(1.0)	(3.8)	5369.7	(12.9)	(14.4)
	叩石	2	(0.1)	(0.6)	237.9	(0.6)	(0.6)
	石	1	(0.1)	(0.3)	23428.6	(56.1)	(62.9)
	磨製石斧	2	(0.1)	(0.6)	32.0	(0.1)	(0.1)
	砥石	1	(0.1)	(0.3)	237.5	(0.6)	(0.6)
	石製	1	(0.1)	(0.3)	8.7	(0.02)	(0.02)
	原石	1	(0.1)	—	31.2	(0.1)	—
	石	22	(1.6)	—	553.8	(1.3)	—
	剥片・碎片	980	(73.1)	—	3915.0	(9.4)	—
	計	1341	(100)	(100)	41764.8	(100)	(100)

註：数量比1・重量比1は原石・石核・剥片を含めた値。数量比2・重量比2は原石・石核・剥片を除いた値。

第3表 器種別石質一覧表

全体個数

器種	石鏃	打製石斧	大形刃器	小形刃器	石匙	石鏃	磨石	敲石	叩石	石皿	磨製石斧	砥石	異形石器	石製品	原石	石核	剥片・砕片	計 (割合)
黒曜石	58			535	10	41									16	67	2350	3077 (91.99)
チャート	1			4	2	1						3	1				5	17 (0.51)
頁岩	1	85	61	9	2		2		1								17	178 (5.32)
細粒砂岩		3					7	9		1		3						23 (0.69)
中粒砂岩							5	3										8 (0.24)
細粒凝灰岩							1	3		2								6 (0.18)
中粒凝灰岩							6	6										12 (0.36)
粗粒凝灰岩							2	2										4 (0.12)
礫質凝灰岩								3										3 (0.09)
粘板岩		1																1 (0.03)
オレンフェルス							2		1		1							4 (0.12)
石英閃緑岩							1		1									2 (0.06)
花崗岩									1									1 (0.03)
安山岩										2								2 (0.06)
多孔質安山岩										2								2 (0.06)
蛇紋岩											2							2 (0.06)
ヒスイ															3			3 (0.09)
計	60	89	81	548	14	42	26	27	3	7	6	3	1	3	16	67	2372	3345 (100)

全体重量

器種	石鏃	打製石斧	大形刃器	小形刃器	石匙	石鏃	磨石	敲石	叩石	石皿	磨製石斧	砥石	異形石器	石製品	原石	石核	剥片・砕片	計 (割合)
黒曜石	69.5			2140.0	40.1	123.7								533.6	1510.3	7509.8	11933.3	(12.80)
チャート	1.1			53.3	10.5	3.9					85.5		3.7				320.0	478.0 (0.51)
頁岩	1.2	5790.7	3987.3	259.7	16.8		469.4		72.7								1590.0	11787.8 (12.64)
細粒砂岩		844.2					1874.0	3009.0		1557.8		822.1						7907.1 (8.48)
中粒砂岩							1960.5	1061.7										3022.2 (3.24)
細粒凝灰岩							52.0	1098.8		8230.0								9368.8 (10.05)
中粒凝灰岩							1488.3	2518.2										4014.5 (4.31)
粗粒凝灰岩							606.9	813.4										1222.3 (1.31)
礫質凝灰岩								1060.7										1050.7 (1.13)
粘板岩		20.7																20.7 (0.02)
オレンフェルス							978.5		390.9		38.7							1405.1 (1.51)
石英閃緑岩							335.1		165.2									500.3 (0.54)
花崗岩								855.1										855.1 (0.92)
安山岩										3790.9								37200.0 (39.90)
多孔質安山岩										2423.0								2423.0 (2.60)
蛇紋岩											32.0							32.0 (0.03)
ヒスイ															23.5			23.5 (0.03)
計	71.8	6416.6	3987.3	2453.0	67.4	127.8	7796.7	10192.8	628.8	49410.8	153.2	822.1	3.7	23.5	933.8	1510.3	9359.8	93244.4 (100)

註:ヒスイについては数密な分析・鑑定を依頼していない。そのため変更の可能性が十分にある。

第4表 松本平東山山麓における石器組成表

器種	女夫山の神		白神場		眞屋敷(神/木期)		眞屋敷(有尾期)		眞屋敷(諸磯a期)		眞屋敷(諸磯b期)	
	個数	割合(%)	個数	割合(%)	個数	割合(%)	個数	割合(%)	個数	割合(%)	個数	割合(%)
石鏃	60	22.5%	35	36.1%	54	80.6%	133	74.7%	30	76.9%	17	54.8%
石鏃	42	15.7%	16	16.5%	3	4.5%	17	9.6%	2	5.1%	4	12.9%
石匙	14	5.2%	6	6.2%	3	4.5%	14	7.9%	4	10.3%	1	3.2%
打製石斧	89	33.3%	24	24.7%	3	4.5%	4	2.2%	0	0%	2	6.5%
磨製石斧	6	2.2%	3	3.1%	0	0%	2	1.1%	1	2.6%	1	3.2%
磨石	26	9.7%	2	2.1%	1	1.5%	4	2.2%	2	5.1%	2	6.5%
敲石	27	10.1%	8	8.2%	2	3.0%	2	1.1%	0	0%	3	9.7%
石製品	3	1.1%	3	3.1%	1	1.5%	2	1.1%	0	0%	1	3.2%
計	267	100%	97	100%	67	100%	178	100%	39	100%	31	100%

4. 石 鏃 (第110・111図№1~48)

60点出土し、うち住居址内が30点、土坑内が24点、遺構外6点であった。すべて無蓋であり、石質は黒曜石が58点、頁岩が1点、チャートが1点で黒曜石がほとんどを占める。形態的視点からの類別は、基部形状に基づいて実施した。

《形状》

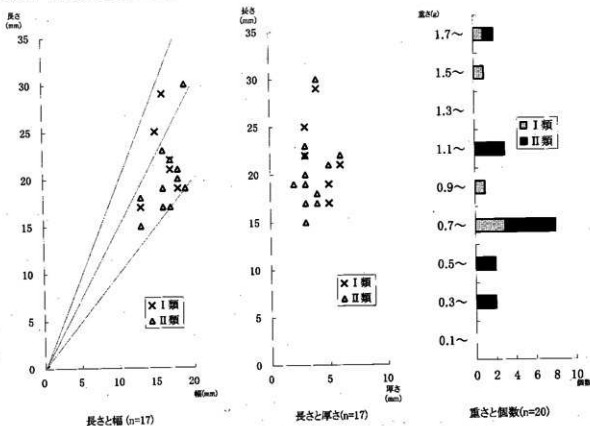
I類…平らで直線的な基部を呈するもの(No5・7・12・18・29・32・33・47)。12点(20%)。
 II類…基部が抉られて、内湾しているもの(No1~4・6・8~11・13~17・19~28・30・31・35~46・48)。
 42点(70%)。

類別不可能なものが6点あった。II類のほうが多い。

《法量》

長さ2.5cm以下の小形とそれ以上の大形がみられた。形状の分別はなく、小形が15点、大形が3点で、後者は長さとの比が3:2以上のものが占めI類に多い。一方1:1~3:2は小形が占める。

重さは、平均値が0.97gで、0.7~0.9gのものが8点で最も多く、全体の42%を占める。分類別では、基部が直線的なI類がII類よりやや重い傾向にある。



第56図 石鏃法量相關

5. 打製石斧 (第113・114圖No109~136)

土掘具などの作業が想定される資料で89点出土した。うち住居址内が34点、土坑内44点、遺構外9点であった。石質は頁岩が85点(95%)を占める。平面形によって5分類した。

《形状》

I類…平面形が長方形を呈するもの(No111・113・117・118・120・123~125・127・129・130・134)。33点(37%)。

II類…平面形が楕円形を呈するもの(No110・126・133)。16点(17%)。

III類…平面形が半月状を呈するもの(No109・121・132)。16点(17%)。

Ⅳ類…平面形が三角形を呈するもの (№119・128・135・136)。10点(11%)

Ⅴ類…平面形が撥状を呈するもの (№112・114)。6点(6%)。

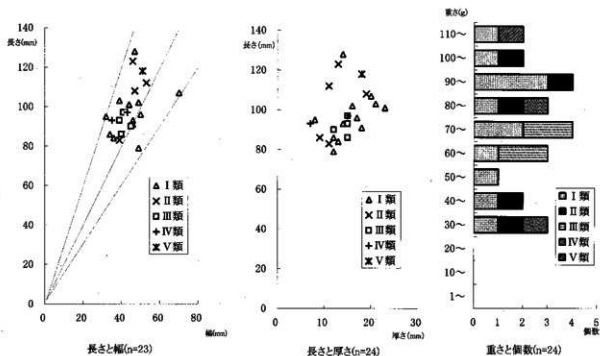
欠損により分類不能なもの8点あった。Ⅰ類の割合が高い。

〈法 規〉

長さ80~120cm、幅30~50cmの間に91%が入る。長さとの比は3:1~2:1が20点、2:1以上がⅠ類で3点みられた。厚さは長さに関係なく、ほとんどが10~20mmの間に分布している。重さは平均値が75.9gで30~100gの間に83%が分布する。

〈破損・磨耗痕〉

破損は打製石斧の部位を3等分(頭部・胴部・刃部)に分け、どの部分が欠けているか分析した。資料89点のうち完形20点(22%)、頭部欠10点(11%)、刃部欠23点(25%)、頭部・胴部欠14点(15%)、胴部・刃部欠11点(12%)、頭部・刃部欠11点(12%)で、刃部側が欠けている例が多い。また、24点の資料に磨耗痕が確認できたが、全てが刃部端部であった。



第57図 打製石斧法量相関

6. 大形刃器 (第114・115圖№137~145)

打製石斧のような大形の剝片を素材として利用するもので、住居址内から14点、土坑内22点、集石内3点、遺構外22点の計61点あった。形状・加工状況によって3分類、さらに刃部の形態によって3分類した。石質はすべて頁岩である。

〈形 状〉

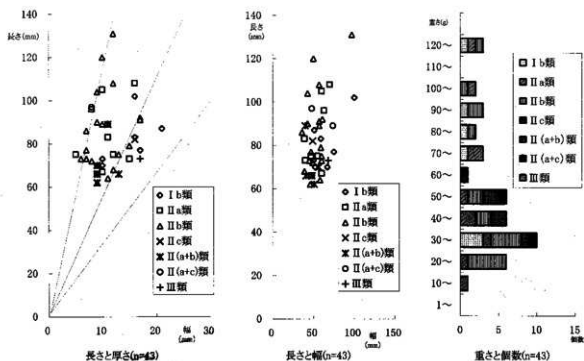
Ⅰ類…剝片をそのまま利用し、刃こぼれとみられる細かな剝離痕や磨痕がみられるもの。9点(15%)。

刃部の形態は直行するa類がなく、外湾するb類が9点あった。

II類…剥片を加工し、明瞭な刃部を形成するもの (No137・139~145)。49点 (80%)。

刃部の形態は、直行するa類12点、外湾するb類23点、内湾するc類1点、a類とb類の両方あるa+b類10点、a類とc類の両方がみられたa+c類3点があった。

III類…剥片を加工し、平面が円盤状を呈する刃部をもつもの (No138)。1点。
また、分類不能が2点あった。



第58図 大型刃器法量相関

7. 小形刃器 (第112・113図 No83~108)

石鏃・石匙のような小形の剥片を素材として利用するもの。住居址内263点、土坑内196点、集石内3点、遺構外86点の計548点確認された。石質は黒曜石535点、頁岩9点、チャート4点で圧倒的に黒曜石が多い。形状・加工状況によって2分類、さらに刃部の形態によって3分類した。

なお、全体の数量が多いため、一覧表には住居址内出土のものを掲載した。ただし、実測図No100~108は、土坑内出土である。

《形状》

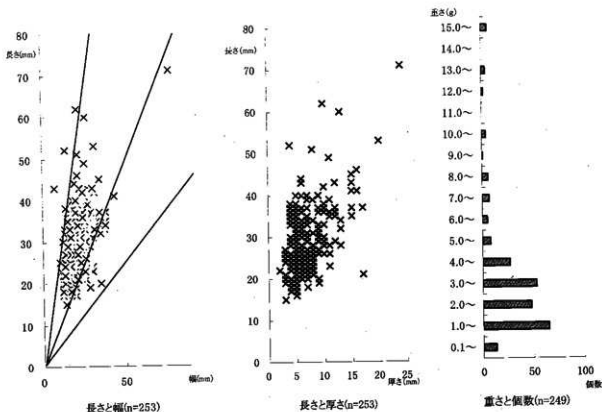
I類…剥片をそのまま利用し、刃こぼれとみられる細かな剝離痕や磨痕がみられるもの。住居址内139点、土坑内95点、集石内1点、遺構外42点の計277点 (41%)であった (No85~90・93・97~99)。

刃部の形態は、直行するものa類168点、外湾するb類72点、内湾するc類24点、a類とb類の両方があるa+b類6点、a類とc類の両方があるa+c類3点、b類とc類の両方があるb+c類4点があった。

II類…剥片を加工し、明瞭な刃部を形成するもの。住居址内124点、土坑内101点、集石内2点、遺

構外44点の計271点(49%)であった(Na83・84・91・92・94~96)。

刃部の形態は、直行するa類141点、外湾するb類41点、内湾するc類29点、a類とb類の両方があるa+b類21点、a類とc類の両方があるa+c類30点、b類とc類の両方があるb+c類9点に分別できた。



第59図 小型刃器法量相関

8. 石 匙 (第111図Na50~56)

14点確認した。出土地点は住居址内が2点、土坑内8点、集石内1点、遺構外3点であった。石質は黒曜石が10点、チャートが2点、頁岩が2点で黒曜石が多い。茎部の位置とその角度と刃部の平面形態で分類を行った。

〈形 状〉

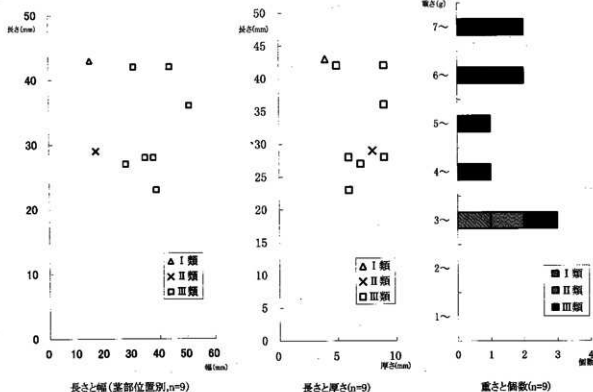
茎部の位置で3分類、刃部の平面形態によって2分類した。

I類…縦形で、刃長線と茎長線の交差角により、30度以下のもの。2点(14%)。うち刃部が外湾するb類1点、分類不能が1点であった。

II類…斜形で、刃長線と茎長線の交差角により、60度以下のもの。1点(7%)。刃部形態はb類であった。

III類…横形で、刃長線と茎長線の交差角により、90度以下のもの(Na50~56)。9点(64%)。うち刃部が直行するa類が3点、外湾するb類が5点、分類不能が2点あった。

また、破損のため分類不能が2点あった。横形のIII類が最も多い。



第60図 石匙度量相関

9. 石 錐 (第111図No57~82)

住居址内13点、土坑内15点、集石内1点、遺構外13点の計42点確認した。石質は黒曜石41点、チャート1点と黒曜石が圧倒的に多い。機能部のみ加工を施したものと全体に加工したものの2種類があった。さらに端部の加工形態により4分類した。

〈形 状〉

I類…機能部のみ加工を施したものの。21点。

a類…端部のみ調整がみられるもの (No62・64・80)。4点(9%)

b類…2側辺を調整し、先端部を長くしたもの (No58・65・68・70・71・75・77・78・82)。17点(40%)。

II類…素材削片全体に加工を施したものの。21点。

a類…先端部と基部との区別が可能なもの (No59・63・67・69・72・73・79・81)。13点(30%)。

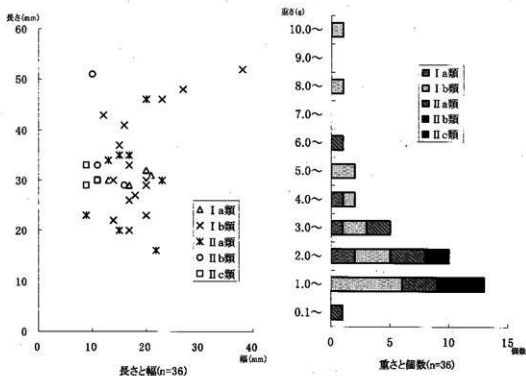
b類…先端部と基部との区別が不可能なもの (No61・66)。4点(9%)。

c類…基部が内湾しているもの (No60)。1点(2%)。

b類…先端部と基部の区別がなく、両端が尖っているもの (No57・74・76)。3点(7%)。

Ib類が最も多い。大きさは長さ2~4cm、幅0.9~1.2cmの間に全体の61%が占める。

重さは平均値が3.1gで1~3gの間を中心に分布する。



第61図 石錐法量相関

10. 磨石 (第115図No152~158)

器面の上下面あるいは側面の広い範囲に使用痕跡が認められる石器で、26点を確認した。うち住居址内が8点、土坑内9点、集石内4点、遺構外5点であった。石質は、砂岩12点(46%)、凝灰岩9点(37%)が多い。平面の形状によって2分類し、使用による磨耗痕がついている面でさらに2分類を行った。

〈形状〉

I類…長幅比で1:1~2:1に該当し、円形あるいは楕円形を呈するもの(Na153~157)。19点(73%)。

II類…長幅比で2:1より長さの比が高く、長楕円形・棒状を呈するもの(Na152・158)。6点(23%)。

欠損のため分類不能が1点あった。

〈磨耗面〉

a類…上下面のみについているもの(Na152・153)。11点(42%)。

b類…側面のみについているもの。該当なし。

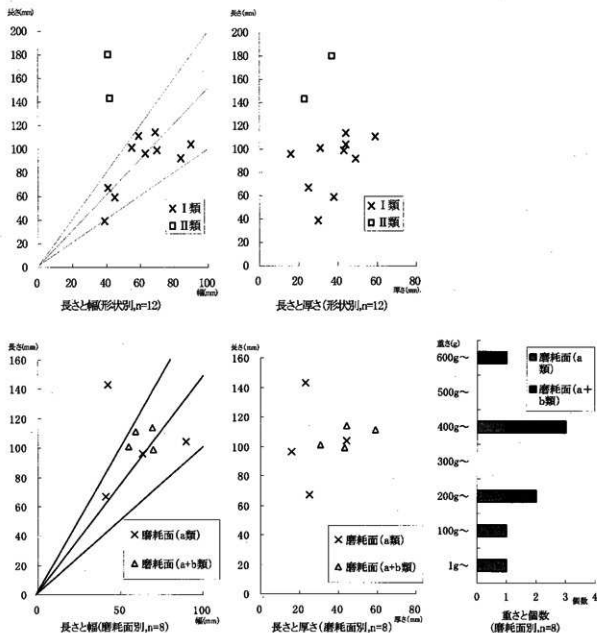
a+b類…上下面と側面の両方についているもの。(Na154・156)。10点(38%)。

また欠損・風化により分類不能なものが5点あった。

〈法量〉

I類では大形7点(70%)と小形2点(20%)、超小形1点(10%)がみられた。大形は10×7cm前後、小形は、6×4cm前後、超小形は4×4cmである。厚さは4~6cmに分布の中心がみられるが、磨耗面a類はa+b類よりも薄い傾向にある。重さは平均値が324.8gで62%が200~500gの間に入る。重さは磨耗面a+b類のほうがa類よりも重いものが多い傾向にある。超小形では全面に磨耗面がみられることから、他のものと機能・用途が異なっていたと考えられる。

II類では長さは14cm以上と他の磨石に比べて長く分布も拡散しているが、幅や厚さは2~5cmと他の磨石と同じような分布を示している。また、II類の一部の磨耗面は端部の一方向に偏っているため、ハンマーのような機能を備えていたものとみられる。



第62図 磨石法量相関

11. 敲石 (第116図No159~164)

器面の上下面あるいは側面に敲打による凹みをもつもので27点確認した。うち、住居址内が5点、土坑内13点、遺構外9点であった。磨石と同様に分類基準は平面形に拠った。また、敲石には凹みのみの例(2点)と、磨耗面と凹みが複合した例(25点)がみられた。そのため磨耗面と凹み面と個々に記載を行った。なお、石質は凝灰岩14点(51%)砂岩12点(44%)とほとんどがこの2つの石材に限られる。

《形状》

I類…長幅比で1:1~2:1に該当し、円形あるいは楕円形を呈するもの。25点(92%)(No159~164)。

II類…長幅比で2:1より長さの比が高く、長楕円形・棒状を呈するもの。2点(7%)。

I類が圧倒的に多い。

《磨耗面》

分類基準は磨石と同様である。

a類…上下面のみについているもの。8点(29%)。

b類…側面のみについているもの。該当器種なし。

a+b類…上下面と側面の両方についているもの。17点(62%)(No159~161~164)。

破損・風化のため、分類不能なものが2点あった。

《凹み》

凹みのついてる面とその数を上下左右の順に記した。

a類…上下面についているもの(No159~163)。18点(66%)。

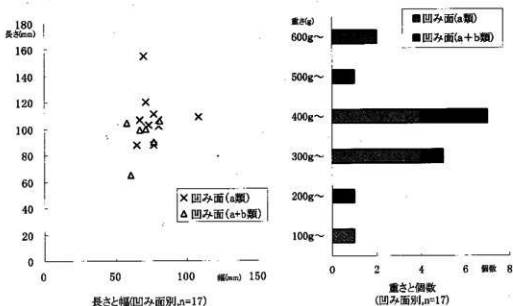
b類…側面についているもの。該当なし。

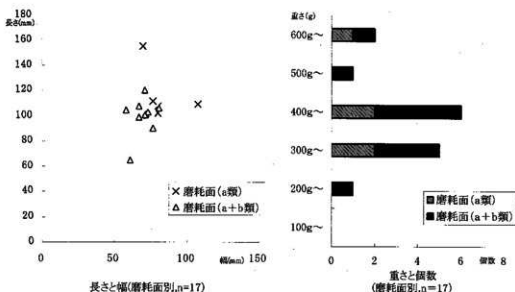
a+b類…両方についているもの(No164)。9点(33%)。

また、明瞭に凹みが残っているものについてはその数を上・下・側面の順に記載した。凹みには、アバク状・溝状・漏斗状のものがみられた。

《法量》

長幅比1:1~2:1の範囲内に92%が入る。また、長さ9~11cm、幅5~8cmの間にほとんどが分布するが磨耗面a類の2点が大形である。また、磨耗面a+b類には小形のもの1点がみられるが、形態は平面が四角形で、全面使用され損耗していることから使用の最終形態と考えられる。厚さは、a面のほうが薄い傾向にある。重さは磨耗面・凹み面ごとに検討を行った。双方とも300~500gの間に多くが分布する。しかし、a類には600g以上のものもあり、重さあるいは厚さを考慮すると、2点(遺物No8・10)はおそらく下に据えて使用したものと考えられる。





第63図 敲石重量相関

12. 叩石 (第116図№165~167)

敲石と異なり、凹みを持たず、素材となった礫の端部や側面に敲打によって生じたつぶれや傷を持つものであり、住居址内1点、土坑内2点、計3点確認した。敲石と同様の基準によって分類を行い、II類が3点みられた。端部には、使用による破損(167)や細かい線状のキズが多くみられるものがある。石質は頁岩・ホルンフェルス・石英閃緑岩が各1点である。

13. 石皿 (第117・118図№171~177)

上石である磨石・敲石・叩石に対しその下石となるもので、器面に使用痕跡が見られるかどうかで判断した。住居址内が3点、土坑内1点、集石1点、遺構外2点の計7点を確認した。実測図上では磨耗部分を実線で、使用による敲打部分を破線で示している。

〈形状〉

加工状態と使用面の形態によって2分類した。

I類…板状の素材をそのまま利用し縁部を形成しないもの(№171・173・174・176・177)。5点(71%)。

II類…機能部を作り出すことによって縁部を形成するもの(№172・175)。2点(29%)。すべて欠損品である。

石質はI類には緻密かつ硬質な細粒の砂岩・凝灰岩が用いられているのに対し、II類には多孔質な安山岩を用いており、両者の石材の選択性が高いとみられる。

14. 磨製石斧 (第115図№146~151)

住居址内2点、土坑内2点、集石内1点、遺構外1点の計6点があり、定角式のみである。全て破損しており、頭部3点、刃部2点、刃部の一部欠けたもの1点で、大きさは大形5点と小形1点に分けられる。1点に装着痕とみられる線状痕と使用によるとみられる剝落と線状痕がみられ、実測図上では実線で表現している。石質はチャート3点、蛇紋岩2点、ホルンフェルス1点である。

15. 砥石 (第116図No168~170)

溝状・帯状の砥面と線状痕がみられるものを一括した。住居址内と土坑内、遺構外から各1点、計3点出土した。形状は、すべて小形で形態は長方形を呈し、表裏に使用面がみられる。石質は全て細粒の砂岩が利用されている。

16. 異形石器 (第111図No49)

赤チャート製で遺構外より1点出土した。Y字状を呈し2つの先端部を尖らせている。

17. 石製品

実用的な機能・用途の推定が難しく、装飾的利用が推定される資料。玦状耳飾と円盤状石製品がある。

玦状耳飾(第118図No178~180)…住居址内で2点出土した。いずれも平面形が円形を呈し、孔部径が外径の1/3以上である。また切目長/孔側長は179が0.7、180が0.75であった。179は180に比べると厚さが薄い。179には装着部に補修孔がみられる。石質はいずれもヒスイである。また、178は過去の出土品(深志発掘3号住居址)である。

円盤状石製品(第118図No185)…土坑内より1点出土した。楕円状を呈し、上下面とも丁寧に磨かれている。石質はヒスイである。

18. 小 結

女夫山ノ神遺跡出土の石器群は、一部の古代の住居を除くとほとんどが縄文時代前期末~中期初頭に位置づけられるという比較的短期間に形成されたものである。組成では、刃器が68%とその割合が非常に高い。そのために、他の石器の割合が相対的に低くなってしまっているが、このことを除いて考えると石鏃6.7%、打製石斧9.9%、磨石・敲石・叩石6.2%と、この3器種の割合が高い。また、重量比でみると石皿・打製石斧・磨石・敲石の割合が高いのは当然だろう。過去の調査分も考慮しても組成には大きな変化はみられなかった。

松本平東山麓の遺跡を概観すると前期末~中期初頭に該当する遺跡調査例としては白神場遺跡がある(第4表)。白神場遺跡では当該期の住居址が10軒、土坑100基余が検出されている(関沢他1985)。比較的器種認定が明確な石鏃・石錐・石匙・打製石斧・磨石・磨製石斧・敲石・石製品について抽出し比較を行ったところ、ほぼ同じ割合であった。しかしながら、石鏃に関しては白神場遺跡の割合が30%以上であり、本遺跡とは異にしている。他地域では、同時期に該当する北信の長野市松原遺跡の割合も30%を超えており、この点は、検討の余地がありそうである(町田他1998)。また、本遺跡に近接し、神ノ木~諸磯b期の各時期の住居址が検出された塩尻市鼻屋敷遺跡の組成では石鏃の割合がはるかに高いことなど、組成に大きな違いがみられる(小林・直井1982)。

石材については、石鏃をはじめ、小形刃器・石錐の石材の90%以上が黒曜石である。これらの石器は石器の中でも、最も消費の著しい石器であり、大量の供給を必要とする。黒曜石の材質がこれらの加工に適していることからこのような使用頻度の差が応じているようである。黒曜石の産地は

和田峠方面を中心に限られた地域であり、本遺跡では原石の集中地点もみられる。塩尻市域では、柿沢東・中島・須原・舅屋敷・古屋敷遺跡といった東山山麓地域を中心に集中地点が見つかっており、集落で自己消費的に使用されたものではなく、諏訪方面から松本平への運搬ルートの中継的位置として、本遺跡が機能していたのだろう。

以上のことを含め、磨石・敲石の多さや石皿Ⅱ類の発達には植物採集活動の一層の活発化や食糧圏の拡大が伺える。また、石鏃の形態が安定している点は狩猟活動の活発化を示し、刃器の割合がかなり高い点や加工工具である石錐の比率が比較的高い点は、加工作業が多く行われていたことを反映しているものと考えられる。磨製石斧は大形と小形の二形態があり、木材加工にかかわる作業も多かったことを示している。また磨製石斧のすべてが定角式で、細粒の石材を使った小形砥石を使う点は、どちらかというとな北信地域の様相を呈しており、厳密な石材鑑定は行われていないが、ヒスイのような硬く良質な石材を含む点を考慮すると、石製装身具とともにこれらの石器の動きを注目する必要があるだろう。

(3) 土製品

1. 土偶 (No.1)

調査区南部斜面より1点出土した。上半部のみで右腕を欠くが、目の表現とみられる穿孔と鼻とみられる隆帯、口の表現は沈線を直線状に配す。側面は板状で胸の表現はみられない。腕はやや下がっている。時期は形態や周辺出土の土器から前期末から中期初頭であり、形態的には中期の立体的な土偶へ変化していく過渡的なものとみられる。

2. 土製袂状耳飾 (第118図No.181~184)

住居址から2点、表土から2点、計4点出土している。すべて平面形が円形を呈す。181~183は孔部径が外径の1/3以上であるが、184は1/3以下である。また、181~183は断面形が外側から内側にかけて傾斜が急で厚いが、184は断面形がなだらかで、薄い。切目長/孔部径は184が0.73、182が1.0、183が0.9であった。181・182には表・裏・側面に赤色顔料が付着している。

3. 土製円盤 (No.4)

土坑内より1点出土した。土器の胴部の破片を利用したものとみられ、外形全体を打ち欠いている。

4. 球状土製品 (No.5)

10号住居址より1点出土した。球面にはヘラ状のもので押した文様が施されている。

5. 焼成粘土塊 (No.2・3)

土坑内より2点出土した。2点とも粘土を掘ったような指圧痕が残るが、焼成が甘いためかまろく明瞭には観察できなかった。

(4) 鉄製品 (第118図№186・187)

5号住居址攪乱層と表土から1点ずつ計2点出土した。186は釘とみられるが両端部が欠けているため、形状は不明である。187はリング状を呈し、内側に木質痕がある。刃物の留め金とおもわれる。

(上 條 信 彦)

【参考文献】

- 小林康男・直井雅尚 1982 『縄屋敷』塩尻市教育委員会
町田勝則他 1998 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4』(岐阜県埋蔵文化財センター)
関沢 聡他 1985 『松本市赤木山遺跡群 I』(松本市文化財調査報告№34) 松本市教育委員会
鳥羽 嘉彦 1990 『古屋敷遺跡』塩尻市教育委員会
松本深志高校地歴会 1976 『女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち25」
松本深志高校地歴会 1977 『第三次女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち26」
松本深志高校地歴会 1978 『第四次女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち27」

女夫山ノ神遺跡石器一覽表

原 石

()は欠損値

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	7号住居址	42	37	12	19.1	—	黒曜石	—		
2	8号住居址	75	41	36	108.0	—	黒曜石	—	一括出土	
3	8号住居址	69	41	12	30.0	—	黒曜石	—	一括出土	
4	8号住居址	59	53	19	53.1	—	黒曜石	—	一括出土	
5	8号住居址	56	42	19	38.8	—	黒曜石	—	一括出土	
6	10号住居址4区上層	57	28	18	32.0	—	黒曜石	—		
7	10号住居址4区上層	34	26	20	19.2	—	黒曜石	—		
8	11号住居址	40	27	16	14.1	—	黒曜石	—		
9	16号住居址	45	31	16	15.1	—	黒曜石	—		
10	22号住居址	69	24	15	19.8	—	黒曜石	—		
11	1350号土坑	57	31	21	31.2	—	黒曜石	—		
12	6号集石	41	37	29	52.5	—	黒曜石	—		
13	D区遺構外	65	27	13	24.8	—	黒曜石	—		
14	遺構外	39	25	20	15.3	—	黒曜石	—		
15	遺構外	51	35	19	31.3	—	黒曜石	—		
16	遺構外	67	33	14	29.5	—	黒曜石	—		

石 核

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	6号住居址	41	36	17	18.0	—	黒曜石	—		
2	8号住居址	24	37	14	9.9	—	黒曜石	—		
3	10号住居址1区	31	40	16	13.9	—	黒曜石	—		
4	10号住居址1区	40	30	23	19.0	—	黒曜石	—		
5	10号住居址1区上層	26	31	22	15.2	—	黒曜石	—		
6	10号住居址1b区2層	42	26	15	14.2	—	黒曜石	—		
7	10号住居址1b区2層	23	25	11	3.3	—	黒曜石	—		
8	10号住居址2区下層	38	41	16	18.0	—	黒曜石	—		
9	10号住居址3区下層	27	51	19	25.0	—	黒曜石	—		
10	10号住居址4区	22	38	16	10.0	—	黒曜石	—		
11	10号住居址4区	21	41	13	10.0	—	黒曜石	—		
12	10号住居址4区	25	50	20	16.2	—	黒曜石	—		
13	10号住居址4区上層	16	33	13	7.1	—	黒曜石	—		
14	10号住居址4区下層	28	32	19	26.0	—	黒曜石	—		
15	10号住居址4区下層	23	17	23	6.3	—	黒曜石	—		
16	10号住居址4区下層	39	23	13	10.7	—	黒曜石	—		
17	11号住居址	27	36	21	18.3	—	黒曜石	—		
18	11号住居址	22	29	20	11.5	—	黒曜石	—		
19	11号住居址	31	28	13	9.8	—	黒曜石	—		
20	16号住居址	23	44	13	12.1	—	黒曜石	—		
21	16号住居址	20	44	14	8.8	—	黒曜石	—		
22	17号住居址1区上層	20	20	13	4.8	—	黒曜石	—		
23	17号住居址2区上層	52	33	18	4.9	—	黒曜石	—		
24	17号住居址2区上層	27	49	20	15.0	—	黒曜石	—		
25	17号住居址3区上層	21	30	19	7.0	—	黒曜石	—		
26	19号住居址	28	58	22	33.8	—	黒曜石	—		
27	19号住居址	31	38	18	19.7	—	黒曜石	—		
28	20号住居址	28	32	17	13.0	—	黒曜石	—		
29	21号住居址	25	44	29	27.1	—	黒曜石	—		
30	241号土坑	25	43	32	35.8	—	黒曜石	—		
31	440号土坑	24	49	20	17.0	—	黒曜石	—		
32	481号土坑	20	35	19	14.9	—	黒曜石	—		
33	576号土坑	31	35	28	28.0	—	黒曜石	—		
34	583号土坑	38	37	15	22.7	—	黒曜石	—		
35	584号土坑	26	26	14	9.8	—	黒曜石	—		
36	605号土坑	23	58	22	22.9	—	黒曜石	—		
37	756号土坑	41	48	28	53.8	—	黒曜石	—		
38	758号土坑	34	33	17	20.0	—	黒曜石	—		
39	825号土坑	44	25	13	14.7	—	黒曜石	—		
40	885号土坑	27	54	20	25.0	—	黒曜石	—		
41	938号土坑	39	37	29	34.1	—	黒曜石	—		
42	957号土坑	47	45	34	55.9	—	黒曜石	—		
43	1145号土坑	34	50	24	25.7	—	黒曜石	—		
44	1171号土坑	27	36	20	17.0	—	黒曜石	—		

(次項へ続く)

45	I214号土坑	20	39	12	7.8	—	黒曜石	—	—
46	I259号土坑	34	37	17	15.0	—	黒曜石	—	—
47	I290号土坑	34	37	26	33.2	—	黒曜石	—	—
48	I409号土坑	32	33	16	11.5	—	黒曜石	—	—
49	I786号土坑	34	55	19	30.0	—	黒曜石	—	—
50	I792号土坑	33	36	17	17.6	—	黒曜石	—	—
51	I793号土坑	51	47	22	41.4	—	黒曜石	—	—
52	22号集石	24	45	14	13.5	—	黒曜石	—	—
53	D区遺構外	65	32	29	59.9	—	黒曜石	—	—
54	E区遺構外	35	58	35	42.2	—	黒曜石	—	—
55	E区遺構外	27	30	23	20.9	—	黒曜石	—	—
56	E区遺構外	35	46	28	38.7	—	黒曜石	—	—
57	E区遺構外	24	43	21	19.2	—	黒曜石	—	—
58	E区遺構外	24	28	23	14.8	—	黒曜石	—	—
59	E区遺構外	22	33	22	11.5	—	黒曜石	—	—
60	E区遺構外	39	50	19	24.0	—	黒曜石	—	—
61	遺構外	53	75	25	109.0	—	黒曜石	—	—
62	遺構外	41	28	24	21.9	—	黒曜石	—	—
63	遺構外	64	43	33	77.0	—	黒曜石	—	—
64	遺構外	44	37	25	34.9	—	黒曜石	—	—
65	遺構外	38	27	20	29.8	—	黒曜石	—	—
66	遺構外	31	49	17	25.3	—	黒曜石	—	—
67	遺構外	23	41	17	11.3	—	黒曜石	—	—

石 鏝

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	22	(25)	4	(1.2)	II	頁岩	片脚欠		110図1
2	3-5号住居址	19	16	2	0.4	II	黒曜石	完形		110図2
3	9号住居址	18	13	4	0.6	II	黒曜石	完形		110図3
4	9号住居址	15	13	3	0.3	II	黒曜石	完形		110図4
5	9号住居址	26	(17)	4	(1.0)	II	黒曜石	片脚欠		
6	10号住居址1区上層	23	16	3	1.1	II	チャート	完形		110図6
7	10号住居址1区中層	25	15	3	0.7	I	黒曜石	完形		110図7
8	10号住居址1区	21	17	6	1.9	I	黒曜石	完形		110図5
9	10号住居址2区上層	22	17	6	1.8	II	黒曜石	完形		
10	10号住居址2区	17	17	4	0.8	II	黒曜石	完形		110図8
11	10号住居址2区	(23)	(18)	4	(1.1)	II	黒曜石	先端・片脚欠		110図9
12	10号住居址2区	21	18	5	1.1	II	黒曜石	完形		110図10
13	10号住居址4区上層	(21)	(16)	9	(1.7)	II	黒曜石	両脚欠		
14	10号住居址4区	(22)	(19)	3	(1.1)	II	黒曜石	両脚欠		
15	10号住居址4区	23	(17)	3	(0.6)	II	黒曜石	片脚欠		110図11
16	10号住居址	29	16	4	0.8	I	黒曜石	完形		110図12
17	11号住居址	22	17	3	0.8	II	黒曜石	完形		110図13
18	11号住居址	(17)	20	3	(1.0)	II	黒曜石	先端欠		110図14
19	15号住居址	21	(16)	4	(0.8)	II	黒曜石	片脚欠		110図15
20	17号住居址2区上層	(25)	(10)	3	(1.0)	II	黒曜石	片脚欠		
21	17号住居址2区	20	18	3	0.8	II	黒曜石	完形		110図16
22	17号住居址2区	20	(14)	5	(0.8)	II	黒曜石	片脚欠		110図17
23	17号住居址2区	19	18	6	1.5	I	黒曜石	完形		110図18
24	17号住居址3区上層	22	(18)	3	(0.8)	II	黒曜石	片脚欠		110図19
25	17号住居址4区	(25)	12	4	(0.8)	II	黒曜石	完形		110図20
26	17号住居址4区	30	19	4	1.2	II	黒曜石	完形		110図21
27	17号住居址	27	(14)	7	(2.1)	—	黒曜石	両脚欠		110図22
28	18号住居址2区	39	21	8	5.7	—	黒曜石	—	石鏝小	110図23
29	20号住居址3区	17	(15)	3	(0.3)	II	黒曜石	片脚欠		110図27
30	20号住居址3区	19	19	3	0.7	II	黒曜石	完形		110図26
31	90号土坑	16	(12)	3	(0.4)	II	黒曜石	片脚欠		110図24
32	155号土坑	17	17	3	0.5	II	黒曜石	完形		110図28
33	343号土坑	25	(18)	4	(1.7)	I	黒曜石	片脚欠		110図29
34	344号土坑	14	(13)	3	(0.4)	II	黒曜石	片脚欠		110図25
35	465号土坑	(25)	(16)	6	(1.8)	—	黒曜石	先端欠		
36	689号土坑	25	(18)	7	(2.6)	II	黒曜石	片脚欠		110図30
37	756号土坑	(17)	23	5	(1.8)	II	黒曜石	上半部欠		110図31
38	765号土坑	22	17	3	0.7	I	黒曜石	完形		110図32
39	802号土坑	17	13	5	1.0	I	黒曜石	完形		110図33
40	804号土坑	(24)	29	8	(5.0)	I	黒曜石	基部欠		
41	838号土坑	23	(17)	4	(1.0)	II	黒曜石	片脚欠		
42	926号土坑	(24)	(13)	4	(1.1)	—	黒曜石	両脚欠		110図34

(次項へ続く)

43	980号土坑	20	(13)	3	(0.5)	II	黒曜石	片脚欠			
44	1138号土坑	24	(15)	3	(0.8)	II	黒曜石	片脚欠			110図35
45	1138号土坑	22	(15)	3	(0.6)	II	黒曜石	片脚欠			110図36
46	1142号土坑	25	(15)	4	(0.9)	II	黒曜石	片脚欠			110図37
47	1156号土坑	(28)	(13)	3	(0.8)	I	黒曜石	片脚欠			
48	1214号土坑	21	(16)	6	(1.2)	II	黒曜石	先端・片脚欠			110図38
49	1259号土坑	31	(20)	4	(1.0)	II	黒曜石	片側欠			110図39
50	1259号土坑	(19)	17	3	(0.9)	II	黒曜石	先端欠			110図41
51	1255号土坑	(17)	(13)	3	(0.4)	II	黒曜石	両脚欠			110図40
52	1364号土坑	28	(14)	5	(1.2)	I	黒曜石	片脚欠			
53	土坑	(23)	(20)	5	(2.0)	—	黒曜石	先端・片脚欠	未製品か		111図45
54	土坑	(20)	21	4	(1.3)	I	黒曜石	先端欠			
55	D区遺構外	17	16	4	0.7	II	黒曜石	完形			111図46
56	E区遺構外	24	17	6	2.3	—	黒曜石	—	未製品か		110図42
57	遺構外	23	(9)	3	(0.5)	II	黒曜石	片脚欠			111図44
58	遺構外	22	(21)	3	(1.0)	II	黒曜石	片脚欠			111図48
59	遺構外	(19)	(16)	(9)	(2.2)	I	黒曜石	下半部欠			111図47
60	遺構外	(21)	19	4	(1.0)	II	黒曜石	先端・片脚欠			110図43

打製石斧

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	磨耗有無	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	97	41	15	71.0	III	○	頁岩	刃部欠		113図109
2	2号住居址	112	53	11	93.1	II	○	頁岩	完形		113図110
3	2号住居址	128	47	14	74.2	I	○	頁岩	完形		113図111
4	2号住居址	118	51	18	132.4	V	○	細粒砂岩	完形		113図112
5	2号住居址	(97)	42	20	(104.5)	I	○	頁岩	胴部片		113図113
6	2号住居址	(67)	(51)	12	(55.8)	V	—	頁岩	刃部片		113図114
7	2号住居址西	(55)	40	11	(27.3)	—	—	頁岩	胴部片		113図115
8	2号住居址	(76)	59	14	(78.3)	—	○	頁岩	刃部片		
9	2号住居址	(67)	(50)	16	(60.1)	I	○	頁岩	刃部片		
10	2号住居址(中)上層	(49)	41	11	(29.9)	—	○	頁岩	刃部片		113図116
11	5号住居址	(86)	42	14	(65.7)	I	—	頁岩	刃部片		113図117
12	6号住居址	(99)	44	14	(76.3)	I	×	頁岩	頭部欠		113図118
13	6号住居址	(84)	48	15	(51.4)	IV	—	頁岩	刃部欠		113図119
14	6号住居址	(102)	60	15	(123.7)	III	—	頁岩	胴部片		
15	10号住居址	103	39	21	95.8	I	—	頁岩	刃部欠		113図120
16	10号住居址2区上層	86	40	15	70.8	III	—	頁岩	完形		
17	10号住居址2区下層	(71)	44	14	(59.6)	—	○	頁岩	刃部片		113図122
18	10号住居址4区上層	86	34	12	44.9	I	—	頁岩	完形	風化激しい	113図123
19	10号住居址4区	(85)	43	11	(70.7)	I	○	頁岩	頭部欠		113図124
20	10号住居址5区上層	91	46	18	86.4	I	—	頁岩	刃部片		114図125
21	10号住居址5区上層	(69)	47	20	(61.4)	II	—	頁岩	胴部片		114図126
22	10号住居址5区上層	79	49	12	56.4	I	—	頁岩	頭部欠		114図127
23	10号住居址5区下層	97	43	15	80.4	IV	—	頁岩	刃部欠		114図128
24	11号住居址	101	44	23	114.1	I	×	頁岩	完形		114図129
25	11号住居址	(73)	40	14	(48.0)	I	—	頁岩	刃部片		114図130
26	11号住居址	(67)	48	9	(32.6)	—	×	頁岩	刃部片		114図131
27	13号住居址	(80)	49	14	(65.7)	III	—	頁岩	刃部片		114図132
28	16号住居址2区	(80)	50	12	(63.0)	II	×	頁岩	頭部欠		114図133
29	17号住居址4区上層	96	50	17	105.2	I	—	頁岩	刃部欠		114図134
30	20号住居址	93	35	7	30.4	IV	—	頁岩	完形		
31	22号住居址	86	40	9	36.8	II	×	頁岩	完形		
32	24号住居址	(93)	52	19	(107.7)	III	—	頁岩	胴部片		
33	26号住居址	(79)	42	13	(50.9)	IV	—	頁岩	刃部欠		114図135
34	26号住居址	(84)	39	14	(44.3)	IV	—	頁岩	刃部欠		114図136
35	25号土坑	(105)	49	13	(69.4)	V	—	頁岩	胴部片		
36	55号土坑	(80)	44	10	(39.0)	IV	—	頁岩	刃部欠		
37	65号土坑	(114)	53	16	(99.0)	IV	—	頁岩	胴部片		
38	197号土坑	(53)	(37)	12	(24.0)	—	—	頁岩	頭部		
39	433号土坑	(80)	55	10	(29.8)	V	○	頁岩	刃部片		
40	437号土坑	(79)	42	7	(33.0)	III	—	頁岩	刃部欠		
41	440号土坑	(88)	50	18	(94.9)	II	—	頁岩	胴部片		
42	446号土坑	(71)	25	10	(20.7)	I	—	粘板岩	頭部片		
43	492号土坑	(105)	53	24	(145.7)	V	—	頁岩	刃部欠		
44	494号土坑	(68)	40	10	(37.0)	III	—	頁岩	刃部欠		
45	549号土坑	(80)	55	21	(88.2)	III	—	頁岩	胴部片		
46	569号土坑	(90)	40	12	(52.3)	I	—	頁岩	完形		
47	570号土坑	(99)	50	16	(65.7)	II	○	頁岩	刃部片		

(次項へ続く)

48	575号土坑	(81)	53	21	(124.0)	I	—	頁岩	刃部欠	
49	575号土坑	(80)	65	22	(138.4)	II	—	頁岩	刃部片	
50	583号土坑	(100)	(44)	17	(93.8)	I	—	頁岩	胴部片	
51	593号土坑	(61)	50	14	(50.6)	I	—	頁岩	胴部片	
52	605号土坑	(71)	47	11	(49.1)	III	—	頁岩	刃部欠	
53	627号土坑	(71)	(39)	17	(47.9)	IV	—	頁岩	胴部片	
54	740号土坑	(76)	49	11	(58.8)	III	—	頁岩	胴部欠	
55	741号土坑	100	35	12	53.8	II	—	頁岩	完形	風化激しい
56	786号土坑	(55)	36	7	(14.3)	IV	—	頁岩	完形	
57	820号土坑	108	46	22	111.8	I	—	頁岩	刃部欠	
58	830号土坑	(64)	(49)	17	(55.5)	IV	—	頁岩	胴部片	
59	834号土坑	(116)	52	15	(89.0)	V	—	頁岩	刃部欠	
60	958号土坑	(56)	(47)	12	(37.9)	-	—	頁岩	胴部片	
61	1068号土坑	98	35	19	87.6	I	—	頁岩	完形	
62	1081号土坑	(72)	51	11	(46.0)	III	—	頁岩	完形	
63	1156号土坑	(69)	(52)	15	(52.0)	III	—	頁岩	胴部片	
64	1160号土坑	(41)	40	9	(19.2)	-	—	頁岩	胴部片	
65	1200号土坑	(84)	52	13	(80.4)	III	—	頁岩	胴部欠	
66	1200号土坑	(67)	49	7	(36.8)	III	—	頁岩	刃部欠	
67	1212号土坑	(76)	51	9	(41.5)	I	—	頁岩	胴部欠	
68	1214号土坑	102	49	16	93.8	I	—	頁岩	完形	風化激しい
69	1301号土坑	90	45	12	63.4	III	—	頁岩	刃部欠	
70	1306号土坑	(89)	53	15	(92.9)	I	—	頁岩	胴部欠	
71	1337号土坑	(70)	44	23	(78.1)	I	—	頁岩	刃部欠	
72	1376号土坑	(76)	(54)	14	(58.6)	I	—	頁岩	胴部片	
73	1412号土坑	(61)	43	9	(28.3)	I	—	頁岩	胴部片	
74	1474号土坑	93	39	15	66.0	III	×	頁岩	完形	
75	1474号土坑	(89)	44	15	(66.1)	II	×	頁岩	胴部片	
76	1643号土坑	108	47	19	100.7	II	×	頁岩	完形	
77	1787号土坑	(102)	51	19	(114.7)	I	—	頁岩	刃部欠	
78	1815号土坑	107	70	20	99.9	I	×	頁岩	完形	
79	E-4区遺構外	83	39	11	44.4	II	×	頁岩	一部欠	
80	E-4区遺構外	(82)	53	19	(84.2)	II	×	頁岩	刃部片	
81	遺構外	(89)	40	7	(27.3)	II	×	頁岩	刃部片	
82	遺構外	(71)	47	12	(47.8)	III	—	頁岩	胴部片	
83	遺構外	160	92	25	418.0	I	—	細粒砂岩	完形	未製品か
84	遺構外	(82)	45	18	(90.4)	I	—	頁岩	刃部欠	
85	遺構外	(94)	53	21	(123.0)	II	—	頁岩	刃部欠	
86	遺構外	93	46	14	76.5	I	×	頁岩	胴部欠	
87	遺構外	123	46	13	86.1	II	—	頁岩	完形	
88	遺構外	95	32	8	36.5	I	—	頁岩	完形	
89	遺構外	84	36	13	63.0	I	—	頁岩	胴部欠	

大形刃器

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No.
1	2号住居址	(73)	(44)	(7)	(26.4)	II a	頁岩	破片		114図137
2	2号住居址	73	68	17	102.1	III	頁岩	完形		114図138
3	2号住居址	(53)	(36)	(16)	(35.2)	-	頁岩	破片		
4	2号住居址	62	46	9	29.3	II b	頁岩	完形		
5	2号住居址表探	75	60	13	55.4	II b	頁岩	完形		114図139
6	9号住居址	62	51	9	40.8	II (a+b)	頁岩	完形		115図145
7	10号住居址2区上層	68	39	12	29.7	II b	頁岩	完形		114図140
8	10号住居址5区上層	104	43	9	37.4	II b	頁岩	一部欠		114図141
9	10号住居址下層	131	97	12	165.3	II b	頁岩	完形		115図142
10	16号住居址2区	(83)	53	9	(36.5)	II b	頁岩	破片		115図143
11	16号住居址2区	(77)	42	10	(31.0)	II (a+b)	頁岩	一部欠		115図144
12	22号住居址	70	56	9	48.6	II (a+b)	頁岩	完形		
13	22号住居址	87	51	21	84.6	I b	頁岩	完形		
14	25号住居址	67	60	10	44.9	II a	頁岩	破片		
15	76号土坑	77	75	17	90.6	I b	頁岩	完形		
16	154号土坑	77	47	7	39.0	II b	頁岩	完形		
17	155号土坑	73	50	10	33.0	I b	頁岩	完形		
18	214号土坑	66	48	9	22.4	II a	頁岩	一部欠		
19	425号土坑	(83)	63	30	(166.3)	II a	頁岩	完形		
20	432号土坑	73	45	7	21.7	II b	頁岩	完形		
21	492号土坑	86	36	7	25.2	II b	頁岩	一部欠		
22	575号土坑	70	52	10	36.8	I b	頁岩	完形		

(次項へ続く)

23	580号土坑	75	47	5	17.5	IIa	頁岩	一部欠	
24	744号土坑	(76)	48	16	(59.4)	IIb	頁岩	一部欠	
25	800号土坑	73	40	15	54.7	IIa	頁岩	完形	
26	803号土坑	108	70	16	123.1	IIa	頁岩	完形	
27	1034号土坑	89	74	11	54.3	II(+c)	頁岩	完形	
28	1050号土坑	(75)	45	10	(43.2)	Ib	頁岩	1/2	
29	1081号土坑	(97)	(47)	10	(48.6)	IIb	頁岩	一部欠	化石含む
30	1091号土坑	97	48	8	31.3	II(+c)	頁岩	完形	
31	1249号土坑	70	67	9	34.9	Ib	頁岩	完形	
32	1474号土坑	83	59	16	78.9	Ib	頁岩	完形	
33	土坑	(139)	(80)	20	(193.8)	II(+b)	頁岩	完形	
34	土坑	66	41	13	51.0	II(+b)	頁岩	完形	
35	土坑	73	60	6	31.3	IIb	頁岩	完形	
36	土坑	(47)	(30)	9	(14.0)	IIb	頁岩	破片	
37	6号集石	(96)	50	26	(32.2)	II(+c)	頁岩	完形	
38	7号集石	(68)	45	8	(146.5)	IIa	頁岩	一部欠	
39	7号集石	92	61	17	96.1	IIb	頁岩	破片	
40	E-4区遺構外	83	39	11	35.0	IIa	頁岩	一部欠	
41	E-4区遺構外	120	50	10	47.0	IIb	頁岩	完形	
42	E-5区遺構外	75	55	12	70.9	IIa	頁岩	完形	
43	E-8区遺構外	108	57	12	95.3	IIb	頁岩	完形	
44	E区遺構外	91	57	17	106.4	IIb	頁岩	一部欠	
45	E区遺構外	105	60	10	75.3	IIa	頁岩	完形	
46	D-9区遺構外	96	63	8	49.5	IIa	頁岩	完形	
47	遺構外	(36)	(33)	8	(16.2)	-	頁岩	破片	
48	遺構外	90	43	9	38.7	IIb	頁岩	完形	
49	遺構外	(87)	45	9	(36.9)	IIb	頁岩	一部欠	
50	遺構外	79	59	15	85.5	IIb	頁岩	完形	
51	遺構外	68	(52)	17	(41.3)	Ib	頁岩	一部欠	
52	遺構外	66	48	9	35.4	II(+b)	頁岩	完形	
53	遺構外	82	49	16	69.6	IIc	頁岩	完形	
54	遺構外	89	57	10	42.2	IIb	頁岩	完形	
55	遺構外	72	49	8	25.3	IIb	頁岩	完形	
56	遺構外	102	100	16	196.0	Ib	頁岩	完形	
57	遺構外	(84)	52	12	(54.9)	II(+b)	頁岩	一部欠	
58	遺構外	(79)	43	14	(56.9)	II(+b)	頁岩	一部欠	
59	遺構外	(79)	45	16	(75.0)	II(+b)	頁岩	一部欠	
60	遺構外	64	58	11	50.9	IIb	頁岩	一部欠	
61	遺構外	89	40	11	50.1	II(+b)	頁岩	一部欠	

小型刃器(住居分)

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	刃数	石質	遺存状態	備考	図版No
1	1号住居址	(82)	14	4	(3.7)	IIb	2	頁岩	一部欠		112図83
2	2号住居址	37	35	17	18.2	II(+c)	2	黒曜石	完形		112図84
3	2号住居址	26	22	8	4.2	Ic	1	黒曜石	完形		112図85
4	2号住居址	33	19	4	1.6	Ib	1	黒曜石	完形		112図86
5	2号住居址	33	13	6	2.1	Ia	2	黒曜石	完形		112図88
6	2号住居址	27	21	5	3.4	Ib	3	黒曜石	完形		
7	2号住居址	29	16	7	2.6	Ib	1	黒曜石	完形		
8	2号住居址	16	14	5	0.8	Ia	1	黒曜石	完形		
9	2号住居址	(18)	(12)	7	(1.4)	IIa	3	黒曜石	破片		
10	2号住居址	(22)	(12)	4	(0.8)	IIa	1	黒曜石	破片		
11	2号住居址	71	77	24	86.6	Ic	2	頁岩	完形		112図87
12	4号住居址	26	24	8	4.4	I(+b)	2	黒曜石	完形		112図89
13	4号住居址	33	18	5	2.5	Ia	2	黒曜石	完形		
14	5号住居址	37	38	17	15.1	Ia	1	黒曜石	完形		112図90
15	5号住居址	33	31	10	12.9	IIa	2	黒曜石	完形		112図91
16	5号住居址	62	21	10	10.0	IIa	2	黒曜石	完形		
17	5号住居址	21	20	17	3.7	Ia	1	黒曜石	完形		
18	5号住居址	24	22	7	3.7	IIa	4	黒曜石	完形		
19	5号住居址	32	20	9	4.4	IIa	1	黒曜石	完形		
20	5号住居址	27	19	7	3.2	Ia	1	黒曜石	完形		
21	5号住居址	34	23	5	3.9	Ib	1	黒曜石	完形		
22	5号住居址	41	25	16	7.1	II(+c)	4	黒曜石	完形		112図92
23	5号住居址	28	28	10	(4.6)	Ia	1	黒曜石	一部欠		
24	5号住居址	22	22	7	3.4	I(+c)	2	黒曜石	完形		
25	5号住居址	26	20	10	3.9	Ia	1	黒曜石	完形		
26	5号住居址	23	15	6	1.9	IIa	3	黒曜石	完形		

(次項へ続く)

27	5号住居址	26	17	3	0.8	Ia	2	黑曜石	完形	
28	5号住居址	25	20	4	1.6	Ia	2	黑曜石	完形	
29	5号住居址	25	15	3	0.9	Ia	2	黑曜石	完形	
30	5号住居址	26	17	9	2.7	Ia	2	黑曜石	完形	
31	5号住居址	21	15	6	1.9	Ia	3	黑曜石	完形	
32	5号住居址	28	19	5	1.9	Ia	1	黑曜石	完形	
33	5号住居址	36	20	4	(2.0)	IIa	2	黑曜石	一部欠	
34	5号住居址	20	13	6	1.7	IIa	1	黑曜石	完形	
35	5号住居址	27	18	6	1.7	Ic	2	黑曜石	完形	
36	5号住居址	24	20	5	1.5	Ia	2	黑曜石	完形	
37	5号住居址	29	21	4	1.6	Ia	4	黑曜石	完形	
38	5号住居址	21	23	3	1.3	Ia	2	黑曜石	完形	112图93
39	5号住居址	25	15	5	1.6	II(a+b)	2	黑曜石	完形	
40	5号住居址	33	16	6	3.1	IIa	2	黑曜石	完形	
41	5号住居址	22	13	4	0.9	II(a+b)	2	黑曜石	完形	
42	5号住居址	20	16	9	3.1	IIa	2	黑曜石	完形	
43	5号住居址	24	23	6	4.0	II(a+b)	4	黑曜石	完形	模形
44	5号住居址	22	19	6	2.8	Ib	1	黑曜石	完形	
45	5号住居址	36	16	5	2.3	Ia	2	黑曜石	完形	
46	6号住居址	37	20	7	3.4	IIa	1	黑曜石	完形	
47	6号住居址	27	19	9	2.9	IIb	1	黑曜石	完形	
48	6号住居址	24	16	4	(0.9)	IIa	1	黑曜石	一部欠	
49	7号住居址	27	26	8	8.0	Ia	1	黑曜石	完形	
50	7号住居址	35	22	4	2.2	I(b+c)	3	黑曜石	完形	
51	7号住居址	27	19	6	1.8	IIa	2	黑曜石	完形	
52	7号住居址	24	21	5	1.7	Ib	1	黑曜石	完形	
53	7号住居址	24	14	6	1.7	Ia	1	黑曜石	完形	
54	7号住居址	21	(19)	6	(2.2)	IIa	2	黑曜石	破片	
55	8号住居址	43	30	12	13.5	IIb	2	黑曜石	完形	
56	8号住居址	31	30	9	4.5	Ia	3	黑曜石	完形	
57	8号住居址	36	24	6	4.6	IIb	1	黑曜石	完形	
58	8号住居址	31	19	8	(3.9)	IIc	2	黑曜石	一部欠	
59	8号住居址	34	20	6	3.2	Ia	2	黑曜石	完形	
60	8号住居址	26	22	9	3.5	Ia	2	黑曜石	完形	
61	8号住居址	18	17	5	1.6	IIb	1	黑曜石	完形	
62	8号住居址	(31)	(13)	(5)	(1.9)	IIb	2	黑曜石	破片	
63	9号住居址	40	23	6	3.5	Ia	1	黑曜石	完形	
64	9号住居址	41	43	15	13.7	IIc	2	黑曜石	完形	
65	9号住居址	43	27	15	8.2	II(b+c)	2	黑曜石	完形	
66	9号住居址	30	26	10	6.5	IIb	2	黑曜石	完形	
67	9号住居址	33	18	9	3.9	Ia	1	黑曜石	完形	
68	9号住居址	32	24	9	3.6	Ia	2	黑曜石	完形	
69	9号住居址	40	20	9	5.0	IIc	1	黑曜石	完形	
70	9号住居址	27	17	8	2.4	IIa	1	黑曜石	完形	
71	9号住居址	37	15	4	1.8	Ia	1	黑曜石	完形	
72	9号住居址	30	19	6	2.5	I(a+c)	3	黑曜石	完形	
73	9号住居址	28	18	5	2.0	Ia	2	黑曜石	完形	
74	9号住居址	24	20	8	1.9	I(b+c)	2	黑曜石	完形	
75	9号住居址	24	20	7	2.7	Ia	2	黑曜石	完形	
76	9号住居址	25	17	8	1.6	Ia	2	黑曜石	完形	
77	9号住居址	24	18	7	1.9	Ic	2	黑曜石	完形	
78	9号住居址	22	15	8	2.5	Ib	1	黑曜石	完形	
79	9号住居址	24	30	5	2.3	II(a+b)	3	黑曜石	完形	
80	9号住居址	22	23	5	2.2	IIa	1	黑曜石	完形	
81	9号住居址	17	20	5	1.7	IIa	1	黑曜石	完形	
82	9号住居址	20	16	6	0.9	Ia	1	黑曜石	完形	
83	9号住居址	23	11	5	1.2	Ic	2	黑曜石	完形	
84	9号住居址	18	20	5	1.6	Ia	2	黑曜石	完形	
85	9号住居址	30	15	5	1.6	Ib	1	黑曜石	完形	
86	10号住居址1区	53	31	20	20.2	IIa	1	黑曜石	完形	
87	10号住居址1区	25	17	4	1.4	Ib	2	黑曜石	完形	
88	10号住居址1区	24	13	6	1.4	IIb	1	黑曜石	完形	
89	10号住居址1区	20	20	4	1.4	IIa	1	黑曜石	完形	
90	10号住居址1区	38	14	5	2.6	IIa	1	黑曜石	完形	112图94
91	10号住居址1区	(22)	(23)	7	(3.8)	IIa	2	黑曜石	破片	
92	10号住居址1区	39	21	11	8.2	IIb	1	黑曜石	完形	
93	10号住居址1区上層	30	17	9	3.7	II(a+b)	3	黑曜石	完形	112图95

(次項へ続く)

94	10号住居址1区上層	23	22	4	1.6	I (b+c)	1	黒曜石	完形
95	10号住居址1区上層	(25)	(11)	5	(1.5)	II b	1	黒曜石	破片
96	10号住居址1区中層	37	17	9	3.5	I a	3	黒曜石	完形
97	10号住居址1区中層	27	18	8	3.3	I a	2	黒曜石	完形
98	10号住居址1区中層	35	15	5	2.3	II (a+b)	2	黒曜石	完形
99	10号住居址1区中層	34	38	13	13.6	II c	1	黒曜石	完形
100	10号住居址1区下層	34	21	4	1.9	II a	1	黒曜石	完形
101	10号住居址1区下層	26	20	8	3.3	II a	1	黒曜石	完形
102	10号住居址2区上層	27	14	5	1.0	I c	1	黒曜石	完形
103	10号住居址2区下層	(21)	23	5	(2.1)	II a	3	黒曜石	破片
104	10号住居址2区下層	19	19	4	1.0	I a	2	黒曜石	完形
105	10号住居址2区下層	20	12	3	0.6	I a	2	黒曜石	完形
106	10号住居址3区上層	27	13	5	1.7	I a	2	黒曜石	完形
107	10号住居址4区	28	27	11	3.8	I a	2	黒曜石	完形
108	10号住居址4区	23	12	11	2.2	I b	1	黒曜石	完形
109	10号住居址4区	28	19	8	2.9	I a	3	黒曜石	完形
110	10号住居址4区	25	19	7	3.4	I (a+b)	2	黒曜石	完形
111	10号住居址4区	26	21	8	3.2	I (a+b)	2	黒曜石	完形
112	10号住居址4区	23	13	5	1.2	I (a+b)	2	黒曜石	完形
113	10号住居址4区	28	15	8	2.1	I a	3	黒曜石	完形
114	10号住居址4区	18	14	4	1.0	I a	2	黒曜石	完形
115	10号住居址4区	(30)	(16)	2	(1.2)	II b	1	黒曜石	破片
116	10号住居址4区	29	15	5	2.9	II a	1	黒曜石	完形
117	10号住居址4区	21	18	8	2.8	I (a+b)	1	黒曜石	完形
118	10号住居址4区	26	20	8	3.4	II (a+b)	2	黒曜石	完形
119	10号住居址4区	20	17	5	1.3	I a	1	黒曜石	完形
120	10号住居址4区	25	19	5	2.2	II a	2	黒曜石	完形
121	10号住居址4区	25	20	7	3.3	II a	3	黒曜石	完形
122	10号住居址4区	19	16	5	1.6	II a	2	黒曜石	完形
123	10号住居址4区上層	23	22	4	1.6	I a	2	黒曜石	完形
124	10号住居址4区上層	22	13	2	0.6	II a	2	黒曜石	完形
125	10号住居址4区上層	24	24	3	1.8	II a	3	黒曜石	完形
126	10号住居址4区下層	35	34	15	7.2	I a	1	黒曜石	完形
127	10号住居址4区下層	32	23	5	2.4	I b	2	黒曜石	完形
128	10号住居址4区下層	26	23	4	1.8	II a	2	黒曜石	完形
129	10号住居址4区下層	26	18	6	1.9	I c	1	黒曜石	完形
130	10号住居址4区下層	31	18	6	1.8	I a	1	黒曜石	完形
131	10号住居址4区下層	30	24	9	3.2	II a	2	黒曜石	完形
132	10号住居址4区下層	33	37	7	6.8	II (a+b)	3	黒曜石	完形
133	10号住居址4区下層	37	18	6	3.3	I a	2	黒曜石	完形
134	10号住居址5区	43	22	15	8.7	II a	1	黒曜石	完形
135	10号住居址5区	(25)	15	2	(1.0)	II b	2	黒曜石	破片
136	10号住居址5区	26	25	7	3.9	II (a+c)	2	黒曜石	完形
137	10号住居址5区上層	37	24	12	5.2	II (a+c)	3	黒曜石	完形
138	10号住居址	27	17	3	1.3	I a	2	黒曜石	完形
139	10号住居址	35	19	5	3.6	I a	2	黒曜石	完形
140	10号住居址	22	22	4	1.9	I a	2	黒曜石	完形
141	10号住居址	37	29	6	4.1	I c	1	黒曜石	完形
142	10号住居址	28	22	4	1.3	I a	2	黒曜石	完形
143	10号住居址	21	22	5	1.6	I c	2	黒曜石	完形
144	10号住居址	42	24	10	7.2	II a	2	黒曜石	完形
145	10号住居址	40	18	7	5.1	II a	2	黒曜石	完形
146	11号住居址	35	38	11	13.2	I a	2	黒曜石	完形
147	11号住居址	32	25	9	3.7	I a	2	黒曜石	完形
148	11号住居址	42	31	10	8.0	II (b+c)	2	黒曜石	完形
149	11号住居址	37	28	10	4.7	I a	2	黒曜石	完形
150	11号住居址	22	27	6	3.2	I b	1	黒曜石	完形
151	11号住居址	33	25	5	4.6	I a	1	黒曜石	完形
152	12号住居址	30	18	10	4.4	I a	1	黒曜石	完形
153	13号住居址	27	20	7	4.1	I b	1	黒曜石	完形
154	13号住居址	25	15	8	3.2	I a	1	黒曜石	完形
155	13号住居址	17	12	4	0.7	I b	1	黒曜石	完形
156	14号住居址	30	18	7	3.0	I a	2	黒曜石	完形
157	14号住居址	15	14	3	0.5	I b	1	黒曜石	完形
158	15号住居址	60	26	13	12.0	II (a+b)	3	黒曜石	完形
159	15号住居址	39	24	8	4.1	I (a+c)	2	黒曜石	完形
160	15号住居址	25	28	7	4.5	I b	1	黒曜石	完形

1122896

1122897

(次項へ続く)

161	15号住居址	34	20	8	4.2	Ia	1	黒曜石	完形
162	15号住居址	23	15	8	1.5	Ia	2	黒曜石	完形
163	15号住居址	21	21	6	2.7	IIb	1	黒曜石	完形
164	15号住居址	39	27	7	7.4	Ic	1	チャート	完形
165	16号住居址	20	16	4	1.5	Ia	1	黒曜石	完形
166	17号住居址	(19)	16	4	(2.1)	II(b+c)	4	黒曜石	一箇欠
167	17号住居址	27	17	7	6.7	IIa	3	黒曜石	完形
168	17号住居址	24	17	5	2.0	IIa	3	黒曜石	完形
169	17号住居址	19	14	4	2.5	II(a+c)	3	黒曜石	完形
170	17号住居址	32	35	6	2.9	IIa	4	黒曜石	完形
171	17号住居址	25	27	7	4.4	II(a+b)	2	黒曜石	完形
172	17号住居址	51	21	8	4.0	IIa	2	黒曜石	完形
173	17号住居址	22	22	4	3.4	IIa	2	黒曜石	完形
174	17号住居址	25	23	3	4.7	IIc	2	黒曜石	完形
175	17号住居址	(23)	15	4	(2.6)	IIa	1	黒曜石	一箇欠
176	17号住居址1区上層	24	24	8	3.8	IIb	2	黒曜石	完形
177	17号住居址1区上層	37	34	5	5.9	IIb	1	黒曜石	完形
178	17号住居址1区上層	(23)	25	5	(3.1)	IIa	3	黒曜石	破片
179	17号住居址4区上層	(29)	22	9	(5.3)	IIb	3	黒曜石	一箇欠
180	17号住居址4区上層	25	17	3	1.2	IIa	2	黒曜石	完形
181	17号住居址4区上層	31	17	7	3.0	IIc	2	黒曜石	完形
182	17号住居址2区上層	25	13	5	2.1	IIa	3	黒曜石	完形
183	17号住居址2区上層	24	21	6	2.2	Ia	1	黒曜石	完形
184	17号住居址2区上層	25	26	6	3.3	II(a+c)	3	黒曜石	完形
185	17号住居址2区上層	29	24	10	7.0	IIa	3	黒曜石	完形
186	17号住居址2区上層	30	19	10	4.1	IIc	1	黒曜石	完形
187	17号住居址2区上層	31	29	7	4.5	IIc	2	黒曜石	完形
188	17号住居址2区上層	19	19	4	1.4	Ia	3	黒曜石	完形
189	17号住居址2区上層	25	20	7	2.3	Ib	1	黒曜石	完形
190	17号住居址2区上層	25	16	6	1.7	IIa	2	黒曜石	完形
191	17号住居址2区上層	32	32	9	6.1	IIc	2	黒曜石	完形
192	17号住居址2区上層	28	20	5	1.8	Ic	1	黒曜石	完形
193	17号住居址2区上層	26	19	5	1.9	IIa	3	黒曜石	完形
194	17号住居址2区下層	20	35	9	5.1	IIa	2	黒曜石	完形
195	17号住居址3区上層	37	27	15	9.7	IIc	1	黒曜石	完形
196	17号住居址3区上層	36	23	9	4.5	II(a+c)	2	黒曜石	完形
197	17号住居址3区上層	36	35	12	10.7	IIa	1	黒曜石	完形
198	17号住居址3区上層	23	25	7	3.7	IIb	1	黒曜石	完形
199	17号住居址3区上層	24	17	5	1.9	IIa	1	黒曜石	完形
200	17号住居址3区上層	30	12	7	2.0	Ib	1	黒曜石	完形
201	17号住居址3区上層	26	22	8	4.6	II(a+b)	3	黒曜石	完形
202	17号住居址3区上層	30	12	4	1.5	Ib	1	黒曜石	完形
203	18号住居址1区下層	36	27	11	8.9	II(a+b)	2	黒曜石	完形
204	18号住居址1区下層	27	21	5	2.9	IIb	1	黒曜石	完形
205	18号住居址2区	31	23	5	3.4	IIb	2	黒曜石	完形
206	18号住居址2区	23	28	5	2.0	Ic	2	黒曜石	完形
207	18号住居址3区上層	37	17	9	4.6	Ib	1	黒曜石	完形
208	18号住居址3区上層	19	28	5	2.3	IIa	3	黒曜石	完形
209	18号住居址3区上層	43	7	6	2.4	Ia	1	黒曜石	完形
210	18号住居址3区上層	20	18	4	1.2	Ib	1	黒曜石	完形
211	18号住居址3区下層	35	15	5	2.6	Ia	2	黒曜石	完形
212	18号住居址3区下層	28	17	4	1.8	Ib	1	黒曜石	完形
213	18号住居址3区下層	23	30	6	3.5	II(a+b)	3	黒曜石	完形
214	18号住居址3区下層	40	21	5	4.6	IIa	2	黒曜石	完形
215	18号住居址4区上層	30	17	4	1.7	Ia	2	黒曜石	完形
216	18号住居址4区上層	23	26	11	5.9	IIa	1	黒曜石	完形
217	19号住居址	49	25	11	10.1	IIa	1	黒曜石	完形
218	19号住居址	29	28	12	7.8	Ia	1	黒曜石	完形
219	19号住居址	31	19	7	3.9	IIb	1	黒曜石	完形
220	19号住居址	26	26	11	7.8	IIb	2	黒曜石	完形
221	19号住居址	21	26	7	3.0	II(a+b)	2	黒曜石	完形
222	19号住居址	35	25	12	10.1	IIa	1	黒曜石	完形
223	19号住居址	22	13	8	2.3	IIa	2	黒曜石	完形
224	19号住居址	20	19	4	1.6	IIa	3	黒曜石	完形
225	19号住居址	31	15	7	3.5	IIa	2	黒曜石	完形
226	19号住居址	34	17	7	3.5	Ib	1	黒曜石	完形
227	19号住居址	44	19	6	3.7	Ib	2	黒曜石	完形

112図98

石橋本製石a

楔形

(次頁へ続く)

228	19号住居址	35	16	7	3.3	Ia	2	黒曜石	完形		
229	19号住居址	28	26	13	5.4	II(a+b)	2	黒曜石	完形		
230	20号住居址	31	19	7	4.3	Ib	1	黒曜石	完形		
231	20号住居址	30	19	5	2.0	Ia	2	黒曜石	完形		
232	20号住居址	28	15	6	1.6	Ib	1	黒曜石	完形		
233	20号住居址	38	18	10	3.6	Ia	1	黒曜石	完形		
234	20号住居址	20	19	4	1.5	Ia	2	黒曜石	完形		
235	20号住居址	23	15	5	1.3	Ib	1	黒曜石	完形		
236	20号住居址	18	16	4	0.7	Ic	1	黒曜石	完形		
237	20号住居址	30	18	4	1.7	Ic	2	黒曜石	完形		
238	20号住居址	19	20	3	1.6	Ia	2	黒曜石	完形		
239	20号住居址	25	20	5	1.7	I(a+c)	2	黒曜石	完形		
240	20号住居址	20	17	7	1.8	Ia	1	黒曜石	完形		
241	20号住居址	30	18	5	2.4	Ia	3	黒曜石	完形		
242	21号住居址	36	24	10	3.7	IIc	1	黒曜石	完形		
243	22号住居址	30	15	10	3.5	Ia	1	黒曜石	完形		
244	22号住居址	19	20	4	1.2	Ia	1	黒曜石	完形		
245	22号住居址	25	10	5	0.9	Ic	1	黒曜石	完形		
246	22号住居址	30	28	5	2.5	Ia	2	黒曜石	完形		
247	22号住居址	19	20	9	3.9	IIa	3	黒曜石	完形		
248	23号住居址	36	20	5	3.6	II(a+c)	2	黒曜石	完形		
249	24号住居址	31	17	5	2.1	Ia	2	黒曜石	完形		
250	24号住居址	31	25	8	6.7	IIc	1	黒曜石	完形		
251	24号住居址	(17)	27	(4)	(2.0)	IIa	3	黒曜石	破片	石鏃小	
252	24号住居址	(31)	(16)	(4)	(2.5)	IIa	2	黒曜石	破片	石鏃小	
253	24号住居址	24	22	8	2.9	Ib	1	黒曜石	完形		
254	24号住居址	34	18	5	4.4	Ia	2	黒曜石	完形		
255	24号住居址	22	27	7	4.0	Ia	1	黒曜石	完形		
256	24号住居址	31	24	5	3.4	Ib	2	黒曜石	完形		
257	24号住居址	32	13	13	4.7	Ia	1	黒曜石	完形		
258	24号住居址	(26)	(24)	(9)	(2.6)	IIa	1	チャート	破片		
259	25号住居址	45	34	15	17.1	Ia	1	黒曜石	完形		
260	25号住居址	33	18	6	2.5	Ic	1	黒曜石	完形		
261	26号住居址	46	21	16	16.5	IIa	1	黒曜石	完形		
262	26号住居址	38	19	4	2.4	I(a+b)	2	黒曜石	完形		
263	26号住居址	28	21	6	2.7	Ia	1	黒曜石	完形		112図99

石 鏃

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	刃部形状	基部		石質	遺存状態	備考	図版No.
							位置	角度				
1	3-5号住居址	42	44	9	11.5	b	III	90	黒曜石	完形		111図50
2	9号住居址	28	35	6	4.6	b	III	70	チャート	完形		111図51
3	164号土坑	42	31	5	6.7	b	III	90	黒曜石	完形		
4	228号土坑 (27)	13	4	(1.7)	—	I	0	—	黒曜石	先端部欠		
5	440号土坑	23	39	6	3.0	a	III	90	黒曜石	完形		111図52
6	490号土坑	43	15	4	3.4	b	I	30	黒曜石	完形		
7	790号土坑	29	17	8	3.6	b	II	50	黒曜石	完形		
8	933号土坑 (30)	(19)	5	(2.8)	a	III	60	—	黒曜石	基部欠		
9	1208号土坑 (32)	18	7	(2.3)	—	—	—	—	黒曜石	刃部欠		
10	1418号土坑 (27)	(20)	5	(2.0)	a	—	—	—	黒曜石	基部欠		
11	15号集石	28	38	9	6.1	b	III	90	頁岩	完形		111図53
12	E-4区遺構外	27	28	7	5.9	a	III	90	チャート	完形		111図55
13	遺構外	26	(28)	5	(3.1)	a	III	—	—	左右刃部欠		111図54
14	遺構外	36	51	9	10.7	b	III	60	頁岩	完形		111図56

石 鏢

遺物番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No.
1	2号住居址	33	9	7	1.7	II d	黒曜石	完形		111図57
2	5号住居址	(33)	15	7	(2.3)	I b	黒曜石	完形		111図58
3	6号住居址	(37)	15	7	(3.9)	II a	黒曜石	先端部欠		111図59
4	10号住居址1区	(18)	18	3	(0.6)	II c	黒曜石	先端部欠		111図60
5	10号住居址5区上層	33	11	8	2.7	II b	黒曜石	完形		111図61
6	13号住居址	29	17	7	3.0	I a	黒曜石	完形		111図62
7	13号住居址	34	13	7	1.8	II a	黒曜石	完形		111図63
8	17号住居址2区上層	33	17	5	2.4	I b	黒曜石	完形		
9	17号住居址2区上層	35	16	5	1.8	I b	黒曜石	完形		
10	17号住居址2区上層	37	15	10	1.9	I b	黒曜石	完形		
11	19号住居址	31	21	9	4.9	I a	黒曜石	完形		111図64
12	19号住居址	27	18	7	2.0	I b	黒曜石	完形		111図65

13	25号住居址	52	38	13	11.9	I b	黒曜石	完形		
14	21号土坑	43	12	8	5.4	I b	黒曜石	完形		
15	344号土坑	(31)	12	6	(1.9)	II a	黒曜石	先端部欠	111図67	
16	543号土坑	29	16	4	1.7	II b	黒曜石	完形		
17	608号土坑	29	9	6	1.4	II d	黒曜石	完形		
18	687号土坑	48	27	5	3.9	I b	チャート	完形	111図68	
19	804号土坑	30	20	4	2.6	I b	黒曜石	完形		
20	969号土坑	35	15	7	2.7	II a	黒曜石	完形	111図69	
21	999号土坑	20	15	4	2.0	II a	黒曜石	基部や欠		
22	1077号土坑	29	20	14	5.9	I b	黒曜石	先端部欠		
23	1274号土坑	41	16	10	4.5	I b	黒曜石	完形	111図70	
24	1259号土坑	46	20	12	6.8	II a	黒曜石	完形		
25	1290号土坑	16	22	7	1.8	II a	黒曜石	先端部欠		
26	1297号土坑	30	23	5	3.7	II a	黒曜石	完形		
27	1313号土坑	32	20	6	2.7	I a	黒曜石	完形		
28	1643号土坑	26	17	5	1.9	I b	黒曜石	完形	111図71	
29	5号集石	35	15	11	3.9	II a	黒曜石	完形	111図72	
30	E-5区遺構外	30	11	6	1.6	II d	黒曜石	完形	異形石器か	111図76
31	E区遺構外	30	14	10	3.4	I b	黒曜石	完形		
32	遺構外	51	10	6	2.9	II b	黒曜石	完形		111図66
33	遺構外	23	20	5	1.9	I b	黒曜石	先端部欠		
34	遺構外	35	17	6	2.3	II a	黒曜石	先端部欠	111図73	
35	遺構外	22	14	5	1.1	I b	黒曜石	完形	111図75	
36	遺構外	(24)	19	7	(1.2)	II d	黒曜石	完形	111図74	
37	遺構外	20	17	6	1.2	I b	黒曜石	先端部欠	111図77	
38	遺構外	(37)	15	12	(4.9)	I b	黒曜石	先端部欠	112図78	
39	遺構外	23	9	5	0.9	II a	黒曜石	先端部欠	112図79	
40	遺構外	30	13	7	2.4	I a	黒曜石	完形	112図90	
41	遺構外	35	17	6	1.6	II a	黒曜石	完形	112図81	
42	遺構外	46	23	10	8.5	I b	黒曜石	先端部欠	112図82	

磨石

遺物No	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	摩耗面	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	67	41	25	89.6	I	a	中粒砂岩	一部欠		
2	6号住居址	143	42	23	290.4	II	a	頁岩	完形		115図152
3	10号住居址6区中層	(64)	(49)	30	(243.9)	I	a	中粒凝灰岩	完形		115図153
4	13号住居址	59	45	38	124.8	I	—	細粒砂岩	完形		115図155
5	17号住居址	(56)	(55)	34	(156.7)	I	a+b	粗粒砂岩	破片		115図154
6	18号住居址1区	96	63	16	137.0	I	a	細粒砂岩	完形		
7	18号住居址1区	(83)	(89)	39	(303.0)	I	a+b	細粒砂岩	1/3		115図156
8	24号住居址	180	41	37	484.3	II	—	ホルンフェルス	完形		115図158
9	48号土坑	(36)	(66)	(31)	(90.3)	I	—	中粒凝灰岩	破片		
10	445号土坑	(89)	(50)	31	(199.0)	I	a	頁岩	1/2		
11	475号土坑	(79)	77	29	(335.1)	I	a+b	石英閃緑岩	1/2		
12	549号土坑	101	55	31	240.2	I	a+b	中粒凝灰岩	完形		
13	947号土坑	(81)	78	44	(264.7)	I	a+b	細粒砂岩	1/2		
14	1018号土坑	92	84	49	388.2	I	—	中粒凝灰岩	完形	黒化激しい	115図157
15	1099号土坑	104	90	44	489.9	I	a	中粒砂岩	一部欠		
16	1456号土坑	(142)	39	23	(221.0)	II	a	細粒砂岩	一部欠	被熱	
17	1815号土坑	(80)	41	40	(319.6)	II	a	中粒凝灰岩	破片		
18	11号集石	114	69	44	466.7	I	a+b	粗粒凝灰岩	完形		
19	14号集石	(65)	69	62	(455.6)	—	a+b	中粒砂岩	破片		
20	14号集石	111	59	59	640.5	II	a+b	中粒砂岩	完形		
21	22号集石	(76)	(44)	(44)	(142.2)	I	a	粗粒凝灰岩	破片		
22	E区遺構外	(64)	(57)	(70)	(284.9)	I	a	中粒砂岩	破片		
23	遺構外	39	39	30	52.0	I	—	細粒凝灰岩	完形		
24	遺構外	99	70	43	494.2	I	a+b	ホルンフェルス	完形		
25	遺構外	(166)	56	54	(666.8)	II	a+b	細粒砂岩	一部欠		
26	遺構外	(44)	(83)	50	(216.1)	I	a	中粒凝灰岩	破片		

敲石

遺物No	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	摩耗面	石質	遺存状態	備考	図版No
1	7号住居址	(91)	(86)	(20)	(205.4)	I	a+b	a②③ 細粒砂岩	上面のみ		116図159
2	10号住居址5区	88	65	34	140.0	I	—	a②③ 細粒砂岩	完形		116図160
3	18号住居址1区	(82)	(67)	30	(185.8)	I	a+b	a①③ 中粒砂岩	1/3		116図163
4	18号住居址	101	72	39	392.2	I	a+b	a②③ 細粒砂岩	一部欠		116図161
5	18号住居址	(116)	67	52	(731.4)	I	a+b	a③③ 中粒砂岩	一部欠		116図162
6	6号土坑	99	67	42	430.0	I	a+b	a③③③ 細粒砂岩	完形		116図164
7	48号土坑	97	(70)	44	327.2	I	a	a③③③ 細粒凝灰岩	一部欠		

(次項へ続く)

8	54号土坑	156	70	34	354.3	I	a	a(3-2)	細粒凝灰岩	完形		
9	565号土坑	88	77	47	405.3	I	—	a(2-1)	細粒凝灰岩	完形	風化激しい	
10	834号土坑	109	108	59	855.1	I	a	a	花崗岩	一部欠		
11	835号土坑	(62)	(70)	28	(144.5)	I	a	a	中粒砂岩	1/4		
12	947号土坑	(102)	55	27	(336.2)	I	a+b	a+b(2-2)	粗粒凝灰岩	1/2		
13	999号土坑	90	77	50	457.6	I	a+b	a+b(1-1)	中粒凝灰岩	完形		
14	1090号土坑	(60)	77	49	(262.7)	I	a+b	a+b(1-2)	粗粒凝灰岩	1/2		
15	1164号土坑	(103)	51	39	(273.6)	I	a+b	a+b(-)	中粒凝灰岩	一部欠		
16	1164号土坑	(82)	52	43	(195.3)	II	a+b	a(3-2)	細粒砂岩	破片		
17	1212号土坑	(87)	54	26	(163.9)	II	a	a(-)	細粒砂岩	1/2		
18	1392号土坑	107	67	43	376.0	I	a+b	a(1-)	中粒凝灰岩	一部欠		
19	D区遺構外	120	71	59	612.1	I	a+b	a(-)	細粒砂岩	完形		
20	E区遺構外	111	77	56	492.1	I	a	a(3-2)	中粒凝灰岩	完形		
21	遺構外	103	73	47	446.4	I	a+b	a(2-2)	粗粒凝灰岩	完形		
22	遺構外	61	65	51	341.6	I	a+b	a+b(1-1)	粗粒凝灰岩	完形		
23	遺構外	102	80	40	327.5	I	a	a(1-2)	細粒砂岩	完形		
24	遺構外	100	71	49	428.8	I	a+b	a+b(-)	中粒凝灰岩	完形	風化激しい	
25	遺構外	106	81	50	566.4	I	a+b	a+b(-)	中粒凝灰岩	完形		
26	遺構外	107	80	40	445.2	I	a	a(1-2)	細粒砂岩	完形		
27	遺構外	104	58	30	277.2	I	a+b	a+b(-)	粗粒凝灰岩	完形		

石

遺物No.	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	摩耗面	石質	遺存状態	備考	図版No
1	18号住居址	(120)	44	42	(390.9)	II	—	ホルンフェルス	破片		116図165
2	1162号土坑	82	35	35	165.2	I	—	石英閃綠岩	完形		116図166
3	1208号土坑	(85)	30	39	(72.7)	II	—	頁岩	一部欠		116図167

石 皿

遺物No.	出土位置	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	329	277	120	15200.0	I	安山岩	完形		117図171
2	10号住居址5区	185	120	131	5400.0	I	細粒凝灰岩	完形		117図173
3	13号住居址	(140)	(105)	(69)	(1174.4)	II	多孔質安山岩	破片		117図172
4	1112号土坑	368	305	115	22000.0	I	安山岩	完形		117図174
5	1A号集石	(145)	(123)	(75)	(1248.6)	II	多孔質安山岩	破片		117図175
6	遺構外	226	177	41	2830.0	I	細粒凝灰岩	完形		117図176
7	遺構外	221	(112)	36	(1557.8)	I	細粒砂岩	1/2		117図177

磨製石斧

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	10号住居址	(25)	(33)	(21)	(25.0)	定角	チャート	1/2		115図146
2	17号住居址3区上層	(38)	(52)	(16)	(35.7)	定角	ホルンフェルス	1/3		115図147
3	214号土坑	(30)	(40)	(14)	(18.0)	定角	蛇紋岩	1/3		115図148
4	1381号土坑	40	25	8	14.0	定角	蛇紋岩	刃部や欠	小形	115図149
5	7号集石	(44)	(43)	(11)	(29.2)	定角	チャート	1/2		115図150
6	遺構外	45	41	11	31.3	定角	チャート	1/2		115図151

砥 石

遺物No.	出土位置	長さ	幅	厚さ	重さ(g)	砥面数	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	(58)	(52)	23	(206.5)	2	細粒砂岩	破片		116図168
2	1386号土坑	85	(38)	(36)	(237.5)	3	細粒砂岩	破片		116図170
3	E-8区遺構外	(80)	(58)	(51)	(378.1)	2	細粒砂岩	破片		116図169

異形石器

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	E-5区遺構外	25	29	7	3.7	Y字状(糸巻状)	チャート	完形	赤チャート	111図49

球状耳飾

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	孔径(mm)	穿孔長(mm)	貫通距離(mm)	石質	遺存状態	備考	図版No
1	2号住居址	48	(26)	4	(6.2)	(17)	12	9	ヒスイ	1/2	補修孔有	118図179
2	15号住居址	(29)	(21)	8	(8.6)	(16)	12	—	ヒスイ	1/3		118図180

円盤状石製品

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	1350号土坑	32	27	6	8.7	円形	ヒスイ	完形	蛇紋岩か	118図185

女夫山ノ神遺跡土製品一覽表

土 偶

()内は欠損値

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存状態	備考	図版No
1	E区遺構外	(64)	(61)	(18)	(42.1)	頭部+左腕		1

土製球状耳飾

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	丸径(mm)	穿孔(mm)	備考	図版No
1	15号住居址	(31)	(24)	9	(5.9)	19	14	—	1/3
2	15号住居址	76	(20)	11	(6.5)	11	11	12	1/2
3	遺構外	(26)	(17)	13	(4.9)	10	9	—	1/3
4	遺構外	(22)	(17)	12	(4.0)	11	—	—	1/4

土製円盤

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存状態	備考	図版No
1	223号土坑	41	38	11	17.8	完形		4

球状土製品

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存状態	備考	図版No
1	10号住居址1区上層	23	22	—	9.5	完形		5

焼成粘土塊

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存状態	備考	図版No
1	318号土坑	5	34	—	25.6	—		2
2	318号土坑	23	18	—	5.1	—		3

女夫山ノ神遺跡鉄製品一覽表

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	器種	遺存状態	備考	図版No
1	5号住居址攪乱層	(45)	(9)	(9.0)	(4.1)	釘?	両端部欠		118図186
2	遺構外	27	24	3.0	4.2	リング状鉄製品	完形	内側に木質痕あり	118図187

牛壳沢遺跡石器一覽表

()内は欠損値

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	6号土坑	30	24	9	3.8	Ia	黒曜石	先端部欠		128図1

大形刃器

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	刃数	石質	遺存状態	備考	図版No
1	1号住居址	60	59	14	54.0	IIc	2	頁岩	1/4		128図8
2	2号住居址	71	54	11	51.9	Ia	1	頁岩	完形		128図9
3	2号住居址	67	38	7	22.7	Ib	1	頁岩	完形		128図10

小形刃器

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	刃数	石質	遺存状態	備考	図版No
1	1号住居址	70	30	9	14.5	Ia	1	黒曜石	完形		128図5
2	1号住居址	35	26	9	7.9	IIa	3	黒曜石	完形		128図2
3	1号住居址	31	19	12	6.7	Ib	1	黒曜石	完形		128図7
4	2号住居址	37	27	17	5.5	IIc	1	黒曜石	完形		128図3
5	2号住居址	24	15	13	4.5	IIa	2	黒曜石	完形		128図4
6	2号住居址	36	29	10	6.4	Ib	1	黒曜石	完形		128図6
7	1号土坑	33	23	7	4.4	IIa	1	黒曜石	完形		
8	遺構外	27	18	5	2.6	IIb	1	黒曜石	完形		
9	遺構外	(30)	(22)	(8)	(3.5)	IIb	2	黒曜石	1/2	石部の一部か	
10	遺構外	(22)	(22)	7	(2.0)	IIa	2	黒曜石	1/3以下	石部の一部か	

打製石斧

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No
1	4号土坑	(92)	68	14	(39.8)	—	頁岩	下部1/4		128図13
2	4号土坑	(91)	(58)	9	(131.0)	—	頁岩	上部1/2		128図11
3	30号土坑	(60)	(41)	13	(36.3)	I	頁岩	刃部欠		128図14
4	30号土坑	(54)	(42)	12	(68.3)	—	頁岩	上部1/2		128図13

磨石

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	磨料面	石質	遺存状態	備考	図版No
2	2号住居址	121	60	51	676.0	II	a+b	中粒凝灰岩	完形		128図16

敲石

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	磨料面	石質	遺存状態	備考	図版No
1	1号住居址	104	75	39	386.0	I	a+b	粗粒凝灰岩	完形		128図15

石皿

遺物No.	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	形状	石質	遺存状態	備考	図版No	
1	2号住居址	(228)	(195)	123	(2638.0)	II		粗粒凝灰岩	1/2		128図17

女夫山ノ神・牛売沢・鳶ヶ沢遺跡

今泉南テクノヒルズ基盤整備事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



女夫山ノ神遺跡全景(真上より)



女夫山ノ神遺跡全景 (東より)



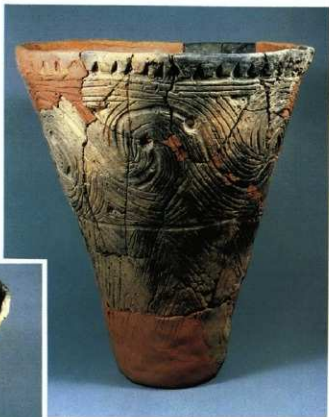
牛壳沢遺跡全景 (西より)



牛壳沢遺跡全景 (真上より)



葛ヶ沢遺跡全景 (西より)



序

塩尻市の東部には標高1929mの鉢伏山を筆頭に、標高1665mの高ポッチ山などの幾つかの峰を連ねた東山山麓が南北に延びています。その視野には西向きやや緩やかな傾斜を有する片丘丘陵が広がっております。この片丘丘陵は遺跡の宝庫として市内はもとより全国的にも著名であり、これまでに数多くの発掘調査がなされ、その成果は絶大であります。

このような状況の下、塩尻市片丘北熊井地籍において今泉南テクノヒルズ基盤整備事業が実施される運びとなりました。その整備用地内には、過去に発掘調査が実施されたこともある女夫山ノ神をはじめとして牛糸沢遺跡、鶯ヶ沢遺跡といった周知の遺跡が含まれており、塩尻市が塩尻市土地開発公社から委託を受け、塩尻市教育委員会が工事に先立ち緊急発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行うことになりました。

発掘調査は平成11年6月から11月にかけて行われ、女夫山ノ神遺跡では縄文時代前期末から中期初頭25軒、中期後葉1軒、平安時代1軒の竪穴住居址が発見され、特に縄文前期末を主体とした一つの集落をほぼ調査することができたということは、縄文集落の解明に一つの大きな資料を提供したといえ、今後の研究に大いに役立つことになるでしょう。一方、女夫山ノ神遺跡と対峙するように位置している牛糸沢遺跡からも女夫山ノ神遺跡と同時期の3軒の住居址が確認されており、両遺跡の関係がどのようなものであったのか注目されます。また鶯ヶ沢遺跡では、近世に築かれた猪土手の調査が行われ、その構築の様子をうかがうことができました。

これらの成果は、今後地域の歴史解明にとって必要不可欠な資料となることでしょう。また本書が文化財の保護啓蒙の一助となっただけならば幸いに存じます。

最後になりましたが、このような成果を得ることができましたのも、献身的に発掘作業に従事して頂きました作業員の皆様方のご尽力の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。また調査に際し多大なるご理解とご協力を頂きました塩尻市土地開発公社の方々及び地元関係者の皆様に深甚なる敬意を表します。

平成14年3月

塩尻市教育委員会
教育長 藤村 徹

例 言

1. 本書は今泉南テクノヒルズ基盤整備事業に伴い、塩尻市教育委員会が塩尻市土地開発公社から委託を受けて行った女夫山ノ神・牛壳沢・鶯ヶ沢遺跡（塩尻市大字片丘北熊井）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成11年6月4日から11月30日まで実施した。遺物および記録類の整理作業から報告書作成は、平成12年4月から平成14年3月まで行った。
3. 本書の作成にあたり、作業の分担は次のとおりである。

遺物洗浄・註記・接合……市川きぬえ 一ノ瀬 文 大 和 廣
遺物実測……………上條信彦 竹原久子 野村悦子 水口尚子
遺物トレース……………上條信彦 竹原久子 野村悦子 水口尚子 山本紀之
遺構図整理……………小松 学 樋口昇一 竹原久子 水口尚子 宮島義和
遺構図トレース……………竹原久子 西窪美穂 水口尚子
写真撮影……………小松 学 塩原真樹 樋口昇一
航空写真……………(株)みすず総合コンサルタント
総括・編集……………小松 学 樋口昇一

4. 遺跡の調査および報告書の執筆・作成にあたって、次の方々に御教示、御協力を賜った。記して感謝申し上げたい。
岩垂俊雄 上條信彦 神村 透 桐原 健 島田哲男 野村一寿 樋口昇一
宮島義和 山本典幸
5. 本調査の出土品、諸記録は平出博物館に保管している。なお今回の調査の出土品に註記した遺跡番号は、女夫山ノ神遺跡「85」、牛壳沢遺跡「86」、鶯ヶ沢遺跡「87」である。
〔塩尻市立平出博物館：〒399-6461長野県塩尻市大字宗賀1011-3 TEL0263-52-1022〕
6. 今回の調査に先立って、昭和51～53年に女夫山ノ神遺跡の調査が松本深志高等学校地歴会によって実施されており、今回の調査と関係深いので、その抄録を付篇として最後に収録してある。

凡 例

1. 遺構の縮尺は、1/80を基準とし、これ以外のものも含め挿図中に縮尺を明示している。
2. 遺物の縮尺は、土器実測図1/4、土器拓影図1/2・1/3、土製品1/2を基準とし、これ以外のものも含め挿図中に縮尺を明示している。

目次

巻頭カラー

序

例言・凡例

目次

挿図目次

I 調査と環境

1. 発掘調査に至る経過…………… 1
2. 調査体制…………… 2
3. 調査日誌…………… 3
4. 地理的環境…………… 7
5. 歴史的環境…………… 7

II 女夫山ノ神遺跡

1. 調査の概要…………… 12
2. 遺構と遺物…………… 12

(1) 遺構

- (1) 住居址…………… 12
- (2) 方形柱穴列…………… 30
- (3) 土坑…………… 31
- (4) 集石…………… 32
- (5) 近現代炭焼址…………… 32

(2) 遺物

- (1) 縄文前・中期の土器…………… 98
- (2) 石器…………… 108
- (3) 土製品…………… 120
- (4) 鉄製品…………… 121

III 牛壳沢遺跡

1. 調査の概要…………… 190
2. 遺構と遺物…………… 191

(1) 遺構

- (1) 住居址…………… 191
- (2) 土坑…………… 191
- (3) 集石…………… 191

(2) 遺物

- (1) 土器…………… 191
- (2) 石器…………… 192

IV 鷹ヶ沢遺跡

1. 調査の概要…………… 202
2. 遺構と遺物…………… 202

V 考察

女夫山ノ神遺跡出土の縄文早期土器……204

VI まとめ……………206

付 篇

松本深志高等学校地歴会考古班

発掘調査概要(抄録)……………212

写真図版

調査報告書抄録

插图目次

1 周辺遺跡分布図	8	35 第10号住居址	64
2 調査区域図	13	36 第16・17号住居址	65
〔女夫山ノ神遺跡〕		37 第18・19号住居址	66
3 女夫山ノ神遺跡全体図	14	38 第20・21・23号住居址	67
4 割付配置図	33	39 第22・24号住居址	68
5 割付図1	34	40 第25・26・27号住居址	69
6 割付図2	35	41 方形柱穴列	70
7 割付図3	36	42 土坑1	71
8 割付図4	37	43 土坑2	72
9 割付図5	38	44 土坑3	73
10 割付図6	39	45 土坑4	74
11 割付図7	40	46 土坑5	75
12 割付図8	41	47 土坑6	76
13 割付図9	42	48 土坑7	77
14 割付図10	43	49 土坑8	78
15 割付図11	44	50 土坑9	79
16 割付図12	45	51 土坑10	80
17 割付図13	46	52 土坑11	81
18 割付図14	47	53 土坑12	82
19 割付図15	48	54 土坑13	83
20 割付図16	49	55 土坑14	84
21 割付図17	50	56 石鏃法量相関	112
22 割付図18	51	57 打製石斧法量相関	113
23 割付図19	52	58 大型刃器法量相関	114
24 割付図20	53	59 小型刃器法量相関	115
25 割付図21	54	60 石匙法量相関	115
26 割付図22	55	61 磨石法量相関	116
27 割付図23	56	62 磨石法量相関	117
28 割付図24	57	63 敲石法量相関	118
29 割付図25	58	64 縄文早期土器拓影(1)	122
30 第1・7号住居址	59	65 縄文早期土器拓影(2)	123
31 第2・4・6・14号住居址	60	66 縄文土器実測図(1)	124
32 第3・5・8号住居址	61	67 縄文土器実測図(2)	125
33 第7・8号住居址	62	68 縄文土器実測図(3)	126
34 第9・11号住居址	63	69 縄文土器実測図(4)	127
		70 縄文土器実測図(5)	128

71	縄文土器実測図(6)	129
72	縄文土器実測図(7)	130
73	縄文土器実測図(8)	131
74	縄文土器拓影(1)	132
75	縄文土器拓影(2)	133
76	縄文土器拓影(3)	134
77	縄文土器拓影(4)	135
78	縄文土器拓影(5)	136
79	縄文土器拓影(6)	137
80	縄文土器拓影(7)	138
81	縄文土器拓影(8)	139
82	縄文土器拓影(9)	140
83	縄文土器拓影(10)	141
84	縄文土器拓影(11)	142
85	縄文土器拓影(12)	143
86	縄文土器拓影(13)	144
87	縄文土器拓影(14)	145
88	縄文土器拓影(15)	146
89	縄文土器拓影(16)	147
90	縄文土器拓影(17)	148
91	縄文土器拓影(18)	149
92	縄文土器拓影(19)	150
93	縄文土器拓影(20)	151
94	縄文土器拓影(21)	152
95	縄文土器拓影(22)	153
96	縄文土器拓影(23)	154
97	縄文土器拓影(24)	155
98	縄文土器拓影(25)	156
99	縄文土器拓影(26)	157
100	縄文土器拓影(27)	158
101	縄文土器拓影(28)	159
102	縄文土器拓影(29)	160
103	縄文土器拓影(30)	161
104	縄文土器拓影(31)	162
105	縄文土器拓影(32)	163
106	縄文土器拓影(33)	164
107	縄文土器拓影(34)	165

108	縄文土器拓影(35)	166
109	土偶・土製品・ミニチュア土器実測図	167
110	石器実測図(1)	168
111	石器実測図(2)	169
112	石器実測図(3)	170
113	石器実測図(4)	171
114	石器実測図(5)	172
115	石器実測図(6)	173
116	石器実測図(7)	174
117	石器実測図(8)	175
118	石器・石製品・耳飾・鉄器実測図	176

〔牛壳沢遺跡〕

119	牛壳沢遺跡遺構全体図	190
120	第1・2号住居址	193
121	第3号住居址	194
122	土坑(1)	195
123	土坑(2)	196
124	縄文土器実測図・拓影(1)	197
125	縄文土器拓影(2)	198
126	縄文土器拓影(3)	199
127	縄文土器拓影(4)	200
128	石器実測図	201

〔鳶ヶ沢遺跡〕

129	鳶ヶ沢遺跡全体図・猪土手/平・断面図	203
-----	--------------------	-----

I 調査と環境

1. 発掘調査に至る経過

記 録

- 平成11年4月9日 埋蔵文化財包蔵地発掘調査について（依頼）
- 平成11年4月27日 今泉南テクノヒルズ用地内発掘調査委託契約を塩尻市土地開発公社と締結
- 平成11年6月25日 埋蔵文化財試掘調査報告
- 平成11年7月7日 発掘調査範囲申請書について（送付）
- 平成11年7月13日 発掘調査範囲の決定について（通知）
- 平成11年12月21日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡発掘調査の報告について
- 平成12年3月3日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡発掘調査委託変更契約を塩尻市土地開発公社と締結
- 平成12年3月8日 今泉南テクノヒルズ用地内発掘調査完了届について（提出）
- 平成12年3月31日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡発掘調査終了について（通知）
- 平成12年3月31日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡発見届について（通知）
- 平成12年4月18日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡整理作業委託契約を塩尻市土地開発公社と締結
- 平成13年3月15日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡整理調査完了届について（通知）
- 平成13年4月18日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡整理作業委託契約を塩尻市土地開発公社と締結
- 平成14年3月15日 今泉南テクノヒルズ用地内遺跡整理調査完了届について（通知）

発掘調査実施計画書（一部掲載）

1. 発掘調査地／塩尻市大字片丘北熊井
2. 遺 跡 名／女夫山ノ神遺跡・牛壳沢遺跡・鶯ヶ沢遺跡
3. 遺跡の状況／畑 地・原 野
4. 発掘調査の目的及び概要／開発行為「テクノヒルズ基盤整備事業」に先立ち、15,000㎡以上を
発掘調査して記録保存をはかる。
5. 調査の作業日数／発掘作業 105日・整理作業 270日・合計 375日
平成11年度／発掘作業 105日・整理作業 0日・合計 105日
平成12年度／発掘作業 0日・整理作業 155日・合計 155日
平成13年度／発掘作業 0日・整理作業 115日・合計 115日

6. 調査に要す費用／28,000,000
 平成11年度／17,400,000
 平成12年度／4,900,000
 平成13年度／5,700,000
7. 調査報告書作成部数 調査報告書作成部数／300部
8. 発掘調査の主体者及び委託先／塩尻市教育委員会

2. 調査体制

調査団長 平出友伯（～平成13年6月） 藤村 徹（平成13年7月～）

調査担当者 小松 学

調査員 小林康男 塩原真樹

発掘参加者 市川きぬえ 市川智幸 市川二三夫 一ノ瀬 悟 一ノ瀬 文 内川初雄
 大和あさ子 大和 廣 小沢甲子郎 上條幸子 上條信彦 川上悦子
 川上 襄 川上 源 川上徳治 川上豊子 川上直子 草間三雄
 小泉忠行 児玉甲永 小林昭吾 小松節子 小松京子 小松鈴子
 小松千元 小松ます子 小松幸美 塩原賢一 進藤眞一郎 高井いえ子
 高橋阿や子 高橋鳥億 武居サト子 武居 昇 武居文芳 武居光子
 竹下栄次 田中義則 中島頼人 中村則子 樋口昇一 藤掛寿子
 古畑昭夫 古畑富喜子 洞 義昌 前田達雄 松原房雄 水口尚子
 南沢みや子 宮坂昭久 百瀬 茂 百瀬末広 百瀬泰江 矢ヶ崎さえ子
 山口仲司 山田通夫 山本紀之 山本政晴 由上はるみ

整理参加者 市川きぬえ 市川智幸 一ノ瀬 悟 一ノ瀬 文 大和 廣 上條信彦
 小松みゆき 小山貴広 竹原久子 寺澤かづ子 中島清子 中島頼人
 早川忠實 樋口昇一 樋口和香子 水口尚子 宮島義和 山本紀之

事務局 塩尻市教育委員会

生涯学習部長 飯田正弘
 社会教育課長 武居和雄（平成11年度）
 社会教育課長 濱 良光（平成12年度）
 社会教育課長 三澤 深（平成13年度）
 平出博物館長 小林康男
 平出博物館学芸員 小松 学
 平出博物館学芸員 塩原真樹

3. 調査日誌

- 4～5月 塩尻市土地開発公社との打合せ。女夫山ノ神遺跡・牛壳沢遺跡・鶯ヶ沢遺跡・今泉遺跡・長者清水遺跡の5遺跡で、計15,000㎡の調査を予定する。塩尻市土地開発公社と発掘調査の委託契約を終え、遺跡の正確な調査範囲の設定を行うための試掘調査の準備を行う。
- 5月28日 一番高い鶯ヶ沢から試掘調査に入る。雑木や雑草の除去後、グリットを設定。十数グリットをローム面まで斜ぐが、浅く遺構・遺物ともに検出できず。ただ傾斜の高い部分に等高線に沿う猪土手の盛土が連続し、一部でそれに直交する部分も残存することが判明し、後日の精査を残して一旦中止する。
- 6月11日 女夫山ノ神遺跡の試掘作業に移る。黒土層の落ち込みや集石など次々と現れる。広い面積なので便宜上南北に大きくA～D地区と4分する。A地区は一番低い部分だが遺構が少ないと思われるので、北端にプレハブ、南半を土捨場に充てる予定。B地区は低い段差がほぼ南北に走る旧農道を境として、東側の高いトレンチアの残る部分のC地区と区分し、更にそれ以東の旧河川に向う東側斜面をD地区とした。しかし、調査区で最高地点にあたる1・15号住居址付近から東南斜面一帯は遺構も多いので、E地区として分離した。まず北端の東西に走る農道から南下して、より詳細な遺構検出を続ける。住居址・土坑・集石など多数存在することが判明した時点で一時中止する。
- 7月22日 重機による表土除去作業を開始する。最初は土取りが行われてしまっている女夫山ノ神遺跡の西側部分から着手し、遺構がないことを確認する。
- 7月23日 表土除去が終了した箇所からグリットの杭打ちを開始する。
- 7月30日 女夫山ノ神遺跡の東端部分の湿地帯に非常に珍しい「ミズニラ」という植物が確認されたため、その保護のために移転作業を行う。また調査対象区域ではないが遺跡の南側の水田の中にも「ホトケドジョウ」というこれまた貴重な生物の存在が確認され、それについても保護・移転作業を市土地開発公社・県水産試験場などの職員が行う。
- 8月10日 作業再開。盆休みを挟んで遺構確認をA～D地区で行い、遺構番号付けの終わった土坑の中で北側から半割作業に入る。遺物の出土も多くなる。
- 8月11日 重機による鶯ヶ沢遺跡の表土除去作業を行う。
- 8月24日 D地区東側の谷部の調査。木製品などとともに自然遺物の出土を期待したが、1m以上深くまで上流から流れた崩壊砂利層が堆積していて包含層はない。今回調査の目玉だったので、関係者一同の落胆甚だしい。D地区斜面に黒土層の落ち込みがあり、住居址・土坑がこのような地味の悪い（一部砂利層に近い）場所にも遺構が存在することが判明した。C地区は一面南北に走るトレンチア（長芋作りの幅15～20cm、深さ80～100cm）が同一間隔できれいに現れる。そこに土坑が多数検出され、住居址も2～3軒確認。B地区は中央の谷部に向って傾斜するが、その北端に近い場所に10×7mの楕円形の黒土落ち込みがあり、複合住居を推定（10号住）。B地区も土坑が多い。A地区は低い谷状地形に

あたり、比較的浅い土坑のみなので半割→断面実測→完掘の順で進める。近世以降の炭焼遺構が1ヶ所見つかる。E地区は高みの部分から東南斜面にかけて遺構の密集度が高く、黒土の落ち込み以外にローム層との判別が難しい褐色から黄褐色の落ち込みもあり難儀する。

土坑半割作業で土器・石器・石など出る例多く、時に赤く焼けた部分と炭が含まれることもある。土坑132から諸磯C式の有孔土器出土。

- 9月2日 土坑はすでに600基を超える。松本深志高等学校で発掘した1・2号住は確認するが、4・6号住が2号住の東側に重複していることが判明する。土坑のほか集石も多い。トレンチャーに切られた土坑は半割の後でできる限り断面図を取る。遺物の少ない土坑は完掘し、遺物の多いものは残す。B・C地区南端のE地区との境付近の高い平坦地は、深い土坑や焼土の広がりがあるため検出作業進まず。土坑929から縄文後期時が出土しびっくりする。他に同時期の例はほとんど無い。E地区斜面下方に多少土器片の多く出土する黒土部分があり、土器捨場を想定したがあまり広がらず。
- 9月10日 土坑すでに1200を超える。縄文前期末から中期初頭の良好な土器多く、単純とはいえないもののほぼ短期間の遺跡であることが確実となる。全面的に土坑の完掘進むが、中に復元可能な土器を出す例もある。深志高校発掘の1号住居址はほぼ完掘したが多少土坑や周壁に相違がある。
- 9月16日 土坑から炭化クリ、環状の土製耳飾りなど出土。深志高校発掘の7・8号住の位置、ようやく判明し、完掘したがここでもまた形状の違いなど判明する。土坑は1600基を超え発掘まだ半割が半分にもならず。
- 9月25日 昨夜の台風被害わずかですむ。しかし土坑への土砂流入のほか、土坑番号票が強風と雨で紛失したものも多く、それが畔図未完成部分に多かったため、新しく番号付けを行う（これが整理作業で問題点を残す）。土坑の半割、完掘作業が進むなかB地区北辺の100番以下の土坑の清掃に入り、写真撮影を行う。C・D地区北辺に17～20号の4軒の新しい住居址検出。
- 9月28日 連日土坑の調査を重点的に行うが、数が多くまた複雑な切り合い等があるため予定大幅に遅れる。深志高校調査の7・8号住は掘り残し多く、大形土器や黒曜石片の4点集中出土もあるがほぼ完掘する。B地区北辺にある複合住居と考えた黒土の落ち込みは、周壁面の清掃でほぼ大型住居であることが判明し、10号住とする。該期には珍しいので期待高まる。注口土器片が出土した土坑もある。朝日村熊久保遺跡の中期集落にもこういった後期遺構の単独検出例があり、想い出す。
- 10月5日 遺構の多いE地区へ調査の主力が移る。1号住の南側に新しい住居址らしい黒土層の落ち込みや窺らしい部分を検出するが、付近一帯は最も高い部分のため、相当攪乱が下層まで及んでおり確認作業は難航する。当初2号住と考えられた部分は新発見住居址であることがわかり11号住とし、その西南に並ぶ小型の落ち込みも床面から住居址と認定し

12号住とする。このE地区の東南から南西斜面は黒土層が薄く、すぐ下の黄褐色から茶褐色土層とローム層との区分が難しいが、大型のピットや住居址らしい落ち込みも多い。確認のため、幅狭いテストトレンチと半割による作業が続く。

- 10月7日 B～D地区に残された住居址らしい落ち込みもほぼ確認されたので、12号住以下の番号付けをし20号住までとなる。ほぼ完掘したと思われた2・4・6号住や3・5号住などは、その後の再点検で不十分な部分があることが分かる。特に発掘部分の外周から新しい遺構が検出される。2・6号住北壁外に大半が重複した14号住が、また南側少し離れて13号住(後に住居址でないことが判明)が、また3・5号住も土坑の掘り残しなども確認し、一応終了する。土坑の調査に忙殺される。径・深さ1m以上のものや遺物出土量の多い土坑は時間がかかる。1号住南側はやはり攪乱が甚だしくその上土坑も多く、部分的に焼土があったりして住居址とする確証は得られない。灰陶器や土師器が縄文土器と混在す
- 10月14日 調査終盤を迎えるが、1800基以上の土坑が進行を遅らせる。10号住は6区に区分し千鳥型に3区画を掘り始める。堆積土層も余り乱れはなく、遺物出土状態も良いので分層発掘が可能となる。3区画とも周壁や床が明確に検出でき、大型住居であることを再確認する。遺物の出土層は上層から中層に多く、床面近くは少なくなる。調査区ほぼ中央の浅い16号住発掘進むが土器多し。土坑989は深く大きい黒曜石フレークが多い。この付近の土坑に大型で1m以上の深さになるものが多く、日時の関係上半割できず完掘する例が出てくる(後日この一部が方形柱穴列と判明)。
- 10月18日 休日返上で調査日とする。17号住からは黒曜石片多く、石鏃も出土する。10号住の北壁に沿って炭化材が壁に立てかけたように並び焼土も散在する。北東隅に径1mほどにわたり床面より浮いて20～30cmの厚さのあるロームや褐色土層の落ち込みが見つかる。17号住にもある。最近話題の土葺屋根の落下とも考えたが結論せず。E地区斜面西半分も清掃排土作業の結果、土坑や住居址の存在が予測でき、また東半3・5下方にも土器捨場的な部分が検出されたので、重機による傾斜面下方をより広範囲にわたって排土する。その結果、予想どおり住居址や土坑がある。23号住と並んで等高線上に5軒の住居址や大型ピット(時代は後出)が確認できる。一方調査区北辺の26号住など6軒の住居址などもセクションベルトを取り外し完掘へと進む。E地区の中央高地は土坑や焼土跡・集石等が複雑な様相なので後にまわし、住居址調査に全力を注ぐ。
- 10月22日 天候が連日良く作業進む。明日の現場説明のため10号住のプラン確定作業を中心とし、他の土坑・集石・住居址のうち数例づつの清掃作業にあたる。その他の住居址や土坑はそのまま調査を続行する。夕方ようやく見学のための準備終了。
- 10月23日 現場説明会を行う。急遽復元した土器や主要な石器も展示し、10号住や平安の1号住、遺物出土状態を残した18号住、斜面の典型的な住居の3・5号住などと大型土坑や集石などを一巡して解説する。
- 10月29日 途中雨の日もありやや進行遅れるが、土坑・集石の処理が約半分ほど終了。E地区斜面

の住居址は出土遺物少なく、堆積土が黒土でなく黄褐色から褐色乃至赤褐色で掘りにくい、片側の周壁や床面からはほぼプラン確定までに時間はかからない。台地上の各住居址の落ち込み土が黒土であるのに斜面住居の多くが褐色系統なのが注目された。尚これらの住居址の床面近くには青灰色粘土質土が残る場合もある。また周辺の土坑のうち住居址と全く同一土層のものほか、明らかに違うやや黒味を帯びた褐色土層が埋土で中に逆茂木跡のある二種があることが分かる。後者の中に間隔をおいて等高線上に並ぶ大型土坑があり、時期は特定できないが、落し穴の性格を持つものであろう。昼は豚汁会食。一方集石の実測と完掘が進み、数種類の形状の違いがあることがわかる。土坑の完掘作業と実測も順調に進むが、期限内終了は到底無理なので選別して実施する方向へ進む。なお、鶯ヶ沢遺跡の猪土手の調査は少人数でほぼ全体の露出と一部土手の切断による断面図作成と写真・実測で作業は終了する。

- 11月2日 牛壳沢遺跡における重機による表土剥ぎ作業を終了する。少人数で遺構確認調査に入るが、出土遺物が全く隣の女夫山ノ神遺跡と同じで驚く。住居址や土坑もほぼ全面から検出される。
- 11月5日 前日までに全域の清掃を終え空撮。その間、全員隣の牛壳沢遺跡へ移る。住居址3~4軒土坑が20基以上、集石数基が出る。わずかに残された低い円丘にローム層が残り、そこに遺構があるだけで、東から南は旧河川跡のため漆黒の湿った黒土層と、砂利が円丘の緩やかなカーブを画く上に堆積している。黒土層部分は南側一部を除き遺構は無く、砂利層の部分は旧河川跡らしく何度かの土砂流出によって相当下層まで続くらしい。
- 11月6日 女夫山ノ神遺跡の半数を牛壳沢遺跡に充てる。検出した土坑のうち円丘東半の高い部分の半割作業は遺物が少なく、重複も少ないので進行が早い。1号住が南西隅に検出されるが、緩斜面のため西半分の周壁はない。地床炉がほぼ中央にある。また東南隅に2号住とその北側に土坑が取り囲む。ほぼ円形となりプランも確定できる。内に長方形の小堅穴や厚い焼土層の中に土器片を並べた地床炉らしい部分もあり複雑となる。2号住に黒土層の直線的な落ち込みがあったので、当初平安時代住居址を予想したが、溝状遺構とわかる。その線上に間隔を置いて集石1~3が並ぶ。溝の北側がやや高く、低い南側もローム層が平坦なので住居址を想定したが、床面らしい痕跡はなかった。また1号住北の円丘端に同じような傾斜面住居の3号住が検出される。北側にわずか周壁を残すのみだが、しっかりした平坦な床面と痕跡的な地床炉がある。東から南側は緩斜面となり黒土層のある旧河川跡へ続く。北側高み部分に2号住同様に土坑が散在している。
- 11月9日 主力は牛壳沢遺跡へ移動したので、残り全員で掘り残した集石の大半と土坑の最後の確認調査に入る。一方全体測量班が調査終了地域から作業を開始する。牛壳沢遺跡では各住居址や土坑・集石などの遺構調査を継続する。遺物は少ないものやはり女夫山ノ神遺跡と全く同時期と判明し、至近距離のこの遺跡の在り方が話題となる。土坑は大半が径70~80cm前後の円乃至は楕円形だが、深さに多少相違がある。时期的にみても住居址

と同じと見てよい。

- 11月15日 全域の確認調査と清掃後、写真撮影・実測も終了、牛壳沢遺跡の調査を終了する。
- 11月17日 女夫山ノ神遺跡では、前日までに問題の残る土坑をA～E地区に従って再点検し記録を取る。急いだ時期の土坑には掘り残しや遺物の取り残しがあったりして時間がかかる。その間に全体測量も終了し、一応事前調査を終了する。

4. 地理的環境

女夫山ノ神・牛壳沢・鶯ヶ沢遺跡は、塩尻市大字片丘北館井に所在し、塩尻市の東方に南北に延びる片丘丘陵上に位置する。

片丘丘陵は鉢伏山塊（針伏山・高ボッチ山、東山）の西麓斜面に沿って発達した丘陵で、洪積世中頃（約70万年前）に松本盆地南半で起こった南北性の断層運動によって生じた崖錐性堆積物を基盤とする。塩尻市街地東方の小坂田付近から松本市の寿付近まで2km前後の幅を維持して約10kmにわたって延びており、平均勾配は6°と相当急斜面を西に向けている。丘陵上には山麓から流下する群小の河川によって形成された複合扇状地がよく発達しており、その扇端は盆地縁辺の河岸段丘面に接している。これらの諸河川はいずれも塩尻峠に源を発し、丘陵直下を北流している田川にほぼ直角に流れ込んでいる。

女夫山ノ神・牛壳沢・鶯ヶ沢遺跡は、その中の一つである牛壳沢川と松葉沢川によって南側と北側をそれぞれ開削された舌状台地上にある。この台地上にはいくつかの湧水がみられ、この湧水を源とする小川が遺跡付近にもみられるなど水資源の豊富な土地で、西に延びる台地で日当たりも非常に良い。このように遺跡周辺は人々が生活する上において絶好の場といえ、それを裏付けるかのよう周囲には3遺跡以外にも多くの遺跡が立地している。

これらの遺跡が位置している標高は、女夫山ノ神遺跡で約810m、牛壳沢遺跡で約750m、鶯ヶ沢遺跡で約840mを測り、数ある東山山麓の遺跡の中でも高所に位置する遺跡である。

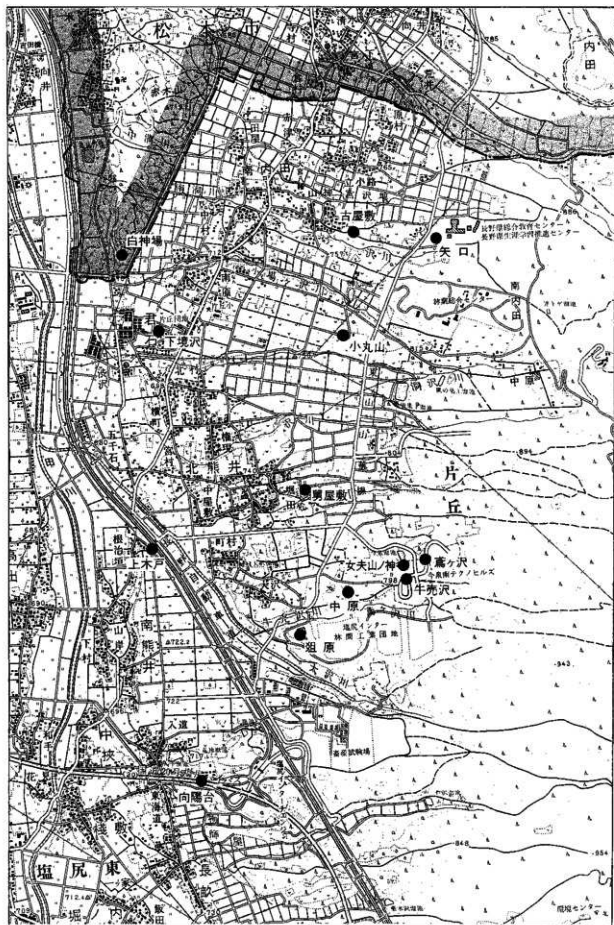
5. 歴史的環境

遺跡が所在している東山山麓一帯は、全国でも有数の遺跡密集地として著名で、今回調査された女夫山ノ神・牛壳沢・鶯ヶ沢遺跡以外にも多くの遺跡が存在し、その時代も外岐にわたって確認されている。以下、周辺に点在する主要な遺跡について触れてみたい。

〔白神場遺跡〕

標高650～695mにある。昭和59年の松本市教育委員会の調査により、縄文時代前期末の竪穴住居址6軒、古墳時代前・中期4軒の竪穴住居址が検出されている。このうち縄文前期末の住居址の時期は、今回調査した女夫山ノ神遺跡と牛壳沢遺跡の時期とほぼ同じであり、台地の平坦部ではなく南に向いた傾斜面に住居址を構築するといった共通の状況を見ることができ、女夫山ノ神遺跡や牛壳沢遺跡の住居構造および集落構造を考える上で、大変参考となる遺跡である。

このほかに松本市内初の発見となった方形周溝墓も3基発見されたが、周囲は削平や攪乱が激し



第1図 周辺遺跡分布図 (S=1:25000)

く、唯一確認された主体部からはガラス小玉や鉄剣といった副葬品は一切出土せず、縄文前期土器や弥生中期土器などが周囲から発見されたが、どれも遺構の時期を決定する資料とはなり得なかった。

〔古屋敷遺跡〕

標高約770mにある。西に緩く傾斜する台地上に位置し、同一台地の上部にあたる東側には縄文前期初頭の集落跡である矢口遺跡が隣接している。平成元年に発掘調査が行われ、縄文時代前期末の竪穴住居址5軒と小竪穴184基が検出されている。本遺跡も今回調査した女夫山ノ神遺跡などと同じく縄文前期末を中心とした遺跡であり、住居址が南向きの緩斜面に作られ、やや平坦部には土坑がみられるという同様の様相を呈した遺跡であり、白神場遺跡とともに当時の集落の姿を示す好例である。

〔矢口遺跡〕

標高790～800mにある。昭和59年と平成5年の2回の調査が行われている。なお昭和59年の調査は「山ノ神」という名称で行われたが、その後の字名調査で「矢口」地籍であることが確認され、遺跡名を現在のように矢口遺跡に変更している。

昭和59年の調査では、土坑41基、集石1基などが検出され、このうち36号土坑からは縄文中期末葉の伏甕が発見され、注目された。平成5年の調査では縄文前期初頭の竪穴住居址が16軒検出されている。これら16軒の住居址は外径50m内に環状に配置され、中央部には土坑が散在する広場が設けられるという縄文時代に特有の環状集落の初源的な姿を知ることができる画期的な発見であった。

〔小丸山遺跡〕

標高770～790mにある。遺跡のすぐ北には溜れることのない豊かな湧水があるなど、立地条件に恵まれ、古くから多くの遺物が採集されている。昭和44年に2度にわたる調査が行われ、縄文中期の竪穴住居址26軒、土坑1基、平安時代の竪穴住居址1軒が発見された。出土遺物は縄文中期中葉～後葉にあたり、大量の土器と共に打製石斧、石鏃などの石器類や土偶や滑石製の垂飾品が発見されている。この土偶の出土状態には特異なものがあり、「平石を土台とし、棒状及び柱状河原石が直立し、その間に土偶を安置したかの如き」状態であったと推察されるものである。このような土偶祭祀のあり方を考えさせるような出土例は珍しく、貴重な資料である。

このように小丸山遺跡は東山山麓でも有数の縄文時代中期の拠点集落として位置付けられ、集落研究の上でも欠くことのできない資料を提供している。

〔男屋敷遺跡〕

標高760～780mにある。昭和39年の松本深志高校、昭和56年の塩尻市教育委員会という2回の発掘調査が行われている。これらの調査により、縄文前期の竪穴住居址8軒、土坑42基、集石1基、平安時代の竪穴住居址7軒が検出された。

縄文時代では前期後半の中越式期、続く神ノ木式期、そして前期前半最後の有尾式期の住居址が確認され、前期後半に入り諸磯a式期、諸磯b式期というように長期間にわたる集落の変遷をたどることができる資料を得ることができた。また、長野・群馬を中心として分布する有尾式土器の一括資料が11号住居址から発見され、該期の土器研究に大きな役割を果たしている。この他にも近畿

地方の土器である北白川下層Ⅰ式土器や東海地方の清水ノ上Ⅱ式土器など、当時の交流を探る絶好の資料も見つかっている。

平安時代では、平地集落に対する山間地集落の典型例として注目され、多くの遺物が残された焼失住居も2軒検出され、この2軒の住居址の在り方の違いは、住居址の廃絶に関する興味深い話題を提供している。

〔上木戸遺跡〕

標高690～700mにある。昭和60年に中央自動車道の建設工事にともない長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われた。この結果、縄文時代では中期中葉～後葉の竪穴住居址28軒、土坑37基、屋外埋甕3基が発見された。これらのうち29号土坑からは5個のヒスイ製垂飾が一括出土した。これは副葬品として墓の中に納められたものと思われるが、このような例は全国的にも稀である。

弥生時代では16軒の後期住居址が検出されているが、これらの住居址は深い溝に囲まれた環濠集落であった可能性が強く、政治的・文化的動向のなかで本遺跡の果たした役割の重要性が認識される。平安時代の住居址は1軒しか確認することができなかった。

〔中原遺跡〕

標高760～780mにある。女夫山ノ神遺跡と同一の台地の下方に位置しており、昭和40・50年の2回は松本深志高校の手により発掘が行われ、昭和61年は塩尻市教育委員会により発掘調査が実施された。昭和40年の調査では縄文中期中葉～後葉の竪穴住居址4軒と、それに伴う縄文前・中期の土器や石器が発見されている。昭和50年には縄文前期中葉の関山式期の竪穴住居址と平安時代の住居址が検出された。また昭和61年の調査では土坑7基とともに縄文前期～晩期の土器や弥生・平安時代の土器など、多種多様な遺物が出土している。いずれにしても本遺跡が縄文時代を中心とした拠点集落であることは間違いなく、今後の調査によりその性格が一層明らかになるであろう。

〔狙原遺跡〕

標高750～760mにある。昭和53～55年度に松本深志高校地歴会による調査が行われ、昭和60年度には塩尻市教育委員会により大規模な発掘調査が行われている。この結果、縄文時代中期の竪穴住居址147軒、土坑169基、平安時代の住居址19軒が検出されるという、大きな成果を収めている。特に縄文時代では縄文中期の初頭から末葉までの住居址がほぼ継続的に検出され、集落の成立から衰退までを捉えることができる全国でも屈指の遺跡と注目されている。

平安時代の集落としても本遺跡の重要性は高く、10世紀前半から11世紀中葉にかけての集落の変遷がたどれ、田川流域に栄えた吉田川西遺跡や吉田向井遺跡などの平地型の大集落に対する山棲みの集落の典型として捉えることができる。また、14号住居址から出土した敲打器・砧・台石のセットは山間地に立地する遺跡の生業的側面を窺い知ることができる資料として注目されている。

〔向陽台遺跡〕

標高715～730mにある。昭和60・61年に調査が行われ、縄文早期4軒・前期4軒・弥生後期6軒の住居址が発見された。縄文早・前期では縄文集落初期および前期中半の集落の様相を捉えることができる。また、弥生後期では方形周溝墓が台地の最高所に築かれ、弥生人の居住域と墓域の考えの

一端をうかがい知ることができる。

平安時代に関しても18軒の住居址とともに、鋤先・刀子・鏃・鎌などの鉄器が多く出土し、墨書土器も他の遺跡と比較しても多くみられるなど、田川上流域の拠点集落であった可能性が強い。

(小松 学)

II 女夫山ノ神遺跡

1. 調査の概要

女夫山ノ神遺跡は、塩尻から松本に向かって南北に走る東山山麓線から500mほど西側に上った標高約810mの舌状台地上に位置している。遺跡の立地している場所は周囲と較べやや高く、土地も石などをあまり含まないという農業に適した環境にあり、長芋作りなどが盛んに行われていたようである。それに対し、女夫山ノ神遺跡の範囲外の場所は礫などが多量に混じる土地で、決して優良な土地とは言えず、わずかな距離の違いにも拘らず大きな格差をもっていることに驚かされる。この土地の状況の違いは、付近に湧水や小河川があり、これらが氾濫して上部から土砂を運んできたために起こったと考えられ、遺跡の立地している場所は高台であったため、それらの影響が及ばなかったであろう。

今回の調査では遺跡が位置する台地をほとんど全域調査することができ、集落のほぼ全容を明らかにすることができ、集落研究の上でも貴重な資料を提供することになった。調査は表土及び耕作土を重機により取り除き、その後人力による調査を開始した。調査にあたっては調査区に10m間隔に杭を打ち、グリットを設定した。またグリットとは別に、遺跡内の地形をもとに便宜的にA～Eの5地区を設定した。

調査の結果、縄文時代では前期末～中期初頭住居址25軒、中期後葉住居址1軒、方形柱穴列1棟、土坑などが検出され、また平安時代の住居址1軒が検出されている。

特に縄文前期末を中心とした住居址の調査では、平坦な場所に住居をあまり造らず、傾斜地にわざわざ住居を造るという該期特有ともいえる集落構造を明らかにするなど、大きな成果が得られた。またこの住居址の中には、長径10mもの大型住居も含まれており、今後、住居址の用途などもあわせて検討していく必要がある。

平安時代では1軒の住居址が発見されているが、これは田川流域に発達した大集落とは対照的に、山棲みの集落として捉えられ、発見された軒数は少ないものの注目すべき調査結果といえよう。

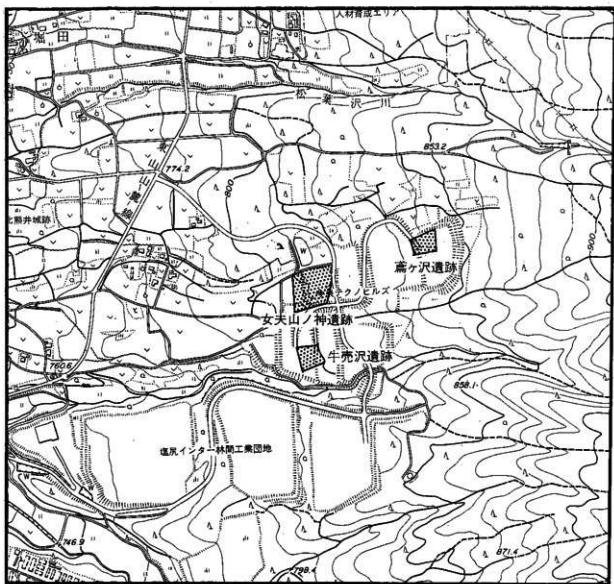
2. 遺構と遺物

[1] 遺 構

(1) 住 居 址

女夫山ノ神遺跡では27軒の住居址を調査したが、平安時代が1軒あるのみで、残りはすべて前期末～中期初頭に属する。このうち1～8号住居址は、1970年代に3年(3次)にわたり松本深志高校地歴会が発掘調査し、報告書が刊行されている。入手困難な報告書⁽¹⁾なので、その概要を抄録として別に収録した。期間も短く高校生の調査のため現在から見ると十分とは言えず、今回の調査はその確認からはじめ、周辺へと調査域を広げて行った。よって1～8号住居は深志高校の所見をふまえ、今回調査結果と対比しながら記述していく。なお住居址計測値の()内は深志高校のもの。

また、石器は今回調査分を最後に()内に記入した。



第2図 調査区域図

① 第1号住居址

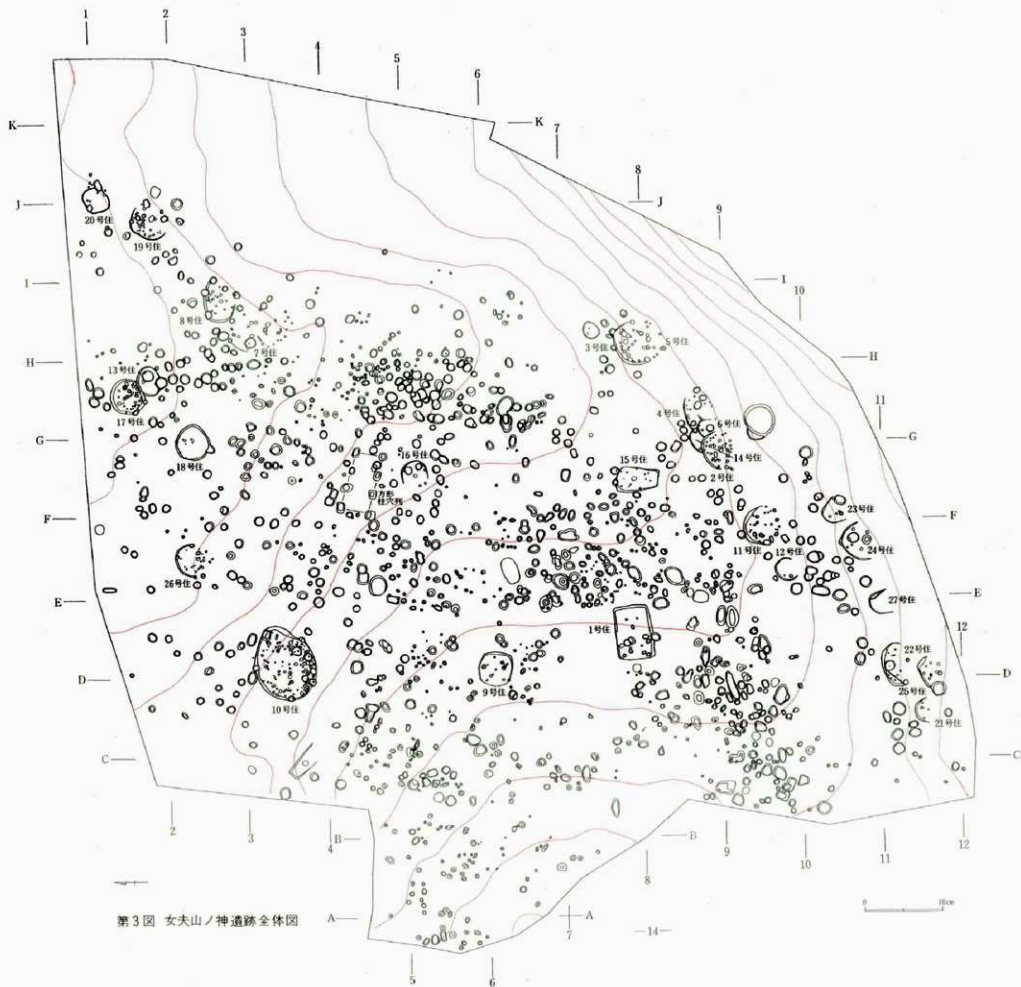
位置：B地区の南端、E地区との境付近にある。台地背景部のやや平坦部で単独に検出された。
 形状：東西6.9m×南北4.7m(6.6×4.4m)の長方形だが東壁がやや狭い。最も耕作による攪乱の激しい一帯であることと傾斜地のため東半部のみに周壁が確認されたが、西半部は痕跡的であった。壁高は30~10m(53~11cm)を測る。深志高校の測定値は黒土層からのものであろう。周壁は幅10~20cm、深さ3~5cm前後で浅く、東壁下は全局し、南・北壁下はその東半のみ連結するが、西半部はない。

覆土：既掘住居址なので特に層序などに特記事項はなく、以下8号住までは省略する。

柱穴：P1~P4がその配置からみて主柱穴であろう。他に柱穴らしいピットはない。

床面：比較的平坦で、中央部分に硬化面がわずかに残るが、周壁周辺は柔らかくなる。

竈：北西コーナーにあった石組竈としてよい。既掘時にすでに破壊されており、炉石や焼土が



前面に散在していた。炉石にしてはやや小さすぎる小礫約30個が床面よりやや浮いて出土し、その前面に小範囲の焼土痕があった。今回の調査では同じ部分に相当広範囲(70×50cm)に焼土が床面上から検出されている。竈周辺から土師器・灰釉陶器が出土している。なお既掘時にはP12・P13周辺の2つの焼土からこれを炉石として複合住居説を展開しているが、間違いで、P12・P13は縄文期土坑であろう。

貯蔵穴：埋土からみて南西隅のP7・P8や竈前面にあるP5などが可能性があるが、やや小さすぎ確定できない。これも含めて住居地の残りのピットP5・P6・P9～P11はほとんど、縄文期の土坑であろう。なお既掘時のP5～P9は今回検出できなかった。

遺物：既掘時に皿(坏)7点を含む約80片の土師器と、黒色土器20片、灰釉陶器13片が竈前面と東壁中央に接して出土している。なお、P3南に木炭片、P7・P8のある南西隅の2箇所から鉄滓が検出されており、ドングリの炭化物が出土したとあるが地点は記されていない。今回の調査では灰釉器片がわずかに出土しただけである。

時期：出土土器から松本平第六様式期としてよい。

② 第2号住居址

位置：E地区のほぼ中央、谷側に南面した緩斜面上にある。

形状：約北半分の周壁のみ残る(斜面住居)である。東西4.9m×南北推定4.0m(7.1×5.4m)強の楕円形プランと考えたい。しかし、こうした周壁が半分しか残っていない斜面住居は、円や楕円といったプランを想定してよいかどうか、やや疑問が残る。柱穴、床面などから推定してカマボコ形を考慮する必要がある。今回は他遺跡例を十分検討していないので、ここではその点はあまり触れないまま進めたい。壁高は北壁の最大45cm(55cm)から順次高さを減じ、南半部は床面のみとなる。14・6住の東側を切っている。

柱穴：今回の調査で既掘時より倍以上の約40本のピットが住居内から検出されたが、形状や深さも不揃いで主柱穴の確定が難しい。強いて想定すれば北側周壁の内側に並ぶP1～P6～P9など9本やそれ以上が充てられよう。しかし、この多数のピットを考えると拡張か建替えも検討要素とせねばならない。ただ周壁のない南から西側に逆L字状に並ぶほぼ同程度のP32・P1などは、この種(斜面住居)の上屋構造を推定するときに、何らかの意味を持つかも知れない。今後の検討課題としたい。

炉：既掘時には、ほぼ中心に東西に並ぶ二つの焼土址があり、東側には礫2点があり炉石としていた。今回の調査では東側のみ径50cmにわたる地床炉が検出され、炉石らしい1点が近接するピットに落ち込んでいた。西側の焼土は削られたのかは確定できなかった。既掘時には2箇所(章中には4箇所とあるが図上には無い)の焼土と近くのピット2基を炉石として捉え複合(拡張)住居を想定している。確かにピットの多きなどを勘案すれば、その考察もあながち間違いでないであろう。

床面：北側はやや高く、緩やかに傾斜しながら中央付近から平坦となる。既掘のため硬化面はあ

まりない。なお今回の調査では、ほとんど礫や河原石はなかったが、既掘時には北壁中央部(P3・P9付近)と東壁中央(P5・P6付近)の2箇所には大小の礫が散在している。床面上かどうか不明だが調査終了後、取り上げられたのだろう。

遺物：縄文前期末の小形深鉢2点が北壁中央部から既掘時に出土し、同時期から中期初頭に及ぶ約360片の土器、石鏃3、打製石斧4、石匙2、凹石・磨石各1点が既掘時に出土している。(今回は石鏃・石錐・磨石・石皿・砥石・珧状耳飾各1点、打製石斧8、大型刃器4、小型刃器10点が出土)

時期：縄文前期末～中期初頭

③ 第3号住居址

位置：E地区の東端、2号址の北東約10mにあり、同じ緩斜面上部にある。傾斜下面東側に縄文中期中葉の第5号址に切られ重複する。

形状：本址もまた北半分のみ周壁が残る斜面住居である。東西5.8m、南北推定5.5m(6.4×4.2m)の円形を想定したい。南側がもう少し広がると楕円形または隅丸方形的なプランも考えられ、相当大きな住居になる。

柱穴：既掘時とほぼ同程度度だが新しく検出したものがある。10cm以下の浅いものは少なく、30～50cmと比較的深い例が多く、支柱穴の断定は難しい。周壁際に並ぶP1・P4・P6・P9・P10・P11・P13にP23・P25を加え一周させる支柱穴とするが、建替え拡張を考えると、P6からP15・P19・P21・P22など内側に円形に並ぶものをとるか、実にいくつかの想定ができそうである。中期住居址の5号址との関連を考えると、その認定は難しい。

炉：やや中心より南西に寄ったP25上にあるF1(65×40cm)が本址に伴う地床炉であろう。中央がわずかに凹んで焼けている。5住の石囲炉に接したF2は焼土が薄くあっただけであるが、5号址に伴うものであろう。既掘時に地床炉の指定はないが、P25の上部に焼土があると報告している。

床面：5号址が南半分につくられたが、床面はほぼ同一面を使用したらしく段差がない。既掘時にはP25とP19の間に段差があるようになっているが、今回は確認できなかった。北壁から緩く傾斜しながら中心部へ向かい、ほぼ平坦な点は2号址と同じである。既掘のため硬化した床面などは無かった。北壁外に接してSK1764などがあるが、住居内にあるP1・P4・P13～P15、P19・P23など比較的大形のピットは本址に伴う貯蔵穴とも考えられるが、一般的な土坑の可能性も強い。

遺物：縄文前期末の有孔浅鉢と筒形鏝付土器が各1点と、中期初頭までの土器片約400片、打製石斧17、凹石3、石匙3、石鏃2、黒曜石約100片、珧状耳飾片1のほか、石包丁1点が既掘時に出土している。(今回は出土せず)

時期：縄文前期末～中期初頭

④ 第4号住居址

位置：E地区中央部、2号址の東にあり、両者間に6・14号住が入る。

形状：わずか下方に湾曲する4mほどの北壁のみが検出されただけで全容はわからない。北壁から推定すれば少なくとも長径(東西)5m以上、短径(南北)3.5~4mの楕形プランを想定できる。

柱穴：北壁寄りに並ぶ径・深さとも20~40cmのP1~P8と14住と関係するかも知れないP20及び中央地床炉北のP9~P11など小ぶりのピットが柱穴群としてあげられよう。一方推定南半側を入れるとP13~P16などを加えてもよいが、床面の傾斜を考えると主柱穴に加えることは難しい。なお既掘時には大形のP21の東に3連結のピットが報告されているが、今回は検出できなかった。

炉：中央やや西寄りにあるF1(40×30)が地床炉であろう。既掘時にはほぼ中心にある大形ピットP17中にある焼土からここを炉址としているが、ピットに貼床などは無く、大形ピット内の焼土としてよいであろう。

床面：住居内にある大形ピットP17~P19・P25などは土坑であろう。既掘のため硬化面は僅かに残るだけだがほぼ平坦である。しかし、傾斜があり住み心地はよくない。既掘時のピットなどの形状に多少の違いが目立つ。

遺物：既掘時にはピットの中から前期末~中期初頭土器の大破片と、6号址と一緒に同時期の土器片約200点、打製石斧10点、石匙1点、石錐1点、黒曜石片76点が出土している。(今回は小型刃器2点)

時期：縄文前期末~中期初頭

⑤ 第5号住居址

位置：E地区の東端、3号址の南半に重複している。

形状：3号住南東に重複して作られたが、周壁はすべて検出できず黒土層中に構築されたものであろう。そのため斜面住居かどうかは不明である。ただ石囲炉や柱穴の位置から想定して径約4.5~5m(4×5m)の円形プランであろう。

柱穴：石囲炉を囲むようなP22(P23)・P25(P34)・P29(P28)・P30・P32(P33)などを主柱穴としたいが、その配置に問題もある。P26・P27も含まれるか。斜面という制約からくるのかも知れない。P23・P25・P29は土坑の可能性もある。

炉：ほぼ中心に石囲炉(65×55cm)がある。既掘時には10個以上の炉石が整然と並んでいたが、今回の調査では北半分の4個のみであった。炉底部はわずかに焼けていた。

床面：3号址との段差はほとんどない。3号址がやや緩い傾斜なのに対し、本址は平坦である。床面は硬くないが比較的検出は容易であった。既掘時に較べやや南東部へ拡張したのでピットなどが新しく検出できた。中期住居なら多い周溝らしい痕跡は確認できなかった。

遺物：既掘時に小形有孔鈎付土器やわずかに曾利式土器が出土している。石器は3号住との区別

をつけ難い石鏃4点、石錐1点が床面から出土しており、他に打製石斧、凹石、磨石、石匙、黒曜石刻片など約180点がある。(今回は石鏃・打製石斧・石匙・石錐各1点と小型刃器32点が出土)

時期：縄文中期後葉

⑥ 第6号住居址

位置：東西4号・2号、北に14号住が重複する。既掘のためその切り合い関係は確認できなかった。

形状：既掘時には北半部の2つの周壁がやや直線的に検出され、方形プランとされたが、今回の調査では北東半部の周壁が円形に現われた。床面からみると北側の14号住と東側の4号住を切り、西側が2号住に切られている。南北推定2.5～2.7m、東西2.3～2.5m前後の円か、寸の短い楕円形になるらしい小形の斜面住居である。壁高は北側の深い部分で垂直に約40cmを測るが、下方になるに従い高さを減じ10cm前後となる。

柱穴：P1・P2しかないが、重複する14・4住のプランを考えるとすぐには確定できない。P3は本址に伴わない土坑であろう。

炉：既掘時にもまた今回も地床炉的な焼土など、検出できなかった。

床面：ほとんど平坦で、しっかりと確認できた炉・柱穴などは無かったが、この点から住居址と判断した。埋土の確認はできなかったが、時期を異にするピットも含まれている。

遺物：2・4号住と一緒にしたが、ほとんど出土遺物はない。(今回は打製石斧2、小型刃器32、石匙・石錐各1点が出土)

時期：住居の切り合い関係から前期末～中期初頭期としたい。

⑦ 第7号住居址

位置：C地区北辺の高い部分にあり、北東1.5mに8号址が並ぶ。

形状：既掘時には北壁の一部が表現されているが、どうも未掘部分らしくプランの決定ができていないとしている。今回の調査でも耕作による削平のためか殆んど周壁は残っていなかった。しかし、床面の広がりや柱穴及び地床炉から推定して径5～6mの円ないしは楕円形を想定したいが、柱穴配置からみると建替えや拡張案がより妥当性がある。

柱穴：既掘時より増加している。まず北側地床炉F1を中心とするP1～P7のやや大きめのピット7本を主柱穴と考えたが、その配置はやや規則的でなくその上これらのピットはその大きさから土坑とも考えられて難色点もある。一方南側の地床炉F2から推測すれば、南側に並ぶP15～P20などと西側に並ぶP6・P10～P12を含めた楕円形プランに伴う柱穴も推定できるが難しい。

炉：2箇所之地床炉が検出された。F1・F2とも100×80cm以上でやや大きい。床面をわずかに凹めて焼土が検出される。

床面：あまり明確ではなかった。北側からわずかに傾斜するが、ほぼ前面は平坦である。F1横の

大形P22は明らかに土坑であり、P5・P21などもその疑いがある。既掘時には小児頭大の礫が10個前後床面に散在していたが、今回は検出されなかった。

遺物：既掘時の調査で前期末～中期初頭土器片があるが、数値は不明である。ただ中期初頭の底部を欠くほぼ完形の土器があり、破片も中期初頭が多い。石器は打製石斧が多く完形26点、破片39点あるほか石鏃1点、石錐3点、磨石3点、凹石1点がある。(今回は小型刃器6、敲石1点出土)

時期：縄文時代前期末も混じるが、中期初頭としてよいだろう。

⑧ 第8号住居址

位置：7号址同様C地区北辺の高い部分にあり、7号址の北東に近接する。

形状：既掘時には時間がなく充分掘りきれなかったらしいが、今回はほぼ完掘できた。東壁を除く周壁がほぼ判明し、既掘時よりやや大きくなり東西5.2m、南北4.1mの楕円形としたい。不明の東壁側は耕作による削平が及んでいた。住居内及び周壁に大形土坑P18～P22がある。

柱穴：本址もまた支柱穴確定が難しい。地床炉を中心にほぼ円形にめぐるP1(P2)・P3・P4・P5(P16)・P6・P7(P17)・P8(P9)など7～8本を考えたい。

炉：ほぼ中央部に径40～50cmのF1・F2の2つが並ぶ。既掘時にはこれを含め、一帯に焼土が長方形に散在していたという。わずかに床面を凹めただけである。

床面：北から南にわずかに傾斜し、一方東から西へも下がっており、中心部が多少低くなる。既掘のためか検出が難しかったが、ほぼ平坦である。既掘時には大小20個以上の礫が西半部に散在していたが、すべて取り除かれていた。

遺物：前期末～中期初頭の土器片があるが7号住より少ない。石器は7号址同様打製石斧類が多く12点、石鏃・石匙・磨石が各1点と凹石2点、その他黒曜石片150点などが出土している。(今回は小型刃器8点出土)

時期：7号址よりは多少時期が先行する縄文前期末に当たるのではないかと。

⑨ 第9号住居址

位置：B地区のほぼ中央、緩斜面の一番低い部分で北に10号、南に1号址がある。

埋土：ほとんどがローム粒が少なく炭化物をやや多く含む第1層の暗褐色土層である。周壁に沿ってロームブロックを多く含む第2層の黄褐色土層があり、南半にやや多い。第1層と同色だがローム粒を一段と多く含む第3層が床面上にブロック状に散在してみられた。

形状：東から西に緩く傾斜する部分なので、東壁は17～21cm前後の高さをもつ周壁が残るが、西半は次第に高さを減じ、西南隅のみ周壁がなくなる。斜面住居の一種としてよいであろう。東西4.35×南北4.3mの緩い角をもつ不整形である。

柱穴：5角形に並ぶP1～P5が支柱穴であろう。約1.7～1.8m間隔でその配置もよい。P6～P15な

ど柱穴的なものもあるが、補助的でもなく拡張の想定は難しい。

炉：ほぼ中央に小規模な地床炉(24×16cm)が残る。

床面：ほぼ平坦で特に地床炉周辺は硬い床面だった。P7～P10やP14など大形ピットや南西壁に重なるP15も本址と関係ない土坑の可能性が高い。

遺物：縄文前期末～中期初頭の土器片のほか、石鎌3、小型刃器23、石匙1と少ない。

時期：縄文前期末

⑩ 第10号住居址

位置：B地区の北側、やや高みの部分にある。北から南へ向う緩斜面にあり、遺跡全面を展望できる好位置にある。表土除去後に黒土の落ち込みが明瞭で、その大きさからはじめは複合住居を想定していたが、単独の大形住居と判明した。

埋土：第5層まで分層できた。第1・2層は他住居址とほぼ同じである。第1層は炭化物・ローム粒をわずかに含む黒褐色土層。第2層は、炭化物はわずかだがローム粒がやや多くなり色調もやや黒色が強くなる暗褐色土層で、1・2層の区別の難しい部分もあった。第3層は明瞭に区分ができる多少の炭化物や黒色土が混じるやや固い明(黄)褐色土層。次ぎの第4層がやや黒黒味を増すがロームブロックが混じる同系統の明褐色土層である。第5層は周壁際にある崩壊したローム層で柔かく周壁との判別は容易であった。大形住居のため、第1～4層については、多少分別困難な箇所もあったが、6分割した各セクションの分析でほぼ以上の層序を確認できた。第5層は上記の如く周壁周辺のみで、無い部分も多い。第4層は住居址東半部のみ周壁側に厚く堆積し、中央部の床面まで延びている。本址の大半は第1～3層で、床面につく第3層が最も多く、第2層はやや薄く、住居全面には及ばずほぼ中央部から西半分認められた。検出面となった第1層はほぼ住居全面を覆っている。

なお、第1～4層の中で特に集中した部分は1・2に過ぎないが、全層が人頭大・拳大の礫が100点以上出土している。焼けた例などなかったが、自然流入で埋没したとしてよいか、今後類例を待ちたい。また床面上以外に第1～3層中に焼土の多少厚みと広がりを持った部分があった。

形状：多少東壁側に形の整わない部分はあるが、長径(東西)9.7m、短径(南北)7.7mの床面積70㎡前後ある楕円形の大形住居といえる。傾斜の高い北～東側の周壁は75～60cm前後の壁高をもつが、垂直にならずやや斜めの部分もある。西～南側は30～20cm前後でしっかりした垂直に近い周壁がめぐる。なお、現場でも相当検討したが、東壁の形状から拡張との想定も結論に至らなかった。後述するごとくP13付近に黒曜石破片が多く、工房址の様相が認められた点も考慮したいが、ピットが多く拡張の根拠が得られなかった。

柱穴：住居内のピットは周壁にかかる分も含め大小あわせて約100基ある。そのすでてに柱痕らしい痕跡は認められず、大形ピットも含めてその埋土は住居址と同一で、住居構築前後の土坑として区分できるものはない。この多数のピットから支柱穴を想定することは非常に

困難であるが、他住居例を参照に考えてみたい。

まず周壁から0.5~1.0m離れた深さ50cm以上のピットを選ぶと、まだ他に深く形もふさふさしいピットはあるがP1~P11本がある。間隔は最大2.5m、最短1.5mとなる。これに棟持柱としてP1・P12・P13・P14あるいはP6を想定したい。しかし、これだけの大形住居なので相当補助柱穴も必要と考え、深さ50cm以上のピットを上屋構造と、どう結びつけるか難しい。今後の検討課題としたい。

なお、本址全体のピットをみると、傾斜の低い南側が北側に比べて集中する傾向がある。重複する例は以外と少なく、北側も含めて10cm以下の深さのピットは少なく、30cm前後が大半を占める。また径0.7~1.0m前後の大形ピットも南側に多い。これはP14内から大蔵山式土器の大破片が検出されたのみで、特別な遺物は出土していない。なお1点気にかかるのは、周壁にかかってほぼ等間隔にこの大形ピットP21・P14・P45・P49・P78が、並ぶ点である。大形住居を支える何らかの遺構とすべきか、単なる土坑とすべきか今後検討したいが、一応大形の土坑として抽出しておく。

炉：住居址のほぼ中央部東西に7箇所の地床炉らしい焼土があった。径50~20cmの範囲で大小はあるが、重複するものはない。10cm前後床面を掘り凹めたものから、わずかに床面が焼けて焼土が残る2種がある。長軸に一列に整然とは並ばないが、F1~F5があり、それに対してほぼ中央でF6・F7が両側に並ぶ構図となる。

床面：住居址中央部は比較的良好に固められた床面が全面的に検出された。緩斜面のため北側から南側にかけてわずかに傾斜しているが、さほど苦にならない平坦さを保っていた。周壁とその内側に並ぶピット群の間は中央部に較べると固さはないが検出は容易にできた。

本址で特記すべき点が3つある。1点目は北壁の中央から西側にかけて、周壁の中間から底面にかけて炭化材がよく残っていたことである。周壁に板材をたてかけた状態で、断続的な部分もあるが4mほど続いていた。わけても床面と周壁下部の接点付近が厚く残っていた。周壁が一番高い部分なので崩れるのを防ぐための板材であったのだろう。2点目は北東隅の第1層の下部にロームブロックが2m×0.8mほどの広さで残っていたことである。周壁側が30~40cmで厚く、住居址中央へ向って薄くなる。一部住居址中央部に離れて小規模のロームブロックがあった。同様な例は他の住居址にも認められたが、下部に第3層があり土屋根などの落下でない点はほぼ間違いない。埋まりかかった住居址へ近くのピットを掘ったローム層を投げ込んだものかも知れない。中から遺物は出土しない。3点目は大形ピットであるP13を含むその前面の第3層下層中に、台石のようなものや黒曜石の小片が集中して出土したことである。床面上にも及んでおり、中に石鏃3点と炭化したクルミ片があり、その位置から工房的な部分とも考えられる。

遺物：遺物の出土状態について先に触れておく。大形住居のため出土遺物は多い。本遺跡では唯一深い包含層があったので、全体を6区に区分して、はじめに千鳥型に3区画を調査しその層位的観察をもとに残る3区画へ調査を広げ、最後に完掘した。全体的にみると東側よ

り西側の方が遺物量は多く、やはり中央付近が一番濃密であった。第1層からは少なく、第2・3層が大半を占める。床面密着やピット内からの土器もある。レンズ状堆積の2・3層を厳密に分層したが、後述するように明瞭な土器の区分はできなかった。

石器では、石鏃11、打製石斧9、大型刃器3、小型刃器60、石錐2、磨石・敲石・磨製石斧・石皿各1点が出土している。

時期：縄文時代前期末～中期初頭

⑪ 第11号住居址

位置：E地区のほぼ中央、一番高い部分にある。東側に2号住、西側に12号住が列状に並ぶ。

埋土：9・12号住と変わらず特記事項はない。～35cmの高さで、東壁端で14cm、西壁端で6cmとなる。

形状：北半分の周壁が残る斜面住居である。地床炉・柱穴などから、東西5.2m、南北5.1mほどの円形となろう。一番高い北壁が約30～35cmの高さで、東壁端で14cm、西壁端で6cmとなる。

柱穴：柱穴らしいピットの中から強いて主柱穴を求めるとP1・P2(P17)・P3・P4(P21)・P5・P6(P25)の6本だけは周壁に沿って求められるが、南側の床面のみの部分が見つめない。P7を棟持柱とするが、貯蔵穴的な大きさのP8・P9・P11と柱穴的なP10を加えるが決め難い。以上のピットはほぼ深さ30cm以上ある。別にやや太い径40cm前後で30～25cmの深さをもつ一群を取り出すと、やや壁から離れたP16・P18(P19)・P22・P23・P9・P11なども考えられる。斜面住居の上屋構造をどう考えるかによって柱穴の位置も変わるだろう。課題としたい。

炉：ほぼ住居中心部に径50cmの浅い地床炉がある。

床面：北から南にわずかに傾斜しているが、ほぼ平坦としてよい。中央部がやや硬いが周辺部には、あまり硬いところはない。北西壁から床面にかけて人頭大の礫3個、東壁側のP15と14の間に台石ようの石が床面に据え置かれていた。特に後者では付近から黒曜石のチップが多く出土した点で注目される。なお西壁に接したピットには、浅いが大きい礫が10数個投げ込まれていた。本址とは無関係のものであろう。

遺物：縄文前期末の土器のほか、石器では石鏃2、打製石斧3、小型刃器6が出土している。

時期：縄文前期末

⑫ 第12号住居址

位置：B地区のほぼ中央緩斜面にあり、11住の南西に接するようにある。

埋土：黒土層の落ち込みはなく、炭化物をわずかに含む褐色土層が全面にある。北・南壁側にローム粒を多く含む黄褐色土層が床面上にブロック的ではあるが、特に南側のそれは部分的なため、周壁として積み上げられたものという判断はできなかった。なお北壁には崩落したらしいロームブロックが認められた。

形状：緩斜面につくられた小形斜面住居で南側のみ周壁がない。東西約3.0m、南北2.9m程度の円形であろう。周壁は高さのある北側で30cm前後、東西壁の端で10cm前後で消えている。

比較的傾斜も直に近く検出は容易であった。

柱 穴：東壁側にP1・P2の2個があるのみ。P2は貼床らしい痕跡は認められないが、埋土からみて土坑であろう。

炉：中心部床上10cm程にわずかな焼土が認められたが地床炉とは言い難い。

床 面：比較的平らで硬く、しっかりしている。

遺 物：縄文前期末の土器少量と石器は小型刃器1点のみであった。

時 期：縄文前期末

⑬ 第13号住居址

位 置：C地区北辺の高いところにあり、17住と南接する。

形 状：北東壁のごく一部を17住に切られているが、東西3.75m、南北3.1mの楕円形を呈する小形住居である。やや平坦なので周壁は全周するが、北壁側の24cm前後の壁高から南側の5cm前後とやや低くなる。住居内に2つの大きな土坑が重複している。

柱 穴：柱穴的なのはP1～P4だけで、P1・P4は住居内、P3・P2は壁中にあり、その配置は不規則である。この程度の柱穴だけで上屋を支えられたのだろうか。

炉：住居中央やや北側に寄って径40cm前後の地床炉がある。

床 面：ほぼ平坦であるが、ローム層と褐色土層の明瞭な区分ができず、硬さもない。住居内と南壁にかかり1100・1176号の大形の土坑があるが、本址とは関係ないだろう。

遺 物：縄文前期の土器と石器では打製石斧・磨石・石皿各1点、小型刃器3、石錐2が出土している。

時 期：縄文前期末

⑭ 第14号住居址

位 置：既掘時には調査範囲外にあったE地区中央部にあり、2・6・4号住と重複し北半部のみしか検出されなかった。

形 状：北側3分の1程度の周壁しかないが、推定径2.5m前後の小形斜面住居であろう。北側周壁は36～20cmとしっかり検出できた。床面は南西を2号、南東部を6号に切られ、東部は4号住に接している。

柱 穴：北西壁寄りのP1しかないが、2・6号住の中から拾うと4～5本となる可能性もある。しかし小形住居については柱穴がないものもあり、無理に確定しない。P2は土坑であろう。

炉：未検出である。あるいはその位置からみて、切られた部分にあったかも知れない。

床 面：北から南へ緩く傾斜しているが、ほぼ平坦である。

遺 物：縄文前期末の遺物が出土している。石器は小型刃器2点のみ。

時 期：縄文前期末

⑮ 第15号住居址

位 置：C地区南端、一番平坦な部分に単独で検出された。

埋土：住居全面に落ち込んだ黒土層は厳密には2層に区分できる。最上層にあたる第1層は炭化物・ローム粒をわずかに含むやや柔らかな黒褐色土で、住居中央では床面からレンズ状に堆積している。次はローム粒がやや多く目立ち、炭化物は少ない暗褐色の第2層が住居址周壁部にあり床面を覆っている。なお床面直上の第1層の中にロームブロックが散在している。こうした1・2層の堆積が大半の住居址のあり方で、一見第1・2層の区分が難しいところもある。

形状：耕作土が浅く4本のトレンチャーや耕作による攪乱もあったが、墨土層の落ち込みが明瞭でほぼ全容が判明した。南北約5.3m、東西北側で3.2m、南側で2.1mの不整長方形を呈する。今回の調査では唯一の形状である。壁高は南側で最大18cm、北側に行くに従い高さを減じるが、周壁自体は北側を除きしっかり検出できた。

柱穴：北側にかかる大形の60I・603号土坑を除くと、住居址内には14基のピットが重複することなく散在している。深さ40cm以上のP1～P7とやや浅いP8を主柱穴とする8本柱か、深いP11・P12をP4・P5と換えた8本柱としてもよいが、確定は難しい。P9やP5(P12)、などを棟持柱とする想定もできる。また南側を拡張としてP12・P11やP13をあてる考えもある。なお、P14は時間がなく未掘に終わったが、もっと大きくなり土坑とすべきかも知れない。

炉：ほぼ中央に65×55cmの範囲に浅く掘り凹めた地床炉がある。床はよく焼けていた。

床面：余り硬くなく、平坦ではあるが浅い凹凸が目立つ。一部耕作による攪乱が及んでいたためであろう。

遺物：縄文前期末～中期初頭の遺物が出土している。石鏃1と小型刃器7、珠状耳飾1点。

時期：縄文前期末～中期初頭

⑮ 第16号住居址

位置：調査域のほぼ中央、C地区方形柱穴列の南に接している。

埋土：15号住とほぼ同じ土層と堆積を示すが、炭化物が少なくローム粒をやや多く含む褐色土層とした第3層が周壁側に床面まである点が異なる。ローム層を掘り込めず周壁が低かったり、無い南半部などに多少土堤状に積み上げた土が崩壊した結果かどうか判断は難しい。

形状：南側に緩くやや傾斜する一帯のため、南壁のみは検出できなかったが、他は確定できた。東西3.3m、南北推定3.6m前後のP3・P4を柱穴に含めた楕円形としてよいだろう。斜面住居としてよいだろう。周壁は南側の25cmは垂直だが、北壁の18cmは斜めとなる。しかし、全体的に比較的良好に検出できた。

柱穴：北壁際に大形土坑のP5・P6があり、主柱穴が壊されたかも知れないが、住居内にはP1～P4の4本しかなく、他に較べると少ない。P3・P4を入口部としても幅がやや狭い。

炉：ほぼ中央に50×40cmの浅く凹んだよく焼けた地床炉がある。

床面：耕作による一部攪乱があって凹凸があり、平坦であるがあまり硬くない。P5・P6は、埋土よりみて住居址より後の土坑である。なお、埋土上層に焼土が処々に出土した。

遺物：床面近くに土器がやや多い。沈線文が主体となる。打製石斧・小型刃器各1と大型刃器2点。
時期：縄文前期末

⑰ 第17号住居址

位置：C地区北端の道路に近い高位置にある。南東に13号住と重複する。
埋土：全体的に黒色土層を基本とするが、10号址と同様に中間層として黄褐色土層が中央部にみられる。周壁側はやや薄くなるが、中心部で40～30cmの厚さがあるややブロック状の堆積でもある。この層からは遺物の出土はない。一度掘られたローム層らしいが確定できない。床面直上の黒色土層は上層のそれと区分できる特色はなく、ともに木炭片がやや多い。
形状：長径4.6m、短径4.2mの円に近い楕円形。北半は壁高が45cm前後、南半でも25cmほどあってやや傾くが、しっかり検出できた。
柱穴：本址は柱穴らしいピットが多い。周壁からやや離れて1～1.5mの間隔で並ぶ深さ20cm以上ある深めのP1～P6などを主柱穴とするが、位置を変えてP7～P11をあてるか、いずれにしても主柱穴の確定は難しい。他のたくさんある深さ20cm前後のピットなど考えると、拡張か建替えを想定してもよい。また住居址内の大きめのピットP20・P24・P29・P5などは土坑とすべきか確定できない。南西壁にかかるP35・P36は土坑である。
炉：ほぼ中央部に2箇所の地床炉がある。南側のF1は袋状土坑のP37に切られている。北側のF2とともにごく浅い凹みだけと焼土痕跡が残るのみである。
床面：深さがあったため殆んど攪乱の跡はなく、比較的良好に検出できた。しかし、あまり硬くなく平坦ではあるが、浅い凹凸がある。住居中央のF1・F2内にある袋状土坑のP37や東南壁中の大形のP35・P36は本址と関係のない土坑である。
遺物：土層から黒曜石小片の出土が目立ち、土器片も多い。石鏃が8点と石錐3点、小型刃器37点が目立つ。打製石斧・磨石・磨製石斧各1点がある。
時期：縄文前期末～中期初頭

⑱ 第18号住居址

位置：C地区の道路に面した高位置にあり、17号住の西南約6mにある。
埋土：黒色土層の落ち込みが比較的明瞭であった。上層から中心部に隣り合う出土が目立ちはじめる。この第1層下には第2層の黄褐色土層が中央に厚く、周辺で薄くなるがほぼ住居址東半部にある。しかし第2層は、17号住よりはブロック状でなく面的な広がりをもっている。第3層は再び黒色土層となり、中央部には台石らしい石を含むやや大形の石が床面よりやや浮いて散在する。木炭と焼土が混じる部分が南西部に目立った。
形状：径4.5m前後の不整形円形。周壁は30～20cm前後あってしっかりしている。
柱穴：柱穴は極端に少なく、主柱穴らしい配置はない。周壁のやや高い南半部周壁に接するほぼ等間隔に並ぶP1～P5はP2を除き深さも十分であるのでよいが、P3は周壁中、P5は壁外

にある点や他はやや小形すぎる感もある。P7など中心点にあって棟持柱的ではあるが、浅すぎる。P7・P8もやや深さが浅く難点がある。

炉：周壁より50cm内によった南西部に50×25cmの範囲が地床炉となる。他住居に較べて中心よりやや離れている点が指摘できる。

床面：硬く締った床面ではなく、かつ多少の凹凸はあるもののほぼ平坦で検出は容易であった。北東周壁に大形の土坑がある。トレンチャーに切られ、その前後関係はつかめない。

遺物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器14点のほか、石鏃1、磨石2、敷石3点。

時期：縄文前期末

⑨ 第19号住居址

位置：D地区上辺、道路に沿った本遺跡最高地点にあり、20号住が北東に接する。

埋土：表土が相当浅く南に傾斜するため、上部の攪乱も加わって明確な層序はつかめなかった。焼土の多少混じる黒土層のみで、一部黄褐色土が認められたが攪乱の結果らしい。

形状：東南半部の周壁を欠く斜面住居。長径4.9m、短径推定4.7mのほぼ円形としたい。北から西に残る周壁は最高26cmから次第に高さを減じるが、ほぼ垂直に近く検出は容易であった。

柱穴：住居内の周壁の残る半分にはピットが多いが、東南半分は少なく主柱穴の選定が難しい。他住居址例にならって周壁に沿うものを拾うとP1～P7があるが、P5とP6、P7とP1の間隔がやや開き過ぎる。その他20cm以上の深さのあるピットも多く、2回以上の建替えを想定してもよい。

炉：住居址ほぼ中央に90×60cmという広い範囲に地床炉があり、わずかに凹んで焼土が残っていた。

床面：ピットが多いため平坦とは言いがたいが、ローム面がわずかに硬く検出は容易であった。北壁寄りにかたまるP21～P27は、形状がやや大形で円・楕円・長方形・方形と様々なうえ、深さも深浅があり、柱穴とはならず土坑などとすべきであろう。また周壁のない東南側の大型ピットP23・P28・P29は埋土からみて本址と関係のない土坑である。なおP26の底面に付いて台石らしい河原石が入っていた。また地床炉東南の大型角礫部分は攪乱があり、その位置は問題がある。

遺物：縄文前期末～中期初頭の遺物が出土している。小型刃器13点、石鏃2点。

時期：縄文前期末～中期初頭

⑩ 第20号住居址

位置：本遺跡の最高部位にあり、19号址の北約3mにある。

埋土：黒土層の落ち込みが明瞭で検出は容易であった。上部黒土層はローム粒や小石を含むが、中層以下は比較的単純な黒土層となり、床面近くに一部薄い褐色土層が堆積する部分もある。

形状：周壁2箇所に大形土坑があるが、長径(南北)3.8m、短径(東西)約3.0mの不整形及至隅丸方形となる。西半の周壁は最高45cmから30cmあって垂直に掘られ、東半も最終的には一部10cm未満の部分もあったが20cm前後でしっかりと検出できた。

柱穴：住居址内のピットはP1～P4の4個しかなく、その位置は主柱穴の配置としては適当ではない。壁外にP5～P8があるが、本址とは結びつけられるかどうか分からない。

炉：北側床面付近一帯に炭は混じるが、地床炉らしい痕跡は見出せなかった。

床面：比較的硬く検出は容易であった。ただ東側がやや低く平坦で、当初別の住居址と考えたが最終段階で床面が連続して同一住居床面と確認した。北東壁と南東壁に大形の土坑がある。

遺物：縄文前期末～中期初頭の遺物が出土している。石鏃2点と小型刃器12点。

時期：縄文前期末

㊦ 第21号住居址

位置：E地区下段傾斜面にある。ほぼ東西に並ぶ6軒の住居址の最西端にある。

埋土：地山のやや粘質帯びたローム層との区別が難しい褐色土層のみで、黒土層は見当らない。本址を西端とする22～25・27住のうち22号址を除く埋土はほとんど本址と同じで、その検出はわずかな土層の違いから区分し、テストレンチで周壁の確認と平坦な床と地床炉の検出から全体を露呈するという工程をとった。

形状：北半分のみしか周壁はない。平坦な床面の残存部分からみて東西3.15m、南北推定2.0mの半円形カマボコ状の典型的な斜面住居である。

柱穴：東・西周壁やや内側に対照的に並ぶP1・P2のみである。

炉：ほぼ住居址の中心部(半円形とする中心ではないが)に径20cmの浅い痕跡的な地床炉がある。

床面：見分けにくい埋土だが、床面の検出はさほど難しくなかった。縄文中期住居址のようなバリバリの床面ではなく、多少凹凸はあるがほぼ平坦であり硬くない。P2横のP3は土坑であろう。

遺物：縄文前期末～中期初頭の遺物が出土している。石器は小型刃器1点のみ。

時期：縄文前期末

㊧ 第22号住居址

位置：E地区最下段にあり、21号住の東側に近接し、南に25住と重なる。

埋土：傾斜面最下段に並ぶ住居址の内でも本址はやや高い部分にあったため、一部黒土層の落ち込みからその存在が確認できた。黒土層は住居址中央部では明瞭であるが、東・南側へ行くに従って褐色土層が周壁に沿って多くなる傾向があった。ただ黒土層は傾斜面以外の住居に較べると黒味が薄く、やや粘性をもっている。

形状：北半分のみに周壁を築く斜面住居。東西5.5m、南北約4mの横に長い半楕円形(カマボコ形)プランとした。周壁は北側の最高で50cmあり、北壁はほぼ30～40cmでやや傾斜しながら立

ち上がり、次第に東・西壁で高さを減じていく。北西隅の床面が棚状に三角形に30cmほど高くなっている。拡張部分とすべきか確定はできない。

柱 穴：西半に並ぶP1～P5と東半のP6～P10の2つのグループに分けられる。埋土から見てP1～P10は本址に伴うものだが、他住居址例と比較してもその配置から主柱穴を決めるのは難しい。

炉：本址には地床炉の痕跡はない。ただ先述した三角形部分からわずかに焼土が出土したが、地床炉とは言い難い。

床 面：東から西に10cmほど低くなるが、ほぼ平坦で検出は容易であった。住居中央の大形ピットP12と西壁の円形のP12は後の土坑であろう。ただ床面がなくなる手前にあるP11は埋土からも本址に伴う貯蔵穴としてよいだろう。なお住居中心部に台石状の大きな河原石2個が床面から少し浮いて残っていた。

遺 物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器5点のみ。

時 期：縄文前期末

㊤ 第23号住居址

位 置：E地区最下段の東端にあり、すぐ西に24号住が並ぶ。

埋 土：黒土層はほとんどなく、21号住同様に区別しにくい褐色土層1層が埋土であった。

形 状：北半分のみ周壁が残る斜面住居。東西3.3m、南北推定2.6～2.7mを測る。丸味をもった斜面側が長い梯形を露呈。北壁の高さ42cmを最高に次第に高さを減じる点は同じである。

柱 穴：ほぼ住居中央に南北に並ぶP1～P3と東壁の焼失する部分のP4の4本を主柱穴とする。その配置は規則的ではない。P3横のP5は土坑であろう。

炉：本址には地床炉はない。

床 面：あまり硬くなく検出しにくかったがほぼ平らである。北壁から2.6～2.7m前後で床面は消えてしまい、それ以南は急に斜面を増していく。東南側は後に掘られた1999号土坑がある。

遺 物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器1点。

時 期：縄文前期末

㊦ 第24号住居址

位 置：E地区最下段にあり、23号住と27号住の間にある。

埋 土：23号住同様に黒土層の落ち込みがなく、褐色土層のみの埋土であった。

形 状：やや傾斜面が急になる部分にあり、周壁の残る部分が長径4.9m、対する床面が消えるまでの短径は約4mの不整形とした。北から東壁は最高60～50cmと深く、次第に高さを減じ約3分の2は周壁が確認できたといえよう。なお北東壁の凸部は掘り過ぎの結果である。

柱 穴：大きさも深さも十分なP1～P5の5本のピットしかない。中でもP1～P4とすると配置もよい4本主柱となるが、例がないので決め難い。

炉：P1・P4内にある大形のP6の北東壁寄りに底部から20cmほど浮いて塊状の焼土が残っていた。P6の埋土は住居址と同一ではないので、これを地床炉としてよいかどうかやや懸念が残る。位置としては悪くないが。

床面：わずかに硬く締まりはほぼ平坦で検出も容易であった。P6は住居址後の土坑と考えられ、またP7も後の集石である。

遺物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器10点と磨石1点。

時期：縄文前期末

㊤ 第25号住居址

位置：E地区最下段、22号住と北接して21号住がある。

埋土：21号住同様、黒土層はなく褐色土層のみであった。

形状：北側に逆への字状の周壁が残るのみで、東側は自然消滅、西側は後の1774号土坑によって大きく削られている。残存する周壁と床面から推定すると、長径4.2m、短径3.5m前後の不整楕円形となろう。

柱穴：住居内に7本のピットがあるが、P7を除きP1～P4を柱穴とするとその配置はよいが、P5は埋土などから土坑とすべきで、やや不規則だがP1～P4・P6の5本を主柱穴としたい。

炉：ほぼ中心に近いP5北に接して、径40cm前後の円形に厚さ5cmほどの焼土痕が残っていた。地床炉としてよいだろう。

床面：ローム層というより、やや粘質な青みがかった粘土層といってよい土層が床面となっている。硬く締まってはいるが、全面ほぼ平らで検出は容易であった。

遺物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器2点と石錐1点。

時期：縄文前期末～中期中頭

㊤ 第26号住居址

位置：B地区北区の高い部分、西南に10号址、東に18号が各々10m離れて並ぶ。

埋土：最終段階に検出された住居址で、わずかに全面に黒土層が落ち込んでいたが、表土が浅く攪乱も一部みとめられて、特記すべき事項はない。

形状：北から南へわずかに傾斜する地帯にあり、かつ耕作による削平もあって低い周壁が北半分しかなく、斜面住居としてよいだろう。径約4.2m前後の円形であろう。北側の周壁は最高18cmしかなく、ほぼ中央の東西で消えている。

柱穴：周壁のない住居南半部に集中するが、全体に深さが10～20cmと浅い。他住居址例から周壁に沿ってピットから主柱穴を拾うとP1～P7など7本があげられる。しかしP3を除くと10～20cmと浅く、上部を削平されたとしてもやや不安が残る。付近のピットは補助柱穴とするか、建替えとするか決め難い。北・東・西の壁に等間隔に並ぶ大形のP19～P21はP19を除くと深さが10cm以下で柱穴となり難い。住居内のP15・P16は形状から土坑であろう。

炉：本址には地床炉らしい場所は検出できなかった。

床面：ピットが多く、耕作が及んでいるところもあって凹凸が甚だしいが、所々によく固められた床面が残り、ほぼ平坦に検出することができた。石などもほとんど出土しない。

遺物：縄文前期末の遺物が出土している。小型刃器3点のみ。

時期：縄文前期末

㊦ 第27号住居址

位置：E地区最下段にあり、東西に4m前後離れて24・27住が並ぶ。

埋土：この地区住居址同様に黒土層の落ち込みがなく、褐色土層だけであった。

形状：斜面の高い北側周壁は垂直な55cm前後の高さを持つが、東・西壁は次第に高さを減じて北壁から2.5m前後で消失する。床面はここから60～70cmまでは平坦だが、急に落ち込むので南北約3.2～3.3m、東西約3mのカマボコ形のプランの斜面住居としたい。

柱穴：ピットは1個も検出できなかった。

炉：地床炉らしい痕跡も検出できない。

床面：東北壁から東壁にかけて10cm程の高い部分があるが、その面も含めて全体に平坦で、所々に硬く踏み固められた床面が認められた。

遺物：縄文前期末の遺物が僅かに出土している。石器はない。

時期：縄文前期末

(2) 方形柱穴列

10号住の東南約16mに方形柱穴列がある。遺跡全体からみるとやや北に偏っているが、緩斜面の中間部分に当たり、一帯に土坑群が展開している。実はこの一帯の土坑群は、調査最終段階で短期間に行なわれたため、全体像把握を第一義とし、各土坑の発掘もやや丁寧さを欠いてしまった。そのため方形柱穴列と判明した時は、ほとんど調査終了時であり、土坑断面図は8基のうち3基にとどまった。更に本址南側は耕作によって表土が相当削平されていたので、柱穴の深さに差が生じている。

本址はほぼ東西方向をとり、1軒×3間の長方形を呈する。短径は約3.6mで一箇所のみ3.44mと狭い。長径は南側で約7.6m、北側が7.05mで狭く、全体的に東側がややいびつになっている。長軸方向の柱間は2.25m～2.6mとやや広狭があるが、全体的には整った方形柱穴列といえよう。

各柱穴の計測値は次のとおりである(長径×短径×深さcm)。

南側 958号(115×110×85)、969号(117×95×63)、1018号(115×85×40)、979号(112×95×118)

北側 1080号(140×95×106)、1079号(165×105×105)、1019号(100×75×119)、1015号(163×90×112)

以上の計測値で判るようにすべて長径が1m以上もあり、深さも削平された南側の3本を除くと、1m以上と周辺の土坑群と比較して際立った堅固さをもっている。

柱穴の層位は3層のみしかとれなかったが、それぞれ多少の相違がある。しかし担当者の証言で

は8基に柱痕のような土層堆積はなかったらしい。他の多くの土坑同様2～5程度の分層はできたが、特別な観察は認められない。周辺の土坑同様、979以外は土器片が比較的多く出土した。

「方形柱穴」と言えば、原村の阿久遺跡(1)が有名であるが、その近くの阿久尻遺跡(2)でも多数発見され、縄文前期前葉の中核遺跡に一般的であることが明確となった。その後1994年茅野市稗田頭C遺跡で縄文中期初頭とされる1軒×2間(6.52×2.34m)の方形柱穴が検出された。本遺跡例に比べると柱穴も50cm前後、全形も小形であり、阿久遺跡例の系統としては本遺跡の方が適合している。ただ、その所属時期は出土土器が前期末～中期初頭までであり、一概には決定できない点に不満が残る。

注 (1) 笹沢 浩他 1982『昭和51年～53年度長野県中央自動車道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—原村その5』長野県教育委員会
(2) 小林 深志 1993『阿久尻遺跡』茅野市教育委員会

(3) 土 坑

約1300基ある土坑は、調査区全域に分布していて“穴だらけ”の表現がよく似合う。その中でも密集度の高い部分は、遺跡東部からはじまる尾根状の高み一帯で、北から南に弧状に分布し、約20～30mの幅から次第に狭くなっている。この弧状の高みの外側は台地の縁辺となるため土坑は少ないが、その内側は緩斜面となって中心へ下がっていき、前面に土坑が分布し、一番低い西側へ行くに従って貧弱なものとなり、分布もまばらになっている。中心域から外れた低い西側は、南半が駐車場や資材置場として原地形が失われているが、周辺の地形からみてさほど遺構があったとは考えられず、一方北半は遺構が認められずプレハブ設置場所としたように、今回はほぼ遺跡範囲を90%以上調査したといえよう。

当初、重機による表土除去後の土坑数は1500基を数えたが、精査の結果、木根や攪乱など不明確なものが約200基あり、最終的には約1300基となった。しかし調査後半に台風による激しい風雨に襲われ、番号札が多数流出したり移動してしまい、調査進行の遅延を防ぐため、新しいナンバーで処理したため、一覧表では欠番が多く2000番までとなっている。こうした調査中の不手際があった為に整理作業段階で何度かの追加・修正を余儀なくされ、一覧表作成までしか出来なかった。そのため最終的なまとめは後日を期すことにし、ここでは簡単な報告にとどめることにしたい。

土坑の平面形は約1300基の70%が楕円形、円形が約16%で両者合わせると86%と土坑の大半を占める6%、以下、不整形6%、隅丸方形・長楕円形が各2%、長方形・ひょうたん形・台形・方形が各1%弱となる。ただ楕円形とした中には、より円形に近いものがあり、再検討の余地を残している。しかし土坑の一般的な平面形としてはそれほど特異な例はなく、普遍的なものといえよう。

平面形にとらわれず計測値のある1158基からその長径(半径)をみると、40cm以下の小形は約200基(17%)、80cm以下の中形374基(32%)、150cm以下の大形506基(44%)、150以上200cmの超大形78基(7%)となり、比較的大形の土坑が多いことがわかる。また、深さをみると30cm以下という比較的浅い土坑が673基(58%)と半数をこえ、50cmまでの303基(26%)を加えると975基(84%)となって大半を占める。最も深い120cmから150cmまでの土坑は15基であるが長径との相関関係はあまりない。

土坑の形状分類は資料の不備で出来なかったが、概観すると半数以上は大小・深浅を問わずしっかりした作りが多い。そうした例の90%以上から土器などの遺物出土している。表に掲載した1158

基のうち519基、収録できなかった土坑30基ほどからも出しているので、10例未満の石器出土を加えて、全土坑の約50%から遺物が出土していることになる。1個体分が出土したり、50点以上ある例も多い。出土土器は住居址同様、前期末～中期初頭である。なお1例のみ縄文後期初頭土器を伴う土坑(735号)があった。

土坑の形状から貯蔵穴、墓塚、落し穴など、その用途を判断することは難しく、今回も土層断面からの分類がまだ終了しておらず、今後に期したい。ただ底面に1～数個の小孔ある例が10数基検出されたが、逆茂木を立てたようなしっかりした穴は少なく、全体的にみて落し穴は少ない印象である。土坑内出土土器や土層断面の分析が進めば、墓塚や貯蔵穴などのある程度の区別ができると考えている。

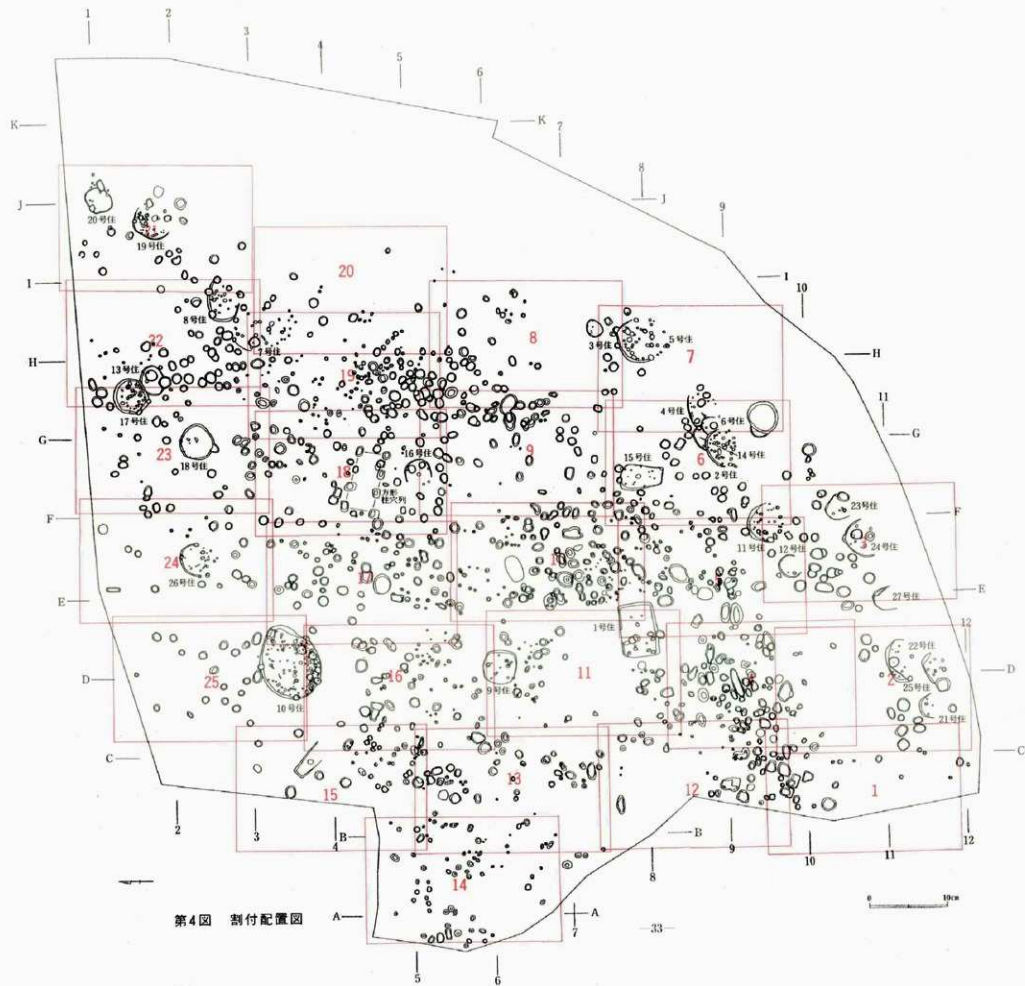
(4) 集石

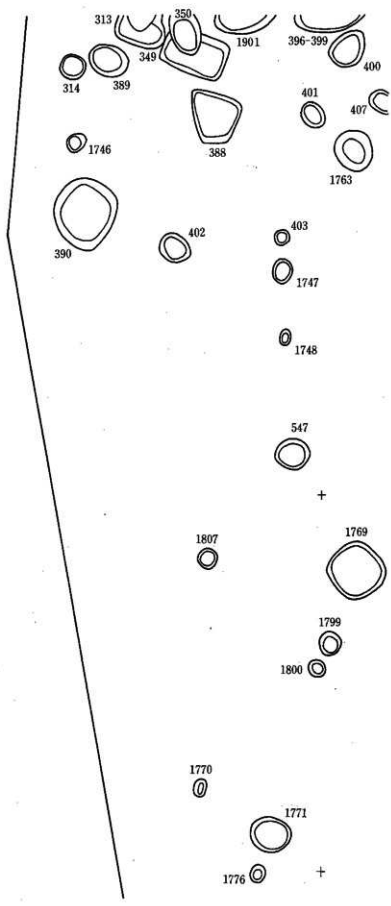
土坑の多さに対し、集石は意外と少なく、まばらに分布するのみであった。径50cm～70cm程度の大きさで、拳大の河原石を1～2段積み重ねる一般的な例のみである。下部が浅く凹むものが多く、集石土坑は少ない。遺物の出土状態も土器片が僅かに出土、といっても周辺から流れ込んだらしいもののみである。1・2例に多少焼けた痕跡を示す木炭や焼土があったが、火熱を受けたいい石も少なく、野外調理場の状況は見受けられない。集石が土坑に比べ極端に少ない点も本遺跡の特色の一つといえよう。

(5) 近現代炭焼き址

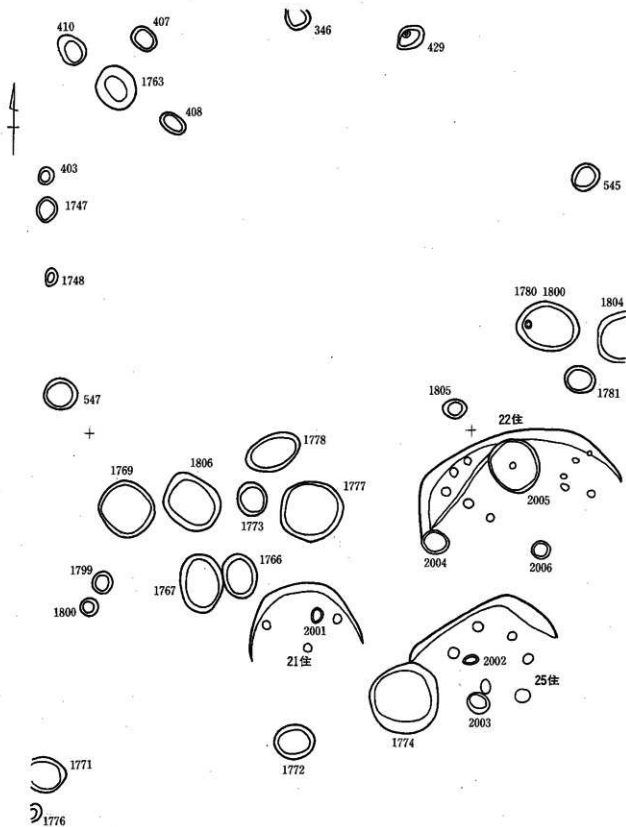
10号大形住居の西約5mにある。長径約4.8m、短径中央で1.5mの長方形で、西北～東南に向く。緩斜面に作られるため高い東南部は周壁が不明瞭となる。深さ50～10cm程度、底面はほぼ平坦、上層の耕作土の下に10～30cmのバラ炭状の炭化物が、ほぼ前面に堆積していた。底面は一部にわずかに火熱を受けた部分があるが平坦なローム面となっている。古老の話でもこうした炭焼きはほとんど例がないという。検出面からわずかに炭化物が検出され、掘り方もしっかりしているので、一応炭焼き址としたが、遺物はなく、周辺の土坑などと違った土層観察から時期を決めた。周辺遺跡でもあまり類例を聞かない。

(堀口昇一)

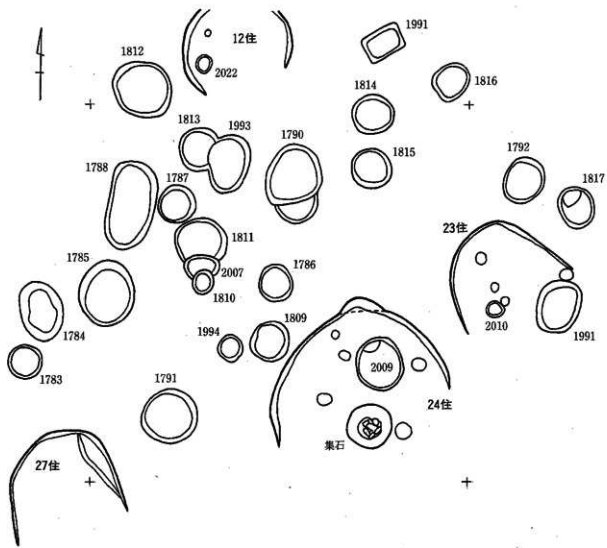




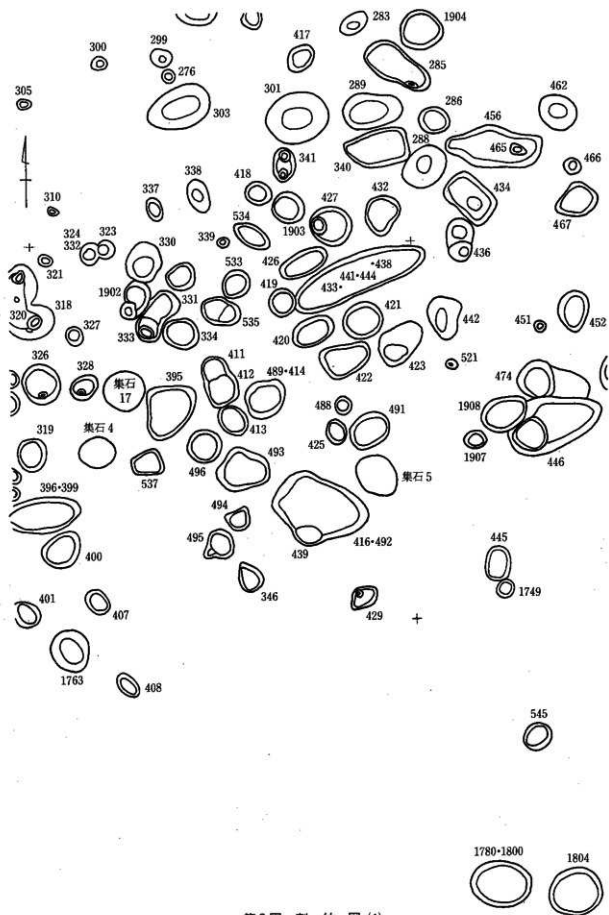
第5圖 割付圖 (I)



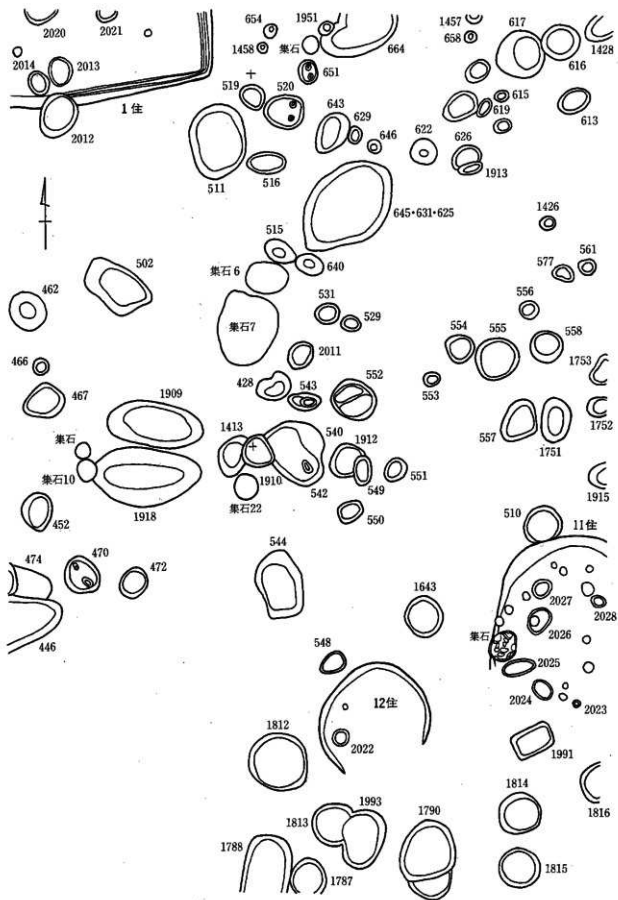
第6図 割付図(2)



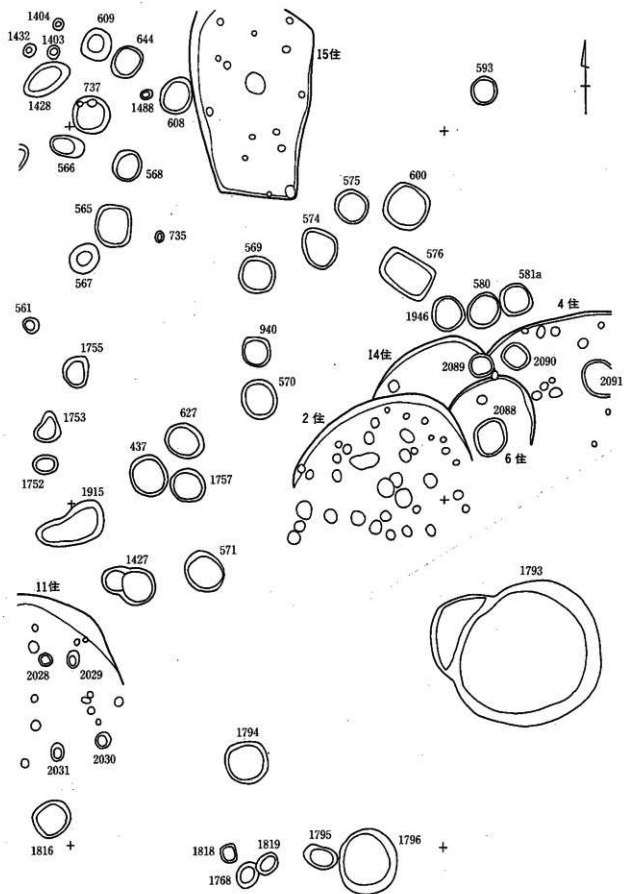
第7図 割付図(3)



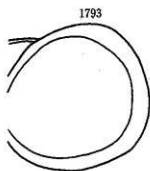
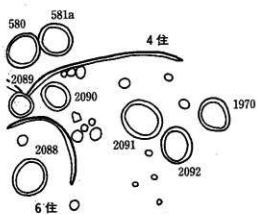
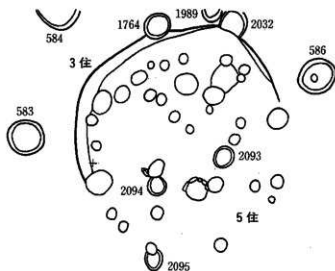
第8図 割付図(4)



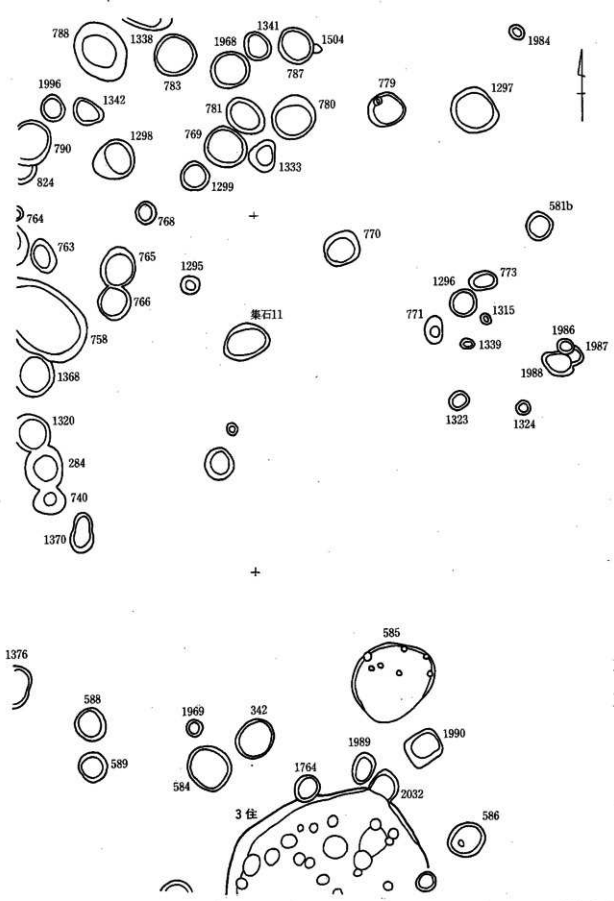
第9図 割付図(5)



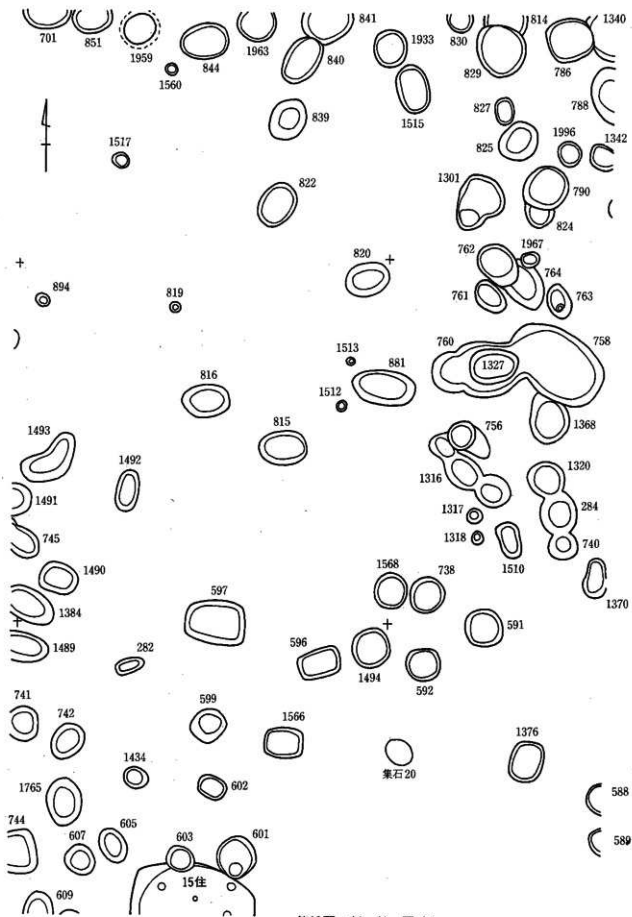
第10図 劃付図(6)



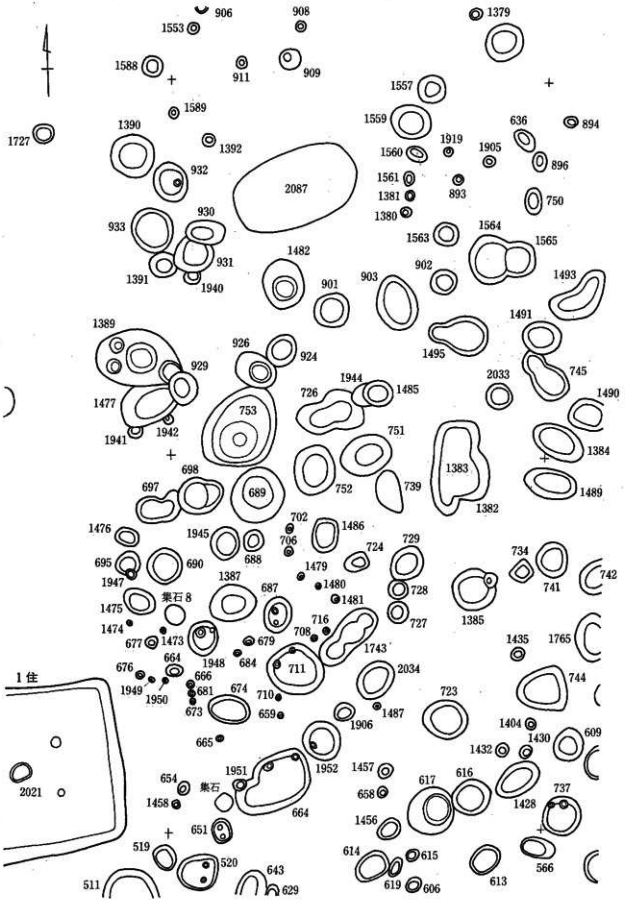
第11圖 割付圖(7)



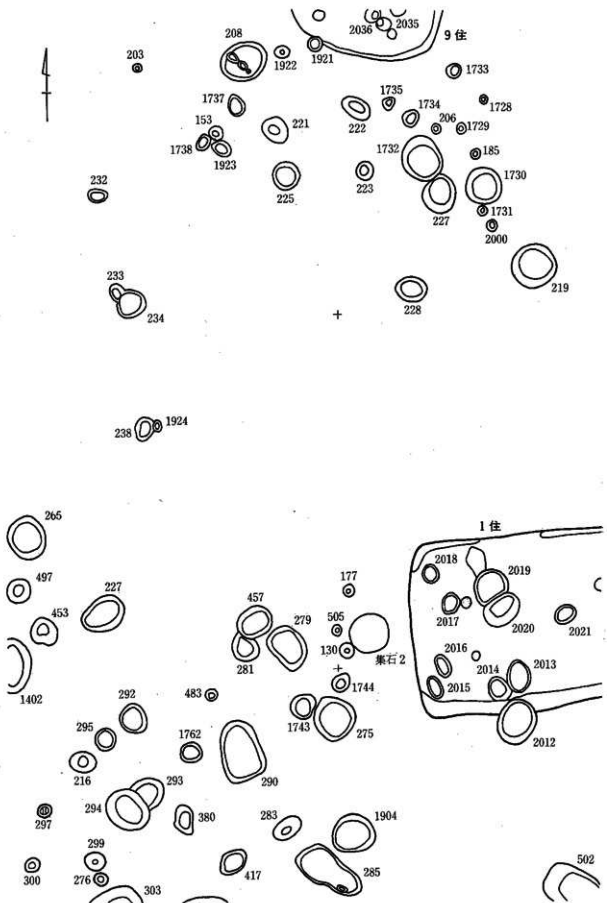
第12図 割付図(8)



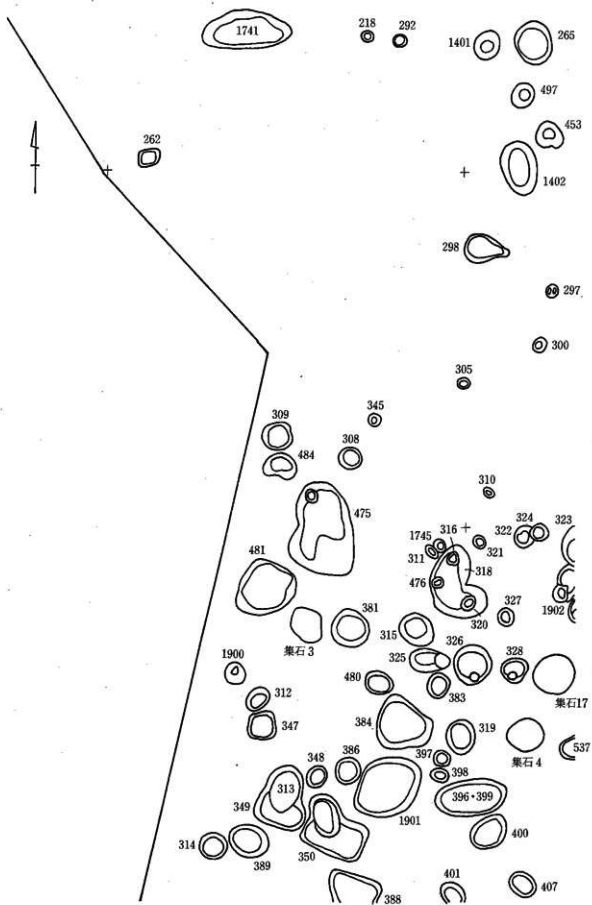
第13圖 割付圖(9)



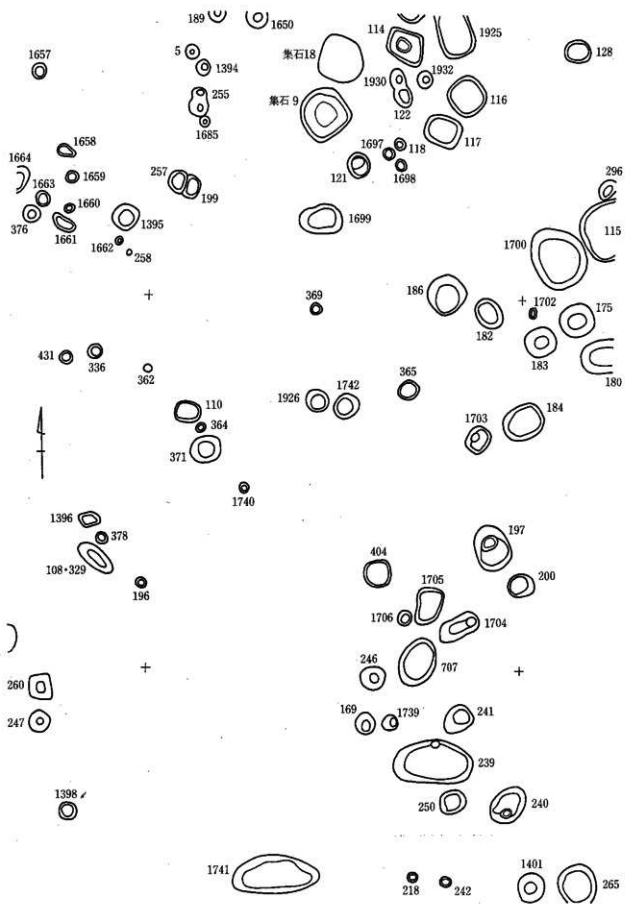
第14図 割付図(0)

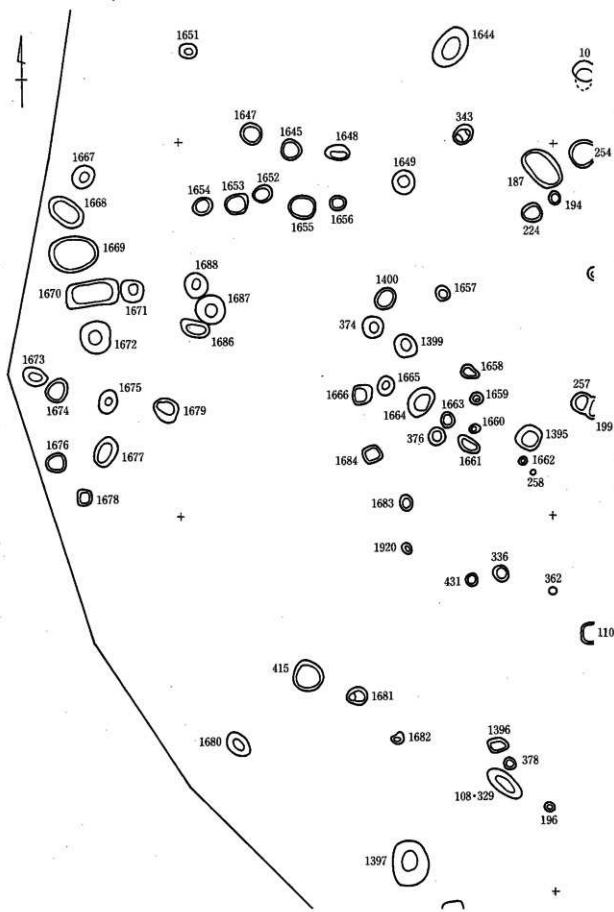


第15図 割付図 (II)

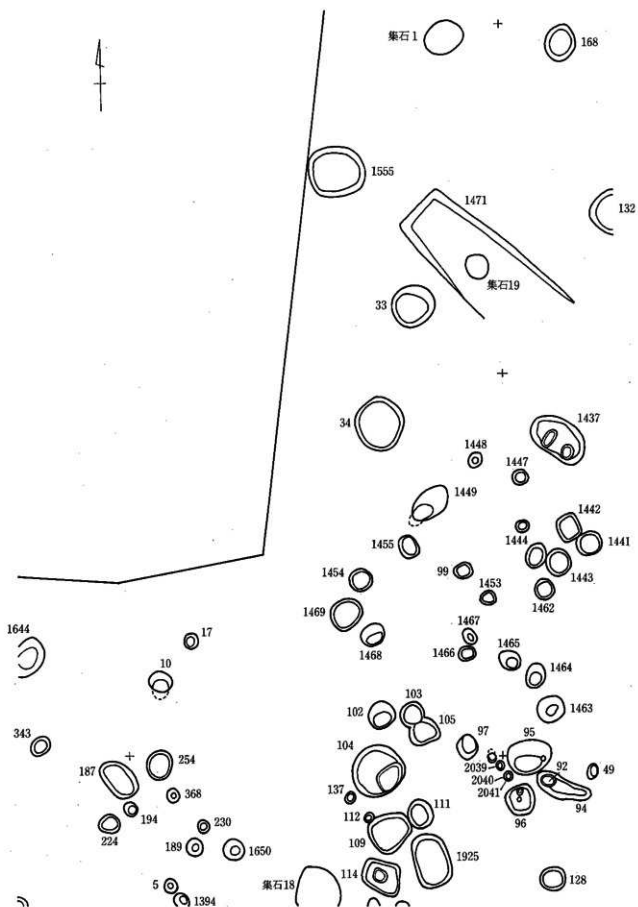


第16図 割付図 (12)

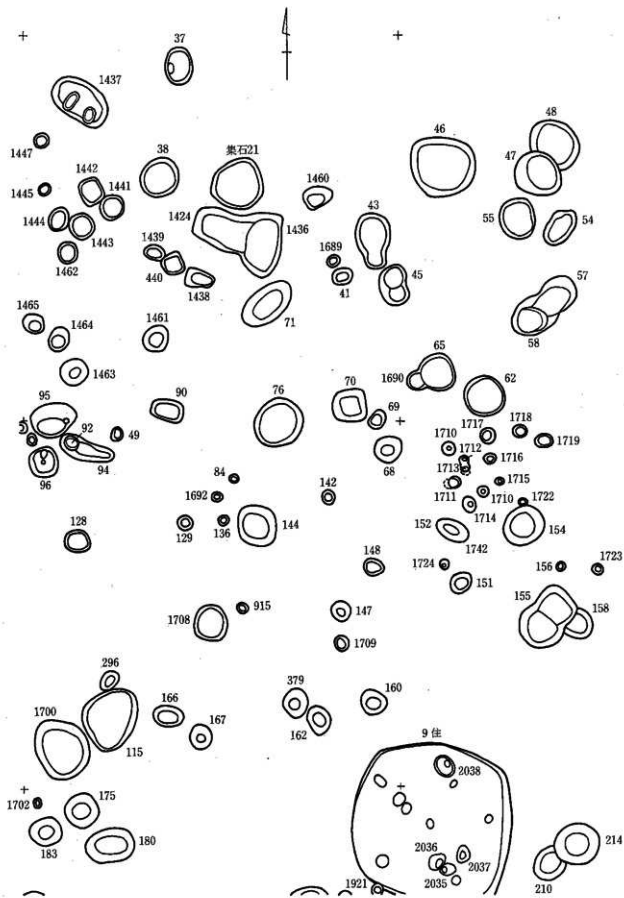




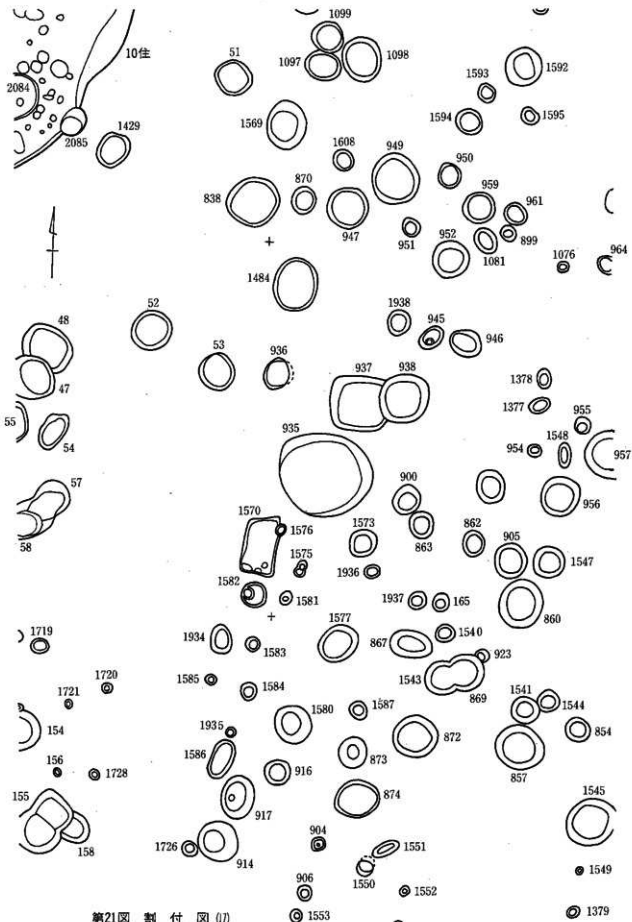
第18図 割付図 (4)



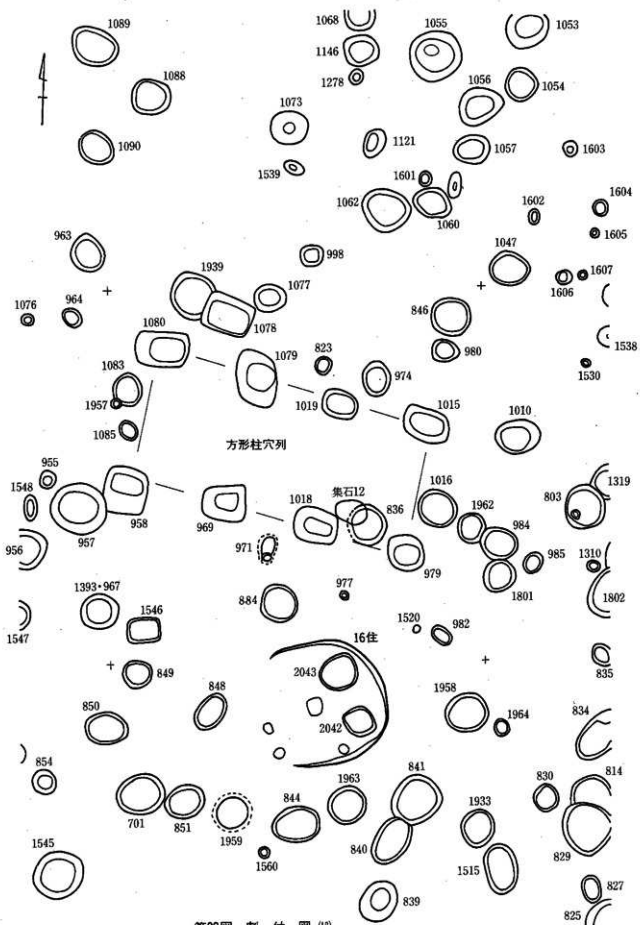
第19圖 割付圖 (5)



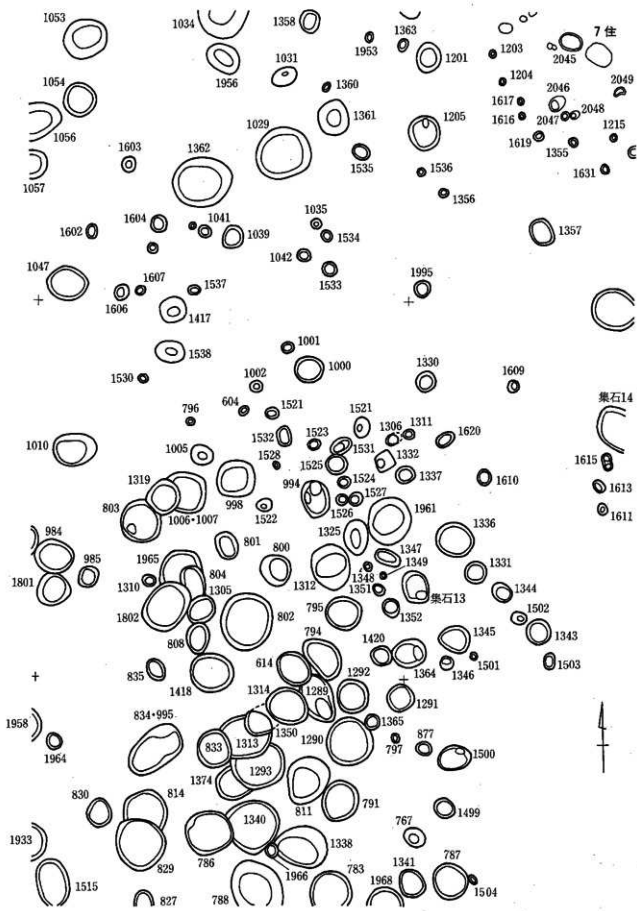
第20図 割付図(16)



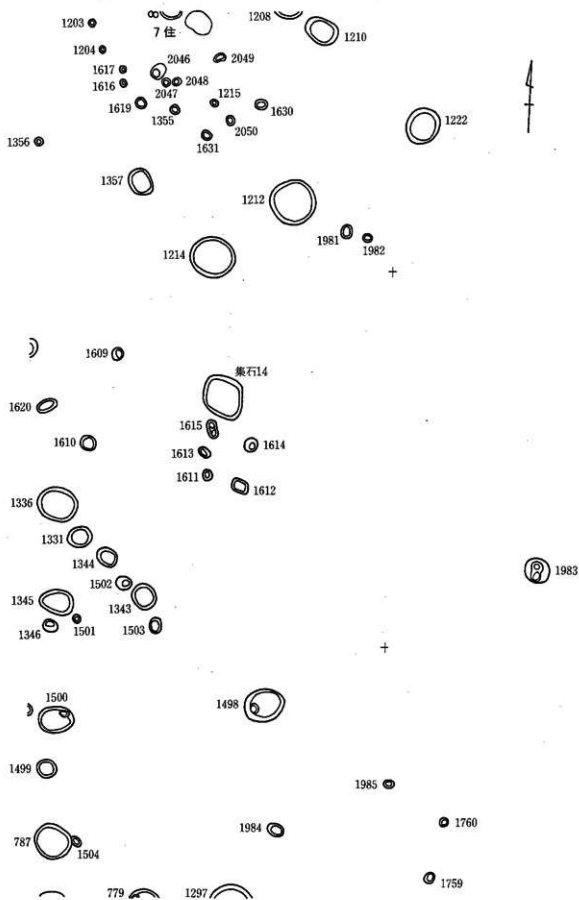
第21図 割付図 (17)



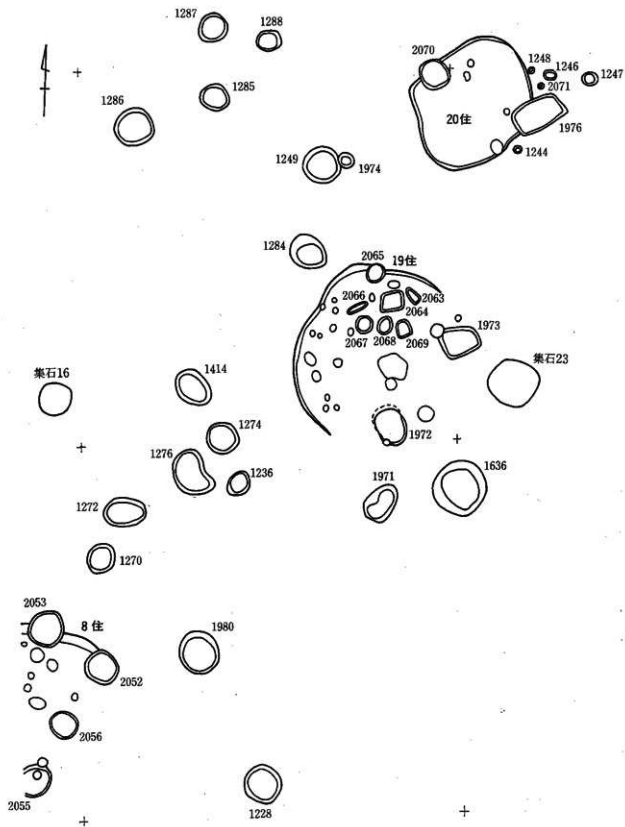
第22図 割付図 (18)



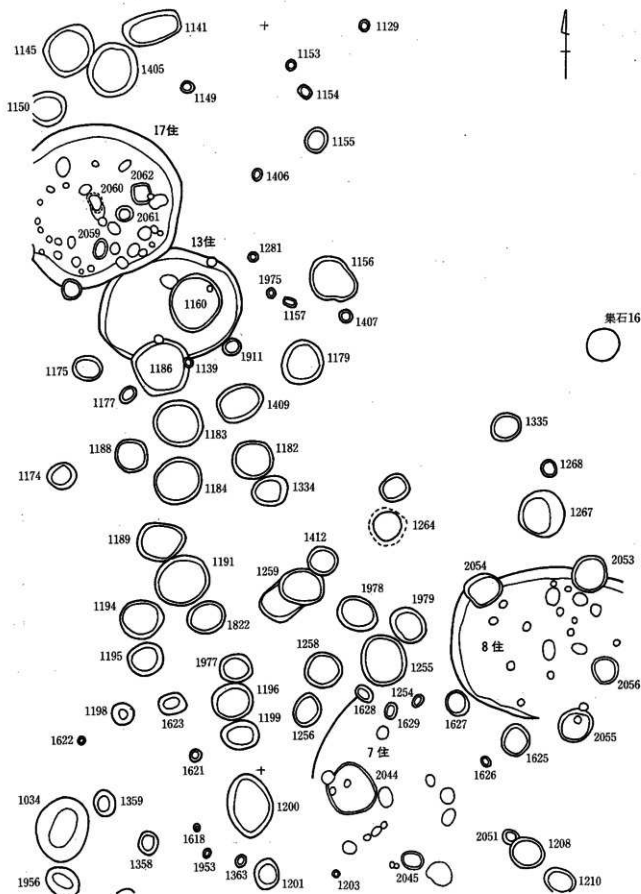
第23図 割付図 (H)



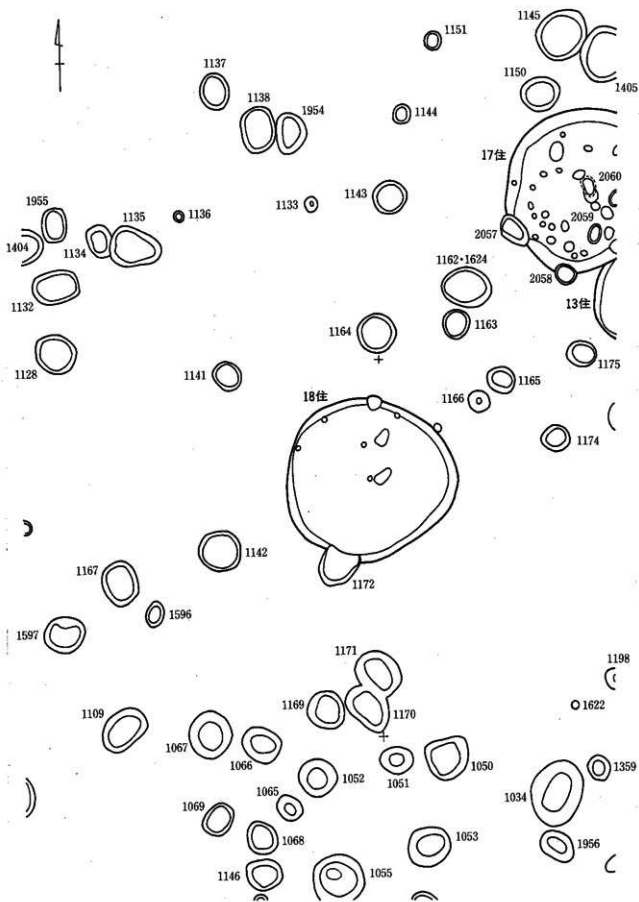
第24図 割付図(20)



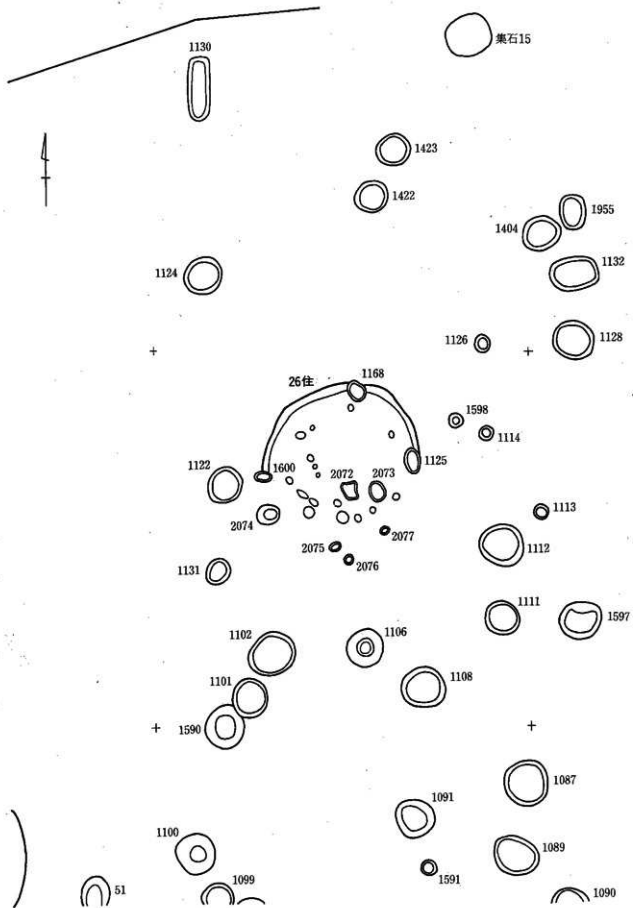
第25図 割付図 (7)



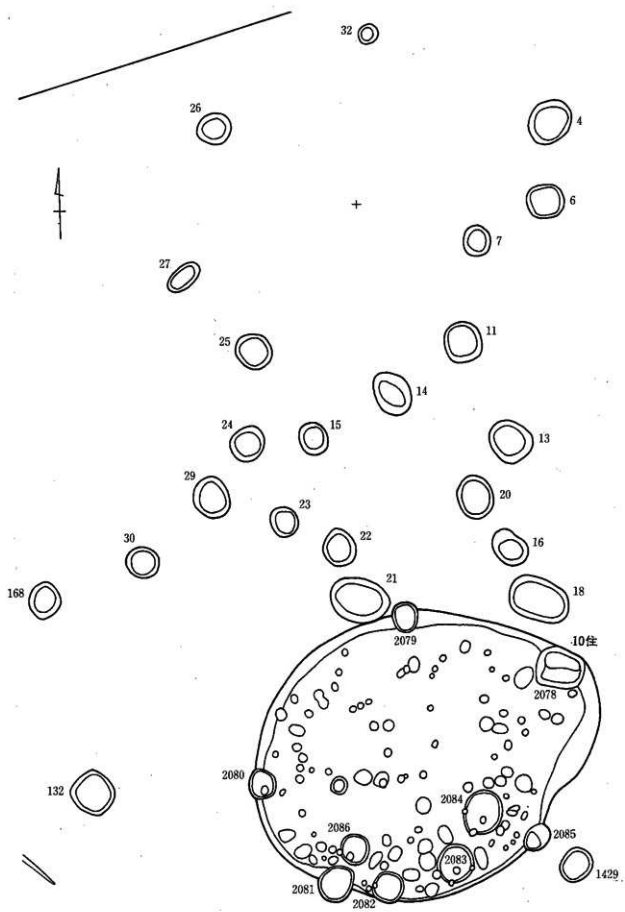
第26図 割付図(2)



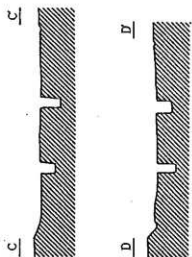
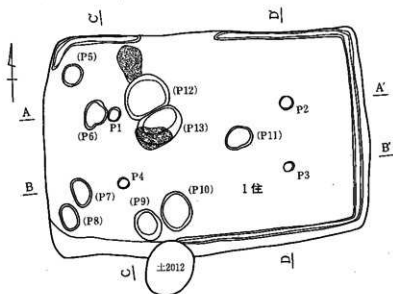
第27図 割付図 (2)



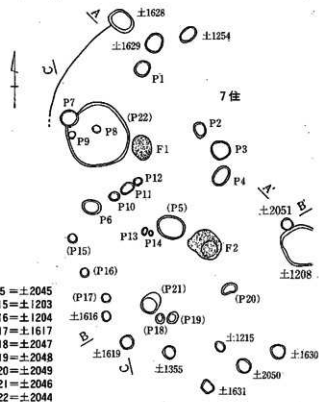
第28图 割付图(4)



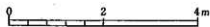
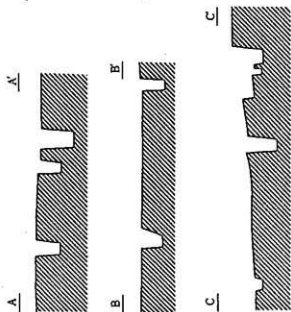
第29図 割付図(25)



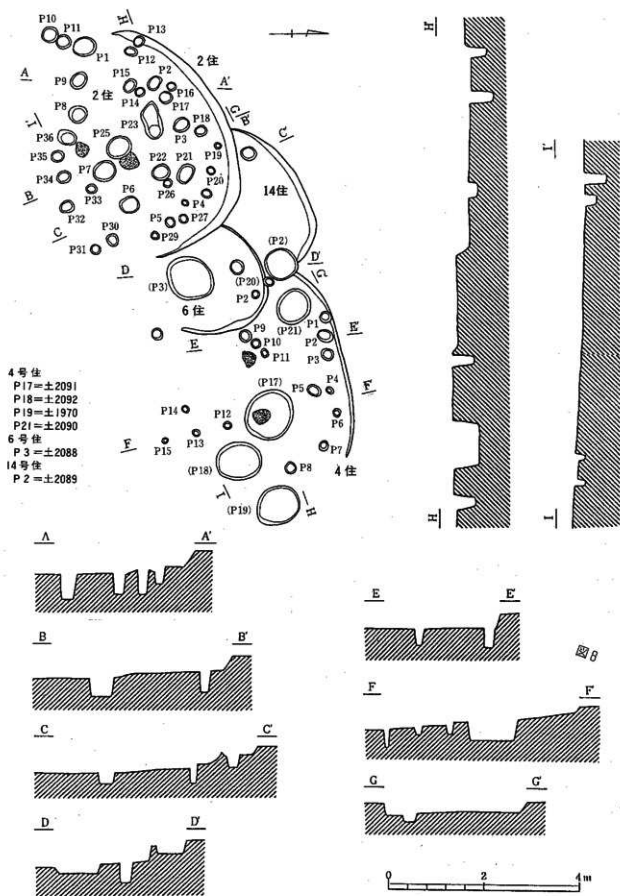
P5 = ±2018 P10 = ±2013
 P6 = ±2017 P11 = ±2021
 P7 = ±2016 P12 = ±2019
 P8 = ±2015 P13 = ±2020
 P9 = ±2014



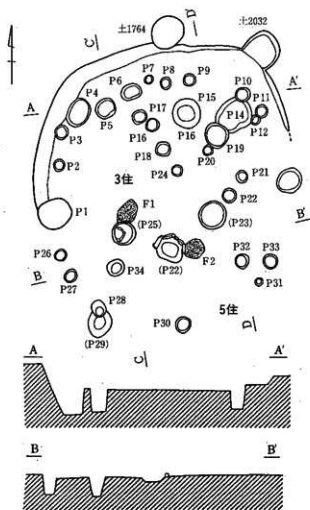
P 5 = ±2045
 P15 = ±1203
 P16 = ±1204
 P17 = ±1617
 P18 = ±2047
 P19 = ±2048
 P20 = ±2049
 P21 = ±2046
 P22 = ±2044



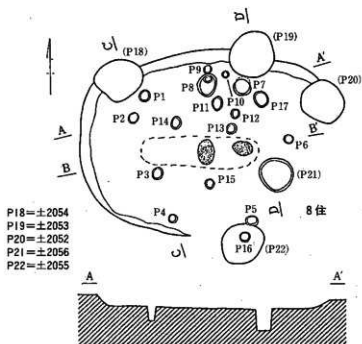
第30图 第1·7号住居址



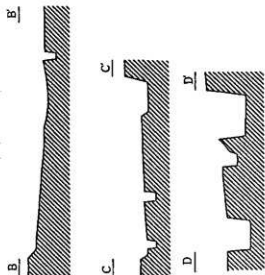
第31图 第2·4·6·14号住居址



P23 = ±2093
 P25 = ±2094
 P29 = ±2095

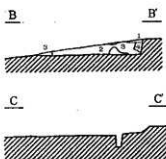
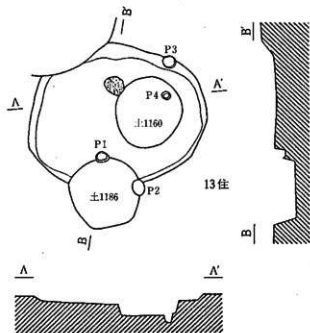
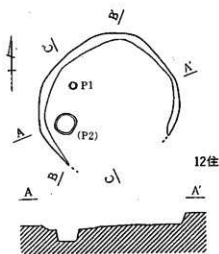


P18 = ±2054
 P19 = ±2053
 P20 = ±2052
 P21 = ±2056
 P22 = ±2055

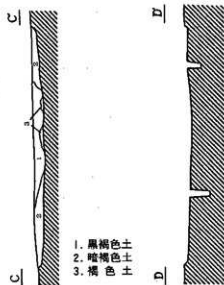
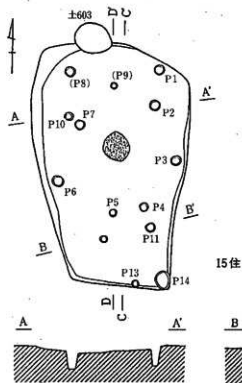


0 2 4 m

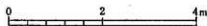
第32图 第3·5·8号住居址



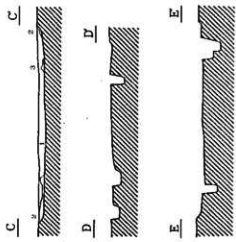
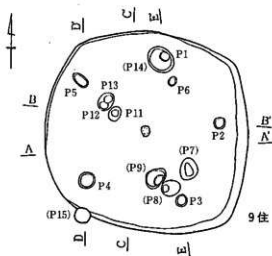
1. 茶褐色土
2. 褐色土
3. 黄褐色土
4. ロームブロック



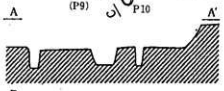
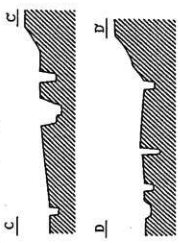
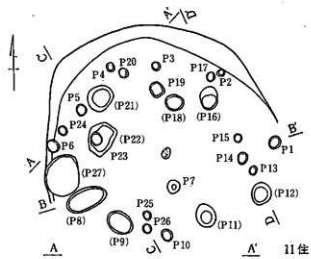
1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 褐色土



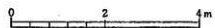
第33図 第7・8号住居址



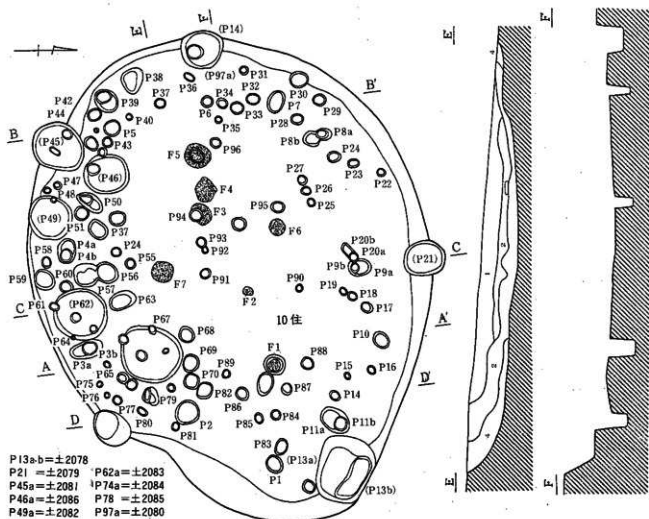
- 1. 暗褐色土
 - 2. 黄褐色土
 - 3. 暗褐色土
- P 7 = ±2037
 - P 8 = ±2035
 - P 9 = ±2036
 - P 14 = ±2038
 - P 15 = ±1921
 - P 19 = ±2048



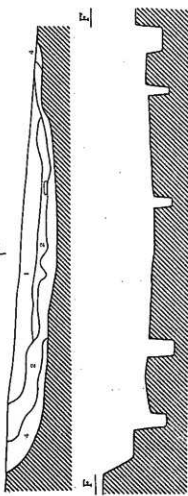
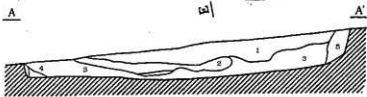
- P 8 = ±2025
- P 9 = ±2024
- P 11 = ±2031
- P 12 = ±2030
- P 16 = ±2029
- P 18 = ±2028
- P 21 = ±2027
- P 22 = ±2026
- P 27 = 集石



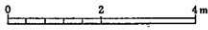
第34图 第9·11号住居址



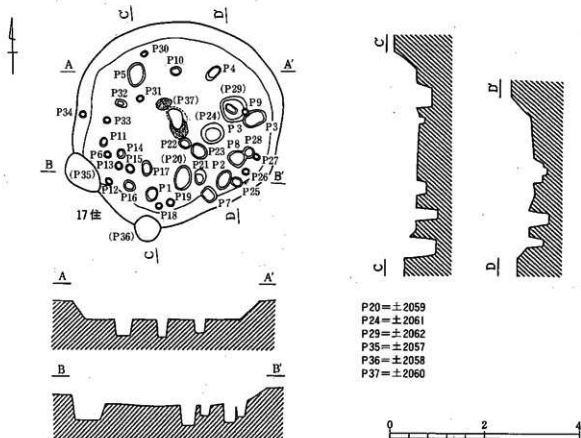
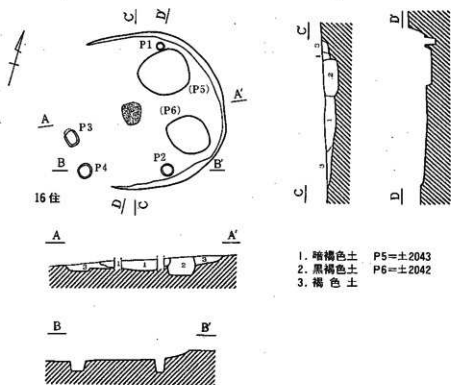
- P13a-b=±2078
- P21 = ±2079
- P45a=±2081
- P46a=±2086
- P49a=±2082
- P62a=±2083
- P74a=±2084
- P78 = ±2085
- P97a=±2080



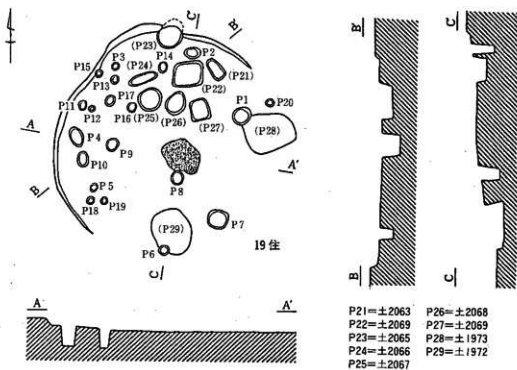
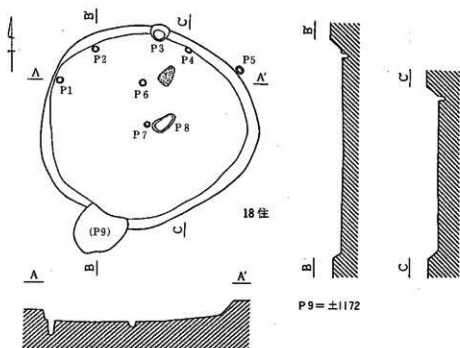
- 1.暗褐色土
- 2.黒褐色土
- 3.明褐色土
- 4.明褐色土
- 5.□ - △



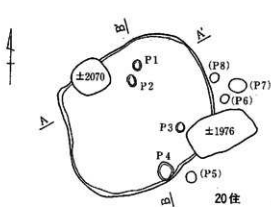
第35图 第10号住居址



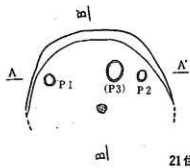
第36図 第16・17号住居址



第37图 第18·19号住居址



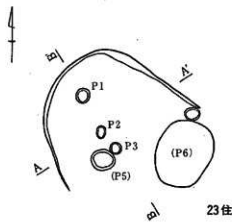
20住



21住

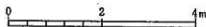
P5 = ±1244
 P6 = ±2071
 P7 = ±1246
 P8 = ±1248

P3 = ±2001

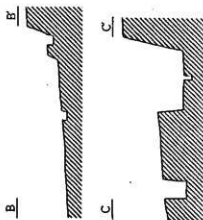
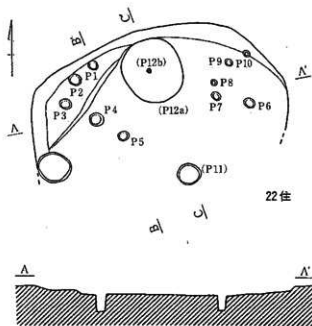


23住

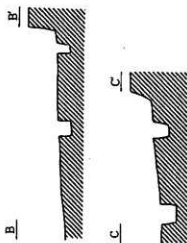
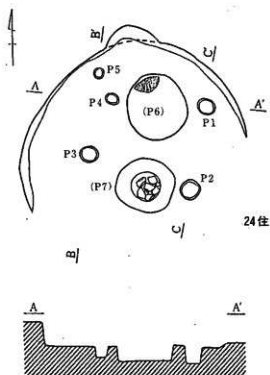
P5 = ±2010
 P6 = ±1999



第38图 第20·21·23号住居址



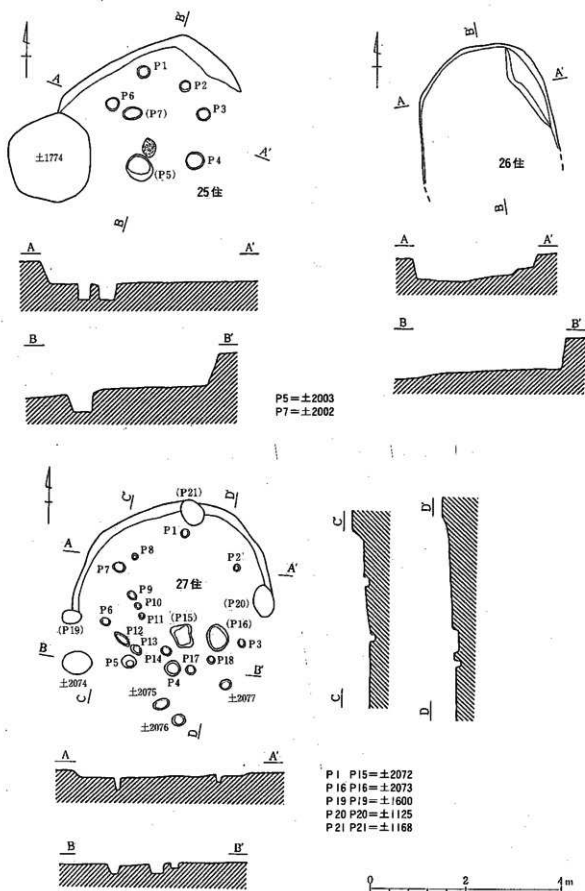
P11 = ±2006
 P12a = ±2005
 P13 = ±2004



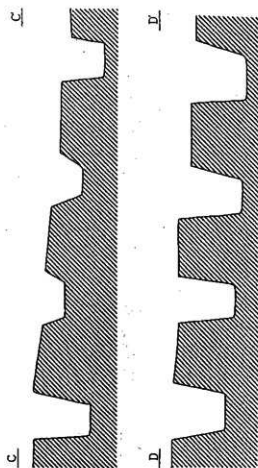
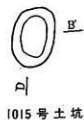
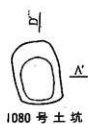
P6 = ±2009
 P7 = 集石



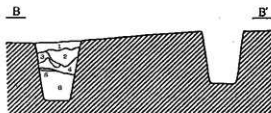
第39图 第22·24号住居址



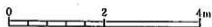
第40图 第25·26·27号住居址



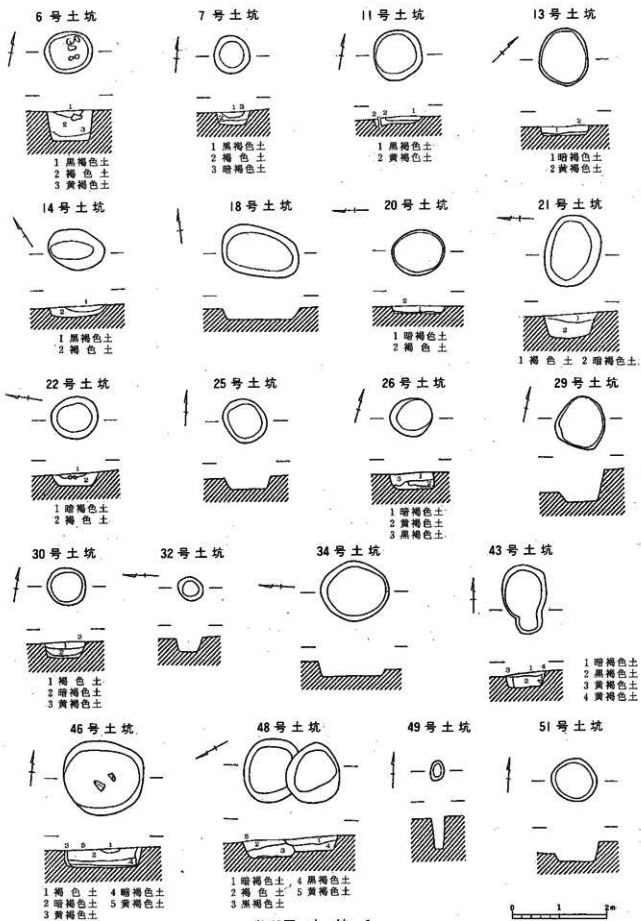
- 1 褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 黄褐色土
- 4 黑褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 黄褐色土



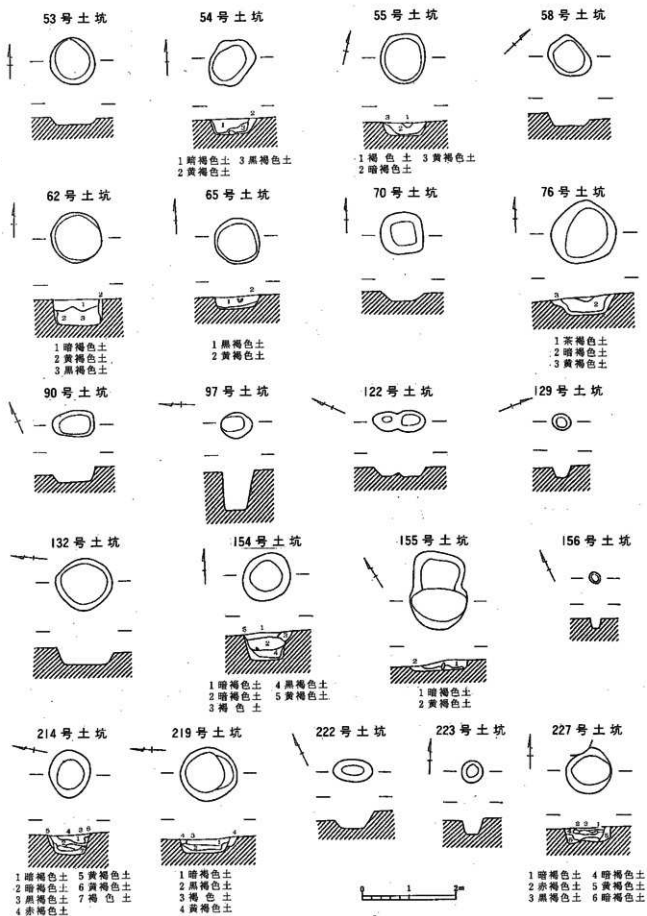
- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黑褐色土
- 5 黄褐色土
- 6 暗褐色土



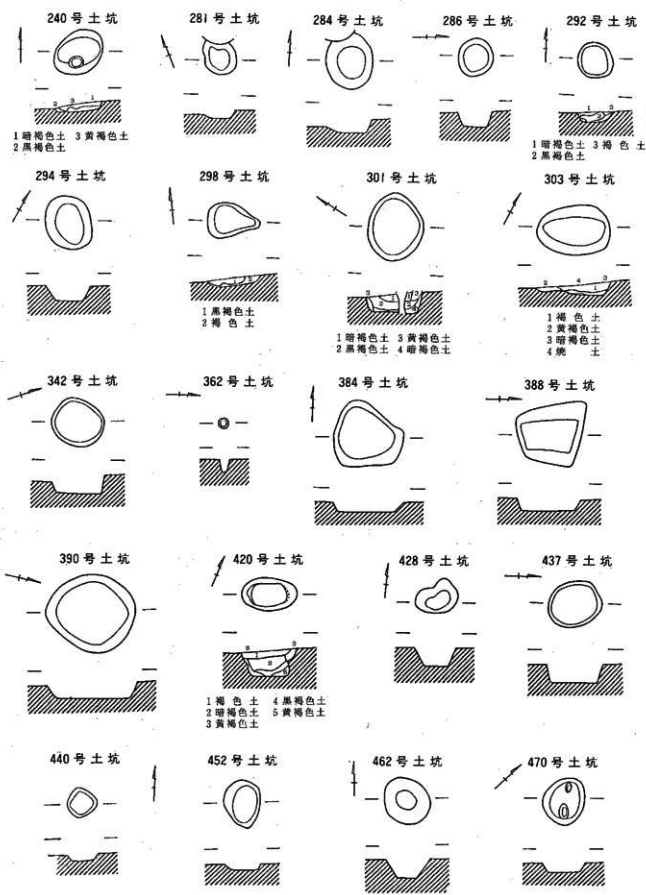
第41图 方形柱穴列



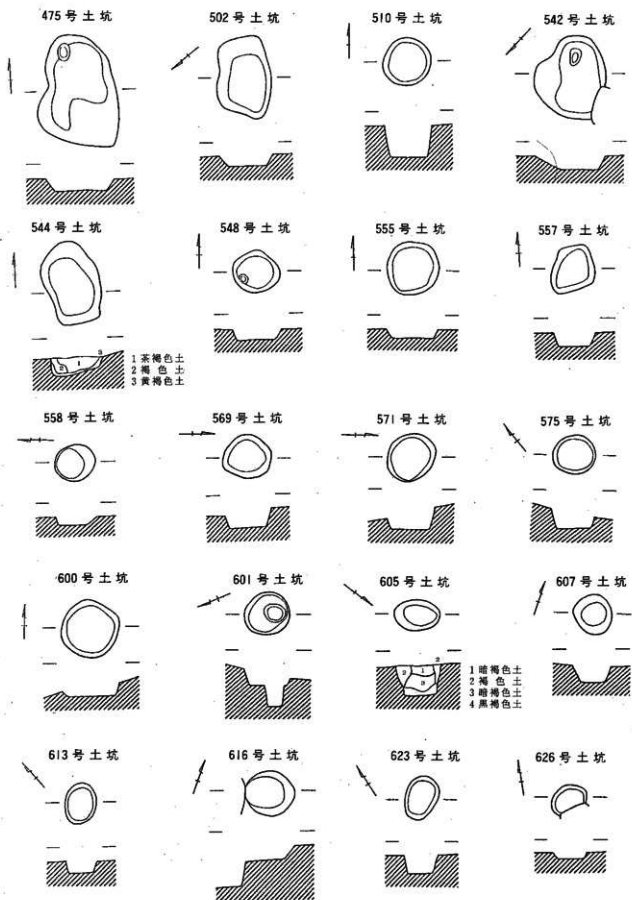
第42图 土坑 1



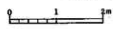
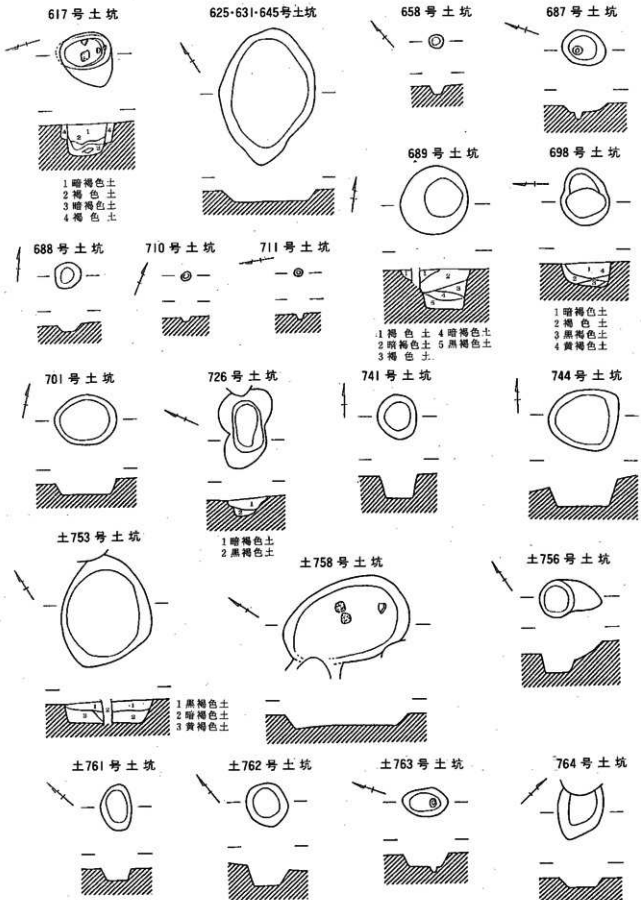
第43图 土坑 2



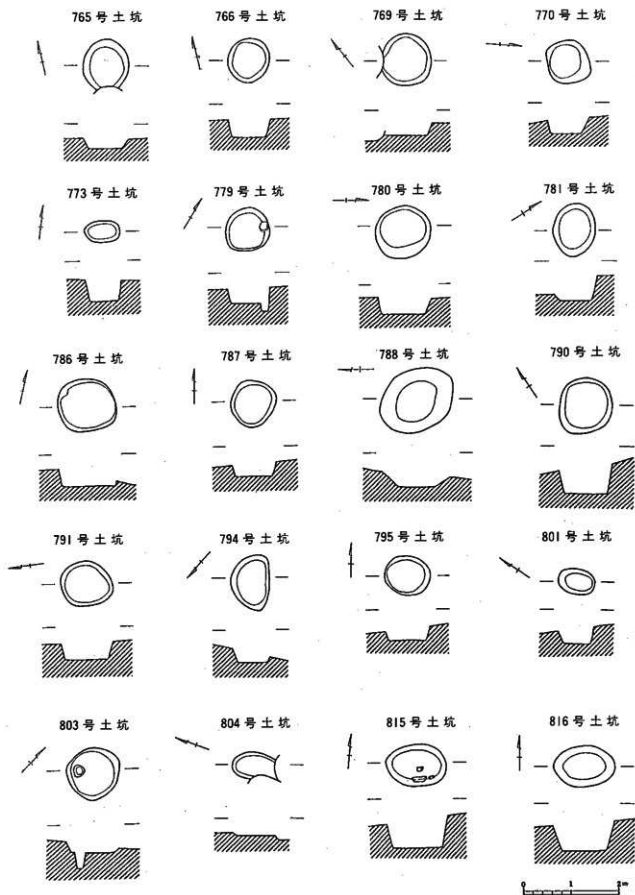
第44图 土坑 3



第45图 土坑 4

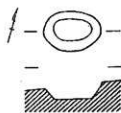


第46图 土坑 5

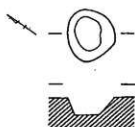


第47图 土坑 6

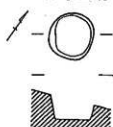
820号土坑



825号土坑



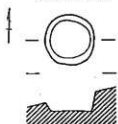
833号土坑



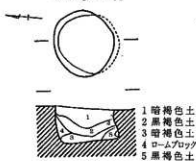
835号土坑



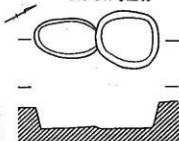
836号土坑



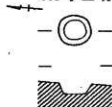
838号土坑



840-841号土坑



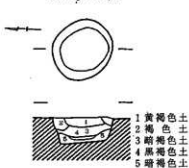
863号土坑



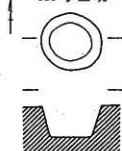
850号土坑



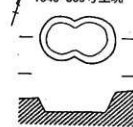
857号土坑



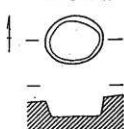
860号土坑



1543-869号土坑



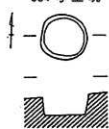
874号土坑



909号土坑



884号土坑



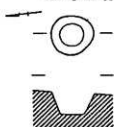
924号土坑



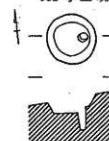
926号土坑



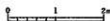
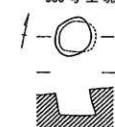
929号土坑



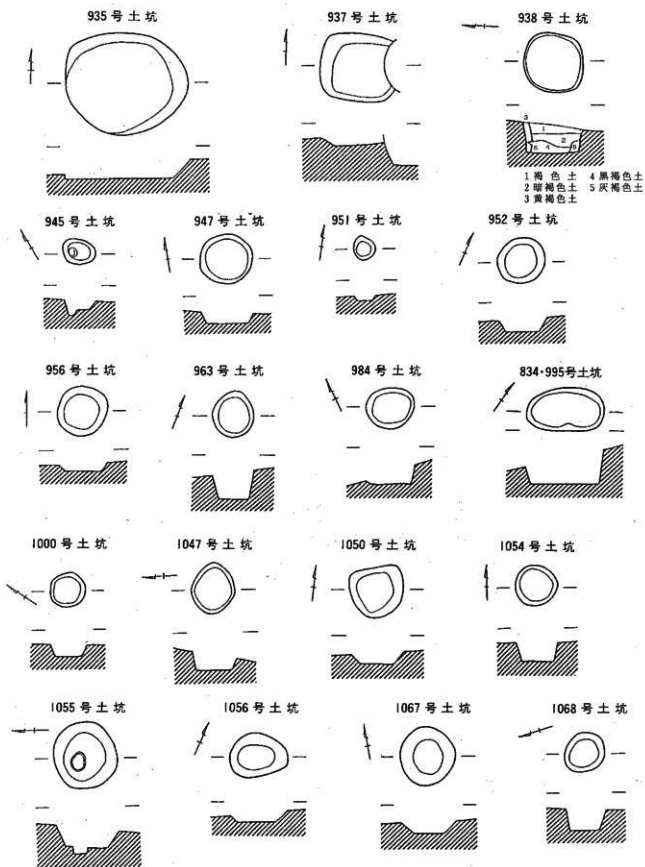
932号土坑



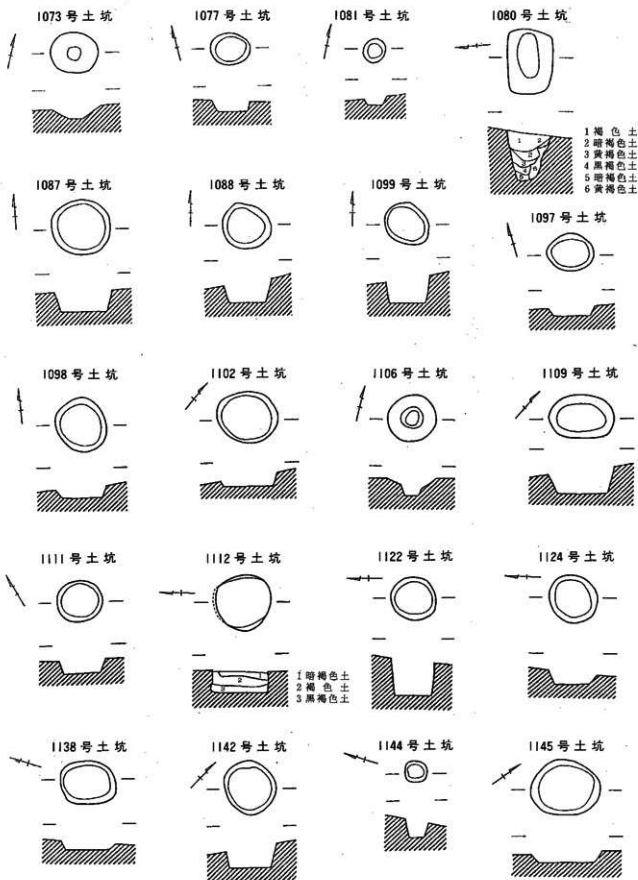
936号土坑



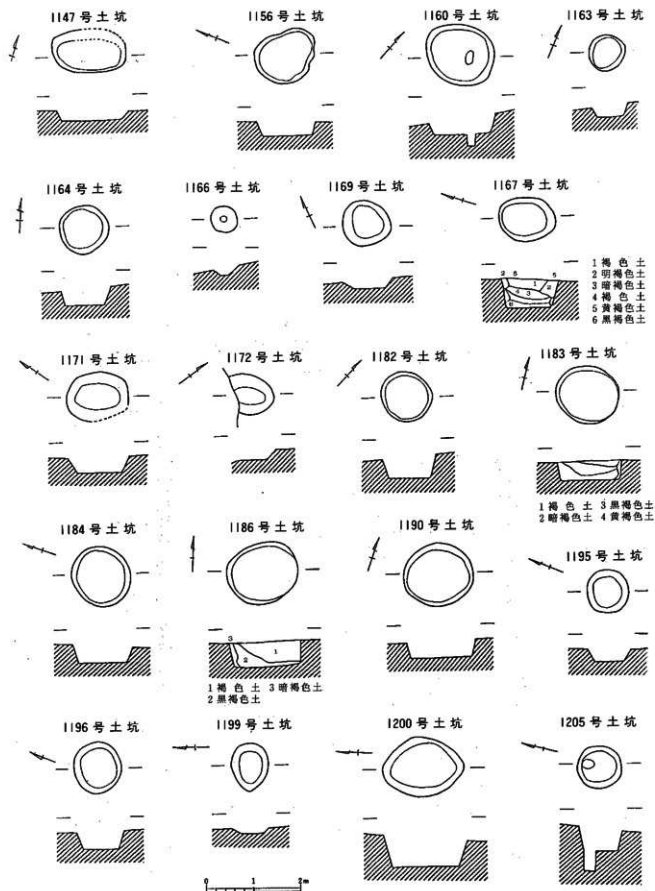
第48图 土坑 7



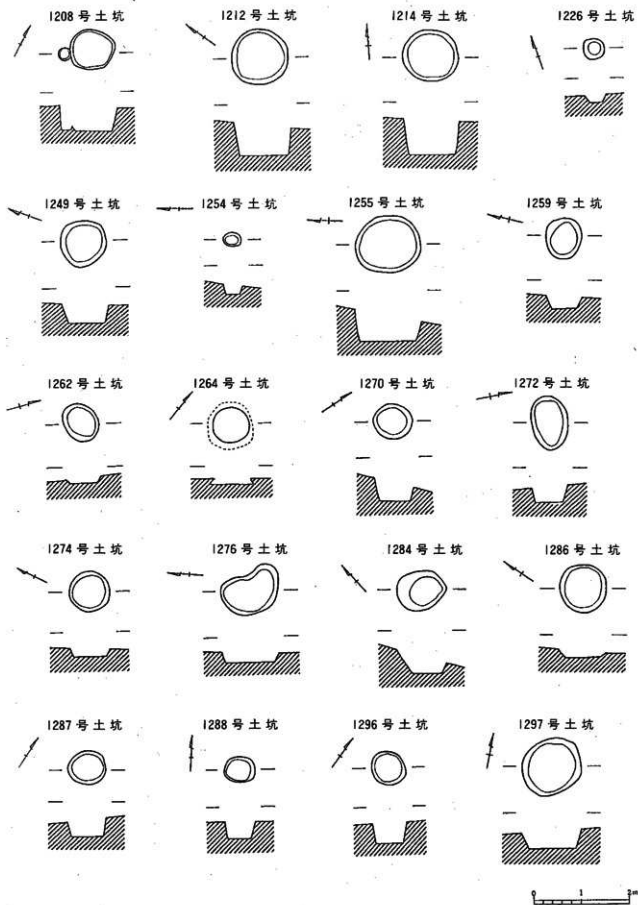
第49图 土坑 8



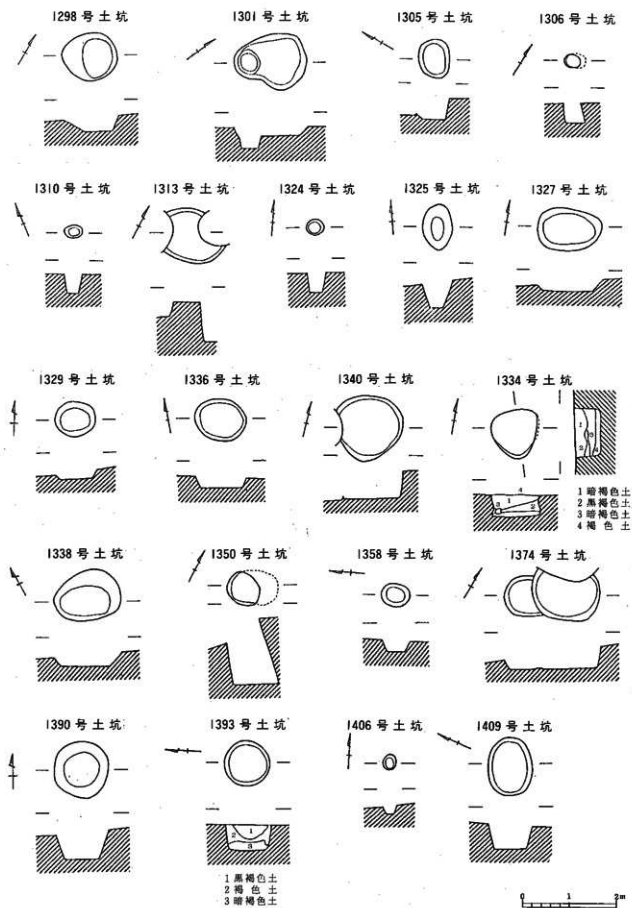
第50图 土坑 9



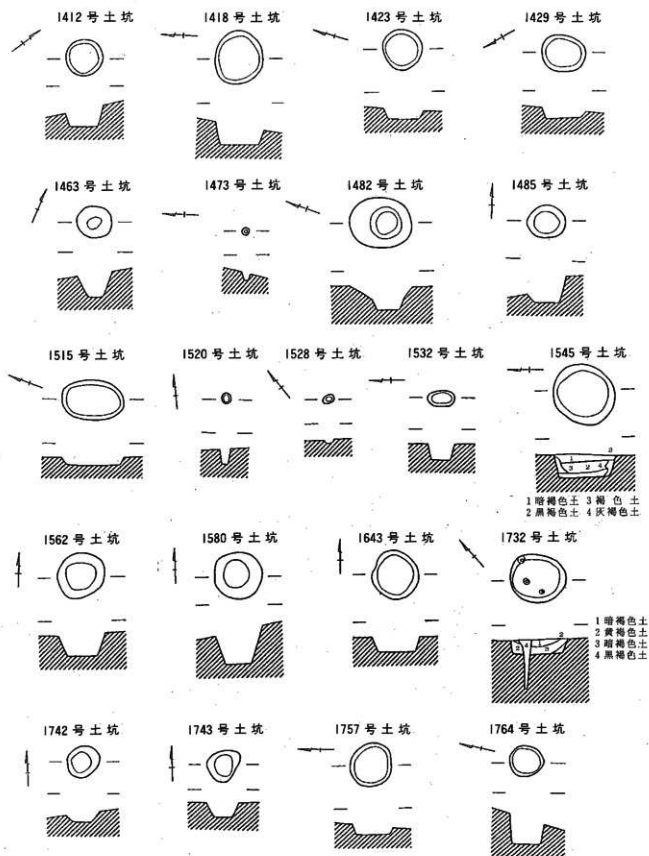
第51图 土坑 10



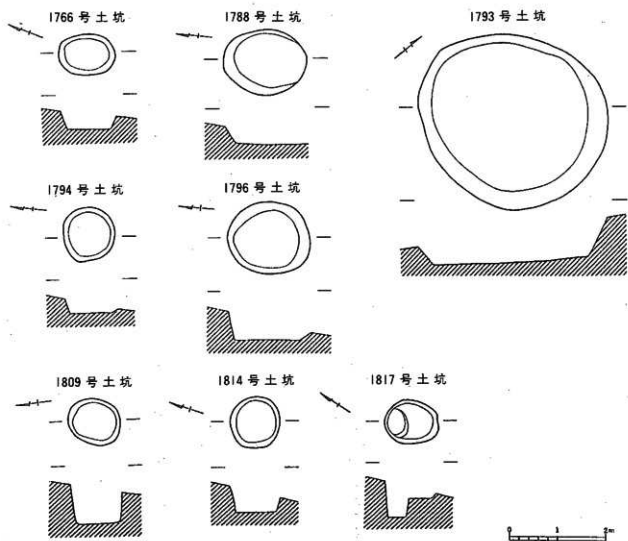
第52图 土坑 11



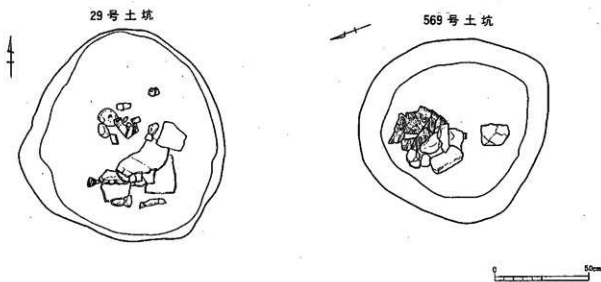
第53图 土坑 12



第54图 土坑 13



土坑遺物出土狀況



第55圖 土坑 14

女夫山ノ神遺跡土坑一覽表

(出土遺物の詳細は、石器一覽表に附録など記載してある)

土坑No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
4	120×100×55	楕円形	縄文前期土器数点	90	97×58×32	楕円形	縄文前期土器・石器
5	35×35×15	円形	礫	94	150×55×75	溝状楕円形	縄文土器
6	100×93×62	楕円形	縄文前期土器・石器	95	120×98×57	楕円形	縄文土器
7	83×75×33	楕円形	縄文前期土器・礫	96	85×78×52	楕円形	
10	60×52×92	楕円形		97	68×55×78	楕円形	縄文前期土器多数
11	115×102×23	楕円形	縄文前期土器・礫	99	47×45×17	楕円形	縄文土器
13	118×105×28	楕円形	縄文前期土器・礫	102	75×65×27	楕円形	
14	110×92×28	楕円形	縄文土器・礫	103	(60)×67×20	楕円形	縄文土器
15	80×75×13	楕円形		104	140×132×63	楕円形	
16	107×80×28	楕円形	縄文前期土器・礫	105	78×55×19	楕円形	縄文土器
17	38×35×19	楕円形		108	115×50×36	楕円形	縄文土器
18	168×106×30	楕円形	縄文前期土器	109	110×97×22	楕円形	縄文前期土器
20	115×102×23	楕円形	縄文土器・礫	110	70×60×14	楕円形	縄文前期土器
21	155×102×23	楕円形	縄文土器多数・石器・礫	111	80×65×30	楕円形	
22	100×95×32.5	楕円形		112	25×25×17	円形	縄文土器
23	85×73×22.5	楕円形	縄文前期土器・礫	113	45×42×14	円形	縄文土器
24	95×90×27.5	楕円形	礫	114	102×85×31	不整形	縄文土器
25	100×95×27.5	楕円形	縄文前期土器・石器	115	175×140×19	楕円形	縄文土器
26	93×85×37.5	楕円形	縄文前期土器多数・礫	116	105×100×58	隅丸方形	縄文前期土器多数
27	100×55×33	長楕円形	縄文土器	117	105×85×15	楕円形	
29	115×95×76	楕円形	縄文前期土器一括出土	118	30×28×22	楕円形	縄文土器
30	86×85×37.5	円形	縄文土器	121	68×63×27	楕円形	縄文土器
32	55×50×28	楕円形	縄文土器・礫	122	54×47×16	楕円形	縄文前期土器
33	112×110×30	楕円形	縄文土器・礫	128	65×58×29	楕円形	
34	145×130×37	楕円形	縄文土器多数・礫	129	38×37×24	円形	縄文前期土器
37	100×773×35	楕円形		130	27×27×13	楕円形	
38	110×104×31	円形	縄文土器	132	120×115×41.5	楕円形	縄文前期土器多数
41	53×42×28	楕円形		136	28×25×41.5	円形	
43	150×90×35	ひょうたん形	縄文前期土器多数・礫	137	28×28×25	楕円形	
45	106×70×52	楕円形	縄文土器・礫	142	35×33×47	楕円形	
46	170×160×55	楕円形	縄文前期土器多数	144	112×10×55	楕円形	縄文土器
47	125×115×32	楕円形	縄文前期土器・礫	147	50×48×22	楕円形	縄文前期土器
48	137×(90)×38	楕円形	縄文土器・石器・礫	148	55×48×19	楕円形	縄文土器
49	40×28×57	楕円形	縄文土器	151	55×45×13	楕円形	縄文土器
51	100×95×43	楕円形	縄文土器多数	152	90×50×56	楕円形	
52	110×108×19	円形	縄文前期土器	153	40×35×16	楕円形	縄文前期土器
53	102×93×39	楕円形	縄文土器・礫	154	110×94×59	楕円形	縄文土器多数・石器・礫
54	117×60×31	楕円形	縄文土器・石器	155	166×124×20	ひょうたん形	縄文土器多数・石器・礫
55	105×95×44	楕円形	縄文土器・石器・礫	156	25×20×22	楕円形	縄文前期土器
57	(110)×90×36	楕円形		158	(60)×80×17	(楕円形)	縄文前期土器多数
58	90×72×22	楕円形	縄文前期土器・礫	160	70×65×18	楕円形	縄文土器
62	110×106×62	円形	縄文前期土器	162	72×67×17	不整形	縄文前期土器
65	100×94×28	円形	縄文前期土器・石器	165	50×45×8	楕円形	
68	70×65×17	円形	縄文土器	166	82×55×37	楕円形	縄文土器
69	50×42×19	不整形		167	70×60×19	楕円形	縄文土器
70	90×88×17	隅丸方形	縄文土器	168	95×85×28	楕円形	縄文前期土器
71	160×90×31	長楕円形		169	57×50×28	楕円形	
76	135×125×41	楕円形	縄文前期土器・石器・礫	175	95×95×20	円形	
84	25×25×17	楕円形		177	35×25×19	楕円形	

土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
180	130×90×28	楕円形	縄文土器	276	40×35×17	楕円形	
182	85×67×24	楕円形	縄文土器	277	122×90×27	楕円形	
183	85×80×25	円形		279	110×88×26	不整形	縄文土器
184	110×95×23	楕円形		281	(65)×67×14	不整形	縄文前期土器
185	30×25×20	楕円形		282	80×43×25	楕円形	
186	110×108×29	楕円形	縄文土器	283	80×50×13	楕円形	縄文土器
187	100×65×20	楕円形		284	(105)×105×26	楕円形	縄文前期土器
189	50×45×12	円形		285	190×95×?	不整形	縄文土器
194	35×30×16	円形	縄文前期土器	286	85×74×28	楕円形	縄文前期土器
196	28×26×17	円形		288	118×111×?	楕円形	
197	125×95×28	楕円形	縄文土器・石器	289	156×102×?	楕円形	縄文土器
199	55×40×38	楕円形		290	158×112×14	不整形	縄文土器
200	72×65×17	楕円形		292	77×70×20	楕円形	縄文前期土器
203	25×25×21	円形		293	(70)×83×18	(楕円形)	
205	20×17×22	円形		294	118×96×33	楕円形	縄文前期土器
206	20×18×13	楕円形		295	60×55×15	楕円形	縄文土器
208	123×110×56	楕円形		296	58×40×17	楕円形	
210	(75)×80×31	楕円形		297	33×33×39	円形	
211	75×63×31	楕円形		298	115×80×23	不整形	縄文土器
214	102×89×40	楕円形	縄文前期土器・石器	299	57×50×12	楕円形	
216	64×55×23	楕円形		300	40×35×15	楕円形	
218	28×28×20	円形		301	142×116×39	楕円形	縄文土器
219	122×120×35	円形	縄文前期土器	303	150×110×32.5	長楕円形	縄文前期土器
220	87×55×34	楕円形		305	33×33×24	円形	
221	80×63×32	楕円形		308	55×55×12	円形	
222	88×65×34	楕円形	縄文前期土器	309	75×75×26	円形	
223	50×47×30	楕円形	縄文前期土器	310	30×20×15	楕円形	
224	55×48×25	楕円形		311	35×22×20	楕円形	
225	75×75×22	円形	縄文土器多数	312	70×50×45	円形	縄文土器
227	105×90×21	楕円形	縄文土器多数	313	(30)×85×?	楕円形	縄文前期土器
228	85×65×18	楕円形	縄文土器・石器	314	70×70×22	円形	縄文土器
230	30×30×21	円形		315	95×80×21	楕円形	
232	52×38×16	楕円形		316	35×35×33	不整形	
234	110×80×49	ひょうたん形		318	200×100×22	不整形	縄文土器
238	65×(50)×16	楕円形	縄文前期土器	319	95×84×17.5	楕円形	
239	215×123×33	長楕円形	縄文土器	320	40×30×?	楕円形	
240	120×90×61	楕円形	縄文前期土器	321	40×32×?	楕円形	
241	80×68×21	不整形	縄文土器・石器	323	45×42×21.5	楕円形	縄文土器
242	32×30×17	楕円形	縄文土器	324	55×(45)×18	楕円形	
246	65×62×44	円形		325	110×65×15	長楕円形	
247	56×55×39.6	円形		326	105×95×17	楕円形	
250	75×70×24	楕円形	縄文前期土器	327	50×45×?	楕円形	
254	75×72×20	円形		328	75×66×22	楕円形	
255	80×50×25	ひょうたん形		330	110×85×16	楕円形	
256	52×45×90	楕円形	縄文前期土器・礫	331	(85)×75×22	不整形	
257	55×48×21	楕円形		332	75×65×14	不整形	
258	15×12×53	楕円形		333	70×60×18	楕円形	
260	70×55×15	隅丸方形		334	96×88×22	楕円形	
262	60×55×14	方形		336	43×32×15	楕円形	
265	110×100×20	楕円形		337	65×40×?	長楕円形	
274	63×50×21	楕円形		338	90×55×?	長楕円形	
275	120×106×?	楕円形	縄文前期土器多数	339	30×25×11	楕円形	

土坑 No	規模 (cm) 長×短×深	平面形	出土遺物	土坑 No	規模 (cm) 長×短×深	平面形	出土遺物
340	165×95×?	不整形		422	132×90×?	不整形	縄文前期土器
341	95×55×22	楕円形		423	137×90×?	楕円形	
342	112×100×38.5	楕円形	縄文土器	425	60×55×20	楕円形	石器
343	55×50×(33)	楕円形	縄文土器・石器	426	130×66×?	長楕円形	縄文前期土器
344	60×48×?	楕円形	縄文土器・石器	427	110×100×19	楕円形	縄文土器
345	33×32×16	円形		428	93×66×38	不整形	縄文前期土器
346	80×65×13	不整形		429a	80×60×27	不整形	
347	72×70×23	隅丸方形		429b	80×65×?	楕円形	
348	60×50×?	楕円形		431	34×33×37.5	円形	
349	135×(70)×?	隅丸方形		432	108×90×?	不整形	縄文前期土器・石器
350	170×140×?	不整形	縄文土器	433	373×100×18	長楕円形	石器
362	23×22×32	円形	縄文前期土器	434	150×98×?	不整形	
364	27×25×19	円形		436	60×48×44	楕円形	
365	58×50×18	楕円形	縄文土器	437	110×98×39	楕円形	縄文前期土器・石器
368	35×30×21	楕円形		438			(433, 444, 441と一緒、計測433)
369	33×30×10	円形		439	88×50×?	楕円形	
371	80×74×19	楕円形		440	60×55×12	隅丸方形	縄文前期土器・石器
374	62×59×10	円形		442	115×95×43	不整形	縄文前期土器
376	48×45×7.5	円形		443	75×67×?	楕円形	縄文前期土器
378	34×34×13	円形		445	85×67×19	楕円形	石器
379	72×68×19	楕円形	縄文土器	446	262×147×20	楕円形	縄文前期土器・石器
380	90×50×17	不整形		451	30×30×?	円形	
381	110×95×16	円形		452	100×79×10	楕円形	縄文前期土器
382	115×80×?	不整形	集石3	453	75×75×25	ハート形	
383	65×55×11.5	楕円形		457	95×80×17	楕円形	
384	150×130×20	不整形	縄文前期土器	462	108×96×40	楕円形	縄文前期土器
386	70×65×?	円形		465	257×115×?	不整形	縄文前期土器・石器
388	130×120×27	台形	縄文前期土器	466	45×43×?	円形	縄文土器
389	105×90×31	楕円形		467	112×90×?	楕円形	縄文前期土器
390	190×170×33	楕円形	縄文前期土器	470	105×87×21	楕円形	縄文前期土器
395	145×120×22	不整形		472	77×66×26	楕円形	縄文土器
397	45×40×20	楕円形		474	(95)×91×11	不整形	
398	45×30×17	楕円形		475	245×175×26	円形	縄文前期土器・石器
399	200×105×26	長楕円形		476	32×28×37	円形	
400	110×85×23	楕円形		480	80×60×13	楕円形	
401	140×95×23	不整形		481	155×140×24	不整形	縄文土器・石器
402	87×70×15	楕円形		483	27×26×14	円形	
403	85×65×20	楕円形		484	45×70×23	不整形	
404	75×75×22	円形		486	(60)×70×?	楕円形	
407	76×56×20	楕円形		488	45×43×?	楕円形	
408	75×45×24	楕円形		489			(414と一緒、計測は414)
411	(60)×58×?	(楕円形)		490	87×85×2L.5	円形	縄文土器・石器
412	80×70×15	隅丸方形		491	110×90×32	楕円形	縄文土器
413	87×65×20	楕円形		492			石器(416と一緒、計測は416)
414	108×90×25	楕円形	縄文前期土器	493	137×113×2L.5	不整形	縄文土器
415	85×85×25.5	円形		494	60×47×13	台形	石器
416	250×160×28	不整形		495	85×85×30	不整形	
417	80×65×23	楕円形		496	90×88×2L.5	円形	
418	70×62×18	楕円形		497	66×60×19	楕円形	
419	75×70×?	楕円形		500	180×106×20	不整形	縄文前期土器
420	113×75×42	楕円形	縄文前期土器	502	185×115×20	不整形	縄文前期土器
421	107×95×?	楕円形		505	20×18×13	楕円形	

土坑 №	規模 (cm)		平面形	出土遺物
	長軸×短軸×深さ	深さ		
510	104×102×68		円形	縄文前期土器
511	195×145×?		楕円形	
515	85×60×?		楕円形	縄文前期土器
516	97×60×?		楕円形	縄文土器
519	79×67×20		楕円形	縄文土器
520	104×90×?		ハート形	
521	32×30×24		楕円形	縄文土器
529	50×40×?		楕円形	縄文土器
531	72×60×?		楕円形	
533	70×68×17		楕円形	
534	98×54×18		不整形	
535	98×75×24		不整形	
537	80×65×25		台形	縄文土器
542	180×130×30		不整形	縄文前期土器
543	86×48×20		楕円形	縄文土器・石器
544	181×120×43		不整形	縄文前期土器
545	75×72×34		楕円形	
547	93×78×26		楕円形	
548	98×90×23		楕円形	縄文前期土器
549	75×40×?		楕円形	石器
550	60×50×37		長方形	
552	120×105×?		楕円形	縄文土器
553	37×35×11		楕円形	
554	115×110×23		楕円形	縄文前期土器
557	110×90×30		不整形	縄文前期土器
558	85×75×18		楕円形	縄文前期土器多数
561	42×40×11		楕円形	
565	115×97×40		円形	縄文土器・石器
566	77×55×123		楕円形	
567	85×85×19		楕円形	縄文土器
568	85×78×26		楕円形	
569	100×98×42		円形	縄文前期土器・石器
570	105×95×39		楕円形	縄文土器・石器
571	110×95×37		楕円形	縄文前期土器
574	115×95×68		楕円形	縄文土器
575	90×85×41		円形	縄文前期土器・石器
576	148×95×30		隅丸方形	石器
577	55×42×11		楕円形	
580	92×90×59		楕円形	縄文土器・石器
581a	85×83×29		楕円形	縄文土器
581d	70×70×23		円形	縄文土器
583	100×98×36.5		楕円形	縄文土器・石器
584	122×110×49		楕円形	縄文土器・石器
585	215×210×39		不整形	縄文土器
586	100×90×79		楕円形	
588	87×82×27.5		楕円形	
589	80×78×19.5		円形	縄文土器
591	100×95×63.5		円形	縄文土器
592	94×94×58.5		円形	縄文土器
593	75×72×93		円形	縄文土器・石器
596	110×78×37.5		隅丸方形	縄文前期土器多数
597	165×118×46		隅丸方形	縄文土器

土坑 №	規模 (cm)		平面形	出土遺物
	長軸×短軸×深さ	深さ		
599	95×90×27.5		楕円形	
600	130×120×31		楕円形	縄文前期土器
601	97×90×82		楕円形	縄文前期土器
602	75×62×13		隅丸方形	
603	93×90×29		円形	
604	40×27×15		楕円形	
605	100×70×67.5		楕円形	縄文前期土器・石器
606	45×40×33		楕円形	
607	88×85×42		楕円形	縄文前期土器
608	110×80×36		楕円形	縄文土器・石器
609	87×80×21		楕円形	
613	90×65×27		楕円形	縄文前期土器
614	105×85×49		楕円形	
615	38×34×5		楕円形	
616	115×95×28		楕円形	縄文前期土器
617	122×112×70		楕円形	縄文前期土器
619	55×30×14		楕円形	
622	75×70×25		楕円形	縄文土器
623	95×68×39		楕円形	縄文前期土器
625				(625, 645と一緒に、計測は645)
626	83×(50)×12		楕円形	縄文前期土器
627	105×90×32		楕円形	石器
629	44×34×40		楕円形	縄文土器
631				(625, 645と一緒に、計測は645)
636	65×45×14		楕円形	
640	74×60×?		楕円形	
643	110×78×19		楕円形	
644	87×78×41.5		楕円形	縄文土器
645	300×202×24		楕円形	
646	30×30×30		円形	縄文土器
650	60×50×15		楕円形	縄文土器
651	60×50×55		楕円形	
653				(850と同じ)
654	40×33×27		楕円形	
655				(664と同じ)
658	30×30×18		円形	縄文前期土器
659	20×15×7		楕円形	
663				(512, 665と同じ)
664	220×140×15		不整形	
665	20×15×39		楕円形	
666	25×20×32		楕円形	
670	40×32×50		楕円形	
673	232×17×10		楕円形	
674	115×75×48		楕円形	
676	25×23×16		円形	
677	32×32×21		台形	
679	28×22×19		楕円形	
681	20×18×13		楕円形	
684	20×17×21		楕円形	
685				(712と同じか?)
687	90×75×26		楕円形	縄文前期土器
688	62×62×16		楕円形	縄文前期土器

土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
689	150×145×100	楕円形	前期縄文土器・石器	771	70×45×56	楕円形	
690	104×93×23	円形		773	75×55×59	楕円形	縄文土器
695	73×60×18	楕円形		779	95×90×35	楕円形	縄文前期土器
696	(60)×85×28	不整形		780	115×100×39	楕円形	縄文前期土器
697	(65)×75×13	(楕円形)		781	117×85×52	楕円形	縄文前期土器
698	125×103×50	ひょうたん形	縄文土器	783	115×110×37	円形	縄文土器
701	95×75×32	楕円形	縄文前期土器	786	125×112×34	楕円形	縄文前期土器・石器
702	130×110×39	楕円形		787	100×92×31	楕円形	縄文前期土器
704	(70)×65×14	楕円形		788	175×135×17	楕円形	縄文前期土器多数
706	28×23×18	楕円形		790	117×110×50	楕円形	縄文前期土器・石器
707	130×100×23	楕円形		791	110×100×41	楕円形	縄文前期土器
708	22×20×12	楕円形		794	110×80×30	楕円形	縄文前期土器
710	18×15×12	楕円形	縄文前期土器	795	100×88×29	楕円形	縄文前期土器
711	155×140×90	楕円形	縄文土器	796	25×24×13	円形	
714	195×80×26	ひょうたん形		797	25×25×23	楕円形	
716	20×18×5	楕円形		800	85×82×28	楕円形	縄文土器・石器
720	115×85×32	楕円形		801	75×50×26	楕円形	縄文前期土器
723	130×100×31	楕円形	縄文土器	802	150×140×55	楕円形	縄文土器・石器
724	65×60×21	不整形		803	115×105×56	楕円形	縄文前期土器・石器
726	175×115×37	ひょうたん形	縄文前期土器	804	(90)×(50)×6	楕円形	縄文前期土器・石器
727	65×58×22	楕円形		808	80×62×48	楕円形	縄文土器
728	55×50×26	円形		811	132×105×27	楕円形	
729	100×80×31	楕円形		813	116×107×56	楕円形	
734	57×50×23	方形		814	(75)×110×20	(楕円形)	
735	30×18×46	楕円形	縄文後期土器	815	132×82×68	楕円形	縄文前期土器
737	105×100×33.5	円形	縄文土器	816	130×90×66	楕円形	縄文前期土器
738	95×93×28	円形	縄文土器	819	43×40×19.5	円形	
739	115×68×51	楕円形		820	118×85×26	楕円形	縄文前期土器多数・石器
740	85×65×18	楕円形	石器	822	115×90×54	楕円形	
741	95×80×30.5	楕円形	縄文前期土器・石器	823	45×40×16	楕円形	縄文土器
742	105×83×37	楕円形		824	(55)×75×30	(楕円形)	
744	143×130×52	不整形	縄文前期土器・石器	825	110×95×39	楕円形	縄文土器・石器
745	155×87×27	ひょうたん形	縄文土器	827	75×50×37	楕円形	縄文土器
750	77×47×20	楕円形		829	142×130×26	楕円形	縄文土器
751	140×105×34	楕円形		830	72×70×43	楕円形	縄文土器・石器
752	125×110×30	楕円形		833	100×90×30	楕円形	縄文前期土器
753	(220)×190×71	楕円形	縄文前期土器	834	165×90×56	長楕円形	石器
755	83×80×23	楕円形		835	65×45×35	楕円形	縄文前期土器・石器
756	132×85×52	不整形	縄文前期土器・石器	836	110×105×43	円形	縄文前期土器
758	275×180×33	楕円形	縄文前期土器・石器	838	140×138×80	楕円形	縄文前期土器・石器
759	(165)×157×?	(楕円形)		839	115×90×23.5	楕円形	
760	(70)×103×23.5	(楕円形)	縄文土器	840	(130)×90×47.5	楕円形	縄文前期土器
761	105×62×23.5	楕円形	縄文前期土器	841	135×124×56	楕円形	縄文前期土器
762	110×93×63	楕円形	縄文前期土器多数	844	130×95×46.5	楕円形	縄文土器
763	100×57×44.5	楕円形	縄文前期土器	846	105×102×28	円形	
764	(105)×95×23	(楕円形)	縄文前期土器	848	105×70×39	楕円形	
765	(100)×95×23	(楕円形)	縄文土器・石器	849	80×75×42	楕円形	
766	95×85×40	楕円形	縄文前期土器	850	110×90×27	楕円形	縄文前期土器
767	65×50×18	楕円形		854	65×60×11	楕円形	縄文土器
768	63×58×17	円形	縄文土器	856	50×48×12	楕円形	
769	115×105×27	楕円形	縄文前期土器	857	135×115×58	楕円形	縄文前期土器
770	95×95×38	楕円形	縄文前期土器	860	134×115×77	楕円形	縄文前期土器

土坑 No	規模 (cm) 長×短×深	平面形	出土遺物
862	75×60×20	橢圓形	繩文前期土器
863	70×68×24	円形	繩文前期土器
867	115×75×14	橢圓形	繩文前期土器
869	(87)×97×45	(橢圓形)	繩文前期土器
870	75×65×25	橢圓形	繩文前期土器
872	125×125×33	円形	繩文土器
873	95×75×85	橢圓形	繩文前期土器
874	120×105×41	橢圓形	繩文前期土器
877	50×33×17	橢圓形	繩文土器
881	180×92×67.5	長橢圓形	繩文土器
884	105×95×36	橢圓形	繩文前期土器
893	30×30×17	円形	繩文土器
894	40×32×14	橢圓形	繩文土器
896	55×40×20	橢圓形	繩文土器
899	45×35×19	橢圓形	繩文土器
900	80×75×37	橢圓形	繩文土器
901	92×92×52	橢圓形	繩文土器
902	85×72×36	円形	繩文土器
903	160×105×31	橢圓形	繩文土器
904	40×38×52	円形	繩文土器
905	92×85×14	円形	繩文土器
906	40×38×11	円形	繩文土器
908	30×30×26	円形	繩文土器
909	60×56×17	橢圓形	繩文前期土器
911	30×30×79	円形	繩文土器
914	100×97×12	橢圓形	繩文土器
915	307×28×42	橢圓形	繩文土器
916	70×70×22	円形	繩文土器
917	120×90×33	橢圓形	繩文土器
923	35×(25)×42	(橢圓形)	繩文土器
924	85×80×41	橢圓形	繩文前期土器
926	115×85×49	橢圓形	繩文前期土器・石器
929	90×88×43	円形	繩文前期土器
930	105×62×31	橢圓形	繩文前期土器
932	115×100×59	橢圓形	繩文前期土器
933	120×105×49	橢圓形	繩文土器・石器
935	260×225×49	橢圓形	繩文前期土器
937	(135)×100×18	橢圓形	繩文前期土器
938	82×75×63	円形	繩文前期土器・石器
953	90×75×34	橢圓形	繩文土器
945	70×52×32	橢圓形	繩文土器
946	90×75×25	橢圓形	繩文土器
947	110×110×21	円形	繩文前期土器・石器
949	138×125×37	橢圓形	繩文土器
950	60×60×53	橢圓形	繩文土器
951	50×45×9	橢圓形	繩文前期土器
952	105×100×30	円形	繩文前期土器
953	90×75×39	橢圓形	繩文土器
954	43×33×13	橢圓形	繩文土器
955	50×43×26	橢圓形	繩文土器

土坑 No	規模 (cm) 長×短×深	平面形	出土遺物
956	105×102×17	円形	繩文前期土器
957	150×135×18	橢圓形	繩文土器・石器
958	115×110×85	隅丸方形	繩文前期土器・石器
959	85×85×22	円形	繩文土器
961	60×58×84	橢圓形	繩文土器
963	100×89×62	橢圓形	繩文前期土器
964	60×43×33	橢圓形	繩文土器
969	117×95×63	隅丸方形	繩文前期土器・石器
971	85×45×62	円形	繩文土器
974	95×80×25	橢圓形	繩文前期土器
977	22×20×29	円形	繩文土器
979	112×95×118	橢圓形	繩文土器
980	72×60×20	橢圓形	石器
982	60×40×35.5	橢圓形	繩文土器
984	105×88×41	橢圓形	繩文土器
985	60×52×21	橢圓形	繩文土器
994	103×65×62	橢圓形	繩文土器
998	60×60×38	円形	繩文土器
999	103×100×35	円形	繩文土器・石器
1000	70×70×26	円形	繩文前期土器
1001	35×33×16	円形	繩文土器
1002	35×30×22	橢圓形	繩文土器
1005	57×51×12	橢圓形	繩文土器
1006	112×(72)×20	円形	繩文土器
1010	120×90×19	橢圓形	繩文土器
1015	1630×90×112	橢圓形	繩文前期土器
1016	110×95×25	橢圓形	繩文土器
1018	115×85×40	隅丸方形	繩文前期土器・石器
1019	100×75×119	橢圓形	繩文前期土器
1029	150×135×42	橢圓形	繩文土器
1031	70×45×44	橢圓形	繩文土器
1034	177×140×72	橢圓形	繩文土器・石器
1035	28×27×18	円形	繩文土器
1039	62×58×31.5	橢圓形	繩文土器
1040	18×18×15	円形	繩文土器
1041	32×30×31	橢圓形	繩文土器
1042	43×35×29	円形	繩文土器
1045	150×125×21	橢圓形	繩文土器
1047	110×95×40.5	橢圓形	繩文前期土器
1050	115×110×25.5	不整形	繩文前期土器・石器
1051	90×75×22	橢圓形	繩文土器
1052	105×102×22	円形	繩文土器
1053	115×100×29	橢圓形	繩文土器
1054	90×87×40	橢圓形	繩文前期土器
1055	143×132×44.5	橢圓形	繩文前期土器
1056	122×95×26	橢圓形	繩文前期土器
1057	100×77×25.5	橢圓形	繩文土器
1058	70×35×9.5	橢圓形	繩文土器
1060	110×80×18	橢圓形	繩文土器
1061	40×35×18	橢圓形	繩文土器
1062	135×110×26	橢圓形	繩文前期土器
1065	72×60×19.5	橢圓形	繩文土器

土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深	平面形	出土遺物	土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深	平面形	出土遺物
1066	105×92×26	橢圓形		1145	150×125×21	橢圓形	縄文前期土器・石器
1067	130×115×25	橢圓形	縄文前期土器	1146	95×80×33	橢圓形	
1068	90×82×26	橢圓形	縄文前期土器・石器	1147	160×95×20	橢圓形	縄文前期土器
1069	90×72×25	橢圓形		1149	37×33×15.5	橢圓形	
1073	100×90×20	橢圓形	縄文前期土器	1150	107×92×65	橢圓形	
1076	35×30×29	橢圓形		1151	55×45×12	橢圓形	
1077	82×70×21	橢圓形	縄文前期土器多数・石器	1153	30×30×46.5	円形	
1078	135×95×63	隅丸方形	縄文前期土器	1154	40×30×29.5	橢圓形	
1079	165×105×105	橢圓形	縄文前期土器	1155	72×60×11	橢圓形	
1080	140×95×106	隅丸方形	縄文前期土器	1156	132×115×37	不整形	縄文前期土器・石器
1081	55×47×14	橢圓形	縄文前期土器・石器	1157	37×25×13	橢圓形	
1083	90×75×22	橢圓形		1160	150×130×56	橢圓形	縄文前期土器・石器
1085	55×47×20	橢圓形		1162	25×20×?	橢圓形	縄文土器・石器
1087	120×115×45	円形	縄文前期土器多数	1163	80×75×21	橢圓形	縄文前期土器
1088	105×97×54.5	橢圓形	縄文前期土器	1164	110×105×70	橢圓形	縄文前期土器・石器
1089	130×100×87	橢圓形		1165	75×70×11	橢圓形	
1090	102×87×52	橢圓形	縄文前期土器・石器	1166	67×65×15	円形	縄文前期土器
1091	105×100×20	橢圓形	縄文土器・石器	1167	115×95×77.5	橢圓形	縄文前期土器
1093	177×80×36	不整形		1168	59×47×11	橢圓形	
1097	100×(75)×19	橢圓形	縄文前期土器	1169	100×100×16	橢圓形	縄文前期土器
1098	115×100×26	橢圓形	縄文前期土器多数	1170	135×95×33.5	橢圓形	縄文土器
1099	90×80×49	橢圓形	石器	1171	130×108×30.5	橢圓形	縄文前期土器・石器
1100	110×102×28	橢圓形	縄文前期土器	1172	(85)×85×26.5	(橢圓形)	縄文前期土器
1101	100×93×50	橢圓形	縄文前期土器	1174	78×73×16.5	橢圓形	
1102	125×110×30	橢圓形	縄文土器	1175	80×70×67	橢圓形	
1106	105×100×39	橢圓形	縄文前期土器多数	1176	150×147×58	橢圓形	縄文土器
1108	120×105×24	橢圓形	縄文土器	1177	50×35×101	橢圓形	
1109	133×92×41	橢圓形	縄文土器	1179	120×110×18	橢圓形	縄文土器
1111	94×89×34	円形	縄文前期土器	1182	110×105×48	円形	縄文前期土器
1112	120×118×51	橢圓形	縄文前期土器・石器	1183	130×125×35	円形	縄文前期土器
1113	42×38×50.5	円形		1184	133×120×40.5	橢圓形	縄文前期土器
1114	42×40×11	円形		1186	155×130×51.5	橢圓形	縄文前期土器
1121	80×67×19.5	橢圓形		1188	92×85×16.5	橢圓形	縄文前期土器
1122	95×90×82	橢圓形	縄文前期土器	1189	127×110×33.5	橢圓形	縄文前期土器
1124	07×98×30	橢圓形	縄文前期土器	1190	155×135×27.5	橢圓形	縄文前期土器
1126	45×43×5	橢圓形	縄文土器	1194	115×107×69	橢圓形	
1128	115×100×56.2	橢圓形	縄文土器	1195	95×87×24.5	円形	縄文前期土器
1129	30×30×13.5	円形		1196	110×98×55	橢圓形	縄文前期土器
1130	170×60×21	長橢圓形	縄文土器	1198	61×58×29	円形	縄文土器
1131	70×62×32	橢圓形	縄文土器	1199	103×80×9.5	橢圓形	縄文前期土器
1132	126×90×30	橢圓形		1200	175×130×70	橢圓形	縄文前期土器・石器
1133	40×33×14	橢圓形		1201	85×70×14	橢圓形	
1134	85×65×15	橢圓形		1203	20×20×28	円形	
1135	135×110×38.5	橢圓形		1204	22×18×14	橢圓形	
1136	30×28×21	橢圓形		1205	93×91×50.5	橢圓形	縄文前期土器
1137	98×78×17.5	橢圓形		1208	93×86×50	橢圓形	縄文前期土器・石器
1138	115×95×72	橢圓形	縄文前期土器・石器	1210	90×70×23	橢圓形	縄文前期土器
1139	33×30×14	橢圓形		1212	122×120×71	橢圓形	縄文前期土器・石器
1141	77×70×30	橢圓形	縄文土器	1214	125×110×71	橢圓形	縄文前期土器・石器
1142	112×110×55	円形	縄文前期土器・石器	1215	22×19×19	橢圓形	
1143	95×90×33	円形	縄文土器	1222	95×85×42	橢圓形	
1144	50×45×64	橢圓形	縄文前期土器	1228	105×100×24	橢圓形	

土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
1236	65×60×22	槽 円形		1327	147×90×41	槽 円形	縄文前期土器
1247	40×38×29	円形		1329	90×75×18	槽 円形	縄文前期土器
1249	98×97×42	槽 円形	縄文前期土器・石器	1330	65×51×23	槽 円形	
1254	35×30×25	槽 円形	縄文前期土器	1331	57×57×15	円形	縄文土器
1255	140×122×70	槽 円形	縄文前期土器・石器	1332	50×48×60	方形	
1256	90×70×31	槽 円形		1333	85×75×16	不整形	
1258	100×95×60	円形	縄文土器	1334	95×80×10	槽 円形	縄文土器
1259	90×75×28	槽 円形	縄文前期土器・石器	1335	80×72×36	槽 円形	
1262	80×75×18	槽 円形	縄文前期土器	1336	05×93×22	槽 円形	縄文前期土器
1264	75×75×50	円形	縄文前期土器	1337	50×47×17	円形	縄文前期土器・石器
1267	122×120×38	槽 円形	縄文土器	1338	143×107×17	槽 円形	縄文前期土器
1268	45×40×29	槽 円形		1339	45×30×38	槽 円形	
1270	80×78×40	円形	縄文前期土器	1340	143×(125)×59	(槽)円形	縄文前期土器
1272	115×75×44	槽 円形	縄文前期土器	1341	75×70×19	槽 円形	
1274	85×80×28.5	円形	縄文前期土器・石器	1342	85×67×23	槽 円形	
1276	130×85×25.5	不整形	縄文前期土器	1343	67×63×19	槽 円形	
1278	40×32×21	槽 円形		1344	55×45×15	槽 円形	
1281	30×25×58.5	槽 円形		1345	90×70×14	槽 円形	縄文土器
1284	105×90×48.5	槽 円形	縄文前期土器	1346	33×33×119	槽 円形	縄文土器
1285	78×73×26	槽 円形		1347	70×37×16	槽 円形	
1286	105×98×26.5	槽 円形	縄文前期土器	1348	30×24×35	槽 円形	
1287	82×75×40	槽 円形	縄文前期土器	1349	20×17×27	槽 円形	
1288	75×55×37.5	槽 円形	縄文前期土器	1350	85×65×136	槽 円形	縄文土器・石器
1289	(130)×(70)×55	槽 円形		1351	35×30×29	槽 円形	
1290	127×120×22	槽 円形	縄文土器・石器	1352	50×43×48	槽 円形	
1291	75×73×28	円形		1355	28×26×28	槽 円形	
1292	90×85×20	槽 円形	縄文土器	1356	34×23×25	槽 円形	
1293	145×(87)×38	槽 円形	縄文前期土器	1357	75×62×15	槽 円形	
1295	55×50×17.5	円形		1358	63×50×34.5	槽 円形	縄文前期土器
1296	75×72×46	槽 円形	縄文前期土器	1359	70×60×23	槽 円形	
1297	135×115×41	槽 円形	縄文前期土器・石器	1360	30×20×39.5	槽 円形	縄文土器
1298	115×108×34	槽 円形	縄文前期土器多数	1361	97×85×27.5	槽 円形	縄文土器
1299	75×70×18	円形		1362	162×135×31.5	槽 円形	縄文土器
1301	157×122×48	不整形	縄文前期土器・石器	1363	35×30×19.5	槽 円形	
1302	130×105×37	槽 円形		1364	95×75×20	槽 円形	石器
1305	82×65×9	槽 円形	縄文前期土器	1365	40×40×21	円形	
1306	45×30×42	槽 円形	縄文土器・石器	1368	135×105×44.5	槽 円形	縄文土器
1310	45×30×41	槽 円形	縄文前期土器	1370	110×65×51.5	おぼろげな形	縄文土器
1311	32×27×38	槽 円形		1374	(65)×88×18	(槽)円形	縄文前期土器
1312	120×105×37	槽 円形		1376	113×88×25	槽 円形	縄文土器・石器
1313	(20)×115×2	槽 円形	縄文土器・石器	1377	60×42×16	槽 円形	縄文土器
1314	110×100×26	槽 円形	縄文土器	1378	55×35×15	槽 円形	縄文土器
1315	30×23×43	槽 円形		1379	35×32×21	円形	縄文土器
1316	165×83×34	おぼろげな形		1380	30×28×25	円形	縄文土器
1317	47×40×17.5	槽 円形		1381	27×24×13	槽 円形	縄文土器・石器
1318	35×32×15	円形		1382	253×166×52	不整形	
1319	97×85×8	槽 円形	縄文土器	1383	72×70×33	円形	
1320	(106)×90×23	槽 円形		1384	155×95×28	槽 円形	
1322	32×30×28	槽 円形		1385	125×115×55	不整形	
1323	50×50×42	円形		1387	130×95×30	槽 円形	
1324	35×35×45	円形	縄文前期土器	1389	237×153×49	槽 円形	
1325	95×60×61	槽 円形	縄文前期土器	1390	125×110×64	槽 円形	縄文前期

土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
1391	70×65×17	楕円形	縄文土器	1458	28×23×37	楕円形	
1392	35×35×23	円形	石器	1460	78×55×32	不整形	縄文土器
1393	100×92×64	円形	縄文前期土器	1461	75×60×20	楕円形	
1394	40×37×15	楕円形	縄文土器	1462	60×52×20	楕円形	
1395	70×67×33.5	楕円形	縄文土器	1463	74×65×49	楕円形	縄文土器
1396	60×50×10	不整形		1464	65×55×21	楕円形	
1397	2115×100×31.5	楕円形		1465	65×50×12	楕円形	
1398	48×48×19.5	円形		1466	47×40×14	楕円形	
1399	67×57×22	楕円形		1467	45×37×14	楕円形	
1400	65×55×27	楕円形	縄文土器	1468	68×57×27	楕円形	縄文土器
1401	75×70×23	楕円形		1469	87×78×21	楕円形	
1402	120×90×24	楕円形	縄文土器	1473	20×17×21	楕円形	
1404	105×90×18.5	楕円形		1474	15×13×19	楕円形	縄文前期土器・石器
1405	155×122×43.5	楕円形		1475	90×67×36	楕円形	
1406	32×27×15	楕円形	縄文前期土器	1476	65×50×13	楕円形	
1407	35×35×11.5	円形		1477	060×115×43	楕円形	
1409	125×95×56.5	楕円形	縄文前期土器・石器	1479	22×20×9	楕円形	
1412	83×80×50	楕円形	縄文前期土器・石器	1480	17×15×8	楕円形	
1413	100×(63)×?	楕円形	縄文前期土器	1481	25×25×13	楕円形	
1414	110×85×26	楕円形		1482	135×112×44	楕円形	縄文前期土器
1417	72×72×9	円形		1484	140×125×52	楕円形	
1418	117×100×25	楕円形	縄文前期土器・石器	1485	85×72×57	楕円形	縄文前期土器
1420	55×55×25	円形		1486	02×75×27	楕円形	
1422	85×80×27	円形		1487	20×16×11	楕円形	
1423	90×85×24	円形	縄文前期土器	1488	28×22×24	楕円形	
1424	(50)×105×28	不整形	縄文土器	1489	115×75×22	楕円形	
1426	45×35×16	楕円形		1490	95×85×26	隅丸方形	
1427	155×98×26	ひょうたん形	縄文土器	1491	100×88×28	楕円形	
1428	130×75×31	楕円形	縄文土器	1492	110×60×35.5	長楕円形	
1429	85×75×24	楕円形	縄文前期土器	1493	180×95×36	不整形	縄文土器
1430	37×35×19	円形		1494	115×100×31.5	楕円形	
1432	38×38×22	円形		1495	160×105×47	ひょうたん形	
1433	168×100×25	楕円形		1498	107×92×41	楕円形	
1434	65×62×27	楕円形		1499	55×50×27	楕円形	
1435	38×38×12	円形		1500	90×770×35	楕円形	
1436	177×(91)×27	楕円形	縄文前期土器・礫	1501	25×17×17	楕円形	
1437	158×100×27	楕円形	縄文前期土器・礫	1502	40×35×14	楕円形	
1438	75×50×25	不整形	縄文土器	1503	43×32×14	楕円形	
1439	55×40×12	楕円形	縄文土器	1504	30×20×15	楕円形	
1441	67×65×16	円形		1510	100×55×21	楕円形	
1442	70×60×12	隅丸方形	縄文土器	1512	28×25×28	楕円形	
1443	70×63×17	円形	縄文土器	1513	25×23×33.5	円形	
1444	65×53×14	楕円形		1515	132×85×27	長楕円形	縄文前期土器
1445	33×30×12	円形		1517	45×40×15	楕円形	
1447	40×40×10	円形		1520	20×20×29	円形	縄文前期土器多数
1448	35×34×14	円形	縄文土器	1521	38×30×25	楕円形	
1449	120×72×40	不整形		1522	40×33×15	楕円形	
1453	43×38×12	楕円形	縄文土器	1523	30×30×17	円形	
1454	65×57×24	円形		1524	35×30×32	楕円形	
1455	60×50×11	楕円形		1525	55×55×19	楕円形	
1456	65×52×16	楕円形	石器	1526	32×28×20	楕円形	
1457	40×35×13	楕円形	縄文土器	1527	35×35×19	楕円形	

土坑 No.	規模 (cm)		平面形	出土遺物	土坑 No.	規模 (cm)		平面形	出土遺物
	長軸×短軸×深さ	×深さ				長軸×短軸×深さ	×深さ		
1528	25×18×17		橢円形	縄文前期土器	1590	112×98×24		橢円形	縄文土器
1529	53×48×33		橢円形		1591	42×40×13		橢円形	
1530	25×22×24		橢円形		1592	100×98×24		橢円形	縄文前期土器
1531	60×40×65		橢円形		1593	55×45×28		橢円形	
1532	55×34×33		橢円形	縄文前期土器	1594	70×65×29		橢円形	
1533	42×40×17		円形		1595	45×40×15		橢円形	
1534	30×28×15.5		橢円形		1596	85×50×5		橢円形	
1535	50×43×16		橢円形		1597	105×98×47		橢円形	
1536	23×23×10		円形		1598	40×40×14		円形	
1537	30×28×23		橢円形		1600	40×33×30		橢円形	
1538	77×60×18		橢円形		1601	37×35×18		橢円形	
1539	55×30×11.5		橢円形		1602	40×28×19.5		橢円形	
1540	50×50×20		円形		1603	40×35×31		橢円形	
1541	75×68×16		円形		1604	45×43×22.5		円形	
1543	(78)×92×28		(円形)		1605	25×20×14		橢円形	
1544	60×60×18		円形		1606	45×40×25		橢円形	
1545	137×122×569		橢円形	縄文前期土器	1607	30×25×23		橢円形	
1546	90×65×28		長方形		1608	60×55×21		橢円形	
1547	90×85×22		円形		1609	45×33×22		橢円形	
1548	70×33×16		長橢円形		1610	45×42×19		円形	
1549	23×22×21		円形		1611	28×27×47		橢円形	
1550	55×43×72		橢円形		1612	43×33×82		隅丸方形	縄文土器
1551	75×35×34		橢円形		1613	30×23×29		橢円形	
1552	28×25×22		円形		1614	38×32×50		橢円形	
1553	35×30×14		橢円形	縄文土器	1615	47×28×56		橢円形	
1555	150×135×72		橢円形		1616	21×19×20		橢円形	
1557	60×52×31		橢円形		1617	20×20×34		円形	
1559	110×90×29		橢円形		1618	20×18×13		円形	
1560	55×40×37		橢円形		1619	30×28×17		円形	
1561	40×30×17		橢円形		1620	50×35×13		橢円形	
1562	106×97×46		橢円形	縄文前期土器	1621	34×32×17.5		円形	
1563	70×65×29		円形		1622	22×20×16.5		橢円形	
1564	135×(95)×25		橢円形		1623	68×60×18.5		橢円形	
1565	100×(85)×31		橢円形		1624	135×112×19.5		橢円形	
1566	103×80×29.5		隅丸方形		1625	80×72×39		橢円形	
1568	103×95×31		橢円形	縄文前期土器	1626	30×25×27		橢円形	
1569	120×110×18		橢円形		1627	68×68×13		円形	
1570	150×88×54		長方形		1628	45×32×28		橢円形	
1573	80×72×21		橢円形		1629	55×40×36		橢円形	
1575	40×30×35		ひょうたん形		1630	32×31×41		橢円形	
1576	33×25×58		橢円形		1631	28×24×36		台形	
1577	115×90×32		橢円形		1636	150×145×?		円形	縄文前期土器
1580	107×105×68		円形	縄文前期土器	1643	102×96×30		円形	縄文前期土器多数・石器
1581	38×35×53		橢円形		1644	125×85×5		橢円形	
1582	70×67×42		橢円形		1645	60×52×17.5		橢円形	
1583	40×40×14		円形		1647	60×58×11		円形	
1584	47×42×29		橢円形		1648	64×45×18		橢円形	
1585	30×30×21		円形		1649	65×62×23		円形	
1586	110×68×18		橢円形		1650	56×56×24		円形	
1587	50×45×29		橢円形		1651	46×40×22.5		橢円形	
1588	60×52×20		橢円形		1652	50×45×27		橢円形	
1589	38×30×16		橢円形		1653	60×58×25		円形	

土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
1654	50×46×22	円形		1713	40×35×14	楕円形	
1655	70×62×33.5	楕円形		1714	30×29×9	円形	
1656	42×40×25	楕円形		1715	20×20×14	円形	
1657	40×38×16.5	円形		1716	30×25×47	楕円形	
1658	50×35×17.5	楕円形		1717	55×40×62	楕円形	
1659	32×30×7.5	円形		1718	35×35×67	円形	
1660	28×23×44	楕円形		1719	42×40×29	楕円形	
1661	70×40×7.5	不整形		1720	27×25×21	楕円形	
1662	25×20×56	楕円形		1721	18×18×14	円形	縄文土器
1663	42×37×18	楕円形		1722	(22)×23×13	円形	
1664	85×60×15	楕円形		1723	30×25×33	楕円形	
1665	52×45×16	楕円形		1724	28×27×14	円形	
1666	65×55×(23.5)	楕円形		1726	40×40×15	円形	
1667	65×55×30.5	楕円形		1727	56×53×15	楕円形	
1668	105×68×32.5	楕円形		1728	25×22×40	楕円形	
1669	135×100×37.5	楕円形		1729	22×20×15	楕円形	
1670	140×62×23	隅丸方形		1730	100×95×25	楕円形	
1671	64×80×36	楕円形		1731	28×25×12	楕円形	
1672	90×48×21	楕円形		1732	118×105×73	楕円形	縄文前期土器
1673	65×55×8.5	楕円形		1733	40×40×18	円形	
1674	65×55×11.5	楕円形		1734	45×40×73	楕円形	
1675	60×50×25	楕円形		1735	32×30×51	不整形	
1676	55×53×17.5	楕円形		1737	60×43×13	楕円形	
1677	82×60×24	楕円形		1738	37×28×16	隅丸方形	
1678	45×42×86	不整形		1739	40×40×58	円形	
1679	72×68×20	楕円形		1740	25×20×20	楕円形	縄文前期土器
1680	70×55×24	楕円形		1741	235×105×62	長楕円形	
1681	52×45×41	楕円形		1742	70×65×30	円形	縄文前期土器
1682	35×33×40.5	不整形		1743	73×60×32	楕円形	縄文前期土器多数
1683	40×35×15.5	楕円形		1744	63×40×88	楕円形	
1684	50×45×21.5	隅丸方形		1745	30×25×28	楕円形	
1685	30×25×9	楕円形		1746	50×48×18	円形	
1686	75×48×6.5	楕円形		1747	65×55×22	楕円形	
1687	80×80×19	円形		1748	43×32×16	楕円形	
1688	70×65×24	楕円形		1749	51×50×14	円形	
1689	31×24×20	楕円形		1751	115×78×16	楕円形	
1690	(40)×55×10	(楕円形)		1752	65×50×17	楕円形	
1692	28×25×17	楕円形		1753	80×65×17	不整形	
1697	32×30×13	円形		1755	80×68×16	楕円形	
1698	35×30×20	円形		1757	92×85×23	円形	縄文前期土器
1699	115×85×21	楕円形		1759	30×28×20	楕円形	
1700	165×140×35	楕円形		1760	25×22×14	楕円形	
1702	30×17×12	楕円形		1762	60×58×10	楕円形	
1703	70×59×34	隅丸方形		1763	115×100×25	楕円形	
1704	115×55×34	長楕円形		1764	70×63×68	楕円形	縄文前期土器多数
1705	103×72×26	不整形		1765	127×85×40.5	楕円形	
1706	40×38×19	楕円形		1766	115×87×83	楕円形	縄文前期土器
1708	100×95×22	楕円形		1767	153×110×33	楕円形	
1709	40×35×68	不整形		1768	70×57×33	楕円形	
1710	35×35×19	円形		1769	158×150×73	楕円形	
1711	33×30×38	楕円形		1770	50×35×26	楕円形	
1712	40×25×35	ひし形		1771	113×93×36	楕円形	縄文前期土器

土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物	土坑 No	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
1772	103×100×27	楕円形		1910	85×80×?	不整形	
1773	95×83×26	楕円形		1911	50×45×49.5	楕円形	
1774a	180×175×91	楕円形		1912	90×(65)×?	楕円形	(549号土坑に切られる)
1774b	190×175×?	楕円形		1913	65×25×?	長楕円形	
1776	45×43×40	楕円形		1914	75×73×?	楕円形	
1777	175×165×43	楕円形		1915	155×145×?	不整形	
1778	156×100×40	楕円形		1916	60×45×?	長方形	
1780	165×130×67	楕円形		1917	50×33×?	楕円形	
1781	80×75×26	楕円形		1918	(266)×156×?	長楕円形	
1783	90×85×27	円形		1919	25×20×11	楕円形	
1784	165×113×42	長楕円形	縄文土器	1920	33×25×15	楕円形	
1785	170×150×35	楕円形		1921	25×20×14	楕円形	
1786	100×95×40	楕円形	縄文土器・石器	1922	40×32×23	楕円形	
1787	105×100×34	円形	縄文土器・石器	1923	55×43×24	楕円形	
1788	235×125×51	長楕円形	縄文土器	1924	28×20×57	楕円形	
1790	215×145×103	不整形	縄文土器	1925	145×94×30	楕円形	
1791	150×148×69	円形		1926	60×60×12	円形	
1792	125×110×79	楕円形	縄文土器・石器	1927	32×25×41	楕円形	
1793	395×385×103	楕円形	縄文前期土器・石器	1928	30×20×33	楕円形	
1794	115×110×32	円形	縄文前期土器	1929	230×26×25	楕円形	
1795	92×60×29	楕円形	縄文土器	1930	(50)×43×20	楕円形	(122号土坑と切り合う)
1796	175×155×63	楕円形	縄文前期土器	1931	40×28×8	楕円形	
1799	70×65×22	楕円形		1932	45×42×14	円形	
1800	45×45×12	円形	縄文前期土器	1933	100×95×22	楕円形	
1801	90×90×21	円形		1934	75×57×20	楕円形	
1802	142×105×38	楕円形	縄文土器	1935	27×25×18	楕円形	
1804	145×130×46	楕円形	縄文土器	1936	40×35×16	楕円形	
1805	62×55×23	楕円形		1937	48×45×14	楕円形	
1806	150×132×55	隅丸方形		1938	70×53×31	楕円形	
1807	55×52×32	円形		1939	20×000×37	楕円形	(1078土坑に切られる)
1809	115×98×88	楕円形	縄文土器	1940	(30)×45×18	(楕円形)	
1810	100×95×43	ひょうたん形		1941	39×(28)×56	(楕円形)	
1811	(100)×140×37	(楕円形)		1942	(22)×22×56	楕円形	
1812	153×150×58	円形	縄文土器	1943	(130)×77×26	ひょうたん形	(714号土坑と切り合う)
1813	200×155×50	ひょうたん形		1944	(30)×65×3	(楕円形)	(1485号土坑に切られる)
1814	113×105×57	楕円形	縄文土器	1945	95×75×32	楕円形	
1815	108×100×121	楕円形	縄文前期土器・石器	1946	100×93×23	楕円形	
1816	110×87×29	楕円形		1947	31×25×41	楕円形	
1817	115×96×51	楕円形	縄文前期土器	1948	95×80×29	楕円形	
1818	50×43×66	不整形		1949	18×13×36	楕円形	
1819	65×55×52	楕円形		1950	15×15×39	円形	
1822	102×80×33	楕円形		1951	38×33×35	楕円形	
1900	55×53×?	楕円形		1952	110×100×42	楕円形	
1901	200×155×?	不整形		1953	25×20×?	楕円形	
1902	95×65×?	不整形		1954	107×82×26.5	楕円形	
1903	85×75×?	楕円形		1955	93×67×23.5	楕円形	
1904	115×105×?	楕円形		1956	90×70×21	楕円形	
1905	32×30×16	楕円形		1957	28×25×16	楕円形	
1906	50×50×16	楕円形		1958	117×105×30	楕円形	
1907	55×48×?	楕円形		1959	95×85×46	円形	(袋状土坑)
1908	125×90×?	楕円形		1960	30×30×14	円形	
1909	250×115×?	楕円形		1961	127×117×47	楕円形	

土坑 №	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	平面形	出土遺物
1962	80×68×42	槽円形	
1963	105×100×58.5	槽円形	
1964	45×40×27	槽円形	
1965	(90)×107×26	(槽円形)	
1966	37×(25)×17	槽円形	(1338号土坑に切られる)
1967	50×40×15	槽円形	
1968	110×100×49	槽円形	
1969	43×38×23.5	槽円形	
1970	94×88×53	槽円形	
1971	110×80×26.5	槽円形	
1972	142×85×86.5	槽円形	
1973	135×90×90	不整形	
1974	55×40×39.5	槽円形	
1975	30×25×38	槽円形	
1976	195×75×?	長槽円形	
1977	118×95×35	槽円形	
1978	115×90×25	槽円形	
1979	112×85×16	槽円形	
1980	115×110×53	槽円形	
1981	45×35×55	槽円形	
1982	25×20×69	槽円形	
1983	67×65×73	円形	
1984	45×35×29	槽円形	
1985	32×25×53	槽円形	
1986	45×43×58	槽円形	
1987	50×(40)×40	(槽円形)	(1986, 1988に切られる)
1988	92×(60)×37	不整形	(1986に切られる)
1989	75×65×26	槽円形	
1990	95×85×57	隅丸方形	
1991	105×70×22	長方形	
1992	155×125×101	槽円形	
1993	155×(115)×50	槽円形	
1994	73×70×77	円形	
1995	45×47×30.5	円形	
1996	65×60×23	槽円形	
1997	130×87×60	ひょうたん形	
1998	45×40×18	槽円形	
1999	140×127×55	槽円形	
2000	34×33×10	槽円形	

(2) 遺物

(1) 縄文前・中期の土器

女夫山ノ神遺跡からは25軒の縄文前期末～中期初頭の住居址と縄文中期後葉と平安時代の住居址が、それぞれ1軒検出されている。このうち25軒検出されている縄文前期末～中期初頭の大部分は前期末に比定されるもので、比較的短期間に営まれた集落であると言える。よって今回出土した土器も該期にあたるもので、これまであまりまとまった資料が少なかった時期にあたるため、今後の土器研究等に多大なる影響を与えることになろう。以下遺物のほとんど出なかった平安時代の1号住居を除き、住居址ごとに概観していきたい。ここでは、時期及び文様要素により次のとおり大きな分類をした。なお、複数の文様要素が重なるものについては、特徴的な文様要素で分類し、その他の要素については文章中に記述した。

第I群 縄文前期末に比定される土器(下島・暗ヶ峯式)

1類 浮線文や隆帯文により文様が構成される

a種 浮線の上に刻みがなされるもの(ヘラ切り浮線) b種 浮線の上に半截竹管の押し引きがなされるもの(結節浮線) c種 浮線の上に施文がないもの(素浮線) d種 隆帯上に押捺がなされるもの(押圧隆帯)

2類 沈線文により文様が構成される

a種 沈線の上に刻みがなされるもの(ヘラ切り沈線) b種 半截竹管により直接押し引きがなされるもの(結節沈線) c種 沈線のみ施文されるもの d種 幅広の沈線(凹線文)

3類 貼付文により文様が構成される

4類 印刻文により文様が構成される

a種 三角印刻文 b種 円形刺突文

5類 縄文により文様が構成される

第II群 縄文中期初頭に比定される土器(梨久保式)

1類 浮線により文様が構成される

2類 沈線により文様が構成される

3類 縄文により文様が構成される

① 第2号住居址(第74・75図)

すべてI群土器である。74図1～19は口縁部片で、3・7・11・13は波状口縁である。1～3は1類で、1はa種で縦線にヘラ切り浮線がみられ、地文に縄文が施される。2・3はb種で結節浮線が施される。2にはボタン状の貼付および沈線が、3には平行沈線がある。4～13・17は2類で、4～11・13は沈線のみが施され、5・6・8は矢羽状に9は格子状に10は渦巻状に描かれる。13は波頂部に小突起をもちレンズ状文が、17は凹線文が施される。12はb種で地文に沈線があり結節沈線が施され、口唇に刺突がみられる。14・16は5類で縄文が施される。15・18・19は4類で三角印刻文がみられる。15・19は地文に縄文が、18には結節沈線がみられる。

20～41は胴部片で、20～25・28は1類b種で結節浮線がみられる。このうち23・24・28は地文に沈線があり、28にはボタン状の貼付もみられる。26・27・29・30・33・35～41は2類で、27はa種でヘラ切り沈線が、26・29・30はb種で結節沈線が施文され、26は地文に縄文をもつ。31・32は4類で沈線とともに三角印刻文がみられる。

75図1～12は胴部片で、12は1類で地文の縄文上に素浮線がある。2・5～9は2類で9には凹線文がみられる。1・3・4は3類で矢羽縄文の上にボタン状貼付が施される。10・11は5類である。

13～16は底部付近の破片で、すべて沈線の上にボタン状の貼付がなされる。

② 第3号住居址(第75図)

すべてI群土器である。17～20は胴部片、21は底部片である。18・19・21は2類で、18は矢羽状に施文され、19は地文に縄文がみられる。17・20は3類で17は矢羽状文上にボタン状の貼付がなされ、20は沈線の上にボタン状貼付がみられる。

③ 第4号住居址(第75・76図)

I群土器に比定される。75図22～25は口縁部片で22・24は1類で、22は沈線上に結節浮線がみられ、口縁上部に刺突がある。24は地文の沈線上に素浮線が波状にみられる。23・25は2類で23は沈線および結節沈線があり、口唇上部にC字状の刺突がみられる。25は波状口縁の波頂部に小突起があり、レンズ状文が描かれると思われる。

26～30は胴部片で、26は1類で地文の矢羽状文上に結節浮線とボタン状貼付が施される。28・30は2類、27・29は3類で沈線の上にボタン状貼付がみられる。

75図31と76図1は底部片で、ともに縄文が施文され、31の下部には刺突がある。

④ 第5号住居址(第76図)

本址は過去に行われた松本深志高校の調査において、縄文中期後葉の住居址と確認されているため、紹介する資料は切り合い関係のある3号住の遺物である可能性があることを断わっておきたい。

今回報告した資料はすべてI群土器である。76図2～12は口縁部片である。2・4・5は1類で、5はa種で地文の矢羽状文上にヘラ切り浮線が施文され、ボタン状の貼付もみられる。2・4はb種で地文に沈線もち結節浮線とボタン状貼付が施されている。4は波状口縁である。3・6～9・11は2類で、3はb種で地文の矢羽状文上に縦位に結節沈線が施文され、ボタン状の貼付も付される。6～9・11はc種で8は矢羽状文が9はレンズ状文が施文され、11の波状口縁上には角状突起がみられる。10・12は4類で10は集合沈線上、12はLR縄文上に三角印刻文が施される。10は波状口縁である。

13～33は胴部片である。13～16・20・21は1類b種で、13～16は渦巻文が描かれる。13以外は地文に沈線がみられる。20にはボタン状貼付がなされる。23～28・30～32は2類で、23・27・30・31は矢羽状文が施文される。17～19・22は3類で矢羽状文上にボタン状貼付が施される。29は4類で三角印刻文と沈線が施文される。33は5類でRL縄文のみ施文される。

⑤ 第6号住居址(第66・77・78図)

I群土器である。66図1は3類の底部片でボタン状貼付がみられる。2は小形の台付土器で、脚部は欠損しており、胴中央に穿孔がみられる。文様は無い。

77図1～14は口縁部片で、1は1類a種で地文に矢羽状文がみられ、ボタン状貼付も付される。2～6は1類b種で地文の沈線上に結節浮線が施される。3・5にはボタン状貼付もみられる。6は波状口縁である。7～12・14は2類で14は口縁上部に結節沈線が施され、地文には縄文がみられる。9は矢羽状文、10はレンズ状文がみられる。

77図15～38は胴部片である。16・17・19・30は1類で、17はa種でヘラ切り浮線により渦巻文が描かれ、地文には沈線がみられる。16・19はb種で地文に矢羽状文をもち16にはボタン状貼付がある。30は数少ないc種で素浮線が施文される。15・20～29・31～35は2類で、15・20はb種で結節沈線が施され、地文に沈線がみられる。23・24・27～29は矢羽状文が、35は渦巻文が描かれる。18は3類でボタン状貼付がなされ、地文には矢羽状文がみられる。36・37は4類で三角印刻文が施文され、36には凹線文が、37には集合沈線がみられる。38は5類でRL縄文とLR縄文により羽状縄文が描かれる。

78図1～3も5類の胴部片で1・2は羽状縄文が描かれる。78図4・5は底部片で、5は2類で沈線のみが、4は3類で無節縄文上にボタン状貼付がされる。6は縄文が施文された薄手の土器で搬入品であろう。

⑥ 第7号住居址(第66・78～80図)

I群、II群両者の土器があり、中期初頭にあたるII群土器が比較的多くみられる。66図3・4はII群土器で、両者とも2類である。3は区画内に瓦状押し引きおよびヘラ切り沈線が充填される。5・6はI群土器の底部片で、沈線のみ施文される。

78図7～33は口縁部片で7～12・14・16・17・25～35はI群土器である。8は1類a種、7・10は1類b種で、ともにボタン状貼付がされ、地文には矢羽状文がみられる。7・10は波状口縁である。11・12・14・16・17・28は2類で、28はb種で屈曲部直下に結節沈線が施され、口唇部には縄文が施文される。地文にはRL縄文がある。11はレンズ状文が12・16には矢羽状文が施文される。14の口唇部には押捺がみられる。11・12は波状口縁である。9は三角印刻文が施文される4類である。25～27・29～33は5類で、縄文のみが施文される。

13・15・18～24はII群土器で、21・22は1類で格子目状文が施文され、口唇部に刻みがみられる。13・15・18・19～20・23・24は2類で口唇部に刻みをもっている。19・23は区画内にヘラ切り沈線が充填される。

78図34・35は胴部片で結節浮線が施される1類b種である。地文に沈線があり34にはボタン状貼付もみられる。

79図はすべて胴部片で、1～11・13・24・26・28・29はI群土器である。1・2は1類b種で1は渦巻文が描かれる。3～5・7～11・24・26・28・29は2類で、3・24は矢羽状文が7～9・29にはレンズ状文が描かれる。6は3類でボタン状貼付がされ、地文には矢羽状文がみられる。

14～23・25・27・30～36はII群土器である。36は地文に縄文があり、その上に沈線が施されている。その他は沈線、刺突、瓦状押し引文等により文様が構成される。14・16・31などは区画内にヘラ切り沈線が充填される。35は竹管による円形刺突がみられる。

80図1～12はI群の胴部片である。11・12は1類b種であり、地文に縄文がみられる。1～10は5類で1～3は燃糸文が4～10は縄文が施文される。

80図13～19はI類の底部片で、14～18は2類、16はボタン状貼付がある3類、19は縄文が施文される5類である。80図20は搬入された土器である。

⑦ 第8号住居址(第66・80～82図)

I群、II群両方の土器がみられるが、量的にはI群土器が多い。66図7は下部を欠いているが全体形がうかがえる良好なI群4類土器である。口縁上部には三角印刻文が施文され、胴部は3段に区画され、凹線文と沈線により曲線的な文様が構成されている。

80図21～24・26・28・30・31はI群土器の口縁部片である。22～24は2類で22は地文に矢羽状文が施文され、口縁上部にヘラ切り沈線がみられる。21は3類で矢羽状文上にボタン状貼付がされる。26・28は4類で三角印刻文が施文される。30・31は5類で縄文のみがみられる。

80図25・27・29はII群土器の口縁部片で、25は1類で口唇部に刻みをもち格子目状文が施文される。27・29は2類で、27は口唇部に刻みがあり沈線の押し引きがみられ、29には結節沈線と凹線文が施文され、隆帯が付されている。

81図はすべてI群土器である。1・2は口縁部片で、1は5類でRL縄文とLR縄文により羽状縄文が描かれる。2は2類で地文の縄文の上に沈線がみられる。3～36は胴部片である。7～9は1類b種で7・8には地文に沈線があり、7にはボタン状貼付がみられる。4～6・10～36は2類である。4～6には結節沈線が施され、4には凹線文、6にはボタン状貼付がみられる。16～20・22・23・25・26・29には矢羽状文、27には渦巻文、31にはレンズ状文、32・35には凹線文が施文される。

82図1～13はI群の胴部片である。12・13は1類b種で地文に縄文をもつ。2・4～8は2類で6～8には凹線文がみられる。1・3は4類で三角印刻文が施文され、1には凹線文も施されている。

82図14～22はI群の底部片である。15・17・18は2類で17は矢羽状文がみられる。14は3類でボタン状貼付がある。16・19・22は4類で16・22には三角印刻文が19には刺突があり、16は凹線文が、22には同心円文がみられる。21は無文であるが底面に木葉痕を確認することができた。

82図23・24は薄手の土器で搬入品である。

⑧ 第9号住居址(第66・82・83図)

すべてI群土器である。66図8は1類b種で結節浮線が、9は2類b種で結節沈線により文様が構成される。また、8の口縁上部には三角印刻文が施文される。鍋屋町タイプの土器である。10・11は縄文のみ施文される底部片である。

82図25～40は口縁部片で、25～28・31・39は1類である。25・26・28・39は結節浮線が施されるb種で39以外は地文に沈線がある。39には三角印刻文がみられる。27・31はc種で素浮線が施文される。29・30・32～36は2種で、29には結節沈線とボタン状貼付がある。32～34は波状口縁である。37・38は4類で三角印刻文が施文され、40は5類で縄文のみがみられる。

83図1は口縁部片で凹線文が施文される2類d種である。

83図2～36は胴部片である。5は1類a種で地文には沈線がある。2・3・6～10・12・13は1類b種で、2・3・12・13は渦巻文が描かれる。13は浮線が剥落しているが12と同一個体である。2・5・7～10は地文に沈線がみられる。また、7・10にはボタン状貼付がある。4・19・22～29・33・35は2類で、4・19は結

節沈線がある。b種である。27には補修孔が29には三角印刻文が、35には凹線文がそれぞれみられる。11・14～18・20・21は3類でボタン状貼付が付される。14～18・20は矢羽状文が施文される。30～32は4類で三角印刻文がみられ、32には凹線文も施されている。34・36は5類である。

83図37は底部片で沈線上にボタン状貼付の痕跡がみられる。

⑨ 第10号住居址(第66～68・84～90図)

本遺跡において最も多くの土器が出土した住居で、I群、II群土器ともに多量に出土している。また住居も他と比較して大きく、拡張等が行われていると考えられるため、出土状況等も踏まえたより緻密な分析をする必要があると思われるため、ここでは一応の分類のみ行うこととし、機会をあらためて報告を行いたい。

66図12・13はII群2類土器で、12は口唇部に刻みがあり、区画内に沈線を斜行させている。胴下半部には沈線を鋸歯状に施文し、地文には縄文をもつ。13は波状口縁を呈する全容がわかる土器で、区画内にヘラ切り沈線が充填される。

67図14～17はII群2類土器である。14は口唇部に擦糸による刻みをもち区画内を沈線や瓦状押し引きで充填している。15も口唇部に刻みをもち、小突起から隆帯が垂下している。口縁上部は結節沈線文が施文され、胴下半部の区画内にはヘラ切り沈線が充填される。18はI群2類土器で沈線のみで文様が構成されているが、若干、雑な作りをしている。19は関西系の鷹島式土器で胴上半部のみ残存している。器壁は薄く器面および口縁内部の一部で縄文が施文されている。20はI群1類b種、21はI群2類b種でともに大成山式土器の影響を受けていると思われる。22・23はI群5類で、縄文のみが施文されている。

68図24も縄文のみが施文されるI群5類の土器である。

84図1～6・8～20・23～25・28・36・37・39はI群土器の口縁部片である。1～3・5・10・17・25・39は1類で、3・17はヘラ切り浮線があるa種で地文に沈線がみられる。3にはボタン状貼付も施されている。1・2・5・10はb種で5を除いて地文に沈線がある。2にはボタン状貼付もみられる。1・2は波状口縁である。6・8・11～15・18～20・23・28・36・37は2類である。6は矢羽状文上に結節沈線が施文される。18・19・23には補修孔が確認できる。37には凹線文がみられる。4・9・16・24は3類でボタン状貼付がなされる。24以外は矢羽状文がみられる。

84図7・21・22・26・27・29～35・38はII群土器の口縁部片である。すべて2類で21・22・29～35の口唇部には刻みが見られる。7・21・22・38には瓦状押し文が施文され、26・27・29・30は区画内にヘラ切り沈線が充填される。

85図7～14・16～25・27・29～31はI群土器の口縁部片である。12・18・21は1類で、18は結節浮線が施されたb種で三角印刻文もみられる。21は地文に縄文をもち、やや太目の隆帯が波状に施文され、12はd種で押圧隆帯が施される。10・14・19は2類で、14は結節沈線があるb種で三角印刻文もみられ10は凹線文が施されるd種である。19には穿孔がみられる。22は3類で刻みを有する棒状貼付文がみられる。7～9・11・13・20・23は4類で三角印刻文が施文される。13は凹線文、20には円形刺突もみられる。7・11は波状口縁である。25・27・29～31は5類で縄文が施文され、27は沈線で三角形が描か

れ、29にはやや大きめの貼付がある。16・17は無文ではあるが有孔の浅鉢である。

85図1～6・15・26・28はⅡ群土器の口縁部片である。6は格子目状文が施文される1類で5は3類で地文に縄文があり、区画内にヘラ切り沈線が充填される。また2～4・15・26にもヘラ切り沈線の充填がみられ、26には瓦状押引文が施文される。28は刻みによる区画内に結節沈線が充填された大きな突起をもっている。

86図1～5はⅠ群土器の口縁部片である。4は押圧隆帯をもつ1類d種で地文は縄文である。3は3類で三角印刻文が施され、地文には羽状縄文がみられる。1・2・5は5類で、2は波状口縁である。

86図6はⅡ群2類土器の口縁部片で口唇部に刻みがあり、瓦状押引文と沈線が施される。

86図7～45はⅠ群土器の胴部片である。20・22は1類a種で22には三角印刻文も施文される。7～19・25・33は1類b種で14～16は同一個体である。12・16・25にはボタン状貼付が施され、11は剝落のため不明瞭だが、小突起をもった波状口縁の土器であろう。24は結節浮線が格子状に描かれている。21・23・27・34～45は2類で、21はヘラ切り沈線が、23・27は結節沈線が施文される。26・28～32は3類で、ボタン状貼付がみられ、29には棒状貼付文も付されている。

87図1～12・14～22・24～36・39はⅠ群土器の胴部片である。14が5類、28が三角印刻文を有する4類である以外2類である。39はb種、18・21・27がd種で凹線文が施文される。5のようにレンズ状文を描くものや8・10・15・24・29・33・35のように矢羽状文が描かれるものなどがある。

87図13・23・37・38はⅡ群土器の胴部片であり、13・23は2類、37・38は縄文により文様が構成される3類である。

86図3～7・23・25～37はⅠ群土器の胴部片である。6・7・23・34～37は1類で、34～37はb種の結節浮線が6・7はc種で素浮線がみられる。23は爪形がついた隆帯がある。3・4・25は2類で4には凹線文が施文される。5・32は4類で三角印刻文がみられ、26～31・33は5類で縄文が施文される。

88図1・2・8～22・24はⅡ群土器の胴部片である。1・2・8～14・24は2類で1・2・13・14は瓦状押引文が施文され、8～10の区画内にはヘラ切り沈線が充填されている。15～18は木目状捺糸文が施文される。

89図はⅠ群5類で縄文が施文される。1には沈線も施文され、5・9・16・20・26のように羽状縄文が描かれるものもある。

90図1～19はⅠ群土器の胴部片で、ほとんどが縄文のみ施文された5類の土器である。6・15のように沈線が施文されるものや18のように凹線文がみられるものがある。

90図20～26・29～35はⅠ群土器の底部片である。35は1類b種で結節浮線が施され、20は3類でボタン状貼付がみられる。21～26・29・32・33は2類である。31は5類で縄文が施文される。

90図27・28はⅡ群3類土器で木目状捺糸文が施文される。

99図36～42のように数は少ないけれど、関西方面からの搬入土器も含まれている。

⑩ 第11号住居址(第68・91・92図)

すべてⅠ群土器である。68図25は縄文のみ施文された5類の底部片である。

91図1～15は口縁部片で、1～3はヘラ切り浮線を有する1類a種で、地文に沈線をもっている。14・

15は1類d種で2条の押圧隆帯をもち、地文に縄文が施されている。4〜7・12は2類で、12は凹線文が施され、やや細めの隆帯もみられる。8は3類でボタン状貼付が、9〜11は三角印刻文が施文され、10には結節沈線もみられる。13は5類でLR縄文が施文される。

91図16〜36は胴部片で、16〜21が1類である。18がヘラ切り浮線が施文されるa種である以外は、結節浮線が施されるb種で、16・17は渦巻文が描かれる。16を除いて地文に沈線がみられる。22〜36は2類で、22〜25・35は矢羽状文が、28・30はX字状文が描かれる。31・36はd種で凹線文がみられる。

92図1〜8は胴部片で、1・8は地文の縄文上に凹線文や三角印刻文がみられる。2〜7は縄文のみ施文される。

92図9は底部片で、RL縄文とLR縄文で羽状縄文が描かれている。

⑪ 第12号住居址(第68・92図)

遺物量少なくすべてI群土器である。68図26は2類の底部片である。

92図10〜13は口縁部片で10は1類b種で結節浮線が施文され、地文には沈線がある。11〜13は2類で11は結節沈線が、12には矢羽状文がみられる。

92図14〜21は底部片で、14は沈線上に結節浮線が施される。15・16・18〜21は2類で、20には刺突がなされている。15・16は同一個体で結節沈線が施される。17は矢羽状文上にボタン状貼付がされる。

92図22は底部片で沈線上にボタン状貼付がみられる。

⑫ 第13号住居址(第92図)

本址も非常に遺物が少なく、図示できたのは3点にすぎないが、すべてI群土器となっている。

23は口縁部片でヘラ切り浮線が施文される1類a種で地文には沈線がみられる。24・25は胴部片で25は1類b種で結節浮線により渦巻文が描かれ、24は矢羽状文上にボタン状貼付がされる。

⑬ 第14号住居址(第93図)

すべてI群土器であるが、この住居も遺物が少ない。1・2は同一個体と考えられる口縁部片で、上部に三角印刻文がみられ、下部にはLR縄文が施文される。3〜9は胴部片で、3・4は結節浮線が施文された1類b種である。7〜9は2類で、7はRL縄文とLR縄文による羽状縄文上に凹線文がみられる。5・6は矢羽状文上にボタン状貼付がなされる。

⑭ 第15号住居址(第93・94図)

I群、II群の両者が出土しているが、量的にはI群土器の方が勝っている。93図10〜14・16〜19はI群土器の口縁部片である。11は1類b種で結節浮線が施文される。12〜14・18は2類で12はやや崩れた矢羽状文が描かれる。10は3類で口縁上部に刺突が施された粘土の貼付がみられ、ボタン状貼付にも刺突がされている。16・17は三角印刻文が施文され、16には結節沈線が17には矢羽状文がみられる。19はLR縄文とRL縄文により羽状縄文が描かれる。

93図20はII群土器の胴上半部片で小形の土器である。口唇部に刻みが施され、その下部に円形刺突が施文される。区画は結節沈線によりつくられ、区画内には沈線が充填される。

93図21・22・25〜31はI群土器の胴部片である。21・22は1類で22はヘラ切り浮線が21には結節浮線が施文され、両者とも地文には沈線がみられる。25〜31は2類で26・30・31は矢羽状文が描かれる。

93図23・24は同一個体と考えられるⅡ群2類土器の胴部片である。沈線区画内には、格子状の沈線が施文される。

94図1～7・9・12・13・15はⅠ群土器の胴部片で、13は1類b種で結節浮線が施文され地文には縄文がみられる。15は5類で縄文が施文される。他は2類で矢羽状文やレンズ状文が描かれるものもある。

94図8・10・11・14はⅡ群土器の胴部片で、2類にあたる。8はc字状の刺突がみられ、10にはヘラ切り沈線が施文される。また11は区画内に矢羽状の沈線が、14は格子状の沈線が施文される。

94図16・17・19はⅠ群土器の底部片で沈線が施され、17はボタン状貼付もみられる。

94図18はⅡ群3類土器の底部片で撚糸文が施文される。

⑤ 第16号住居址(第68・94・95図)

すべてⅠ群土器である。68図27は1類b種で口縁上部から結節浮線が垂下し、地文には沈線がやや雑に施文されている。28は3類で矢羽状文やレンズ状文の上にボタン状貼付が施される。

94図20～27は口縁部片で、20・22は1類b種、23は1類a種である。22・23にボタン状貼付がみられる。21・24・25は2類で、21には結節沈線とボタン状貼付が施文される。26・27は3類で円形刺突がされたボタン状貼付がみられ、地文には縄文が施されている。

94図28～40は胴部片で28～33は1類b種で結節浮線により渦巻文などが描かれている。37・40は1類c種で沈線の上に素浮線がみられる。34・39は2類b種で地文は沈線になっている。35・36・38は3類でボタン状貼付がみられる。

95図1～11は胴部片で1類b種でありボタン状貼付もみられる。3～6は2類である。2・9・10・11は3類でボタン状貼付がみられ、10のボタン上には刺突がなされている。7・8は5類で縄文が施文される。

95図12・13は底部片で沈線のみがみられる。

⑥ 第17号住居址(第68・95～97図)

Ⅰ群土器のみが出土している。68図29は口縁上部と胴部に三角印刻文が施文され、凹線文と摺曲する沈線により胴部の文様が構成される。32は口縁上部に三角印刻文が施文され、胴上半部には縄文と凹線文が、下半部には刺突がみられる。30は4類で三角印刻文と矢羽状沈線が施文される。31は2類で沈線のみで文様が構成される。

95図14～31は口縁部片で、14～17は結節浮線が施文される1類b種である。18～20・26は2類で19は凹線文と三角印刻文が施文され、口縁部に小突起がみられる。21は3類でボタン状貼付の痕跡が確認できる。22～25・27・29は4類で口縁上部に三角印刻文がみられ、22は結節沈線が23・24には凹線文と沈線が27は縄文、29は凹線文と縄文がそれぞれ施文されている。28・30・31はRL縄文とLR縄文により羽状縄文が描かれる。

96図1～4は口縁部片で、すべて縄文が主体となっているが、3と4の口縁上部には三角印刻文が施文される。

96図5～31は胴部片である。5～10は1類b種で結節浮線が施文される。7は地文が沈線、10は地文が縄文になっている。11・17～31は2類で、11はb種で地文に羽状縄文をもつ。30は刺突が、31は凹線文がみられる。12～16は3類で矢羽状文の上にボタン状貼付がされる。

97図1~11は胴部片で1~3・9は2類である。9は地文に縄文をもち、凹線文と三角印刻文や沈線により文様が描かれる。4は刺突を有する棒状貼付文が付される。5~8・10・11は5類で縄文のみ施文されている。

97図12~20は底部片で13・14は沈線が、12・17・19にはボタン状貼付がみられる。15・16・18・20は縄文が施文される。97図21・22は搬入品である。

⑦ 第18号住居址(第97図)

I群土器であるが、この住居も遺物が少ない。すべて胴部片であり、23は1類b種で渦巻文が描かれている。24~27は2類で24・26は矢羽状文がみられる。28はLR縄文が施文される。

⑧ 第19号住居址(第98図)

ほとんどI群土器であるが、わずかにII群土器も含まれている。4はII群2類土器の口縁部片で口唇部に刻みをもち沈線により文様が描かれる。

1~3・5~9はI群土器の口縁部片である。9が無文であるほかは2類で、8は波状口縁である。10~32・34・35はI群土器の胴部片である。35は結節浮線が施文される1類b種である。12・14~16・18~20・22~27・34は2類である。20は凹線文が、15・25・27・34には矢羽状文が施文される。10・11・13・17・21は3類でボタン状貼付がされる。28~32は5類で縄文が施文される。33はI群土器の底部片で、剝離が著しく文様は不明である。

⑨ 第20号住居址(第68・98・99図)

本址も大部分がI群土器であるが、II群土器も含まれる。68図33は有孔の浅鉢形土器で沈線がわずかに施文されるだけで、シンプルな作りをしている。

98図36~39はI群土器の口縁部片である。36・37は1類で36は太い隆帯が37は素浮線がみられ、37の口唇直下には結節沈線が施文される。38・39は2類で波状口縁を呈している。40は唯一のII群土器で、比較的の小形の土器である。口縁上部に結節沈線が廻り、下部には縄文と垂下する沈線がみられる。

98図41~48は胴部片である。41~43は1類b種で地文は沈線である。43にはボタン状貼付もみられる。45・46・48は2類で、48は結節沈線が施文される。44・47は3類でボタン状貼付がされる。1は地文が沈線、14は地文が縄文になっている。2~11・13は2類で、2は凹線文が施文される。15~17は5類で縄文のみ施文される。

99図18は底部片で矢羽状文がみられる。

⑩ 第21号住居址(第68・99図)

すべてI群土器であるが、遺物が少ない。68図34は5類で縄文のみ施文される。

99図19・20は口縁部片で19は3類で矢羽状文上にボタン状貼付が、20は2類で沈線のみ施文される。

99図21~27は胴部片で24~26は2類であり、25には凹線文がみられる。21~23は3類で沈線の上にボタン状貼付がされ、27は縄文が施文される。

⑪ 第22号住居址(第99・100図)

I群土器である。99図28~31は口縁部片で、28は1類a種でボタン状貼付もみられ、地文は沈線となる。29は1類b種で、地文は矢羽状文となっている。30・31は2類である。

99図32～34は1類の胴部片で、32はa種、33・34はb種である。32にはボタン状貼付がみられる。

100図1～8は胴部片である。1・2は1類b種でボタン状貼付があり地文は矢羽状文となる。4～8は沈線により文様が構成される2類で、3はボタン状貼付をもつ3類となっている。

100図9・10は底部片で、ともに沈線がみられる。

㊸ 第23号住居址(第100図)

本址も遺物が少ないが、I群土器が出土している。11～14・17は口縁部片である。11は1類b種で結節浮線が施され、地文には矢羽状文がみられる。12～14は2類で12・14は矢羽状文が施文される。13は波状口縁である。17は無文となっている。15・16・18～20は胴部片である。15・16・18・19は2類で沈線のみがみられ、20はLR縄文が施文される。21は底部片でRL縄文とLR縄文により羽状縄文が描かれる。

㊹ 第25号住居址(第100図)

すべてI群土器であるが、この住居も遺物が少ない。22・23は口縁部片で22は2類、23は1類a種でヘラ切り浮線が施文される。24～27は胴部片で24は結節浮線がみられる1類b種である。25～27は2類で沈線のみ施文されている。

㊺ 第26号住居址(第100図)

図示できたのは、胴部片2点のみであり、I群土器に比定される。29は1類b種で地文に矢羽状文がみられ、結節浮線が施されている。28は2類で矢羽状文が施文される。

(小松 学)

(2) 石 器

今回の調査において、合計3345点(93.244.4g)の資料(原石・剥片を含む)が確認された。うち、890点が道具としての石器として確認できた。出土地点は住居址内出土が364点、土坑・集石内385点、表土141点である。石器群の特徴、出土土器からほとんどの資料が縄文時代前期後葉～中期初頭に属するものと考えられる。

石器の個数組成を第8表に、重量を含めた組成を第11表に示した。住居址内出土の資料は1575点(47.0%)、33913.2g(36.3%)である。大型かつ地表面から深かった10号住居址が最も多く、台地の平坦面に築かれたため遺構の残存率が高かった2・17号住居址は比較的数量が多い。また、土坑内出土の資料は1375点(41.0%)、43585.3g(46.7%)、表土出土の資料は358点(11.7%)、15718.7g(16.8%)、であり、住居内と土坑内の出土量はほぼ同様であった。表土出土のものうち205点(52.5%)は、遺跡南部斜面部(E区)出土のものであった。

石器の石材については第9表に示した。全体個数は黒曜石が3077点(92%)と圧倒的に多い。しかし、重量は、頁岩・安山岩・凝灰岩・砂岩の割合が高く、これらの石材は遺跡背後にある高ポッチ山塊でみられ、付近の小河川で簡単に採取できる。

ただし、以上の分析は遺物包含層が耕作面から浅いため、住居址上部あるいは一部が削られていること、過去の調査部分と重複していること、石材については集石内や住居・土坑内の際など、必ずしもすべての資料を分析対象としていないことを明記しておく。

1. 石核・剥片

石核・剥片・碎片は、住居内1211点(4800g)、土坑内1003点(4500g)、集石内24点(170g)、表土217点(1930g)、計2455点(11.410g)出土している。石質は黒曜石2432点、頁岩17点、チャート5点で黒曜石が圧倒的に多い。

2. 石 鏃

60点出土し、うち30点が住居址内、土坑内が24点、表土6点であった。すべて無茎であり、石質は黒曜石が58点、頁岩が1点、チャートが1点で黒曜石がほとんどを占める。形態的視点からの類別は、基部形状に基づいて実施した。

〈形 状〉

- A類…平らで直線的な基部を呈するもの、12点(20%)
 - B類…基部が抉られて、内湾しているもの、42点(70%)
- 類別不可能なものが6点あった。B類のほうが多い。

〈法 量〉

長さ2.5cm以下の小型のものと、2.5cm以上の大型のものがみられた。形状の分別はなく、小型のものが15点、大型のものが3点みられた。また、大型のものは長さとの比が3:2以上のものがしめA類に多い。一方1:1～3:2は小型のものが占める。重さは、平均値が0.97gであり、0.7～0.9gのものが8点で、全体の42%を占める。分類別では基部が直線的なA類がB類よりやや重い傾向にある。

第1表 女夫山ノ神遺跡石器組成表

器種 遺構	石鏃	打製 石斧	大型 刃器	小型 刃器	石匙	石錐	磨石	敲石	叩石	石皿	磨製 石斧	砥石	異形 石器	石 製品	原石・石 核・剥片	計	
1住				1												1	
2住	1(3)	10(4)	5	10	(2)	1	1(1)	(1)		1		1		1	54	85(11)	
3住	(3)	00		(6)	(3)			(3)						(1)	3(119)	3(160)	
4住		00		2(0)	(1)	(5)									10(76)	12(106)	
5住	10(4)	10(0)		32(2)	1(1)	1(7)	(1)	(1)							70(137)	106(173)	
6住		3		3		1	1									16	24
7住	(1)	00		6(4)		(3)	(3)	1(1)							27(181)	34(219)	
8住	(2)	02		8(1)	(1)	(1)	(1)	(2)							11(166)	19(186)	
9住	3	1	1	23	1										63	91	
10住	11	9	3	60		2	1	1		1	1				###	###	
11住	2	3		6											47	58	
12住				1											4	5	
13住		1		3		2	1			1					16	24	
14住				2											8	10	
15住	1			7										1	14	23	
16住		1	2	1											19	23	
17住	8	1		37		3	1				1				###	###	
18住	1			14			2	3	1						20	41	
19住				13		2									62	77	
20住	2	1		12											20	35	
21住				1											3	4	
22住		1	2	5											12	20	
23住				1											7	8	
24住		1		10			1								21	33	
25住			1	2		1									3	7	
26住		2		3											13	18	
住居計	30	34	14	263	2	13	8	5	1	3	3	2	1	2	18	1211	
土坑	24	44	22	196	8	15	9	13	2	1	2	1		1	1003	1341	
集石			3	3	1	1	4			1	1				24	38	
C区			4												6	10	
D区	1		1					1							7	10	
E区	1	2	6	53	1	2	1	1				1	1		136	205	
遺構外	4	9	15	29	2	11	4	7		2	1				68	152	
計	60(0)	89(0)	61	548(0)	14(8)	42(0)	26(6)	27(8)	3	7	6	3	1	3(1)	2455(679)	3345(855)	

【注】1. 松本深志高校調査分については()内に記載した。

【注】2. 松本深志高校調査分は器種分類基準が少々異なるため、例えば打製石斧の中に大型刃器が含まれたり、剥片中に小型刃器が含まれているものと予想される。

第3表 石器器種別組成表

全 体

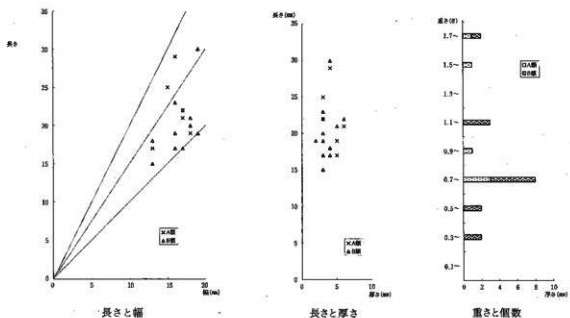
器種	比率	数 量	数量比1%	数量比2%	重 量 (g)	重量比1%	重量比2%
石 鏃		60	(1.8)	(6.7)	71.8	(0.1)	(0.1)
打製石斧		89	(2.7)	(10.0)	6415.6	(6.9)	(7.8)
大型刃器		61	(1.8)	(6.9)	3667.3	(3.9)	(4.5)
小型刃器		548	(16.4)	(61.6)	2453.0	(2.6)	(3.0)
石 匙		14	(0.4)	(1.6)	67.4	(0.1)	(0.1)
石 鏟		42	(1.3)	(4.7)	127.6	(0.1)	(0.2)
磨 石		26	(0.8)	(2.9)	7796.7	(8.4)	(9.5)
敲 石		27	(0.8)	(0.3)	10192.9	(0.9)	(12.5)
叩 石		3	(0.1)	(0.3)	628.8	(0.7)	(0.8)
石 皿		7	(0.2)	(0.8)	49410.8	(3.0)	(60.4)
磨製石斧		6	(0.2)	(0.7)	153.2	(0.2)	(0.2)
砥 石		3	(0.1)	(0.3)	822.1	(0.9)	(1.0)
異形石器		1	(0.0)	(0.1)	3.7	(0.0)	(0.0)
石製品		3	(0.1)	(0.3)	23.5	(0.0)	(0.0)
石核・剝片		2455	(73.4)	—	11410.0	(12.2)	—
計		3345	(100)	(100)	93244.4	(100)	(100)

住居址内

器種	比率	数 量	数量比1%	数量比2%	重 量 (g)	重量比1%	重量比2%
石 鏃		30	(1.9)	(7.9)	34.5	(0.1)	(0.1)
打製石斧		34	(2.1)	(9.0)	2245.1	(6.4)	(7.5)
大型刃器		14	(0.9)	(3.7)	767.2	(2.2)	(2.5)
小型刃器		263	(69.6)	(69.6)	1100.0	(3.1)	(3.7)
石 匙		2	(0.1)	(0.5)	16.1	(0.0)	(0.1)
石 鏟		13	(0.8)	(3.4)	40.9	(0.1)	(0.1)
磨 石		8	(0.5)	(2.1)	1829.7	(5.2)	(6.1)
敲 石		5	(0.3)	(1.3)	1654.8	(4.7)	(5.5)
叩 石		1	(0.1)	(0.3)	390.9	(1.1)	(1.3)
石 皿		3	(0.2)	(0.8)	21774.4	(62.3)	(72.3)
磨製石斧		2	(0.1)	(0.5)	60.7	(0.2)	(0.2)
砥 石		1	(0.1)	(0.3)	206.5	(0.6)	(0.7)
石製品		2	(0.1)	(0.5)	14.8	(0.0)	(0.0)
石核・剝片		1211	(76.2)	—	4810.0	(13.8)	—
計		1589	(100)	(100)	34945.6	(100)	(100)

土 坑 内

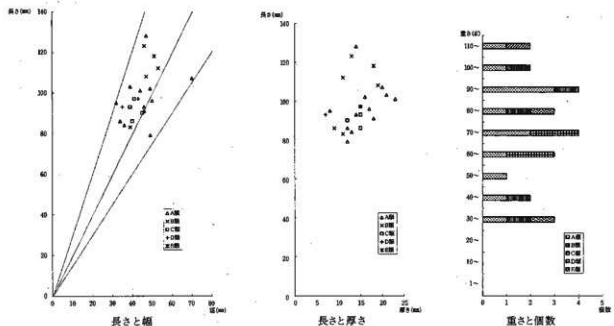
器種	比率	数 量	数量比1%	数量比2%	重 量 (g)	重量比1%	重量比2%
石 鏃		24	(1.8)	(7.1)	29.6	(0.1)	(0.1)
打製石斧		44	(3.3)	(12.7)	3100.6	(7.4)	(8.3)
大型刃器		22	(1.6)	(6.4)	83.2	(3.1)	(3.5)
小型刃器		196	(14.6)	(56.6)	833.7	(2.0)	(2.2)
石 匙		8	(0.6)	(2.3)	28.6	(0.1)	(0.1)
石 鏟		15	(1.1)	(4.3)	53.7	(0.1)	(0.1)
磨 石		9	(0.7)	(2.6)	2600.0	(6.2)	(7.0)
敲 石		13	(1.0)	(3.8)	5369.7	(12.9)	(14.4)
叩 石		2	(0.1)	(0.6)	237.9	(0.6)	(0.6)
石 皿		1	(0.1)	(0.3)	23428.6	(56.1)	(62.9)
磨製石斧		2	(0.1)	(0.6)	32.0	(0.1)	(0.1)
砥 石		1	(0.1)	(0.3)	237.5	(0.6)	(0.6)
石製品		1	(0.1)	(0.3)	8.7	(0.0)	(0.0)
石核・剝片		1003	(74.8)	—	4500.0	(10.8)	—
計		1341	(100)	(100)	41764.8	(100)	(100)



第56図 石銚法量相関

第4表 松本平東山山麓における石器組成表

器種	女夫山ノ神		白神場		男屋敷(神ノ木期)		男屋敷(有尾期)		男屋敷(諸磯a期)		男屋敷(諸磯b期)	
	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%
石 銚	60	24.9%	35	36.8%	54	81.8%	133	76.4%	30	81.1%	17	58.6%
石 錐	42	17.4%	16	16.8%	3	4.5%	14	8.0%	4	10.8%	1	3.4%
石 匙	14	5.8%	6	6.3%	3	4.5%	17	9.8%	2	5.4%	4	13.8%
打製石斧	89	36.9%	24	25.3%	3	4.5%	4	2.3%	0	0.0%	2	6.9%
磨製石斧	6	2.5%	3	3.2%	0	0.0%	2	1.1%	1	2.7%	1	3.4%
敲 石	27	11.2%	8	8.4%	2	3.0%	2	1.1%	0	0.0%	3	10.3%
石製品	3	1.2%	3	3.2%	1	1.5%	2	1.1%	0	0.0%	1	3.4%
計	241	100%	95	100%	66	100%	174	100%	37	100%	29	100%



第57図 打製石斧法量相関

E…平面形が換状を呈するもの、6点(6%)。

欠損により分類不能なものが8点あった。A類の割合が高い。

〈法量〉

長さ80~120cm、幅30~50cmの間に91%が占める。長さとの比は3:1~2:1のもの20点、2:1以上のものがA類で3点みられた。厚さは長さに関係なくほとんどが10~20mmの間に分布している。重さは平均値が75.9gで、30~300gの間に83%が分布する。

〈破損・磨耗痕〉

破損は打製石斧の部位を3等分(頭部・胴部・刃部)に分け、どの部分が欠けているか分析した。資料89点のうち完形20点(22%)、頭部欠10点(11%)、刃部欠23点(25%)、頭部・胴部欠14点(15%)、胴部・刃部欠11点(12%)、頭部・刃部欠11点(12%)で、刃部側が欠けているものが多い。また、24点の資料に磨耗痕が確認できた。すべてが刃部端部に見られたものである。

4. 大型刃器

打製石斧のような大型の剥片を素材として利用するので、住居址内から9点、土壌内33点、集石内3点、表土16点の計61点あった。形状・加工状況によって3分類、さらに刃部の形態によって3分類した。石質はすべて頁岩である。

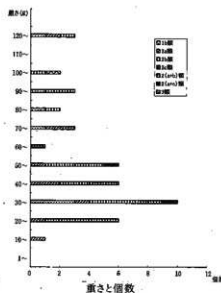
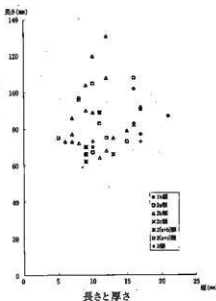
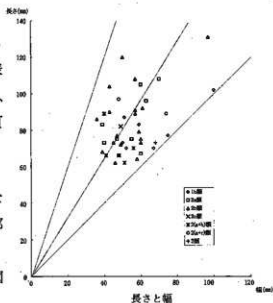
〈形状〉

1類…剥片をそのまま利用し、刃こぼれとみられる細かな剝離痕がみられるもの9点(15%)(第図~)。刃部の形態はa類が無く、外湾するb類が9点。

2類…剥片を加工し、明瞭な刃部を形成するもの(第図~)49点(80%)。刃部の形態は直行するものa類

(12点)、外湾するものb類(23点)、内湾するものc類(1点)、a類とc類の両方がみられたものa+b類(10点)、a類とc類の両方がみられたものa+c類(3点)があった。

3類…剥片を加工し、平面が円盤状を呈する刃部をもつもの(第図~)1点。また、分類不能のものが2点あった。



第58図 大型刃器法量相関

5. 小型刃器

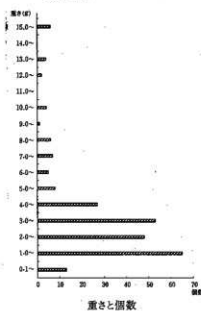
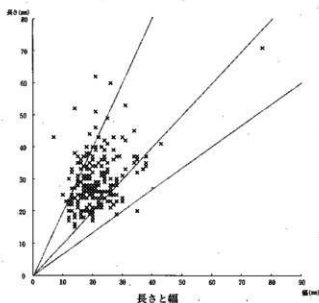
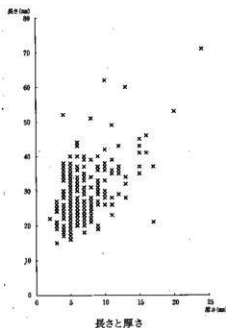
石鏃・石匙のような小型の剝片と素材を利用するもの、住居址内263点、土壌内196点、集石内3点、表土86点の計548点確認された。石質は黒曜石535点、頁岩9点、チャート4点で、圧倒的に黒曜石が多い。形状・加工状況によって2分類、さらに刃部の形態によって3分類した。

〈形状〉

1類…剝片をそのまま利用し、刃こぼれと見られる細かな剝離痕や磨痕がみられるもの、住居址内139点、土壌内95、集石内1点、表土42点の計277点(41%)であった。

刃部の形態は、直行するものa類(168点)、外湾するものb類(72点)、外湾するものb類(24点)、a類とb類の両方がみられたものb+b類(6点)、a類とc類の両方がみられたものa+c類(3点)、b類とc類の両方がみられたものb+c類(4点)があった。

2類…剝片を加工し、明瞭な刃部を形成するもの住居址内124点、土壌内101点、集石内2点、表土44点の計271点(49%) (第 図 ~)であった。刃部の形態は、直行するものa類(141点)、外湾するものb類(41点)、内湾するものc類(29点)、a類とb類の両方がみられたものa+c類(30点)、b類とc類の両方がみられたものb+c類(9点)があった。



第59図 小型刃器度量相関

6. 石 匙

14点確認した。出土位置は住居址内が2点、土壌内8点、集石内1点、表土3点あった。石質は黒曜石が10点、チャートが2点、頁岩が2点で黒曜石が多い。基部の位置とその角度と刃部の平面形態で分類を行った。

〈形 状〉

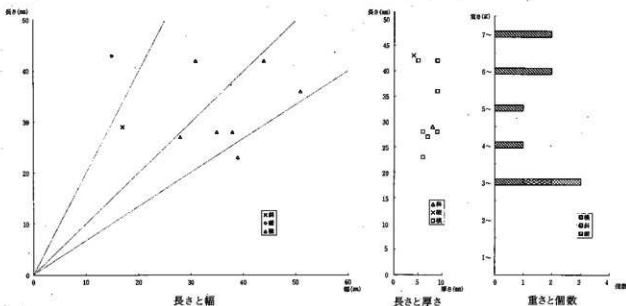
基部の位置で3分類、刃部の平面形態によって2分類した。

縦形…刃長線と茎長線の交差角により、30度以下のもの2点(14%)。うち刃部が外湾するB類1点と分類不能が1点であった。

斜形…刃長線と茎長線の交差角により、60度以下のもの1点(7%)。刃部形態はB類であった。

横形…刃長線と茎長線の交差角により、90度以下のもの9点(64%)。うち刃部が直行するA類が3点、外湾するB類が5点、分類不能なものが2点あった。

また、破損のため分類不能なものが2点あった。横型のものが最も多い。



第60図 石匙度量相関

7. 石 錐

住居址内13点、土壌内20点、集石内1点、表土8点の計42点の計42点出土した。石質は黒曜石41点、チャート1点と黒曜石が圧倒的に多い。機能部のみに加工を施したものと、全体に剝離加工したものの2種類がみられた。さらに端部の加工形態により4分類した。

〈形 状〉

1類…機能部にのみ加工を施したもの。

A類…端部にのみ調整がみられるもの4点(9%)。

B類…2側辺を調整し、先端部を長くしたもの17点(40%)。

2類…素材剝片全体に加工を施したもの。

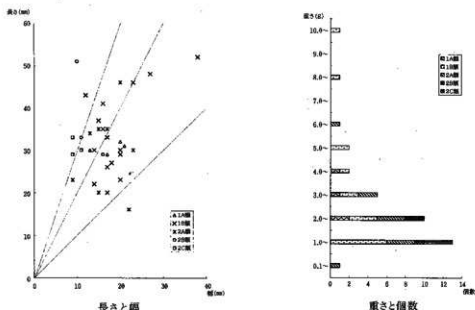
A類…先端部と基部との区別が可能なもの13点(30%)。

B類…先端部と基部との区別が不可能なもの4点(9%)。

C類…基部が内湾しているもの1点(2%)。

D類…先端部と基部の区別がなく、両端が尖っているもの3点(7%)。

1 B類が最も多い。大きさは長さ2~4cm、幅0.9~1.2cmの全体の61%が占める。重さは平均値が3.1gで、1~3gの間を中心に分布する。



第61図 石筈法量相関

8. 磨石

器面の上下面あるいは側面の広い範囲に使用痕跡が認められる石器で26点を確認した。うち住居址内が7点、土壌内10点、集石内4点、表土4点であった。石質は砂岩12点(46%)、凝灰岩9点(37%)が多い。形状によって2分類し、使用による損耗痕がついている面できさらに2分類を行った。

〈形状〉

I類…長幅比で1:1~2:1に該当するもの。円形あるいは楕円形を呈するもの19点(73%)。

II類…長幅比で2:1より長さの比が高いもの。長楕円形・棒状を呈するもの6点(23%)。

欠損のため分類不能なもの1点あった。

〈磨耗面〉

a類…上下面のみが付いているもの。

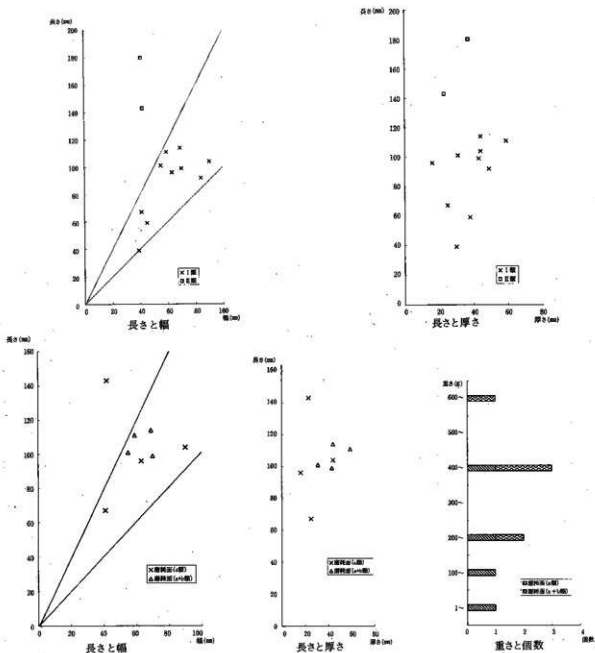
b類…側面のみが付いているもの。該当なし。

両面に付いているものa+b類が10点(38%)。また欠損・風化により分類不能なものが5点あった。

〈法量〉

I類でた大型のもの7点(70%)と小型のもの2点(20%)、超小型のもの1点(10%)がみられた。大型のものは10×7cm前後、小型のものは6×4cm前後、超小型のものは4×4cmにある。厚さは4~6cmに分布の中心がみられるが、磨耗面a類はa+b類よりも薄い傾向にある。重さは平均値が324.8gで

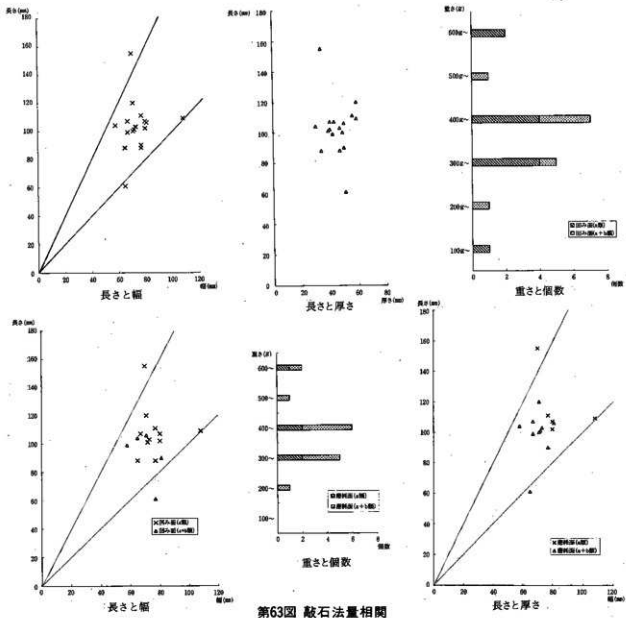
62%が200~500gの間に位置する。重さは磨耗面a×b類のほうがa類よりも重いものが多い傾向にある。分析資料数が少ないためすぐに結論は出せないが、石材選択の段階から使用方法が異なっていた可能性がある。超小型のもの(3)は全面に磨耗面がみられることから、他のものと機能・用途が異なっていたとみられる。II類では長さは14cm以上と他の磨石に比べて長く分布も拡散しているが幅や厚さは2~5cmと他の磨石と同じような分布を示している。また、II類の一部の磨石面は端部の一方に偏っているため、ハンマーのような機能を備えていたものとみられる。



第62図 磨石法量相関

9. 敲石

器面の上下面あるいは側面に敲打による凹みを持つもので27点確認した。うち、住居内が5点、土壌内15点、表土7点であった。磨石と同様に分類基準は平面形に拠った。また、敲石には凹みの



第63図 敲石法量相関

みの例(2点)と、磨耗面と凹みが複合した例(25点)がみられた。そのため、磨耗面と凹み面と個々に記載を行った。なお、石質は凝灰岩14点(51%)、砂岩12点(44%)と、ほとんどがこの2つの石材に限られる。

〈形 状〉

I類…25点(92%)。

II類…2点(7%)。

I類が圧倒的に多い。

〈磨耗面〉

分類基準は磨石と同様である。

a類…8点(29%)。

b類…該当器種なし。

a+b類…17点(62%)。また、破損・風化のため分類不能なのが2点あった。

〈凹み〉

凹みのついている面と、その数を上下左右の順に記した。

a類…上下面についているもの18点(66%)。

b類…該当器種 側面についているもの。該当なし。

a+b類…両方についているもの9点(33%)。

また凹みには、アバタ状・溝状・漏斗状のものがみられた。

〈法量〉

長幅比1:1~2:1の範囲内に92点がある。また、長さ9~11cm、幅5~8cmの間にほとんど分布するが、磨耗面a類の2点が大型である。また、磨耗面a+b類には小型のもの1点がみられるが、形態は平面が四角形で、全面使用され損耗していることから使用の最終形態と考えられる。厚さはa面のほうが薄い傾向にある。重さは磨耗面・凹み面ごとに検討を行った。双方とも300~500gの間に多くが分布する。しかし、a類には600g以上のものもみられ、大きさや厚さとともに考慮すると、2点(8・11)は、おそらく下に据えて使用したものと考えられる。

10. 叩石

敲石と異なり、凹みを持たず、素材となった礫の端部や側面に敲打によって生じたつぶれや傷も持つものであり、土壌内で3点確認した。敲石と同様の基準によって分類を行い、II類が3点みられた。端部には、使用による破損(3)や細かい線状のキズが多く見られるもの(1~3)がある。石質は頁岩・ホルンフェルス・石英閃緑岩が1点ずつある。

11. 石皿

上石である磨石・敲石・叩石に対し、その下石となるもので器面に使用痕跡が見られるかどうかで判断した。住居址内が3点点、土壌内1点、集石1点、表土2点の計7点を確認した。

〈形状〉

加工状態と使用面の形態によって2分類した。

I類…板状の素材をそのまま利用し縁部を形成しないもの5点(71%)。

II類…機能部を作り出すことによって縁を形成するもの2点(29%)。すべて欠損品である。

石質はI類には緻密かつ硬質な細粒の砂岩・凝灰岩が用いられているのに対し、II類には多孔質な安山岩を用いており、両者の石材の選択性が高いとみられる。

12. 磨製石斧

住居址内2点、土壌内2点、集石内1点、表土1点の計6点出土した。すべて定角式で、破損し、頭部3点、刃部2点、刃部の一部が欠けたもの1点がみられた。石質は、大きさは大型のもの5点と小型のもの1点がみられた。1点に装着痕とみられる線状痕と、使用によるとみられる剥落と線

状痕がみられ、実測図上では実線で表現している。石質はチャート3点(50%)、蛇紋岩(33%)が多い。

13. 砥石

研ぐ作業が想定されるもので、溝状・帯状の砥面と線状痕がみられるものを一括した。住居内と土壇内、表土から各1点、計3点出土した。形状はすべて小型で形態は長方形を呈し、表裏に使用面がみられる。石質は、3点とも細粒の砂岩が利用されている。

14. 異形石器

赤チャート製で表土より1点出土した。Y字状を呈し、2つの先端部を尖らせている。

15. 石製品

実用的な機能・用途の推定が難しく、装飾の利用が推定される資料。玉状耳飾と円盤状石製品がある。

玉状耳飾…住居址内で2点出土した。いずれも平面形が円形を呈し、孔部径が外径の1/3以上である。また、切目長・孔側長は1が0.7、2が0.75であった。1は2に比べると厚さが薄い。1には装着部に補修孔がみられる。石質は、いずれも蛇紋岩である。

円盤状石製品…土壇内より1点出土した。楕円状を呈し、上下面とも丁寧に磨かれている。石質は、蛇紋岩である。

(3) 土製品

1. 土偶

調査区南部斜面表土より1点出土した。上半部のみであるが、目の表現とみられる穿孔と鼻とみられる隆帯、口の表現は沈線を直線状に配す。側面は板状で胸の表現は見られない。腕はやや下がっている。時期は形態や周辺出土の土器から前期末から中期初頭の過渡的なものとみられる。

2. 土製玉状耳飾

住居址から2点、表土から2点、計4点出土している。すべて平面形が円形を呈す。4〜4は孔部径が外径の1/3以上であるが、1は1/3以下である。また2〜4は断面形が外側から内側にかけて、傾斜が急で厚いが、1は断面形がなだらかで薄い。切目長・孔側長は1が0.73、2が1.0、3が0.9であった。2・4には表・裏・側面に赤色顔料が付着している。

3. 土製円盤

土壇内より1点出土した。条痕文を施す土器の胸部の破片を利用したものとみられ、外形全体を打ち欠いている。

4. 球状土製品

10号住居址より1点出土した。球面にはヘラ状のもので押した文様が施されている。

5. 焼成粒土塊

土壌内より2点出土した。2点とも粘土を握ったような指圧痕が残るが、焼成が甘いためかもう
く明瞭には観察できなかった。

(4) 鉄製品

5号住居址攪乱層と表土から1点ずつ計2点出土した。1は釘とみられるが両端部が欠けている
ため、形状は不明である。2はリング状を呈し、内側に木質痕がある。刃物の留め金とおもわれる。

小 結

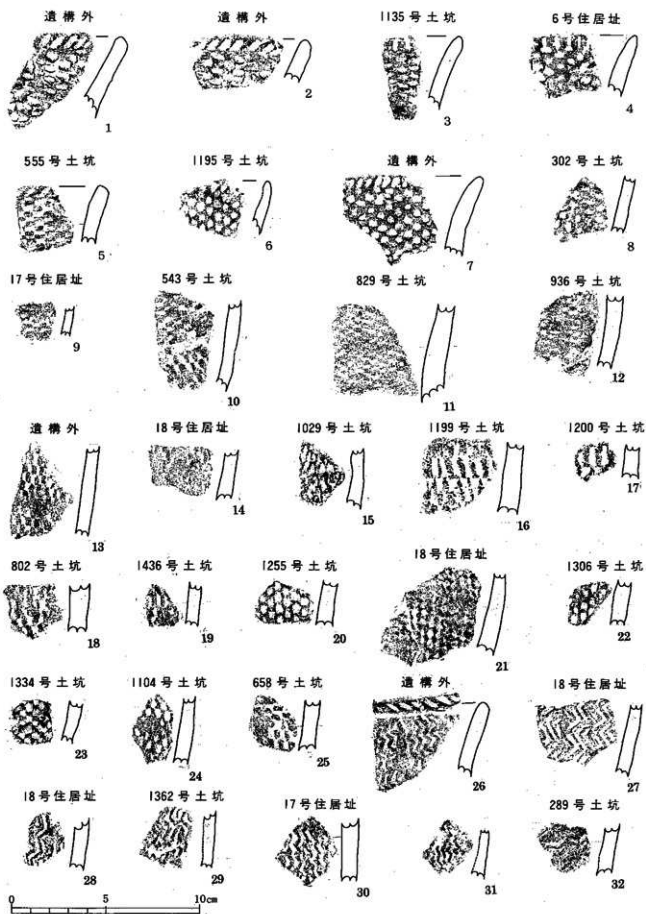
女夫山ノ神遺跡出土の石器群は、一部の古代の住居を除くとほとんどが縄文時代前期後葉～中期
初頭に位置づけられる。組成では、刃器が68%で刃器の割合が非常に高い。そのため、他の石器の
割合が相対的に低くなってしまっているが、このことを除いて考えると石鏃6.7%、打製石斧9.9%
磨石・敲石・叩石6.2%と、この3器種の割合が高い。また重量比でみると、石皿・打製石斧・磨石・
敲石の割合が高い。石鏃も数量的には高い比率を占めているが、同時期の長野市松原遺跡(町田1998)
の組成率のように石鏃が全体の38%と突出している点とは異なる。一般的な組成では北陸では石鏃
の割合が高く、関東あるいは中部高地南部では打製石斧や磨石の割合が高い傾向にある。女夫山ノ神
遺跡の組成内容としては中部高地南部地域とほぼ同様の傾向にある。そして、これらのことを含め
敲石の多さや石皿Ⅱ類の発達は、植物採集活動の一層の活発化や可食範囲の拡大が伺える。

また、刃器の割合がかなり高い点や石鏃の形態が安定している点、加工具である石錐の比率が比
較的高い点は、狩猟活動の活発化を反映しているものと考えられる。磨製石斧は大型のものと小型
のものと二形態があり、木材加工にかかわる作業も多かったことを示している。すべて定角式で細
粒の石材を使った小型砥石を伴う点は、どちらかと言うと北信地域の様相を呈しており、石材に硬
く良質な蛇紋岩を含む点を考慮すると、石製装身具とともにこれらの石器の動きを注目する必要が
あろう。

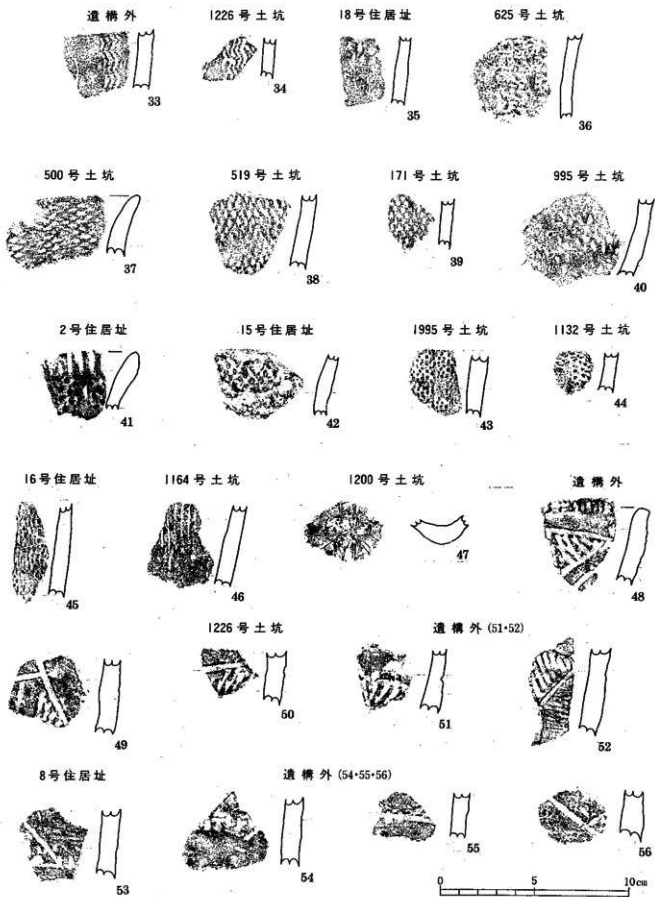
【参考文献】

- 小林康男・直井雅尚 1982『縄文数』塩尻市教育委員会
- 町田勝則他 1998『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4』(長野県埋蔵文化財センター)
- 関沢 聡他 1985『松本市赤木山遺跡群Ⅰ』(松本市文化財調査報告No.34) 松本市教育委員会
- 鳥羽 彦 1990『古屋敷遺跡』塩尻市教育委員会
- 松本深志高校地歴会 1976『女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち25」
- 松本深志高校地歴会 1977『第三次女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち26」
- 松本深志高校地歴会 1978『第四次女夫山ノ神遺跡発掘調査報告』「あぜみち27」

繩 文 土 器
拓 影 ・ 実 測 図

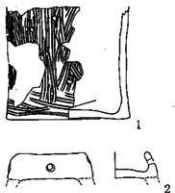


第64图 縄文早期土器拓影(1)

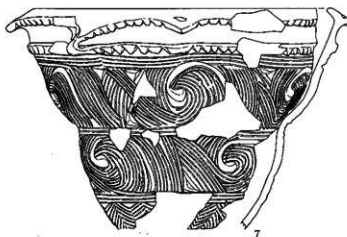


第65图 縄文早期土器拓影(2)

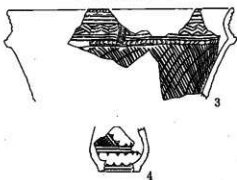
6号住居址(1·2)



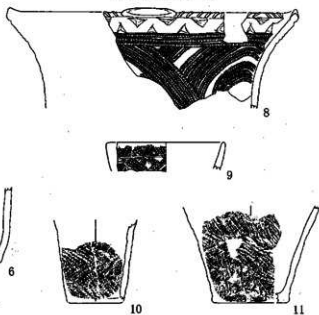
8号住居址



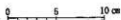
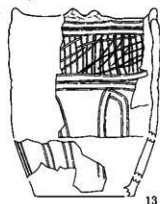
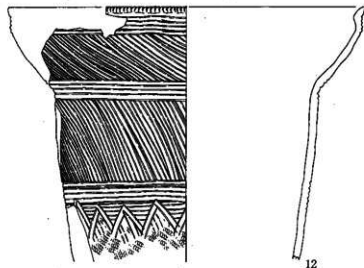
7号住居址(3~6)



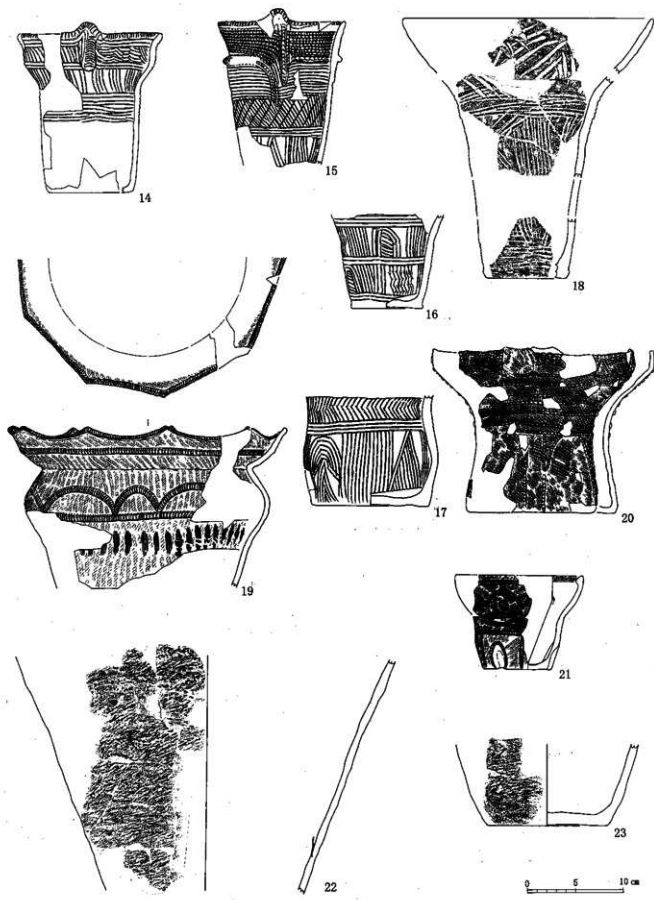
9号住居址(8~11)



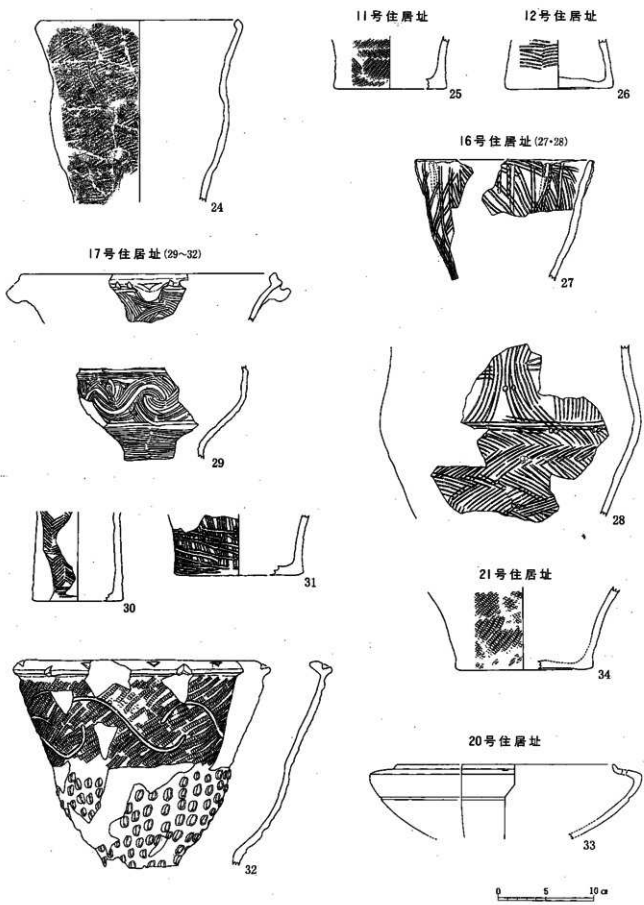
10号住居址(12~24)



第66图 縄文土器実測図(1)



第67图 绳文土器实测图(2)



第68图 縄文土器実測图(3)

21号土坑



35

65号土坑



37

214号土坑



38

29号土坑



569号土坑 (39-41)



39

227号土坑



40



41

820号土坑 (43-44)



43

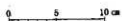


44

711号土坑

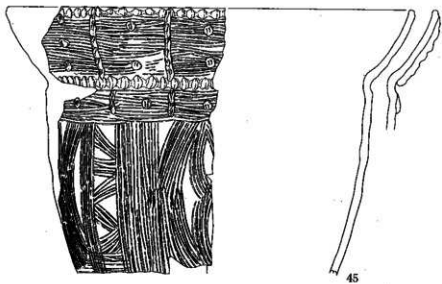


42

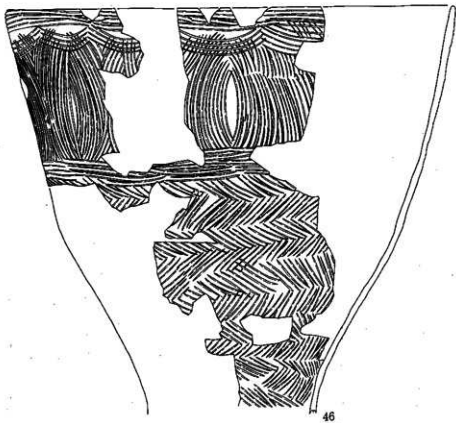


第69图 绳文土器实测图(4)

132号土坑



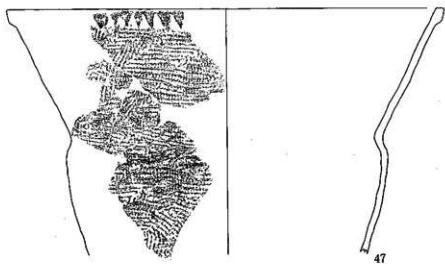
555号土坑



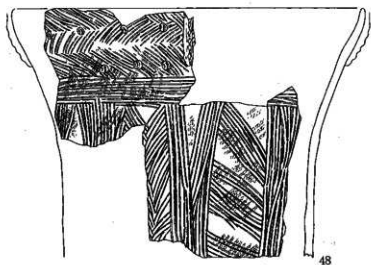
0 5 10 cm

第70图 绳文土器实测图(5)

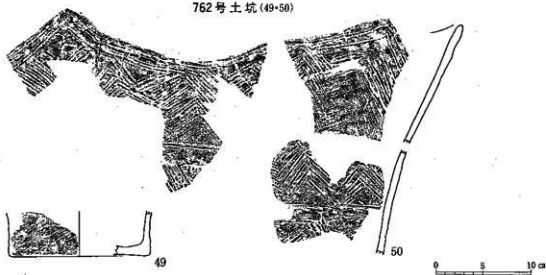
617号土坑



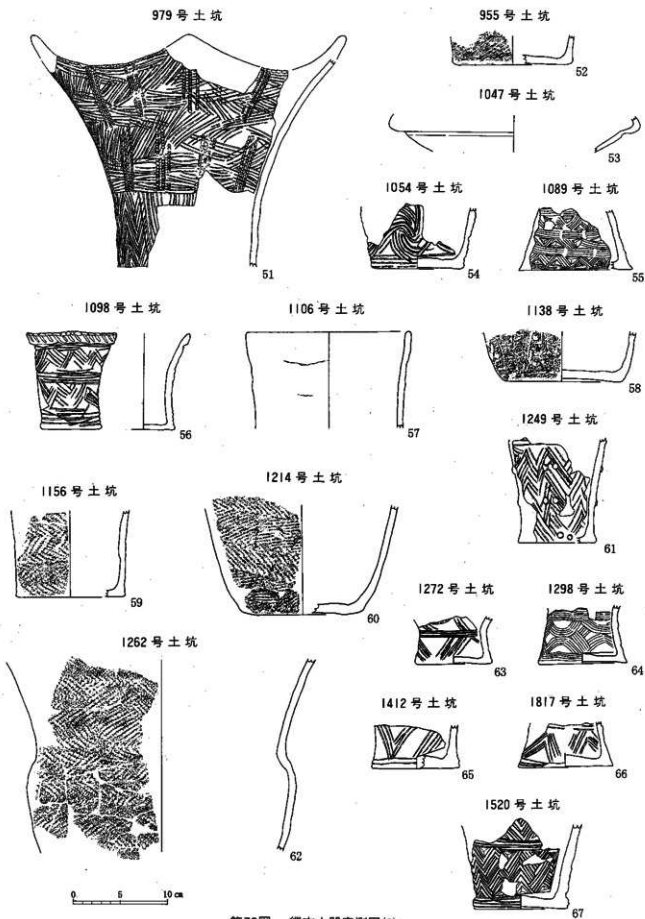
753号土坑



762号土坑(49·50)

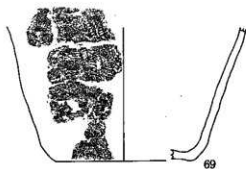
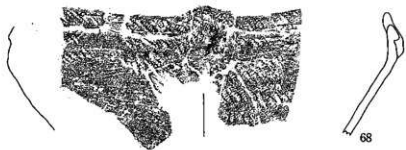


第71图 縄文土器実測图(6)



第72图 縄文土器実測图(7)

1286号土坑 (68-69)



1272号土坑



1636号土坑



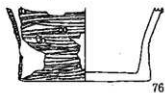
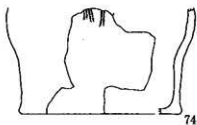
1764号土坑



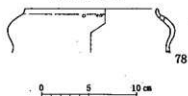
1297号土坑



遺構外 (74~78)

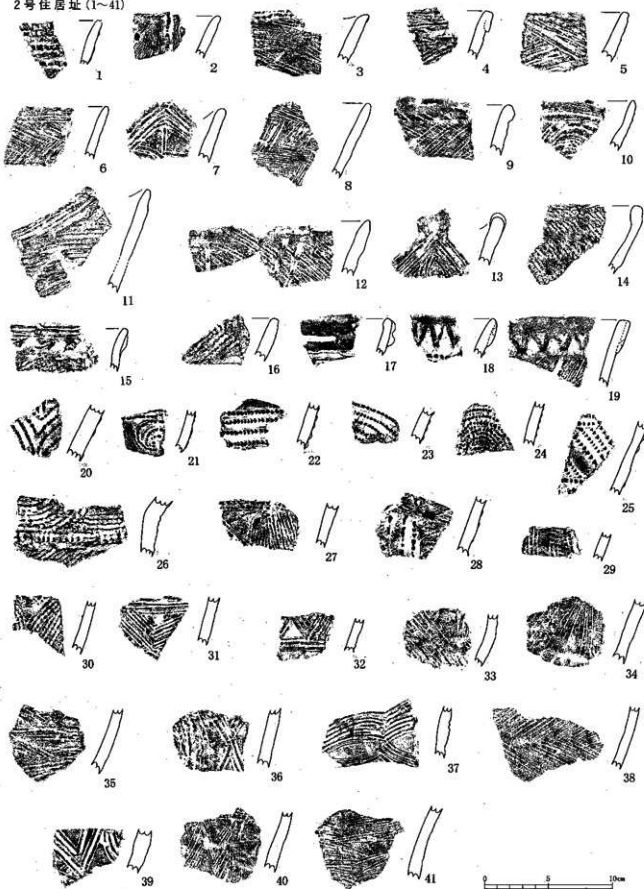


1568号土坑



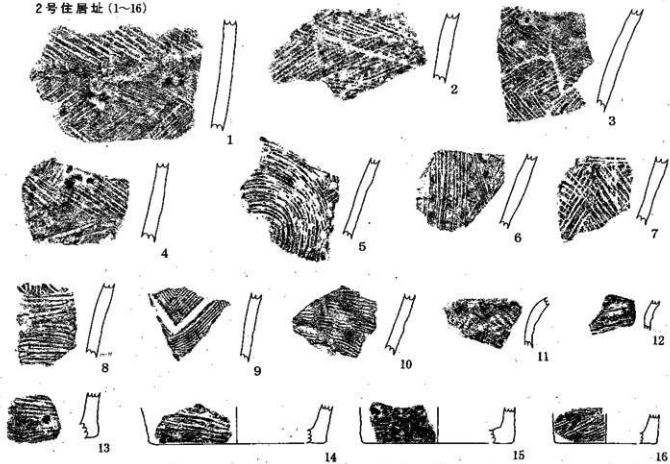
第73图 縄文土器実測图(8)

2号住居址(1~41)

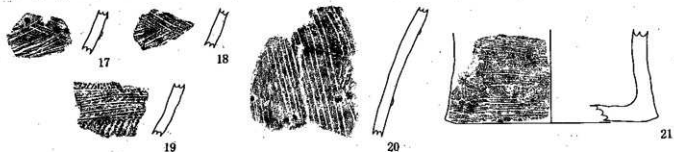


第74图 縄文土器拓影(1)

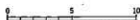
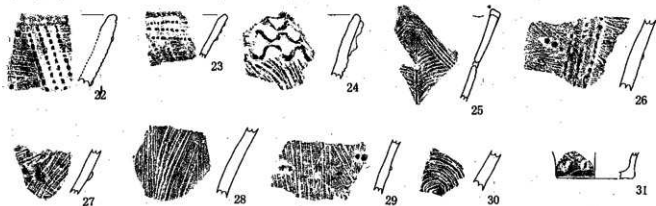
2号住居址 (1~16)



3号住居址 (17~21)



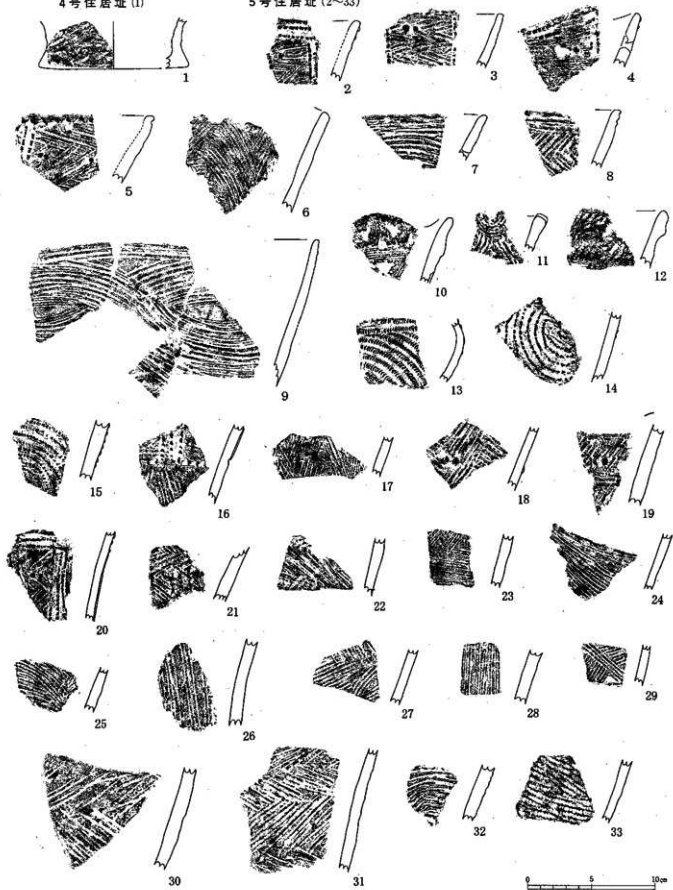
4号住居址 (22~31)



第75图 縄文土器拓影(2)

4号住居址(1)

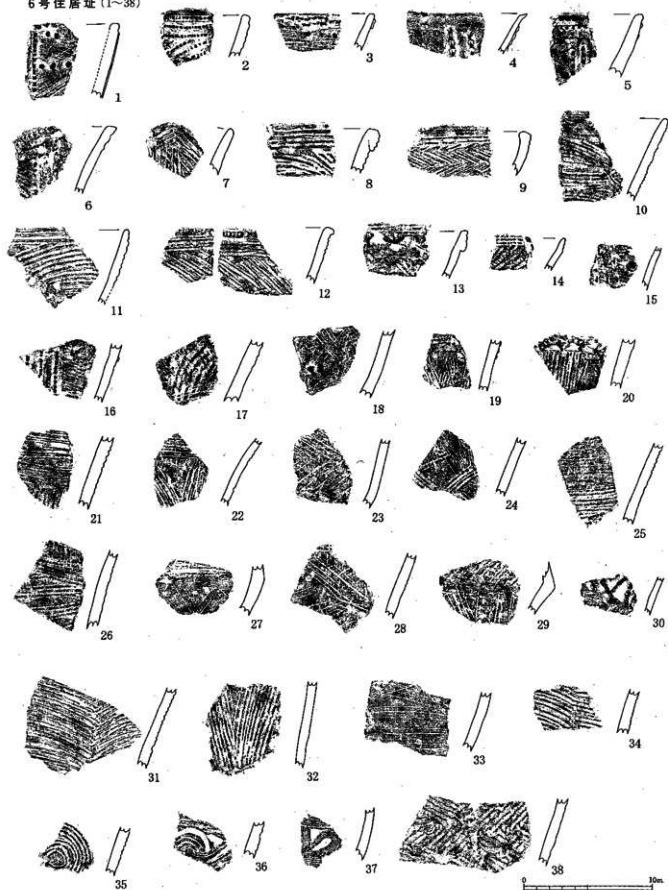
5号住居址(2~33)



0 5 10cm

第76图 縄文土器拓影(3)

6号住居址(1~38)

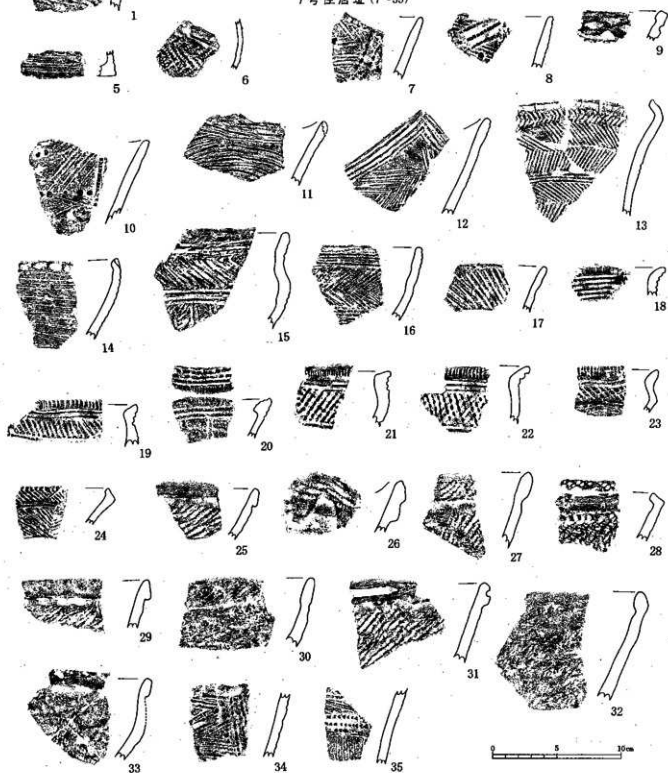


第77图 縄文土器拓影(4)

6号住居址(1~6)

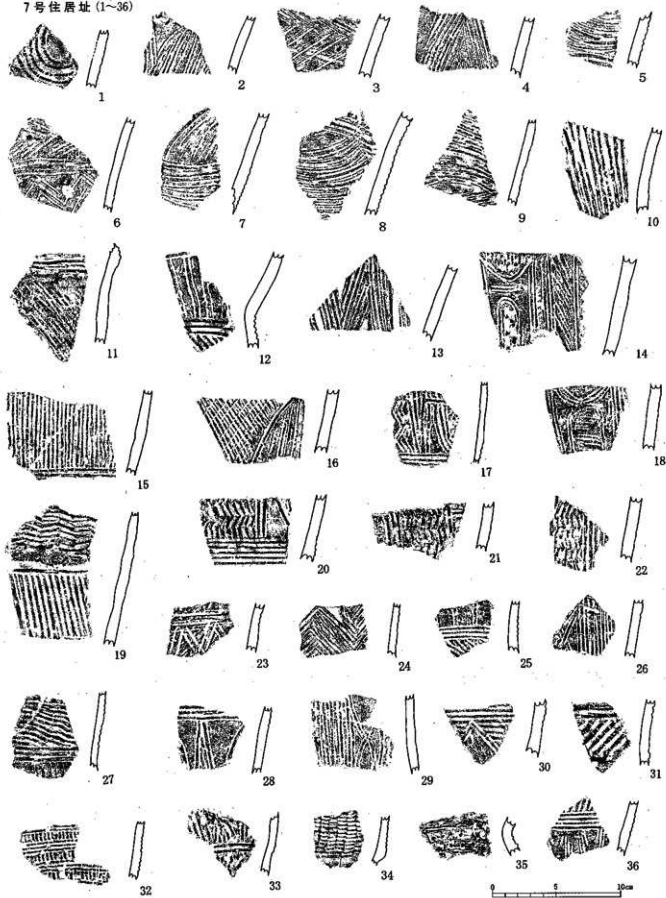


7号住居址(7~35)



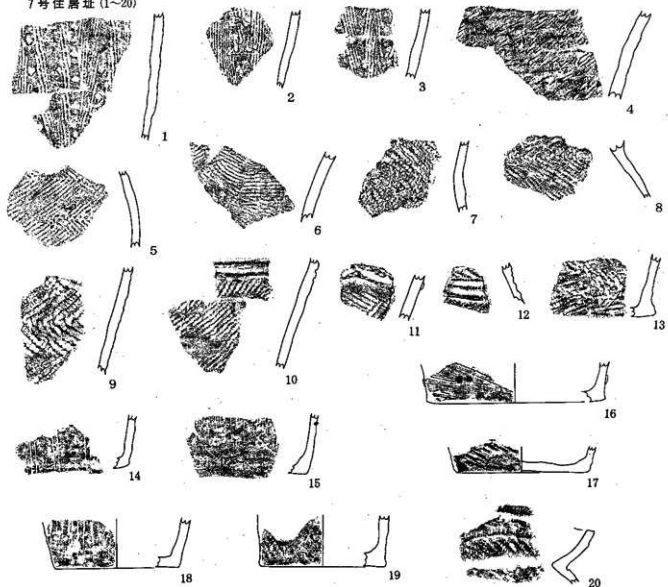
第78图 縄文土器拓影(5)

7号住居址(1~36)



第79図 縄文土器拓影(6)

7号住居址 (1~20)

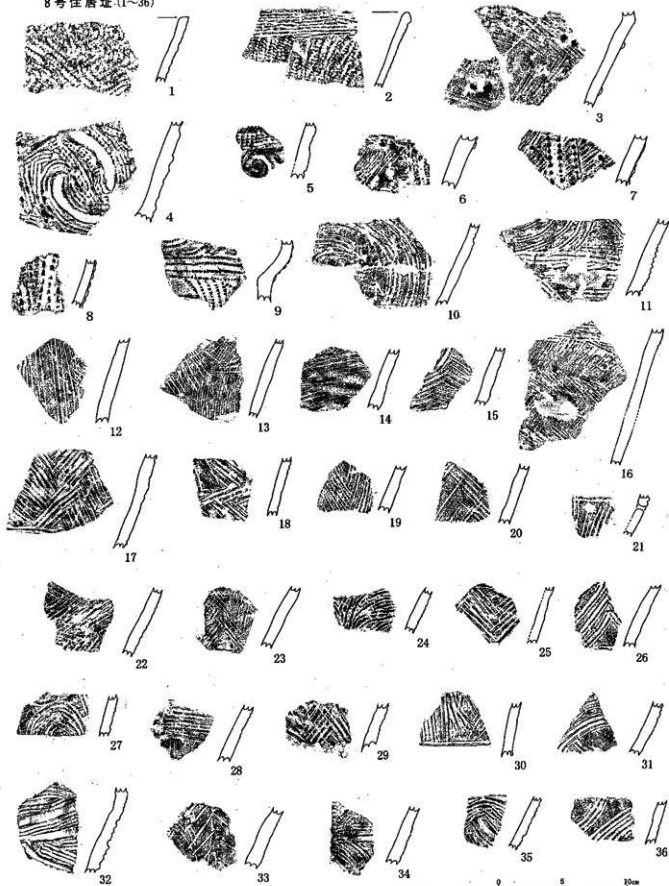


8号住居址 (21~31)



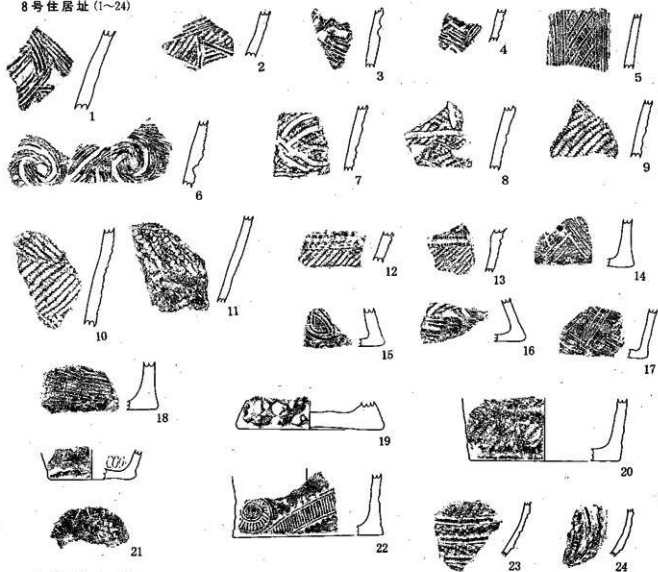
第80图 縄文土器拓影(7)

8号住居址(1~36)

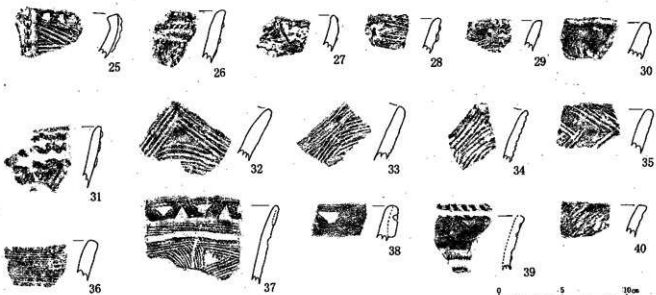


第81图 縄文土器拓影(8)

8号住居址 (1~24)

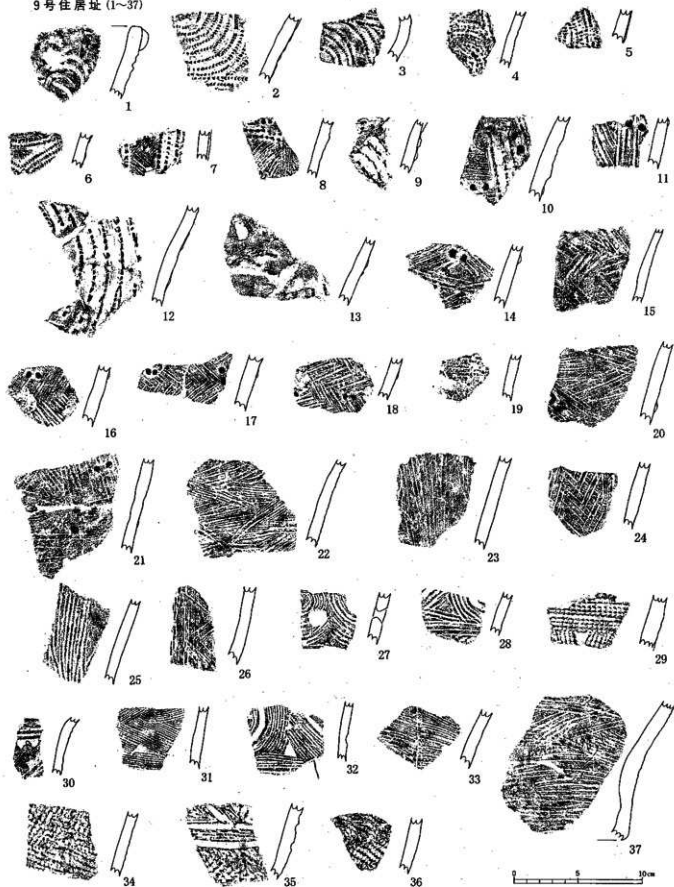


9号住居址 (25~40)



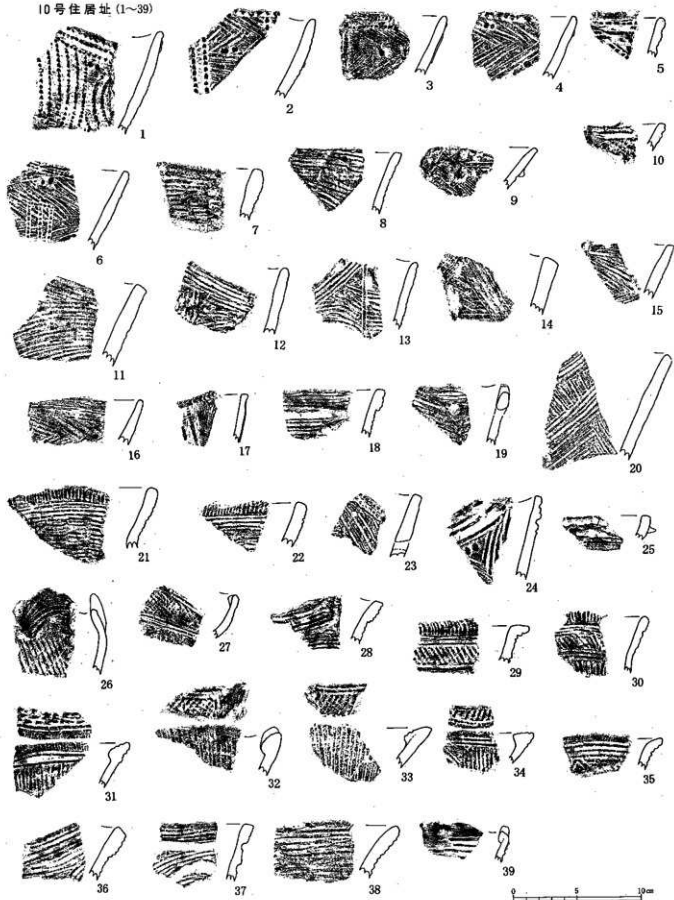
第82图 縄文土器拓影(9)

9号住居址 (1~37)



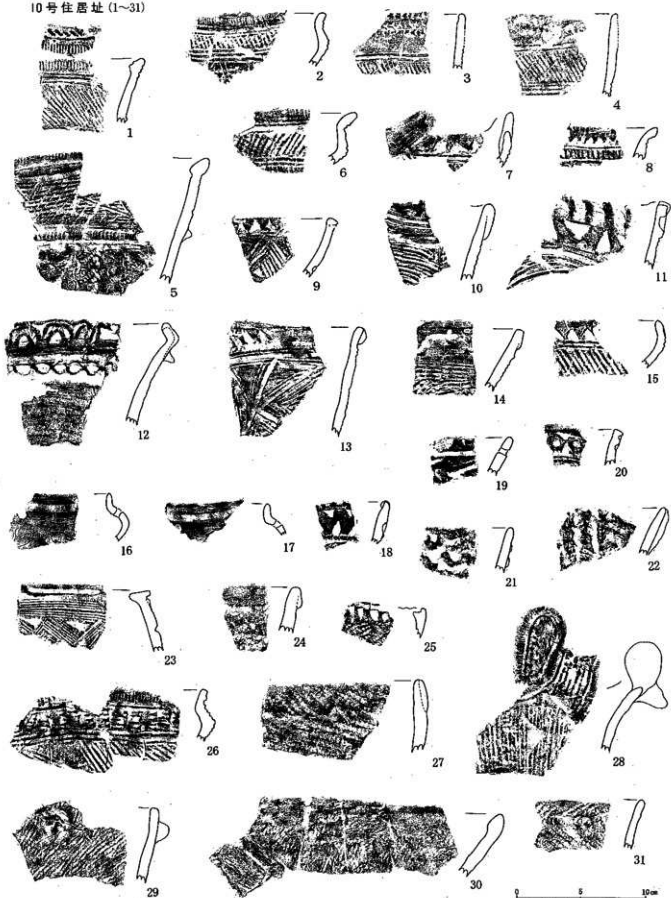
第83图 縄文土器拓影(10)

10号住居址(1~39)



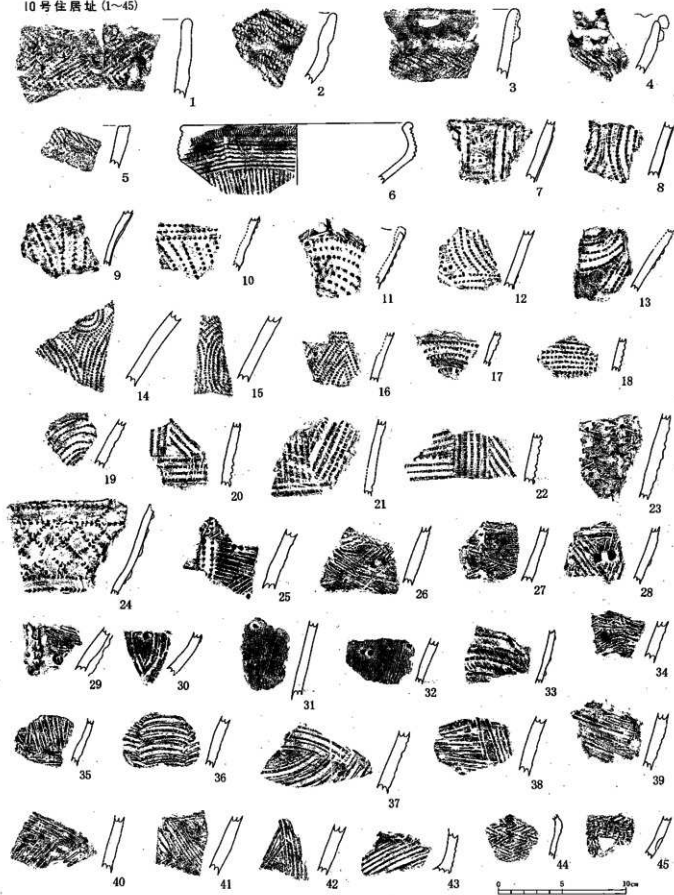
第84图 縄文土器拓影(1)

10号住居址(1~31)



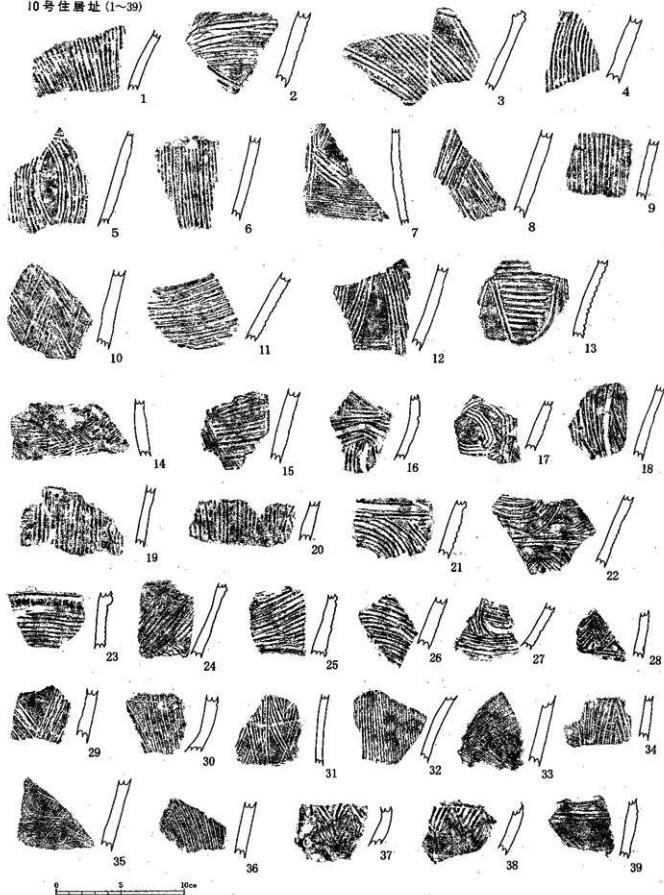
第85图 縄文土器拓影(12)

10号住居址 (1-45)



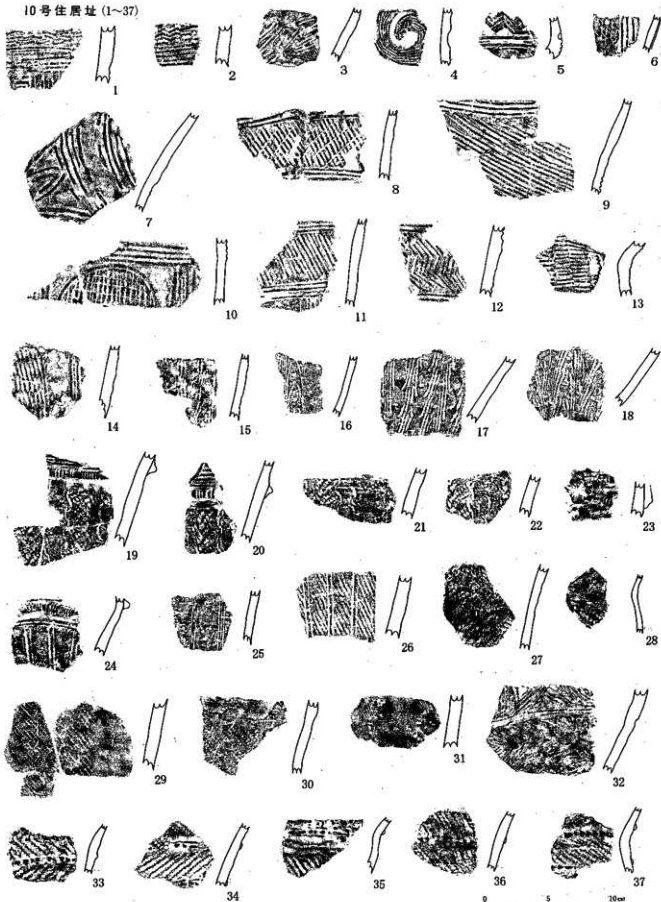
第86图 縄文土器拓影 (13)

10号住居址(1~39)



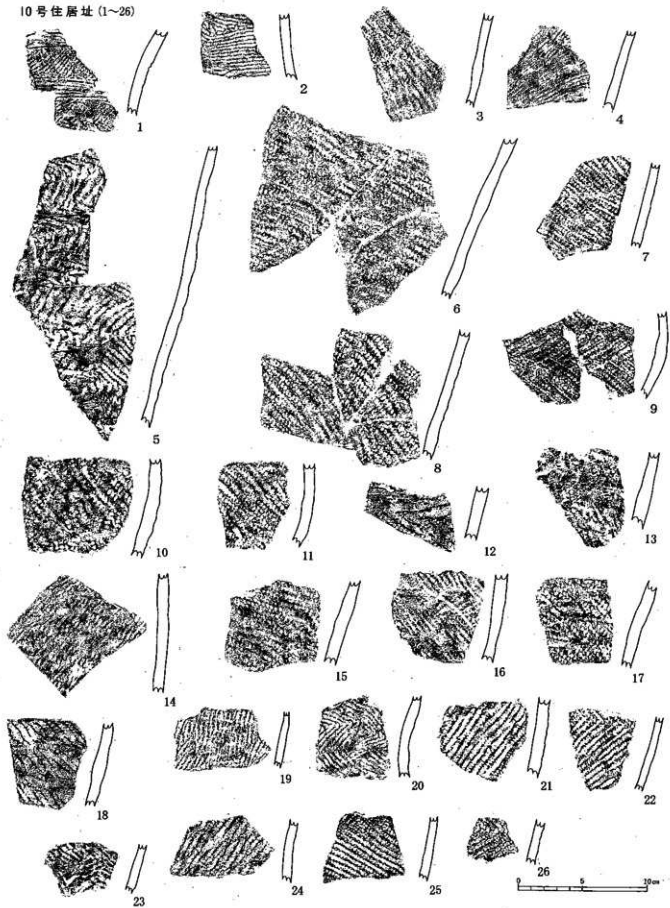
第87图 縄文土器拓影(4)

10号住居址 (1~37)



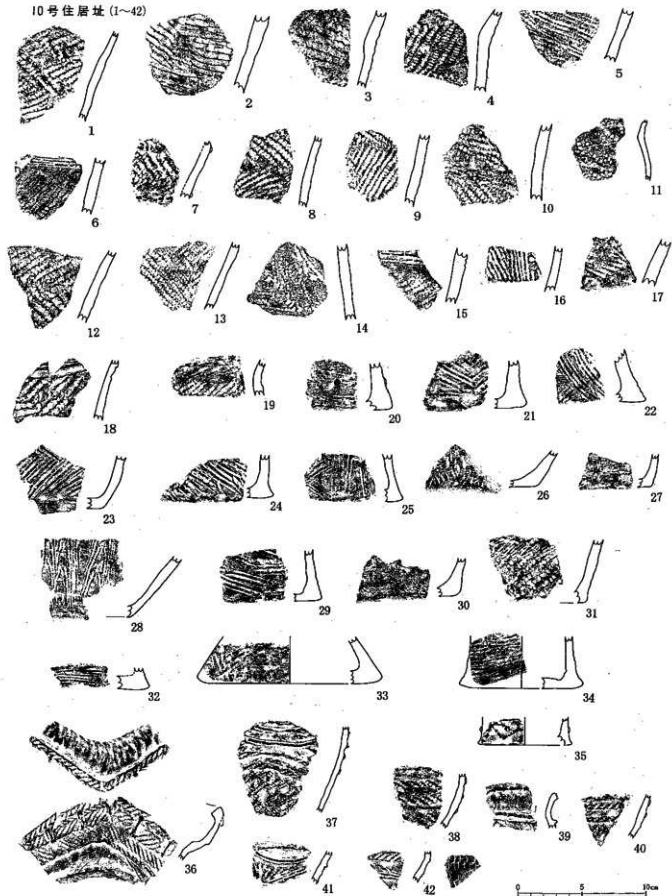
第88回 縄文土器拓影 (15)

10号住居址 (1~26)



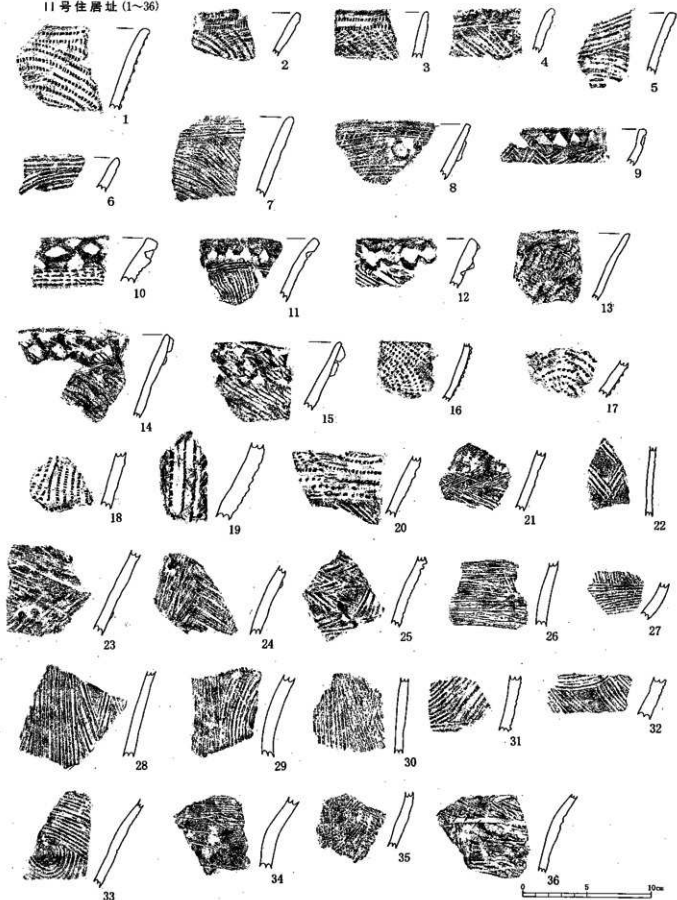
第89图 縄文土器拓影(16)

10号住居址(1~42)



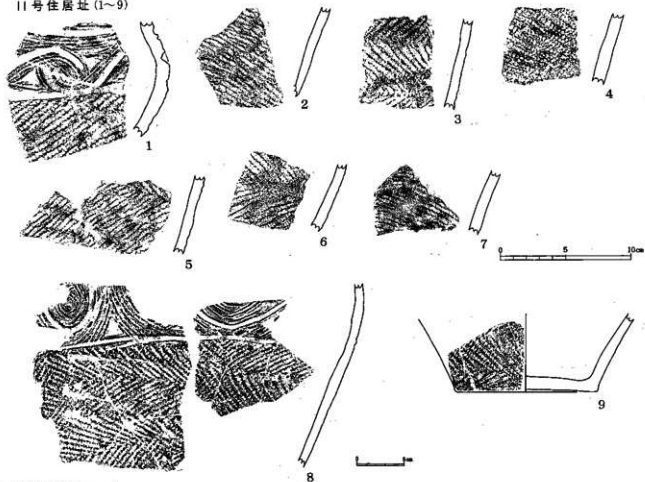
第90图 縄文土器拓影(17)

11号台层址(1~36)

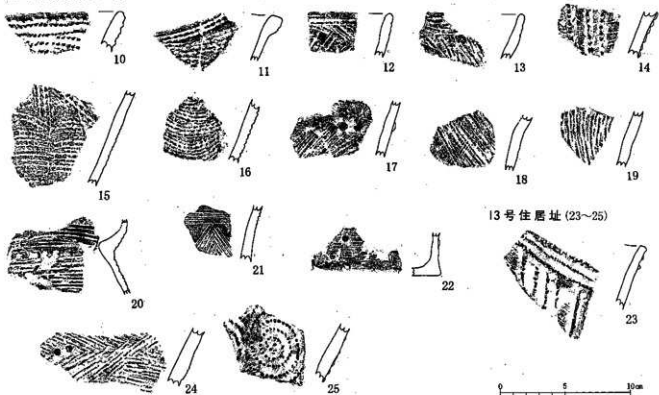


第91图 绳文土器拓影(8)

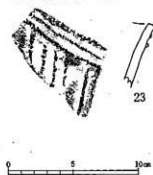
11号住居址(1~9)



12号住居址(10~22)

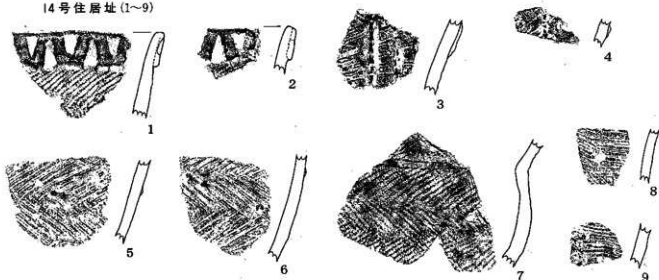


13号住居址(23~25)

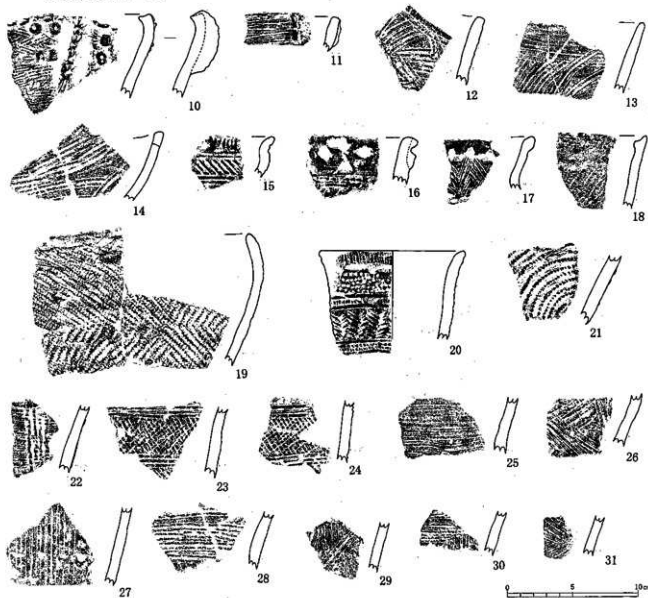


第92图 縄文土器拓影(9)

14号住居址(1~9)

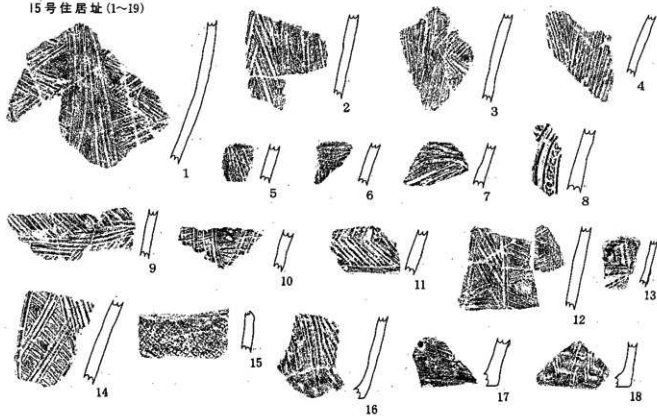


15号住居址(10~31)

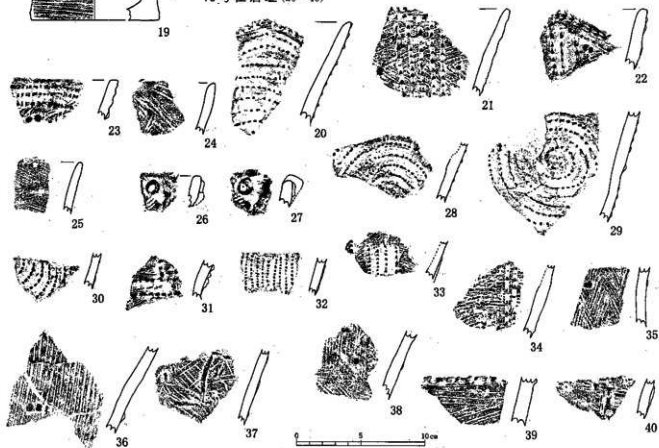


第93图 縄文土器拓影(20)

15号住居址(1~19)

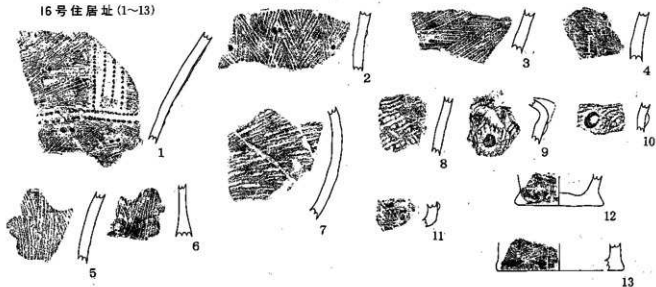


16号住居址(20~40)

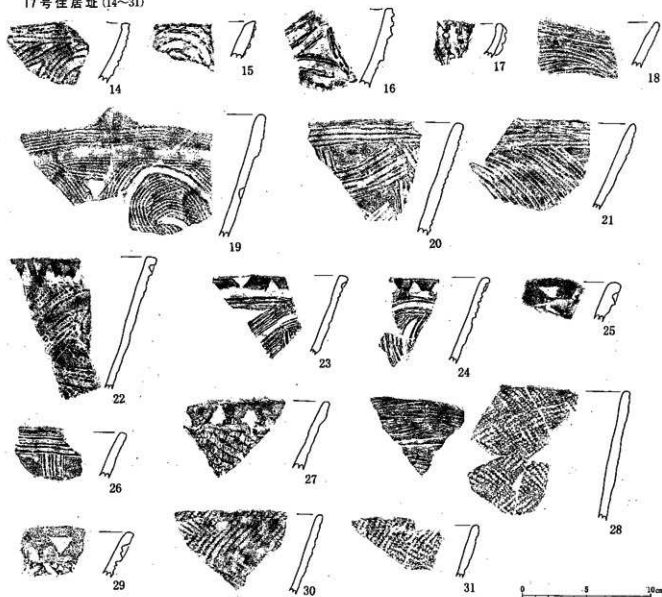


第94图 縄文土器拓影(2)

16号住居址(1~13)

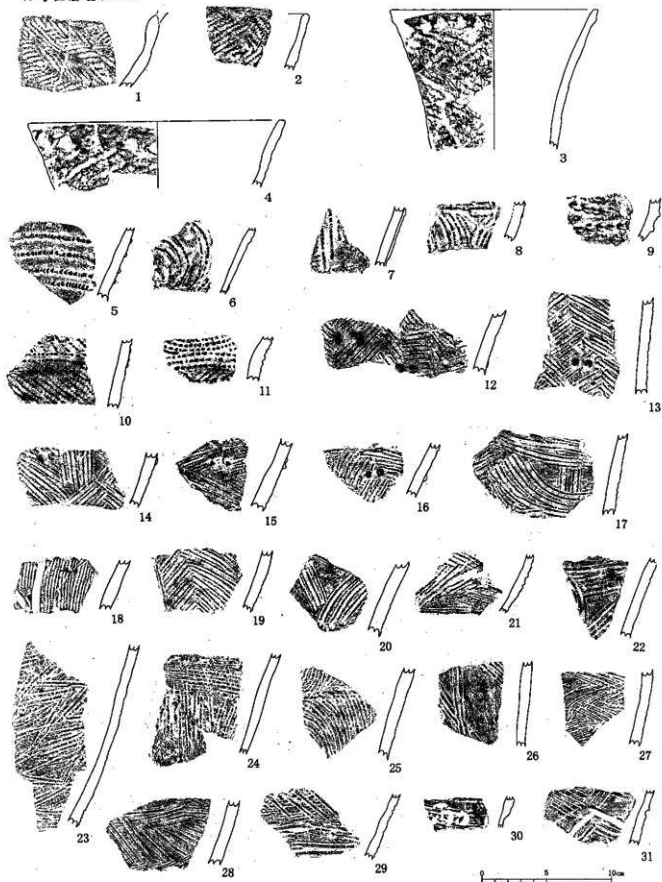


17号住居址(14~31)



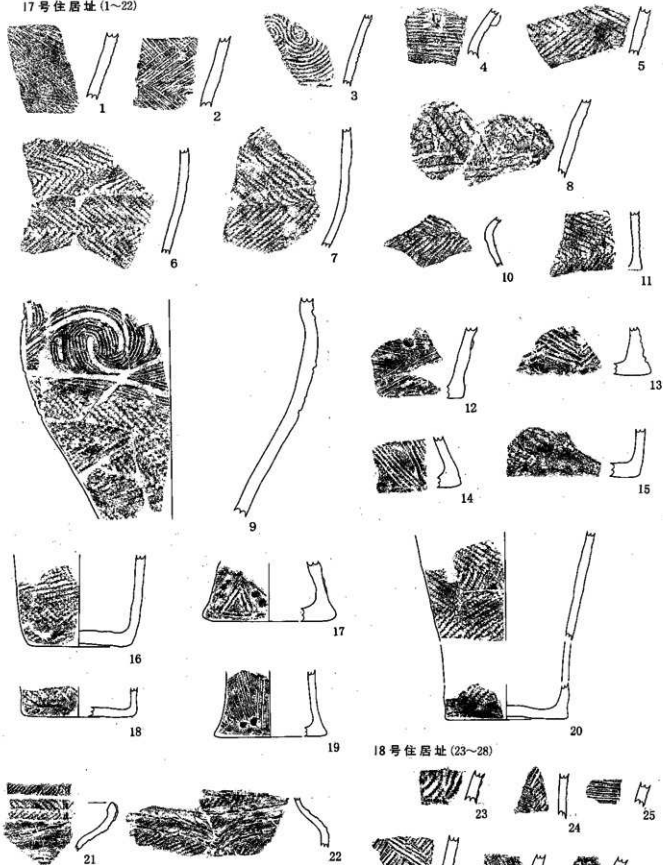
第95图 縄文土器拓影(2)

17号住居址(1~31)



第96图 縄文土器拓影(2)

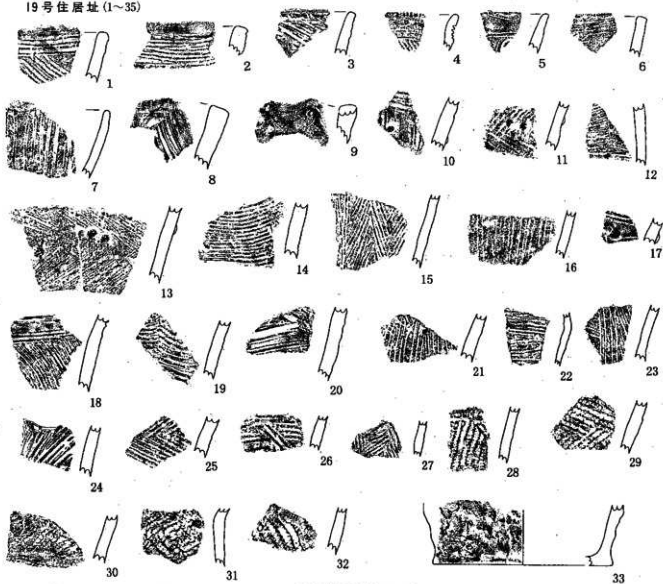
17号住居址 (1~22)



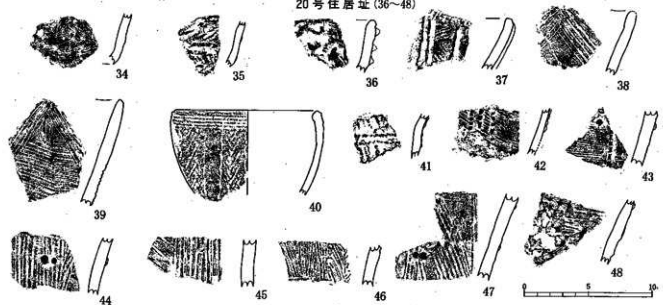
18号住居址 (23~28)

第97图 縄文土器拓影 (24)

19号住居址(1~35)

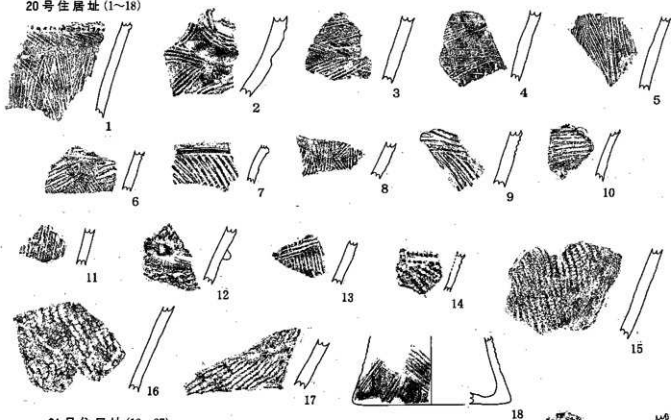


20号住居址(36~48)

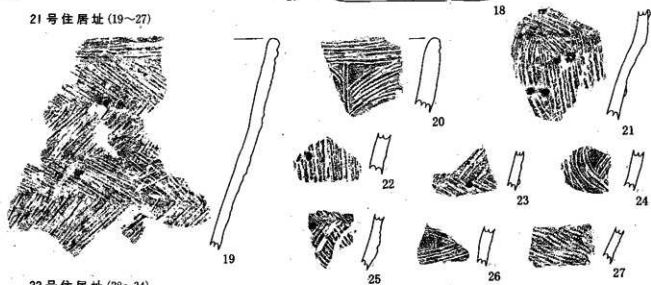


第98図 縄文土器拓影(25)

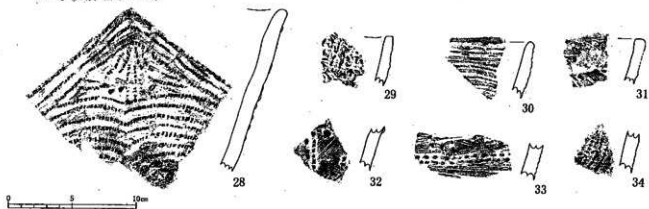
20号住居址(1~18)



21号住居址(19~27)

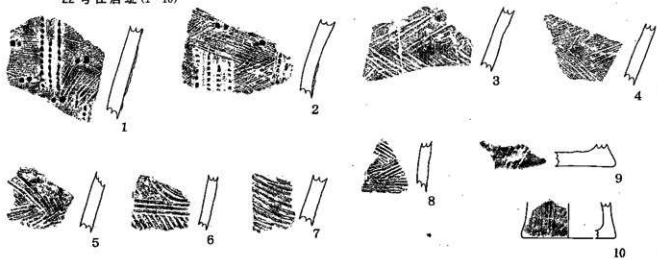


22号住居址(28~34)

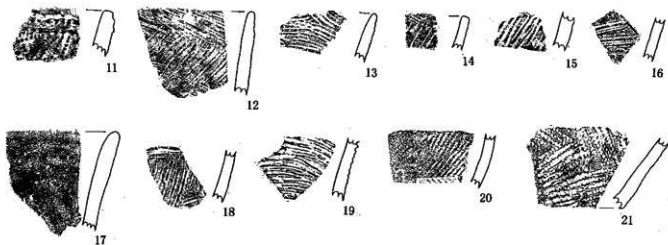


第99图 縄文土器拓影(26)

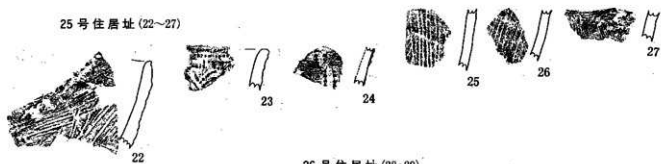
22号住居址(1~10)



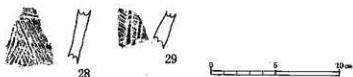
23号住居址(11~21)



25号住居址(22~27)

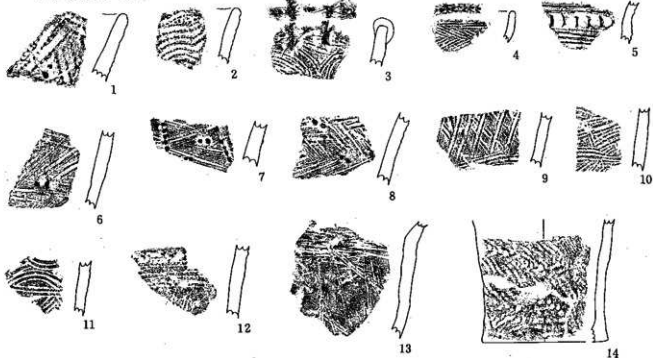


26号住居址(28~29)

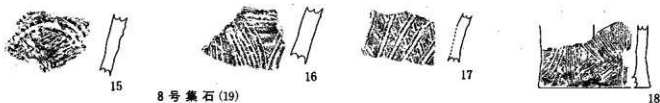


第100图 縄文土器拓影(27)

6号集石 (1~14)



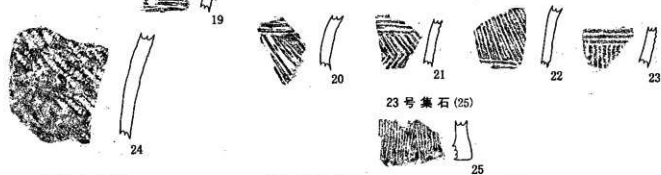
7号集石 (15~18)



8号集石 (19)



15号集石 (20~24)



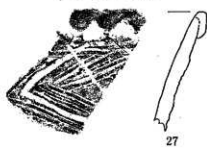
23号集石 (25)



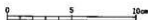
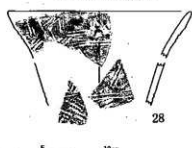
13号土坑 (26)



20号土坑 (27)



25号土坑 (28)

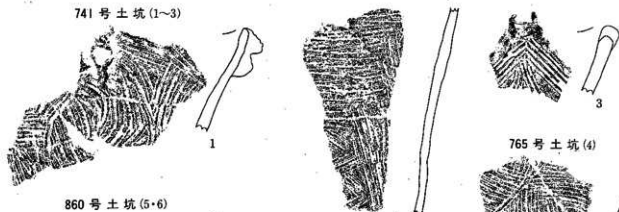


第101图 縄文土器拓影 (28)



第102图 绳文土器拓影(2)

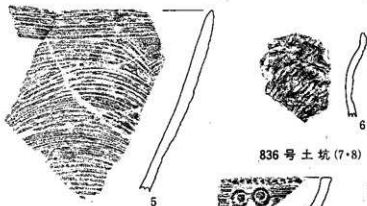
741号土坑(1~3)



765号土坑(4)



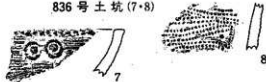
860号土坑(5·6)



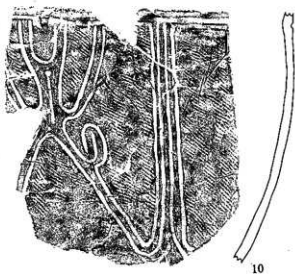
838·967号土坑(9)



836号土坑(7·8)



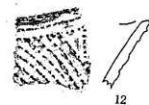
929号土坑(10)



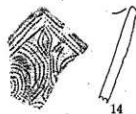
963号土坑(11)



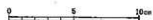
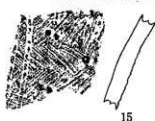
979号土坑(12·13)



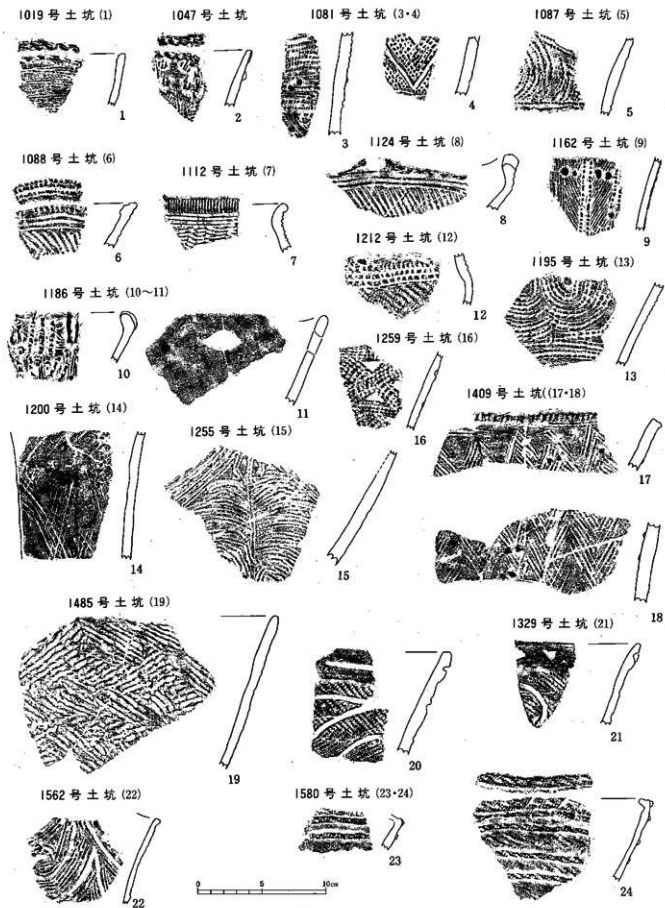
1015号土坑(14)



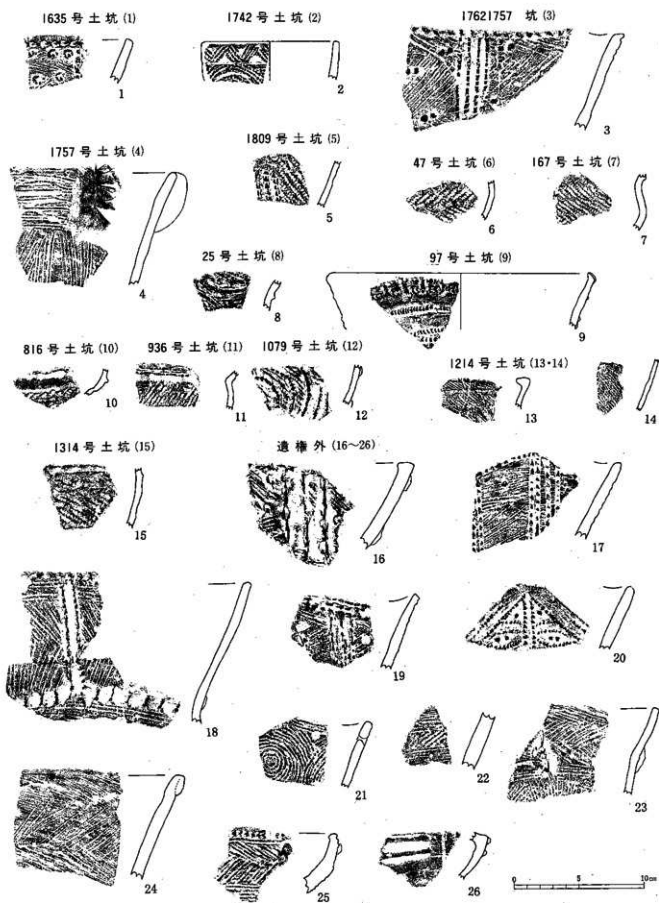
1018号土坑(15·16)



第103图 绳文土器拓影(30)

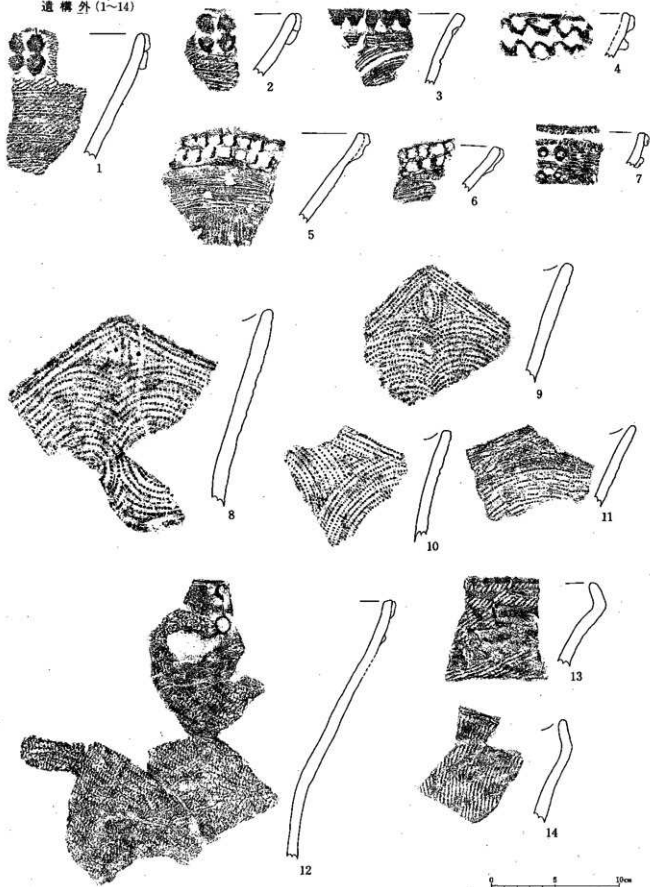


第104图 绳文土器拓影(30)



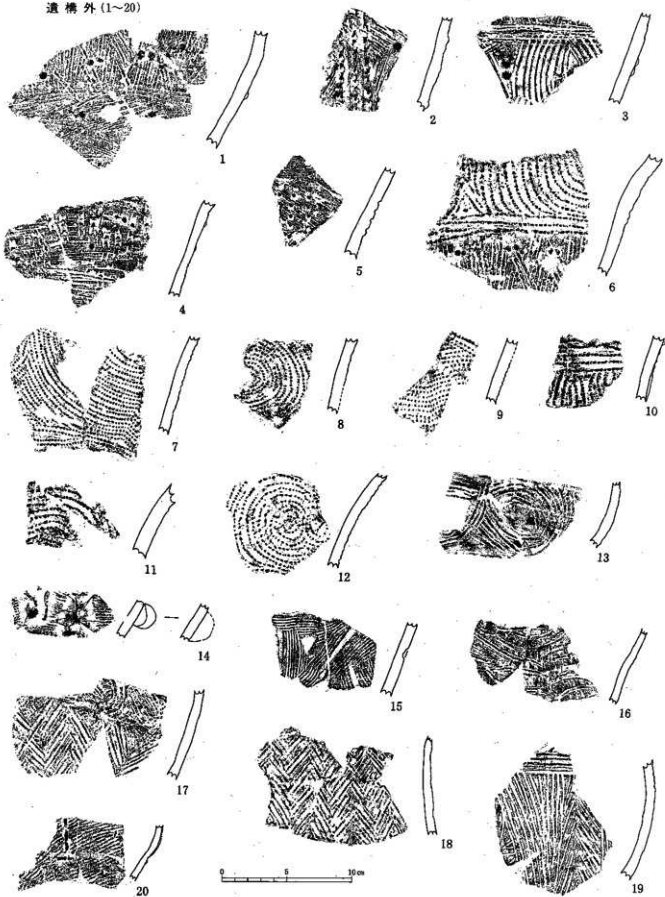
第105图 縄文土器拓影(2)

遺構外(1~14)



第106圖 縄文土器拓影(3)

遺構外 (1~20)



第107圖 縄文土器拓影(34)